市原市江子田遺跡

― 主要地方道市原天津小湊線道路整備事業埋蔵文化財調査報告書 ―

令和６年２月

千 葉 県 教 育 委 員 会

市原市江子田遺跡

いちはらしえこだいせき

― 主要地方道市原天津小湊線道路整備事業埋蔵文化財調査報告書 ―

平成 27 年度調査区全景（東から）

平成 28 年度調査区全景（北東から）

巻頭図版２

SI064・070 出土遺物（古墳時代中期）

SK007 出土遺物

序　文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡などが埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会は、埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的とした諸活動に加え、千葉県が行う開発事業に係る埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について実施しております。

本書は、千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第49集として、主要地方道市原天津小湊線道路整備事業に伴って実施した市原市江子田遺跡の発掘調査報告書です。調査では、縄文時代から奈良・平安時代に至る多数の遺構・遺物が検出されました。このうち、弥生時代では竪穴住居跡や方形周溝墓、古墳時代では53軒もの竪穴住居跡が確認され、隣接する南総中学遺跡との関連が想定されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な資料が得られました。

刊行に当たり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する興味を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理作業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大な御協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

令和６年２月

千葉県教育庁教育振興部
文化財課長　稲村　　弥

凡　例

1　本書は、千葉県県土整備部道路整備課市原土木事務所による主要地方道市原天津小湊線道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本書は、下記の遺跡を収録したものである。

江子田遺跡（2）～（4）　市原市江子田字大宮後ほか　（遺跡コード219-083）

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県県土整備部道路整備課の依頼を受け、千葉県教育庁教育振興部文化財課が平成26年度～28年度に発掘調査を実施し、平成28年度～令和５年度に報告書作成に至る整理作業を実施した。

4　調査組織及び発掘調査と整理作業の期間・担当者等は、第１章の通りである。

5　本書の執筆は第１章第２節を主任上席文化財主事蜂屋孝之が、第２章・第３章第３節の石器に関する部分を主任上席文化財主事矢本節朗（当時）が、第４章を上席文化財主事大谷弘幸がそれぞれ行い、それ以外の内容は文化財主事倉橋裕真が担当した。また、編集は大谷が行った。

6　本遺跡出土の鍛冶滓については、千葉市立加曽利貝塚博物館神野信氏の御教示を得た。

7　発掘調査から報告書の刊行に至るまで、市原市教育委員会、千葉県県土整備部道路整備課、同市原土木事務所ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。

8　本書で使用した地図の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。

9　土器属性表及び本文中に記載した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖2007年版』に基づいている。

10　本書で使用した地形図は下記の通りである。

第５図　1/50,000　地形図　国土地理院発行 1/25,000「姉崎」・「海士有木」・「鶴舞」・「上総横田」を結合加工して使用。

第６図　市原市発行　1/2,500　市原市地形図

11　遺構や遺物の図面に使用したスクリーントーンの用例は次の通りである。挿図中の「K」は攪乱の略である。土器断面図中に黒丸のあるものは、土器胎土に繊維が混じることを示す。

カマド構築土　焼土　黒色処理　赤彩

12　遺構種別は以下の記号を付している。

SI：竪穴住居跡　SB：掘立柱建物跡　SK：土坑　SD：溝跡　SA：柵列　SH：ピット群

本 文 目 次

第１章　はじめに …… 1
　第１節　調査の概要 …… 1
　　1　調査の経緯と経過 …… 1
　　2　調査の方法と調査概要 …… 2
　第２節　遺跡の位置と環境 …… 2
　　1　遺跡の地理的環境 …… 2
　　2　基本層序 …… 4
　　3　周辺の遺跡と歴史的環境 …… 5
第２章　旧石器時代の遺物 …… 12
　第１節　概要 …… 12
　第２節　単独出土石器 …… 12
第３章　縄文時代の遺構と遺物 …… 14
　第１節　概要 …… 14
　第２節　遺構と遺物 …… 14
　　1　竪穴住居跡 …… 14
　　2　土坑 …… 14
　第３節　遺構外出土の遺物 …… 16
第４章　弥生時代の遺構と遺物 …… 30
　第１節　概要 …… 30
　第２節　遺構と遺物 …… 30
　　1　竪穴住居跡 …… 30
　　2　土坑 …… 34
　　3　方形周溝墓 …… 34
　第３節　遺構外出土の遺物 …… 35
第５章　古墳時代の遺構と遺物 …… 41
　第１節　概要 …… 41
　第２節　遺構と遺物 …… 41
　　1　竪穴住居跡 …… 41
　　2　掘立柱建物跡 …… 104
　　3　土坑・ピット …… 104
　　4　溝跡 …… 118
　第３節　遺構外出土の遺物 …… 119

第６章　奈良・平安時代以降の遺構と遺物 …… 141
第１節　概要 …… 141
第２節　遺構と遺物 …… 141
1　竪穴住居跡 …… 141
2　土坑 …… 153
3　溝跡 …… 161
第３節　その他の遺構 …… 161
第７章　まとめ …… 176

写真図版

報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　グリッド分割図 …… 2
第２図　房総半島の地質概要 …… 3
第３図　遺跡周辺の地形 …… 3
第４図　基本層序 …… 4
第５図　遺跡の立地と周辺遺跡（S=1/50,000） 7
第６図　事業範囲及び調査範囲 …… 9
第７図　遺構配置図（１） …… 10
第８図　遺構配置図（２） …… 11
第９図　単独出土石器 …… 13
第10図　SI054 平面図・出土遺物実測図 …… 15
第11図　SK035 平面図・出土遺物実測図 …… 15
第12図　SK041 平面図・出土遺物実測図 …… 17
第13図　SK047 平面図・出土遺物実測図 …… 18
第14図　SK055 平面図・出土遺物実測図 …… 19
第15図　遺構外出土縄文土器（１） …… 20
第16図　遺構外出土縄文土器（２） …… 21
第17図　遺構外出土縄文石器（１） …… 22
第18図　遺構外出土縄文石器（２） …… 24
第19図　遺構外出土縄文石器（３） …… 25
第20図　SI057B 平面図・出土遺物実測図 …… 31
第21図　SI061 平面図・出土遺物実測図 …… 32
第22図　SI062 平面図・出土遺物実測図 …… 32
第23図　SI065 平面図・出土遺物実測図 …… 34
第24図　SK050 平面図 …… 34
第25図　SK048 平面図・出土遺物実測図 …… 35
第26図　遺構外出土弥生土器 …… 37
第27図　遺構外出土弥生土器・石器・金属器　38
第28図　SI009・010 平面図・出土遺物実測図　42
第29図　SI009 出土遺物実測図 …… 43
第30図　SI011 平面図・出土遺物実測図 …… 44
第31図　SI012・013 平面図・出土遺物実測図　45
第32図　SI013 出土遺物実測図 …… 46
第33図　SI014 平面図・出土遺物実測図 …… 47
第34図　SI015 平面図・出土遺物実測図 …… 48
第35図　SI016 平面図・出土遺物実測図 …… 48
第36図　SI017 平面図・出土遺物実測図 …… 49
第37図　SI019・022 平面図・出土遺物実測図　51
第38図　SI020 平面図・出土遺物実測図 …… 52
第39図　SI023・024 平面図・出土遺物実測図　53
第40図　SI025・026A・B 平面図・出土遺物
実測図 …… 55
第41図　SI027 平面図・出土遺物実測図 …… 56

第42図　SI029A・B 平面図 …… 58
第43図　SI029A・B 出土遺物実測図 …… 59
第44図　SI030 平面図・出土遺物実測図 …… 60
第45図　SI030 出土遺物実測図 …… 61
第46図　SI031 平面図・出土遺物実測図 …… 62
第47図　SI032A・B 平面図・出土遺物実測図　65
第48図　SI032A・B 出土遺物実測図 …… 66
第49図　SI033 平面図・出土遺物実測図 …… 66
第50図　SI037 平面図・出土遺物実測図 …… 68
第51図　SI038 平面図・出土遺物実測図 …… 68
第52図　SI041・042・043 平面図 …… 69
第53図　SI041・042・043 出土遺物実測図 …… 70
第54図　SI044 平面図 …… 72
第55図　SI048 平面図 …… 72
第56図　SI049 平面図・出土遺物実測図 …… 73
第57図　SI050 平面図 …… 74
第58図　SI051・052 平面図・出土遺物実測図　75
第59図　SI053 平面図 …… 75
第60図　SI056 平面図・出土遺物実測図 …… 77
第61図　SI056 出土遺物実測図 …… 78
第62図　SI057A 平面図・出土遺物実測図 …… 79
第63図　SI057A 出土遺物実測図 …… 80
第64図　SI058 平面図・出土遺物実測図 …… 82
第65図　SI059 平面図 …… 84
第66図　SI059 出土遺物実測図（1）…… 85
第67図　SI059 出土遺物実測図（2）…… 86
第68図　SI060 平面図 …… 87
第69図　SI060 出土遺物実測図 …… 88
第70図　SI063 平面図 …… 88
第71図　SI064・066・067、SK020 平面図 …… 90
第72図　SI064 出土遺物実測図 …… 91
第73図　SI067 出土遺物実測図 …… 92
第74図　SI068 平面図・出土遺物実測図 …… 93
第75図　SI069 平面図・出土遺物実測図 …… 94
第76図　SI070 平面図・出土遺物実測図 …… 96
第77図　SI070 出土遺物実測図（1）…… 97
第78図　SI070 出土遺物実測図（2）…… 98
第79図　SI070 出土遺物実測図（3）…… 99
第80図　SI071 平面図・出土遺物実測図 …… 100
第81図　SI072 平面図 …… 101
第82図　SI073 平面図・出土遺物実測図 …… 102
第83図　SI073 出土遺物実測図 …… 103
第84図　SI074 平面図・出土遺物実測図 …… 103
第85図　SB014A・B・015 平面図・出土遺物
実測図 …… 105
第86図　SK007・008・014 平面図・出土遺物
実測図 …… 106
第87図　SK015～019・033A・B 平面図・出土
遺物実測図 …… 108
第88図　SK034・037・045・049・051・052
平面図・出土遺物実測図 …… 110
第89図　SK053・054・056・057 平面図・出土
遺物実測図 …… 112
第90図　SH032・033・046・051 平面図・出土
遺物実測図 …… 114
第91図　SH083・150 平面図・出土遺物実測図　115
第92図　SK022～032 平面図 …… 116
第93図　SK036・044・058 平面図 …… 117
第94図　SD002 平面図 …… 118
第95図　遺構外出土古墳時代以降土器（1）　120
第96図　遺構外出土古墳時代以降土器（2）　121
第97図　遺構外出土古墳時代以降土器・
土製品・石製品・金属器 …… 122
第98図　SI008 平面図 …… 141
第99図　SI028 平面図・出土遺物実測図 …… 142
第100図　SI028 出土遺物実測図 …… 143
第101図　SI034 平面図・出土遺物実測図 …… 144
第102図　SI035 平面図・出土遺物実測図 …… 146
第103図　SI036 平面図・出土遺物実測図 …… 147
第104図　SI036 出土遺物実測図 …… 148
第105図　SI039 平面図 …… 149
第106図　SI039 出土遺物実測図 …… 150
第107図　SI040 平面図・出土遺物実測図 …… 151
第108図　SI045 平面図・出土遺物実測図 …… 152

第109図　SI046 平面図・出土遺物実測図 …… 152
第110図　SI047 平面図 …… 154
第111図　SI047 出土遺物実測図 …… 155
第112図　SK001・003 平面図・出土遺物実測図　156
第113図　SK004・005 平面図・出土遺物実測図　158
第114図　SK006・009・011 平面図・出土遺物実測図 …… 159
第115図　SK012 平面図・出土遺物実測図 …… 160
第116図　SK013A・B・C・D 平面図・出土遺物実測図 …… 162
第117図　SD003 平面図 …… 163
第118図　SI055 平面図 …… 164
第119図　SB002・003 平面図 …… 165
第120図　SB004・005・012 平面図 …… 167
第121図　SK010・038 ～ 040・042・043・046・059 平面図 …… 168
第122図　SH154・186 平面図 …… 169
第123図　SH198・243・244 平面図・出土遺物実測図 …… 170
第124図　SA001 平面図 …… 170
第125図　古墳時代前期の土器変遷 …… 179
第126図　古墳時代中期の土器変遷 …… 180
第127図　古墳時代後期の土器変遷（1）…… 181
第128図　古墳時代後期の土器変遷（2）…… 182
第129図　奈良・平安時代の土器変遷 …… 183
第130図　江子田遺跡の集落変遷 …… 184

表　目　次

第1表　発掘調査及び整理作業 …… 1
第2表　江子田遺跡周辺の遺跡一覧表 …… 6
第3表　旧石器時代石器属性表 …… 12
第4表　縄文土器属性表 …… 26
第5表　縄文石器属性表 …… 27
第6表　遺構外出土縄文土器属性表（1）…… 27
第7表　遺構外出土縄文土器属性表（2）…… 28
第8表　遺構外出土縄文時代土製品属性表 …… 29
第9表　遺構外出土縄文石器属性表 …… 29
第10表　弥生土器属性表 …… 39
第11表　遺構外出土弥生土器属性表 …… 40
第12表　遺構外出土弥生石器属性表 …… 40
第13表　遺構外出土弥生時代金属器属性表 …… 40
第14表　古墳時代土器属性表（1）…… 123
第15表　古墳時代土器属性表（2）…… 124
第16表　古墳時代土器属性表（3）…… 125
第17表　古墳時代土器属性表（4）…… 126
第18表　古墳時代土器属性表（5）…… 127
第19表　古墳時代土器属性表（6）…… 128
第20表　古墳時代土器属性表（7）…… 129
第21表　古墳時代土器属性表（8）…… 130
第22表　古墳時代土器属性表（9）…… 131
第23表　古墳時代土器属性表（10）…… 132
第24表　古墳時代土器属性表（11）…… 133
第25表　古墳時代土器属性表（12）…… 134
第26表　古墳時代土器属性表（13）…… 135
第27表　古墳時代土器属性表（14）…… 136
第28表　遺構外出土古墳時代以降土器属性表（1）…… 137
第29表　遺構外出土古墳時代以降土器属性表（2）…… 138
第30表　遺構外出土古墳時代以降土器属性表（3）…… 139
第31表　古墳時代土製品属性表 …… 139
第32表　古墳時代石製品・石器属性表 …… 140
第33表　古墳時代金属器属性表 …… 140
第34表　奈良・平安時代土器属性表（1）…… 171
第35表　奈良・平安時代土器属性表（2）…… 172

第36表　奈良・平安時代土器属性表（3）…… 173
第37表　奈良・平安時代土器属性表（4）…… 174
第38表　奈良・平安時代土製品属性表…… 174
第39表　奈良・平安時代石製品・石器属性表 …… 174
第40表　奈良・平安時代金属器属性表…… 175

図　版　目　次

巻頭図版１　H27・28年度調査区全景
巻頭図版２　SI064・070、SK007出土遺物
図版１　H26・27年度調査区全景
図版２　H28年度調査区全景、SI008・009・010
図版３　SI009・011～015
図版４　SI011～017・019・022・027・030
図版５　SI019・020・023～026
図版６　SI023・027・028・030・031・044
図版７　SI028～031
図版８　SI030～035・039
図版９　SI035～039・046
図版10　SI043・045・047・048・050、SB002
図版11　SI029・040～042・047・049・050～054
図版12　SI054～057
図版13　SI058～061・064
図版14　SI064～066・068～070
図版15　SI070～074
図版16　SB012・014・015、SD003、SK004・005、SA001
図版17　SK006～008・012・013・015～018
図版18　SK019・034・035・041・046～048
図版19　SK048・051～059
図版20　旧石器時代単独出土石器
図版21　SI054、SK035・041出土土器
図版22　SK041・047・055出土土器
図版23　遺構外出土縄文土器（1）
図版24　遺構外出土縄文土器（2）
図版25　SI054、SK047、遺構外出土石器
図版26　SI057B・061・062・065出土土器
図版27　SI057B・061・062、SK048、遺構外出土弥生土器
図版28　遺構外出土弥生土器
図版29　SI009・011・012・013出土土器
図版30　SI013・015・016・017・019・020出土土器
図版31　SI020・022・023・024・025出土土器
図版32　SI025・027・029A出土土器
図版33　SI029B・030出土土器
図版34　SI031・032A出土土器
図版35　SI032A・B・033・037・038・041出土土器
図版36　SI041・042・043・051出土土器
図版37　SI052・056出土土器
図版38　SI056・057A出土土器
図版39　SI057A出土土器（1）
図版40　SI057A出土土器（2）
図版41　SI057A・058・059出土土器
図版42　SI059出土土器
図版43　SI059・060・064出土土器
図版44　SI064・067・068出土土器
図版45　SI068・069・070出土土器
図版46　SI070出土土器（1）
図版47　SI070出土土器（2）
図版48　SI070出土土器（3）
図版49　SI070・071・073出土土器
図版50　SI074、SB015、SK007・018・056、SI028出土土器
図版51　SI028・035・036出土土器

図版52　SI036・039 出土土器
図版53　SI040・045・046・047 出土土器
図版54　SI047、SK001・004・005・006・012 出土土器
図版55　SK012・013、遺構外出土古墳時代以降土器（1）
図版56　遺構外出土古墳時代以降土器（2）
図版57　遺構外出土古墳時代以降土器（3）
図版58　遺構外出土古墳時代以降土器（4）
図版59　遺構外出土古墳時代以降土器（5）
図版60　古墳時代以降出土土製品
図版61　古墳時代以降出土石製品・石器
図版62　弥生時代以降出土金属器
図版63　古墳時代以降出土金属器
図版64　SK011 出土鍛冶滓

第１章　はじめに

第１節　調査の概要

１　調査の経緯と経過

主要地方道市原天津小湊線は、千葉・東京方面から房総半島の中央部を経て養老渓谷自然公園及び南房総地域の観光地へのアクセス道路として機能する幹線道路である。また、首都圏中央連絡自動車道の開通後は、国道297号と一体となり一層大きな役割を果たしている。今回は国道297号、国道409号、主要地方道市原天津小湊線及び一般県道鶴舞牛久線など牛久市街地に交通が集中していることから、渋滞緩和や安全性の向上を図るため、国道297号と一般県道鶴舞牛久線を結ぶバイパス整備を進めている。

この事業の実施にあたり、平成23年11月に千葉県市原土木事務所長から事業地内における「埋蔵文化財の所在及びその取扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会へ提出された。千葉県教育委員会では現地踏査等の結果を踏まえ、平成24年３月に事業計画地内北東部に埋蔵文化財包蔵地（江子田遺跡）が所在する旨の回答を行った。

この回答を受けて、その取扱いについて関係諸機関で協議を重ねた結果、事業の性格上やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり、千葉県教育委員会が発掘調査を実施することとなった。また、事業計画地内南西部は、試掘の結果から平成26年８月に慎重工事の取扱いとする旨の回答を行った。

今回報告する江子田遺跡は平成26～28年度に発掘調査を実施し、平成28年度～令和５年度に整理作業を実施した。各年度の調査組織及び担当者・期間・内容は以下の通りである（第１表）。

第１表　発掘調査及び整理作業

【発掘調査】

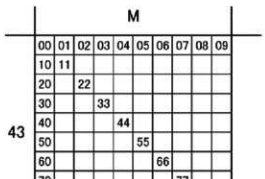
年度	調査期間	調査体制				担当者	対象面積	上層	
								確認調査	本調査
平成26年度	H26.9.1 ～ H26.11.14	千葉県教育庁 教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 班長	永沼律朗 棒屋孝之	主任上席文化財主事 平澤幹雄	1146㎡	104㎡	570㎡
平成27年度	H27.6.19 ～ H27.10.23	千葉県教育庁 教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 班長	永沼律朗 棒屋孝之	主任上席文化財主事 赤星　清	1153㎡	1015㎡	700㎡
平成28年度	H28.7.19 ～ H28.12.26	千葉県教育庁 教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 班長	永沼律朗 田井知二	主任上席文化財主事 金丸　誠	1088㎡	765㎡	995㎡

【整理作業】

年度	調査体制				担当者	作業内容
平成28年度	千葉県教育庁 教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 班長	永沼律朗 田井知二	上席文化財主事 高梨友子	水洗・注記
平成29年度	千葉県教育庁 教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 班長	萩原恭一 山田貴久	主任上席文化財主事 高梨友子	水洗の一部～注記の一部
平成30年度	千葉県教育庁 教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 班長	古泉弘志 山田貴久	主任上席文化財主事 伊藤智樹	記録整理・分類・接合の一部
令和元年度	千葉県教育庁 教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 班長	大森けい子 大内千年	主任上席文化財主事 伊藤智樹	接合・実測の一部
令和２年度	千葉県教育庁 教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 班長	田中文昭 大内千年	文化財主事 齋藤修佑	実測の一部
令和３年度	千葉県教育庁 教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 班長	田中文昭 吉野健一	文化財主事 宮澤由香・村松裕南	実測・トレース・拓本・ 博図作成・写真撮影
令和４年度	千葉県教育庁 教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 班長	金井一秀 黒沢　崇	文化財主事 泉慎琢弟	トレース・博図作成・ 原稿執筆・編集
令和５年度	千葉県教育庁 教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 班長	稲村　衆 黒沢　崇	上席文化財主事 大谷弘幸	編集・報告書刊行

2　調査の方法と調査概要

調査にあたっては、事業地内の遺跡を網羅するように、世界測地系に基づくグリッド設定を行った。X＝－67,080m、Y＝＋29,140mを起点とする20m×20mの方眼を大グリッドとし、北から南へ１～67、西から東へＡ～Ｚ及びAA～AN とし、大グリッドはアルファベットと数字の組み合わせにより「２Ｃ」「11Ｋ」のように表示することとした。今回報告する江子田遺跡（２）～（４）は、大グリッドで示すと11Mを西端とし、４Ｖを東端とする範囲にあたる（第６・７・８図）。大グリッドの中は、更に２ｍ×２ｍの小グリッドに100分割し、小グリッドは北西角から東へ00、01、02…、南へ00、10、20…とし、南東角を99とした。これにより、大グリッドとの組み合わせで、例えば「10Ｐ－55」のように座標軸による小グリッドで地点を表示することとした（第１図）。



第１図　グリッド分割図

遺構番号については、１次調査から遺構の性格ごとに001から始まる３桁の数字の連番が使用されてきた。江子田遺跡は平成16年度に(財)千葉県文化財センターが発掘調査をおこない、竪穴住居跡７軒、溝跡１条が報告されている（相京2005）。今回報告する江子田遺跡の遺構番号では、既存の調査からの連番を引き継ぎ、竪穴住居跡はSI008、溝跡はSD002から使用した。遺構の種別記号は凡例に示した通りである。なお、整理時にSK021は非掲載、SI018・021、SB001・006～011・013、SK002は欠番とした。

調査の結果、検出された遺構は、縄文時代竪穴住居跡１軒、土坑４基、弥生時代竪穴住居跡４軒、土坑１基、方形周溝墓１基、古墳時代竪穴住居跡53軒、掘立柱建物跡３棟、土坑37基、ピット６基、溝跡１条、奈良・平安時代竪穴住居跡10軒、土坑９基、中・近世溝跡１条、時期不明竪穴状遺構１軒、掘立柱建物跡５棟、土坑９基、ピット５基、柵列１条である（第６・７・８図参照）。また、その他のピットが総計275基検出されている。出土遺物がなく性格も不明なため、全体図及び重複する遺構の平面図のみ記載し、詳細な記述は省略することとした。出土遺物については、検出された遺構に伴う遺物が出土しているほか、旧石器時代の石器や縄文土器、弥生土器、古墳時代から奈良・平安時代の土師器・須恵器等が遺構外から出土している。

第２節　遺跡の位置と環境

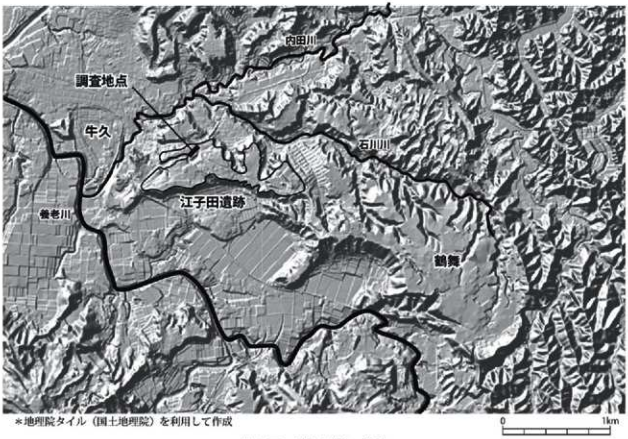
1　遺跡の地理的環境

市原市は、房総半島の中央に位置し、北部で接する千葉市をはじめ東部で茂原市、西部で袖ケ浦市、木更津市、君津市の５市と接し、大多喜町、長南町、長柄町の３町とも境を接している。市域は南北に長く、面積は368㎢で、千葉県内の市町村では最も広い面積の市域となっている。土地利用では、市域の約23%が山林を占め、次いで農地が約18%、宅地15%となっている。主要河川としては、市の中央を流れる養老川で、夷隅郡大多喜町の清澄山北東部の麻綿原高原に源を発し、蛇行しながら北上して多くの小河川をとりこみながら市原市五井海岸で東京湾に注いでいる。このほか市内には村田川水系、椎津川水系、前川水系などの中小河川があり、いずれも東京湾に注いでいる。

房総半島の地質は、第四紀の上総層群及び下総層群からなる丘陵と下総層群及び新期段丘堆積層からなる段丘と沖積層からなる低地で構成されている。上総層群は房総半島中部の上総丘陵に広く分布する海成層で、水深が1,500m以上の深海底から海底扇状地、陸棚など様々な堆積環境で形成された地層が、その後隆起して広く露出している。一方、下総層群は房総半島北部の下総台地に広く分布し、主に浅海性の砂層とそれに挟まれた淡水から汽水性の泥質層及び砂礫層により構成されている。市原市域は、この上総丘陵の北部と下総台地の南部にまたがっており、その中心を養老川の低地が南北に貫く構成となっている。台地面の分布範囲は市の北部から中部域に及ぶが、いずれの地域でも谷の開析が著しく、分断された小規模な平坦面とそれを取り巻く斜面地からなっている。養老川は上総丘陵に端を発し、上流部で切り立つ養老渓谷を、中流域では両岸に段丘状地形を伴う氾濫低地を、下流域では自然堤防を伴う三角洲性の低地を形成している。海浜の埋立て前の旧海岸線は、縄文海進が海退に転じて以降に砂堤の発達により形成されたものである。

第２図　房総半島の地質概況

江子田遺跡が所在する台地は、養老川の中流域にあり、上総層群と下総層群の境界に位置している。今



＊地理院タイル（国土地理院）を利用して作成

第３図　遺跡周辺の地形

回の調査地点の標高は53m前後で、養老川本流が、市原市牛久市街地において支流の平蔵川や内田川さらにその支流の石川川によって南北を開析された細長い台地の北西端にあたっている。この台地は、南東部の最も標高の高い部分で標高100mを超え、北西部では標高50m前後を示しており、かなりの標高差を伴う緩い弧を描くような台地の形状となっている。このため地質的には標高の高いところでは、立川ロームなどの関東ローム層の堆積が見られ、基盤層は上総層群最上層の笠森層となっている。標高の低い北西部でも立川ローム層が確認できるところもあるが、今回の調査地点では立川ローム層の堆積はなく、その上にロームや砂を主体とする粘性の強い二次堆積層、さらにその上に耕作土の表土層が堆積していた。遺跡周辺の基盤となる第四紀上総層群は笠森層とみられるが、養老川以東の地域では、下位の長南層最上部の厚層砂岩にシャープな境界で重なる場合が多く、一部ではこの境界直上付近にスランプ堆積物の発達が認められるという。一方、養老川以西の地域では下位の万田野層から漸移するらしく、江子田遺跡が所在する台地は、その境界付近に位置している。万田野層は、主に礫岩、礫質砂岩ならびに砂岩で構成されるレンズ状形態を示す地層とされている。調査地点で確認された基盤層が泥質砂岩であったことから、笠森層を基盤層としていると考えられる。

調査地点周辺の地形は、南西側からは牛久市街地から小規模な谷が奥深く入り込んだ谷頭にあたり、一方で北側の谷に面する斜面が迫っている分水嶺のようなやや狭い平坦面となっている。北側の一部で馬の背状につながる独立丘のような台地があり、この台地には多くの遺構・遺物が出土した南総中学遺跡が所在している。

2　基本層序

周囲の台地面には立川ロームの堆積があるものの、今回の調査地点では、立川ロームの堆積は見られなかった。遺物・遺構を包含する堆積土は、ロームや砂などを主体とする二次堆積土で、粘性が強く、乾くと固くなる特異な堆積土からなっている。基盤層となるのは、第四紀洪積世の笠森層と考えられる。調査地点は概ね平坦だが、調査の結果、北東側から南西側に緩い緩斜面となっており、その傾斜を埋めるように次第に二次堆積土が南西側で厚くなることが確認された。北東側の一部では大きく掘削を受け撹乱されている場所もあったが、表土から基盤層直上までの堆積土は最も厚いところで５層に分層された。旧石器時代の石器が出土しており、周辺からの流れ込みとは言い切れないことから、立川ローム相当時期に二次堆積土がある程度の厚さで堆積していたのではないかと考えられる。遺構・遺物が検出されたのは、２層～３層にかけての層位である。

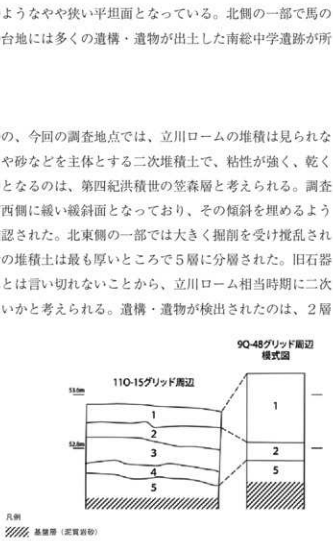
１層　黄褐色：畑の耕作土である。

２層　褐灰色：粘性のある砂質土である。
　　遺物を多く含む。

３層　黒褐色：粘性が強く、乾くと固い。
　　しまりが強い。遺物を多く含む。

４層　黒褐色：粘性強い。

５層　明黄褐色：基盤層である。泥質砂
　　岩である。



第４図　基本層序

3　周辺の遺跡と歴史的環境（第５図）

江子田遺跡（１）は過去２回の調査が実施されている。平成16年度には、(財)市原市文化財センターが調査し、古墳時代後期の竪穴住居跡４軒、土坑１基が検出されている（大村・鶴岡 2005)。同じく平成16年度に、(財)千葉県文化財センターが千葉県立市原園芸高等学校の道路拡幅工事に伴う発掘調査をおこない、古墳時代前期及び後期の竪穴住居跡７軒、古代の溝跡１条が検出されている（相京 2005)。

江子田遺跡が所在する養老川右岸の台地上には、複数の遺跡が調査・報告されている。特に、本遺跡に隣接する南総中学遺跡（江子田上原台遺跡）（２）では、縄文から奈良・平安時代の集落跡や古墳等の遺構が数多く調査報告されている。ここでは、南総中学遺跡の成果について概観する。

南総中学遺跡は昭和46・47年に調査が実施されている。この遺跡は、養老川とその支流に囲まれた丘陵上に所在しており、本遺跡とは浅い小支谷を挟んだ北側台地上に位置している。検出遺構としては、縄文時代では前期から中期の竪穴住居跡16軒・土坑３基・竪穴状遺構２基、弥生時代では中期後半から後期前半の竪穴住居跡39軒・方形周溝墓23基・竪穴状遺構３基、Ｖ字溝１条、土器棺墓３基、古墳時代では後期の竪穴住居跡１軒・古墳４基・横穴墓２基、奈良・平安時代では８世紀から９世紀の竪穴住居跡が４軒検出されている。出土遺物としては、旧石器時代石器、縄文時代早期から後期の土器、弥生時代中期・後期の土器や石器、古墳時代後期の須恵器・土師器・鉄製品、奈良・平安時代の須恵器・土師器等が挙げられている。(倉田ほか 1978)。このように縄文時代から奈良・平安時代にかけての集落域や墓域が確認されているなかで、特に弥生時代については、台地北側で検出されたＶ字溝が集落を取り囲む環濠であると考えられることから、北東に展開する方形周溝墓群と合わせて、弥生時代の集落と墓域の関係を示す養老川中流域における数少ない事例として特筆される。

このほか、本遺跡近辺では南富士台遺跡（３）・安久谷向ノ岱遺跡（４）・雪解沢遺跡（５）・江子田横穴群（６）・江子田古墳群（７）等が報告されている。以下、本遺跡周辺の遺跡を時代別に概観する。

縄文時代では、南富士台遺跡で遺構は検出されなかったものの、早期野島式のまとまった資料が得られた（近藤 1987)。安久谷向ノ岱遺跡は南総中学遺跡の西側隣接地を調査したもので、前期の土坑が検出された（忍澤 1991)。番後台遺跡（８）からは中期の竪穴住居跡が１軒検出されているほか、早期から晩期に至る土器が出土している（藤崎ほか 1982)。

弥生時代では、安久谷向ノ岱遺跡において南総中学遺跡に連続する竪穴住居跡や方形周溝墓等が検出されている。雪解沢遺跡からは後期中葉の竪穴住居跡１軒・土器棺１基が検出されている。本遺跡から養老川をやや遡った位置にある番後台遺跡からは、中期の竪穴住居跡１軒、後期の竪穴住居跡 29 軒が検出されている。また、出土遺物には土器のほか太型蛤刃石斧・抉入片刃石斧・扁平片刃石斧などの磨製石斧や板状鉄斧も出土している。

古墳時代では、集落遺跡として南富士台遺跡・番後台遺跡・沢遺跡（９）が挙げられる。南富士台遺跡では弥生時代終末～前期の竪穴住居跡を９軒検出している。また、東遠江地方の菊川式の壺や櫛描文の土器など東海系統の遺物が出土している。番後台遺跡では前期から中期の竪穴住居跡79軒、後期の竪穴住居跡が20軒検出されており、大規模な集落が形成されている。また、南富士台遺跡同様東海系の櫛描文土器の出土を見た。沢遺跡は後期から古代にかけての集落跡で、掘立柱建物跡や工房跡が検出されている。

また、養老川流域の丘陵上には複数の古墳群及び横穴群が知られており、本遺跡周辺にも江子田古墳群が展開する。江子田古墳群は、前方後円墳５基・円墳46基・方墳22基の大規模古墳群である。昭和38年度

に金環塚古墳（瓢箪塚古墳）が発掘調査され、後円部から木棺が検出されている。遺物は純金製耳環・玉類・鉄地金銅装馬具等が出土し、6世紀前半から中葉の時期と想定された（武田ほか1964）。その後、昭和58年度には「雪解沢遺跡」として金環塚古墳の周溝と周辺古墳の確認調査がおこなわれた。成果として、金環塚古墳は二重盾形周溝であることが判明し、須恵器器台片が出土した。また、前期の方墳S-001号跡のコーナー部分から前期の土師器がまとまって出土している（金丸1984）。このほか、昭和43年度には方墳である女坂1号墳が発掘調査され、木棺や須恵器・土師器・鉄釘等を確認した（武田ほか1969）。また、南総中学遺跡（江子田横穴群）として横穴墓2基を調査している。

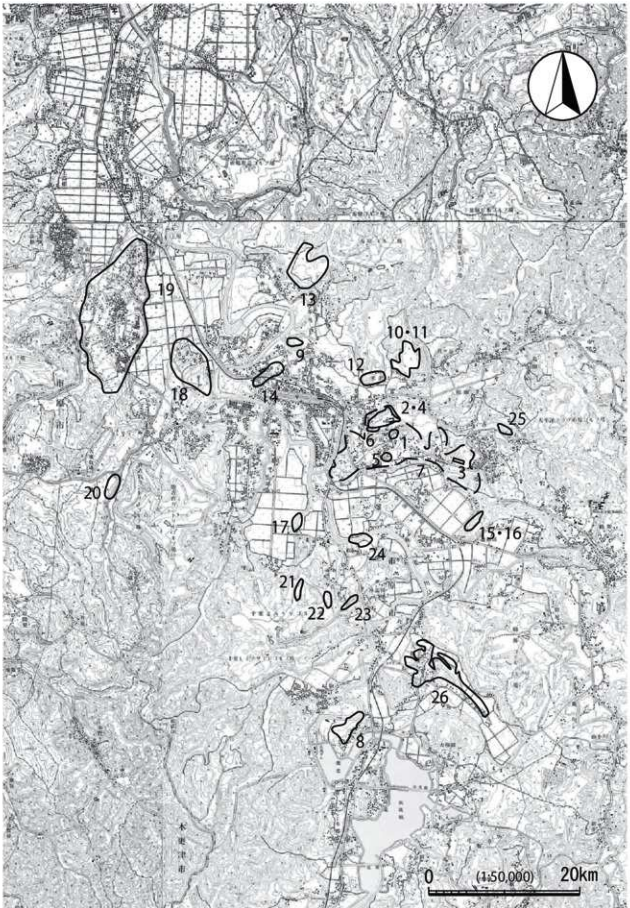
周辺の古墳群として、養老川右岸には、真福寺前古墳群（10）・同横穴群（11）、稲荷台古墳群（12）、奉免古墳群（13）、牛久古墳群（14）が所在する。本遺跡の所在する台地の南東には池和田古墳群（15）・同横穴群（16）が所在する。一方の養老川左岸には、藪八幡神社古墳群（17）、佐是古墳群（18）、吉野古墳群（19）、西国吉横穴群（20）、藪横穴群（21）、岩横穴群（22）、外部田ヤツ横穴群（23）が所在する。

奈良・平安時代では、藪マギノウ遺跡(24)から9世紀代の竪穴住居跡が5軒検出されている(石本ほか1982)。また、当地域では山間部の傾斜地を利用して窯を構築し、須恵器等の生産が行われるようになる。石川窯跡（25）、永田・不入窯跡（26）では8世紀末から9世紀初頭の須恵器が生産され、古代上総地域の主要な供給地となっている（大川1976、山口1985、奥田1988、田所1989、郷堀・小林1993、森本1995）。

中・近世では、平成4年に江子田送り神塚が発掘調査され、盛土最下層からカワラケ28点・銭貨6点が出土するなど、塚の築造に伴う祭祀行為の痕跡が明らかとなった（米田2006）。

第2表　江子田遺跡周辺の遺跡一覧表

番号	遺　跡　名	時　　代	検出遺構	出土遺物
1	江子田遺跡	縄文～奈良・平安	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・横列・ピット群	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・土製品・石器・石製品・鉄製品
2	南総中学遺跡	縄文～古代	竪穴住居跡・方形周溝墓・土坑	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・鉄製品・人骨
3	南富士台遺跡	縄文～古墳	竪穴住居跡	弥生土器・土師器
4	安久谷向ノ谷遺跡	縄文・弥生	竪穴住居跡・方形周溝墓・土坑	－
5	雪解沢遺跡	弥生・古墳	竪穴住居跡・方形周溝墓・古墳	弥生土器・土師器・須恵器
6	江子田横穴群	古墳	横穴	－
7	江子田古墳群	古墳	前方後円墳・円墳・方墳	純金製耳環・玉類・鉄地金銅装馬具・土師器・須恵器・鉄剣
8	番後台遺跡	縄文～古墳	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・方形周溝状遺構	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・土製品・石器・石製品・鉄製品・銅製品
9	沢遺跡	古墳、奈良・平安	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・工房跡	土師器・須恵器・刀子・鉄鏃
10	真福寺古墳群	古墳	円墳	－
11	真福寺横穴群	古墳	横穴	土師器・須恵器・玉類
12	稲荷台古墳群	古墳	前方後円墳・円墳	－
13	奉免古墳群	古墳	方墳・周溝内土坑	土師器・須恵器
14	牛久古墳群	古墳	前方後円墳・方墳・円墳	銅鏡・鉄槍
15	藪八幡神社古墳群	古墳	円墳	－
16	池和田古墳群	古墳	円墳	－
17	池和田横穴群	古墳	横穴	－
18	佐是古墳群	古墳	前方後円墳	－
19	吉野古墳群	古墳	前方後円墳・方墳	須恵器、円筒・形象埴輪
20	西国吉横穴群	古墳、奈良・平安	横穴	－
21	藪横穴群	古墳、奈良・平安	横穴	－
22	岩横穴群	古墳、奈良・平安	横穴	須恵器・土製品・直刀・刀子・鉄鏃・耳環・人骨
23	外部田ヤツ横穴群	古墳	横穴	人物・馬の線刻画
24	藪マギノウ遺跡	奈良・平安	竪穴住居跡	土師器・須恵器・刀子・鉄鏃・砥石
25	石川窯跡	奈良・平安	須恵器窯跡・竪穴住居跡	須恵器
26	永田・不入窯跡	奈良・平安	須恵器窯跡・土器集積遺構	須恵器



第５図　遺跡の立地と周辺遺跡（S=1/50,000）

参考文献

相京邦彦 2005『市原市江子田遺跡』千葉県文化財センター調査報告第516集　(財)千葉県文化財センター

石本俊則ほか 1982『市原市藪遺跡』市原市藪遺跡調査会

伊藤　慎 1997「第２章第５節上総丘陵の地質」『千葉県の自然誌　本編２　千葉県の大地』千葉県

大川　清 1976『千葉県市原市永田・不入須恵窯跡調査報告書』千葉県教育委員会

大村　直・鶴岡英一 2005『平成16年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

奥田正彦 1988『市原市石川須恵器窯跡確認調査報告書』千葉県文化財センター調査報告第148集
(財) 千葉県文化財センター

忍澤成視 1991「第５章　安久谷向ノ岱遺跡」『平成２年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

金丸　誠 1984『市原市雪解沢遺跡』千葉県文化財センター調査報告第77集　(財) 千葉県文化財センター

倉田芳郎ほか 1978『千葉・南総中学遺跡』　市原市教育委員会

郷堀英司・小林信一 1993『市原市永田窯跡群発掘調査報告書』千葉県文化財センター調査報告第238集
(財) 千葉県文化財センター

近藤　敏 1987『南富士台遺跡』市原市文化財センター調査報告書第22集　(財) 市原市文化財センター

杉山晋作ほか 1972『西国吉横穴群』西国吉横穴群発掘調査団

武田宗久ほか 1964「南総町江子田瓢箪塚古墳」『千葉県遺跡調査報告』千葉県教育委員会

武田宗久ほか 1969「上総国女坂第１号方形墳」『南総郷土文化研究会叢書』第９巻　南総郷土文化研究会

田所　真 1989『市原市永田・不入窯跡』(財) 市原市文化財センター

田中清美ほか 1992『千葉県市原市奉免上原台遺跡』(財) 市原市文化財センター調査報告書第43集
(財) 市原市文化財センター

千葉県 1976『土地分類基本調査　大多喜　５万分の１』

野中　徹ほか 1977『岩横穴群発掘調査報告書』岩横穴群発掘調査団

藤崎芳樹ほか 1982『市原市番後台遺跡・神明台遺跡』(財) 千葉県文化財センター

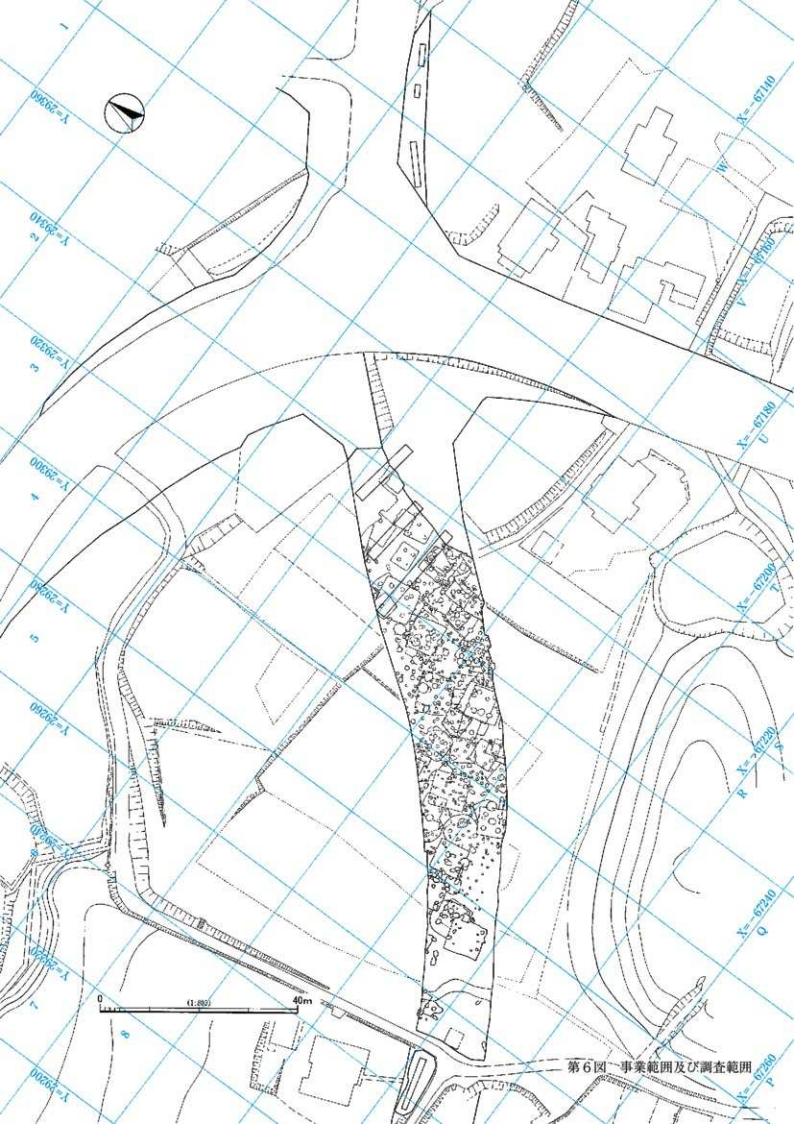
増田精一 1972『牛久第Ⅲ号墳調査抄報』市原高校内古墳発掘調査団

森本和男 1995『市原市永田窯跡群第２次発掘調査報告書』千葉県文化財センター調査報告第270集
(財) 千葉県文化財センター

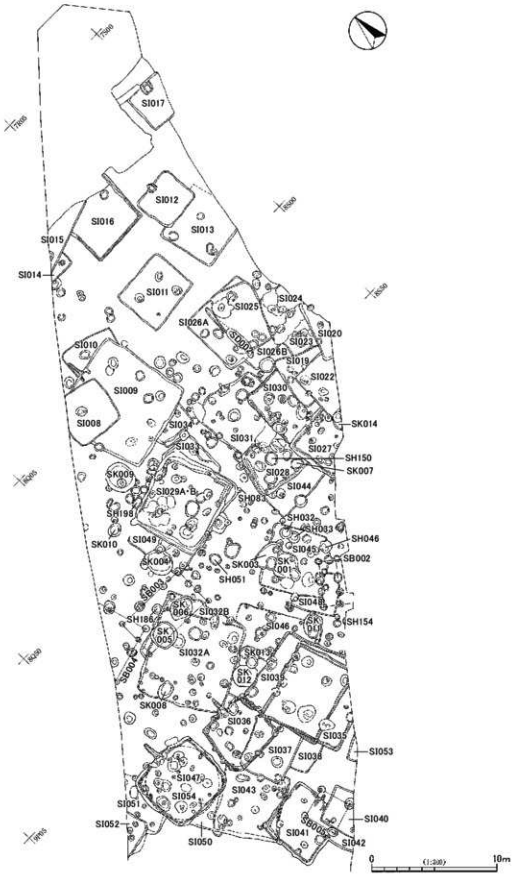
山口直樹 1985『千葉県市原市永田・不入窯跡』(財) 市原市文化財センター

米田耕之助ほか 1987『千葉県市原市沢遺跡』(財) 市原市文化財センター調査報告書第19集
(財) 市原市文化財センター

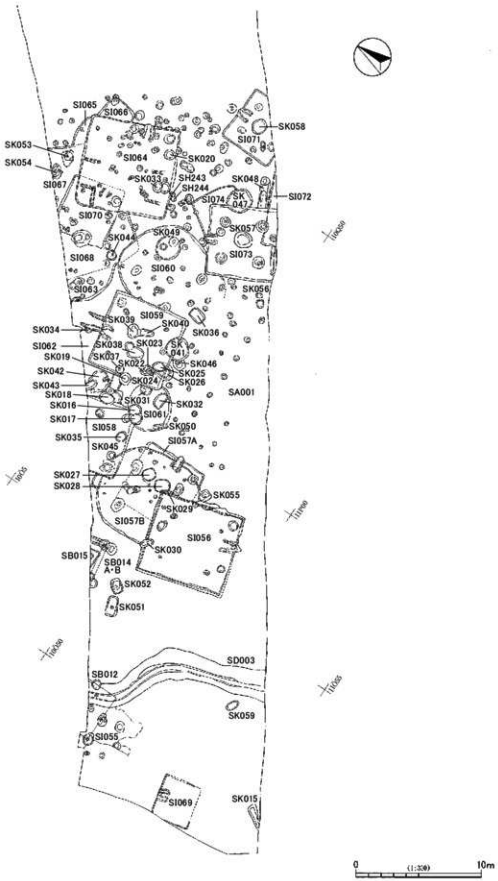
米田耕之助 2006「８．江子田送り神塚」『市原市文化財センター年報　平成４年度』
(財) 市原市文化財センター



第６図　事業範囲及び調査範囲


SI017
SI012
SI016
SI013
SI015
SI014
SI011
SI024
SI025
SI026A
SI020
SI021
SI026B
SI010
SI019
SI022
SI009
SI030
SI008
SK014
SI034
SI031
SI027
SI033
SH150
SK007
SK009
SI028
SI029A
SI044
SH083
SH198
SH032
SH033
SH046
SK010
SI049
SI045
SB002
SK004
SK003
SK001
SH051
SK006
SI048
SI032B
SH186
SK012
SH154
SK005
SI046
SI032A
SK013
SI030
SI035
SK008
SI036
SI035
SI053
SI037
SI038
SI047
SI043
SI054
SI051
SI040
SI052
SI041
SI042
SI050
0
(1:200)
10m

第７図　遺構配置図（１）


SI065
SI066
SK058
SI071
SK053
SK054
SI064
SK020
SK033
SH243
SH244
SK048
SI067
SI074
SK047
SI072
SI070
SK049
SK057
SK044
SI073
SI068
SI060
SK056
SI063
SI059
SK039
SK040
SK034
SK036
SK038
SK023
SK041
SI062
SK037
SK046
SK019
SK022
SK025
SK042
SK024
SK026
SK043
SA001
SK018
SK031
SK032
SK016
SI061
SK017
SK050
SI058
SK035
SI057A
SK045
SK027
SK028
SK055
SK029
SI057B
SI056
SK030
SB015
SB014
A・B
SK052
SK051
SD003
SB012
SK059
SI055
SI069
SK015
0
(1:300)
10m

第８図　遺構配置図（２）

第２章　旧石器時代の遺物

第１節　概要

江子田遺跡における旧石器時代の調査は、基盤層が泥質砂岩の二次堆積層で、立川ローム層が確認されなかったため、確認調査及び本調査はおこなわなかった。遺物は上層の遺構やグリット一括で採取された石器から、旧石器時代の所産のものと考えられる石器８点を単独出土石器として説明する。

第２節　単独出土石器（第９図、図版20）

１はナイフ形石器である。灰白色の珪質頁岩を石材としている。主要剥離面右下側を打面としたやや厚みのある横長剥片を素材として、素材端部からの急角度調整と主要剥離方向からの平坦剥離により平面形状が切出形に仕上げられている。２は細石刃とした。灰白色半透明に灰色斑が入る流紋岩質の珪質頁岩を石材とする。複剥離面打面で背面には頭部調整があり、剥離方向と同一方向の３面の剥離面がみられる。主要剥離面左側面には微細な刃こぼれ状の使用痕が観察される。３～５は二次加工を有する剥片（Ｒ剥片）である。３は、１と同質な灰白色珪質頁岩を石材としている。器体上端部の両側縁に細部調整が連続し、特に主要剥離面側の調整が顕著である。４は表面が浅黄橙色で内部が赤褐色から灰黄褐色に変化する珪質頁岩を石材としている。背面に原礫面を広く残置しており、主要剥離面右側辺中央部に集中した平坦剥離が認められる。器体下端部は背面側からの加撃により折取られている。５は灰オリーブ色をした緑色凝灰岩を石材としている。背面から打面が自然面で両側縁に疎らな細部加工が認められる。また裏面左側縁には刃こぼれ状の微細な使用痕がみられる。６・７は使用痕を有する剥片（Ｕ剥片）である。６は表面側が淡黄色で内側が灰黄褐色を呈した珪質頁岩を石材とする。器体下半部の鋭利な側縁に刃こぼれ状の微細剥離面が連続する。７は明黄褐色からにぶい黄橙色をした珪質頁岩を石材とする。背面左側面には自然面の背面を打点とした先行する数回の剥離痕が認められることから、この素材は打面更新の剥片と考えられる。器体形状は翼状を呈する横長剥片で、剥離方向に対向する背面右側辺全縁に微細剥離痕が連続する。８は石核である。原礫面が明褐色で内部が灰オリーブ色を呈する嶺岡山地産珪質頁岩である。原礫を剥離（分割）した石核素材の平坦な分割面を剥離作業面としており、原礫面を背後に置いて正面を作業面とし、原礫面側を打面とする剥片剥離作業が看取される。剥片剥離は正面の周囲を上面、右側面、左側面方向から求心的に剥離され、１回の剥離ごとにランダムに打点移動して進行している。

第３表　旧石器時代石器属性表

挿図番号	遺構番号 出土位置	種別	石材	法　量			
				最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
第９図－１	7R-59	ナイフ形石器	珪質頁岩	30.2	15.9	8.2	2.8
第９図－２	SH032	細石刃	珪質頁岩	21.1	8.0	3.7	0.3
第９図－３	SK011	Ｒ剥片	珪質頁岩	34.0	27.1	6.1	3.6
第９図－４	SI035	Ｒ剥片	珪質頁岩	56.9	49.2	10.0	24.3
第９図－５	SI009	Ｒ剥片	凝灰岩	53.6	48.4	14.0	35.2
第９図－６	SI028	Ｕ剥片	珪質頁岩	37.0	35.5	9.3	8.1
第９図－７	8R-80	Ｕ剥片	珪質頁岩	61.5	33.0	12.1	15.9
第９図－８	SI022	石核	珪質頁岩	35.0	34.0	14.5	12.5

第9図　単独出土石器

第３章　縄文時代の遺構と遺物

第１節　概要

調査区内から検出された縄文時代の遺構は、竪穴住居跡１軒、土坑４基である。遺物は主に縄文時代早期・中期の土器や石器が出土している。縄文時代の遺構が存在することから、本地点の二次堆積層は基盤層の礫層の上にある程度の層厚の堆積があったと考えられる。

第２節　遺構と遺物

１　竪穴住居跡

SI054（第10図、図版11・12・21・25）

9P-19・29・39・49・9Q-10・11・12・20・21・22・30・31・32・40・41・42 グリッドに所在する。

重複状況　SI047 に全体を掘り込まれており、壁は検出されなかった。

規模と形状　炉と主柱穴５基を検出し、それらの位置から形状を推測した。推定で直径 5.68 m の円形である。

炉　中央部に位置する地床炉である。直軸長55cm・短軸長38cmの楕円形である。全体的に焼けて火床面が硬化している。

ピット　19基検出された。P1 ～ 5は配列及び形状から主柱穴と考えられる。P1 は長軸長 1.4 m・短軸長 0.9m、床面からの深さは30cm である。P2 は径40cm前後、床面からの深さは33cmである。P3は長径64cm・短径40cm、床面からの深さは40cmである。P4は長径44cm・短径28cm、床面からの深さは74cmである。P5 は長径60cm・短径40cm、床面からの深さは43cmである。P6～P19 の床面からの深さは10～65cmで、本遺構に伴う可能性があるが、性格は不明である。

出土遺物　図示した遺物は、土器11点と石器１点である。１～４は加曽利Ｅ式の深鉢口縁部破片である。５～11 は加曽利Ｅ式の深鉢胴部破片である。１は深い沈線が施文されている。２～４は口縁部に粘土貼り付けがなされている。５～８は縄文にタテ方向の沈線が施されている。12はホルンフェルス製の打製石斧である。

時期　出土遺物の状況から、加曽利Ｅ式（中期後葉）と考えられる。

２　土坑

SK035（第11図、図版18・21）

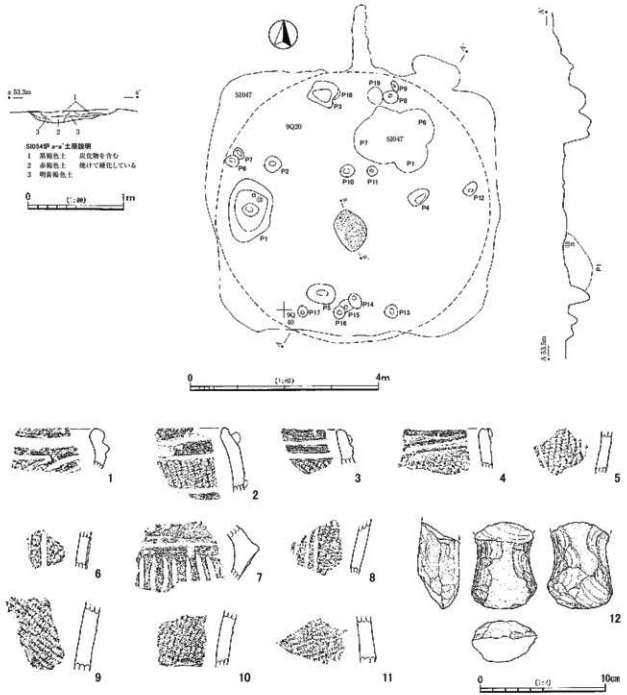
10O-28・29 グリッドに所在する。

重複関係　SI058 に掘り込まれており、覆土の上層部は削平されている。

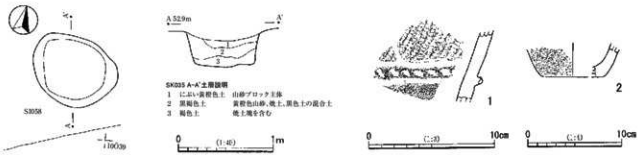
規模と形状　長軸長90cm・短軸長74cmの楕円形である。確認面からの深さは38cmである。

出土遺物　図示した遺物は土器２点のみである。１は加曽利Ｅ式の深鉢胴部片である。区画文は沈線が巡っており、斜位の刻み目付隆起線が施文されている。２は加曽利Ｅ式の深鉢底部である。

時期　出土遺物の状況から、加曽利Ｅ式（中期後葉）と考えられる。



第10図　SI054 平面図・出土遺物実測図



第11図　SK035 平面図・出土遺物実測図

SK041（第12図、図版18・21・22）
10P-22・23グリッドに所在する。
重複関係　SI059に掘り込まれており、１層が一部削平されている。
規模と形状　径1.8mの円形である。確認面からの深さは44cmである。
出土遺物　図示した遺物は土器６点である。１～３は加曽利EⅠ式の深鉢口縁部である。１はキャリパー形で渦巻文により区画されている。４は加曽利EⅡ式の深鉢胴部破片、５・６は加曽利E式の深鉢底部である。
時期　出土遺物の状況から、加曽利E式（中期後葉）と考えられる。

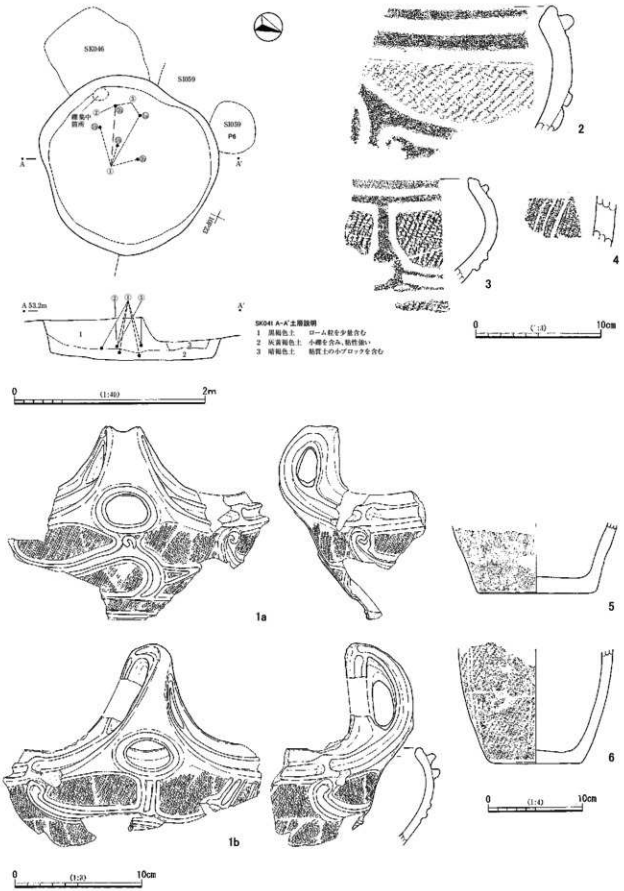
SK047（第13図、図版18・22・25）
10P-18・19グリッドに所在する。
重複関係　SI073・074に掘り込まれている。
規模と形状　長軸長2.1m・短軸長1.8mの円形である。確認面からの深さは55cmである。
出土遺物　図示した遺物は土器12点・石器２点であり、加曽利EⅠ式で占められている。１～３は加曽利E式の深鉢である。４は深鉢胴部～底部である。５は小形深鉢である。口縁部下端を沈線文で区画し、以下にタテの波状沈線文二本が懸垂文となっている。６～８は加曽利E式の深鉢底部である。９・11・12は加曽利E式の深鉢口縁部片である。９は緩やかな波状口縁部が渦巻文となっている。11・12は三本１単位のタテの沈線文と波状沈線文となっている。同一個体であろう。10は浅鉢胴部片である。口縁端部は幅広で平坦、内面に幅広の沈線が巡っている。胴部は球形に膨らみ、隆起線と沈線で意匠文が描出されている。13は黒曜石製の楔形石器である。14は黒曜石製の石鏃である。
時期　出土遺物の状況から、加曽利E式（中期後葉）と考えられる。

SK055（第14図、図版19・22）
10O-68グリッドに所在する。
重複関係　SI056・057A・057Bに掘り込まれている。
規模と形状　長軸長1.1m・短軸長0.9mの隅丸長方形である。確認面からの深さは87cmである。
出土遺物　図示した遺物は土器１点のみである。１は早期の条痕文系土器で、内・外面に貝殻条痕文が施されている。
時期　出土遺物の状況から、早期と考えられる。

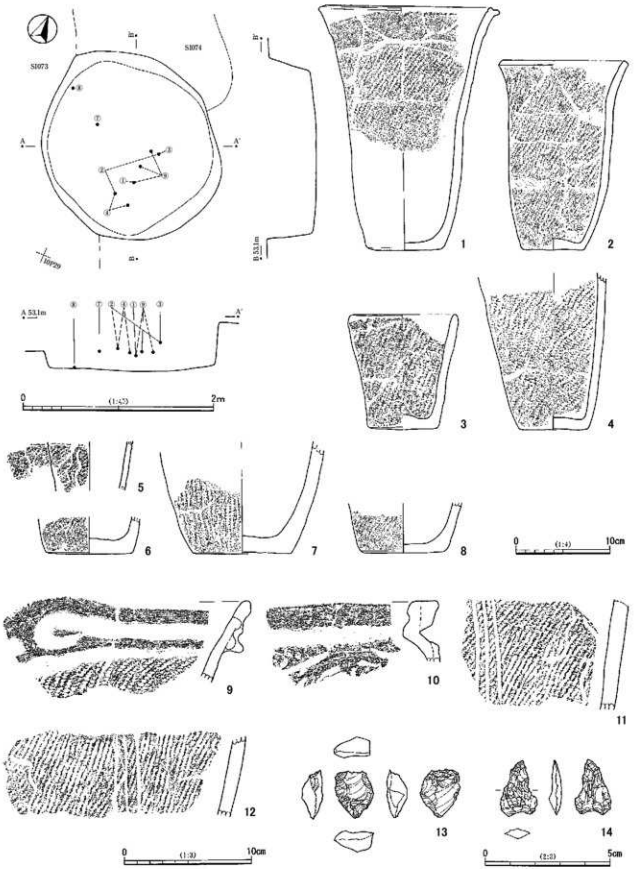
第３節　遺構外出土の遺物（第15～19図、図版23～25）

弥生時代以降の遺構、あるいはグリッド一括で検出した遺物のうち縄文時代の所産と考えられるものをここで扱う。図示した遺物は、土器54点、土器片錘２点、石器は石鏃16点、石錐１点、両極石核または両極剥片５点、石核３点、打製石斧３点、磨製石斧５点、敲石２点、磨石３点、凹石１点である。

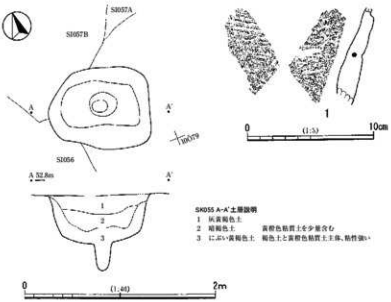
第15図１～６は早期の土器、７～53は中期の土器である。１～６は茅山上層期以降の早期末葉の時期であろう。１は刻み目を施し、肥厚した口縁部である。口縁頭頂部には押圧痕、外面に太い沈線文が施されている。２～６は条痕文系土器である。２は口縁部にキザミがみられる。外面に貝殻腹縁刺突文、内面に貝殻条痕文が施文されている。３・５・６は内外面に貝殻条痕文がみられる。４は外面に貝殻条痕文と貝



第12図　SK041 平面図・出土遺物実測図



第13図　SK047 平面図・出土遺物実測図



第14図　SK055 平面図・出土遺物実測図

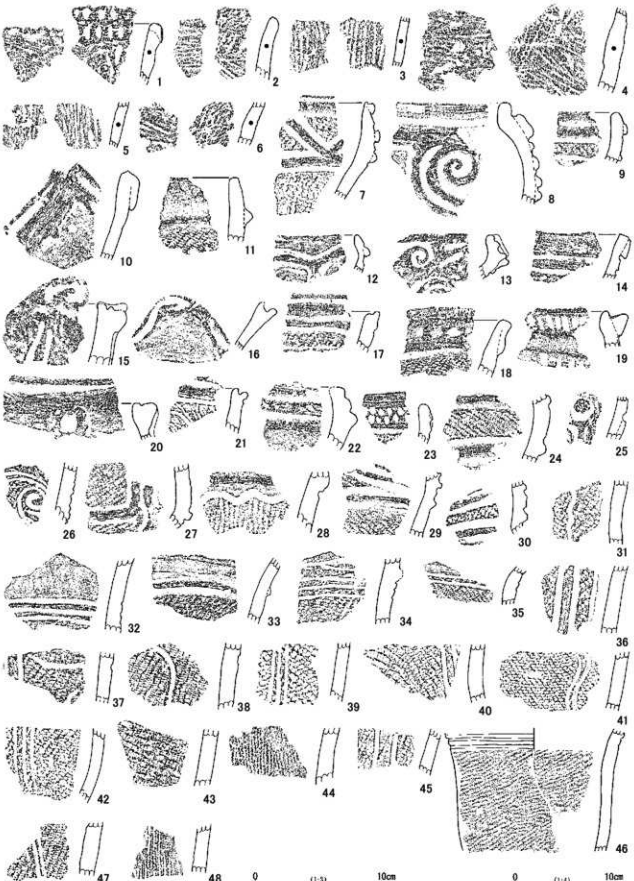
殻腹縁刺突文、内面に貝殻条痕文が施文されている。

12は阿玉台式の深鉢口縁部片である。隆起文と沈線で区画文を形成している。

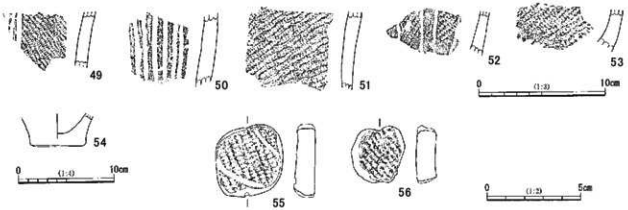
7～11・13～53は加曽利E式のものである。7・9・21・24・29は区画文に隆起線と沈線を組み合わせている。8はキャリパー形深鉢で、口縁部区画文は楕円と渦巻の組み合わせである。単節縄文が区画内にヨコ方向に施文されている。器形は口縁部が内湾している。10は波状口縁端部に沈線文が巡っている。11・14は隆起線により口縁部に無文帯が作り出されている。13は口縁端部に渦巻文隆起文と隆起線文による文様が施されている。15は波状口縁で、口縁頂頂部に渦巻文が施文されている。渦巻文にむかう口端上に沈線文が巡っている。16は波状の口縁端部に沈線文が巡り、波頂部で渦巻文となる。17は口縁端部に沈線文が巡っている。19は隆帯文と集合沈線文により施文されている。20は口縁端部上に太い沈線が巡り、下に隆起線文が貼付されている。23は区画文に沈線が巡っており、円形刺突文が施文されている。25・30は口縁端部を欠損しているが、区画文に隆起線と沈線を組み合わせている。27は口端が欠損する。キャリパー形深鉢である。区画文に単節縄文がヨコ方向に施され、口縁部がやや内湾している。28は区画文に隆帯とその下に波状沈線文が巡っている。31はタテ方向の波状沈線文が巡っている。32は頸部が無文で、胴部との境目に三列の沈線文が巡っている。33は隆帯により口縁部に無文帯を作り出している。34・35は頸部に三列の沈線文が巡る。36・37・40・41・45は二本、39・42・47・49は三本のタテ沈線による懸垂文が施文されている。50は集合沈線文が施文されている。52は磨消懸垂文が施文されている。54は弥生中期宮ノ台期の壺底部である。

第16図55・56は土器片錘である。形態は角が取れた楕円形である。長軸両端に細い切れ込みがみられる。55は最大長3.9mm、最大幅3.5mm、最大厚1.0mm、重量17.73ｇである。56は最大長3.0mm、最大幅2.8mm、最大厚1.1mm、重量9.33ｇである。

第17図１～16は石鏃である。１～４・８は基部の抉り込みがないもの或いは浅く弧状に抉込みがみられるものである。１～４はガラス質黒色安山岩を石材としている。１は表面左基部を欠損する。両側縁・基部が直線的で平面形状は二等辺三角形を呈している。先端部が鋭角に作り出されている。２は両側縁中央



第15図　遺構外出土縄文土器（1）

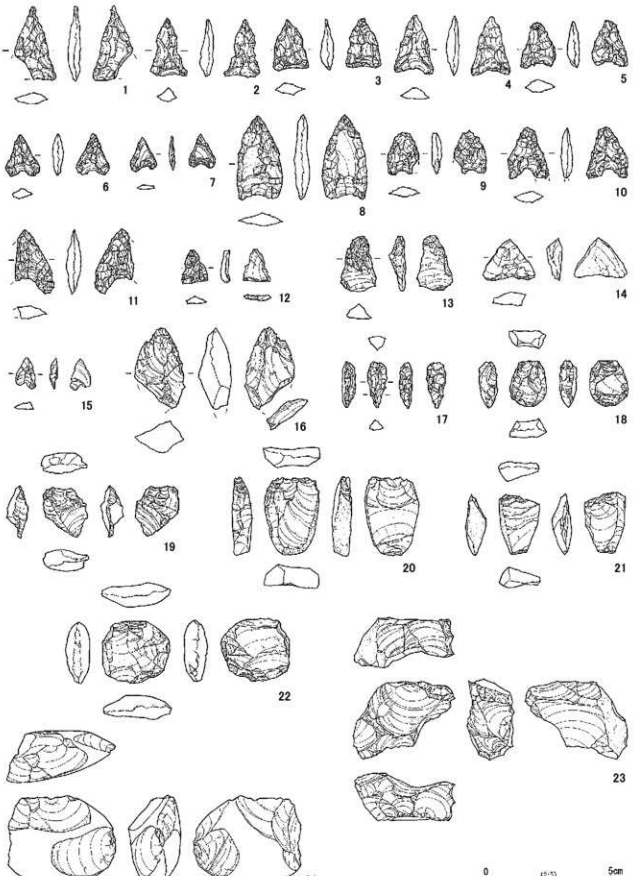


第16図　遺構外出土縄文土器（2）

部が内湾し脚部が作出される。基部の抉込みは左右不均衡に浅く抉れている。3は両側縁が外湾し先端部がやや鈍角となり、基部は弧状に浅く抉れる。4はやや細身のもので、両側縁は基部側が内湾するが、基部の抉込みは浅い。8は珪質頁岩を石材とした特異なものである。表面に節理面、裏面に剥離面を残置する長身細身のもので、両側縁の外湾する平坦剥離や基部が浅く抉られる調整は精緻である。5～7、9～11は基部の抉込みが明瞭なものである。5はチャートを石材としている。左側縁部は上半部及び基部側が内湾しており、基部が逆V字状に浅く抉れて脚部が作出されている。6・7は黒曜石を石材とした小形のものである。6は厚みのある素材を細かな調整で仕上げており、両側縁がやや内湾し、基部が逆V字状に浅く抉れて両脚部が明瞭になる。7は薄い剥片を素材としたものである。表面右側縁が切断したように欠損しているが、欠損以外の器体縁辺部に微細調整を施して基部に抉りのある三角形状に仕上げている。9は両側縁が外湾して丸味を帯びて、基部が逆U時状に抉れている。10・11は黒曜石を石材としている。10は両側縁上部がやや内湾、下半部が外湾しており、基部が逆U字状に深く抉れて肩の張った脚部が明瞭となる。11は左側縁を大きく欠損するが、丁寧な調整により右側縁下半部が外湾して基部は深く抉れて長い脚部に仕上げている。12～16は石鏃未成品とした。12・13・15・16は黒曜石を、14は石英を石材としている。12は表面を周囲からの細部調整により三角形状に仕上げているが、裏面には細部調整がみられず主要剥離面を残している。横長剥片を素材としていることが看取される。13は表面両側縁、裏面右側縁からの細部調整により器体先端部を鋭角に調整しているが、背面下半部には素材の剥離面、裏面には主要剥離面を広く残し、厚みのある縦長剥片を素材としていることが理解される。14は右側面が切断面となる三角形状素材の下端部を基部として、浅く抉るような調整が連続する。調整は抉り部分のみのため、石鏃調整の初期段階のものと考えられる。15は小型のもので、裏面には主要剥離面の打点方向からの二次剥離により、基部に抉りのある三角形状の素材となっている。石鏃製作の調整は急角度な右側面に背・腹面両面からの微細調整のみであるので、石鏃製作を企図したものか明確でないが、形状等から石鏃未成品としておく。16は大形で厚みのある横長剥片を素材としたもので、表面の右側縁上部に厚みを減じる幅広な平坦剥離と細部調整、裏面の右側縁上部に細部調整がみられ先端部を鋭角に仕上げている。そのほかの部位では先行する剥離面、主要剥離面で構成されている。

17は石錐である。黒曜石を石材として、下端部を鋭角に尖らせ、横断面系が三角形になるように細かな調整が施されている。末端部及び両側縁下半部には使用痕と思われる潰れが観察される。

18～22は両極石核または両極剥片である。両極技法により石鏃の素材を円礫などから取ることを目的と



第17図　遺構外出土縄文石器（1）

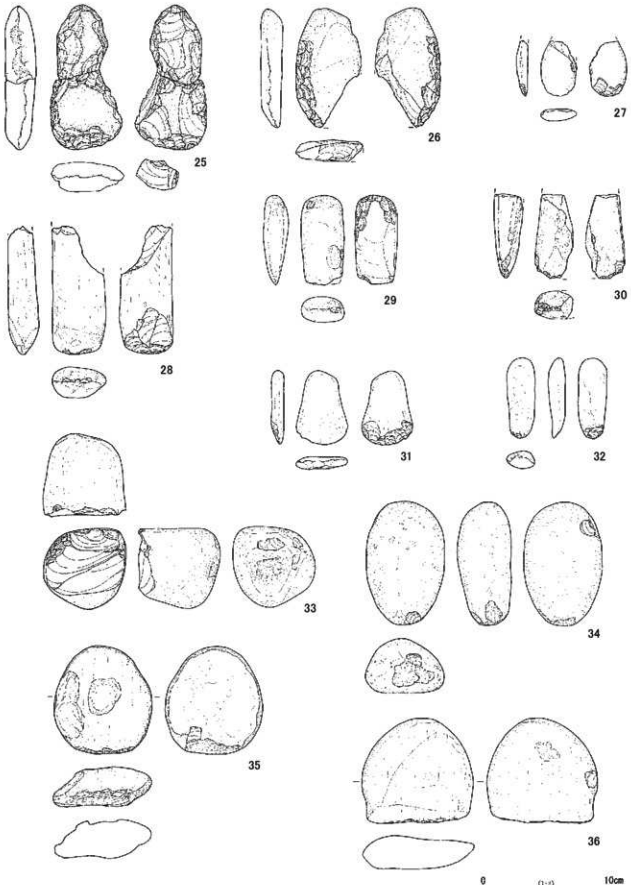
したものと考えられる。18・19は黒曜石を石材とする。18は厚みのある横長剥片素材の長軸方向を打撃方向として両極打法がおこなわれる。打面は上下端とも線状打面となり、背面で上方向からの細長剥離痕と階段状剥離が顕著である。19も横長剥片の長軸方向を打撃方向としているが、上下の打撃方向の軸がずれ、上端は線状打面、下端は点状打面に近い線状打面となっている。背面で上下からの対向する剥離痕と背腹面で上端からの階段状剥離がみられる。20はガラス質黒色安山岩を石材としている。右側面には自然面が残り、小楕円礫の長軸方向を分割した剥片を素材として、さらに長軸方向で裁断するような両極剥離で厚みが減じている。上端が線状打面、下端が点状打面となり左側面で上下からの狭長な剥離痕が認められる。21・22はチャートを石材とする。21は平面形状が逆台形を呈しており、両側面に自然面を残している。上下面とも線状打面となり、上端の階段状剥離と潰れが顕著である。22は平面形状が円形を呈している。両極剥離が上下方向と左右方向にみられ、90度打撃方向を移動している。それぞれ細かな剥離と潰れが観察される。背面下半部と腹面左下半部の階段状剥離は背腹面で交互剥離となっていることから二次調整加工と考えられる。その後に両極技法がおこなわれている。

23・24・33は石核である。23は透明度の高い信州産系黒曜石を石材とする。裏面から左側縁に礫皮面があり、90度の打面転移を基調として下面、右側面、正面へと剥片剥離作業が進行している。24はチャートを石材としている。5、6cm程の楕円礫の石核素材の右側縁方向と上端部方向から剥片剥離がみられ、それぞれ裏面から表面へと交互に剥片剥離が進行している。33は黒色安山岩を石材としている。亜角礫を素材としている。平坦な自然面を打面として左右に打点を移動して素材を裁断するような幅広剥片を作出する剥片剥離行為が3回看取される。裏面には浅く窪んだ敲打痕と、爪型状刻み痕が認められることから敲石としての機能も併せ持つ石器である。25～27は打製石斧である。25は中央部がやや括れ、平面形状が撥型を呈する。表裏面には自然面が残置しており扁平な長楕円形礫を素材としていることが理解される。中央部で裏面からの加撃により上下に分割して欠損している。欠損後にも分割面からの調整加工がみられ、上部の欠損品には両側縁で敲打による潰れが認められる。26は扁平な楕円礫を素材としている。表面左側縁、裏面右側縁に平坦調整がみられる。表面右下半部から下端部にかけて裏面側からの打撃により欠損している。その後の加工がみられないことから、石斧製作段階初期で廃棄された未成品と考えられる。27 は小型扁平礫の裏面長軸端部に集中した平坦剥離が施されて刃部を作出している。礫石斧と判断した。28～32 は磨製石斧である。28は棒状礫の素材を生かして裏面下端部に集中した調整、表面で面取り状に研磨痕がみられ、刃部は蛤状に近くなる。29は側面を直角上に研磨して、刃部は裏面からの研磨により片刃状に仕上げている。30は左側縁に擦切技法による素材の分割が認められる、いわゆる定角式磨製石斧である。器体は左側縁から刃部だけを残して欠損しているが、右側面からの欠損面には研磨痕がみられる。さらに小形の磨製石斧に再加工しようと意図したものか。31は扁平礫の全面が研磨され光沢を帯びている。裏面の調整で片刃状に仕上げられており、表裏刃部面に線状痕が観察される。32は棒状礫の裏面下端部に集中した調整がおこなわれ刃部が作出している。器面の風化が著しいため線状痕は明確でないが、刃部の周辺が研磨されている。

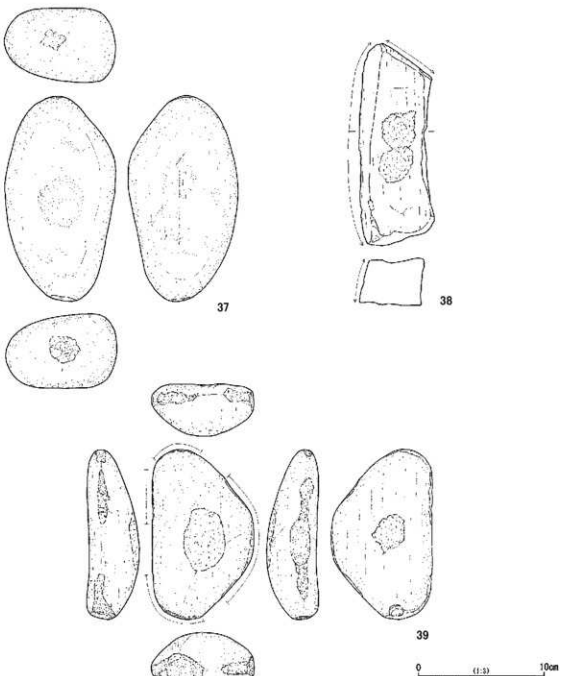
34・37は敲石である。34は下端部に敲打による剥落痕と平坦な潰れ面が顕著である。左側縁上部と裏面上部の稜線上に敲打痕がみられる。37は表裏面を擦り面としている。

35・36・39は磨石である。35は表裏面全面が擦り面となっている。表面の窪みは焼成による剥落である。下端部には敲打痕が認められる。36は全面が擦り面となっており、下端部の敲打による剥離後も擦られている。裏面上部には爪状の刻み痕が認められ台石としても機能したものか。

38は凹石で、表面が擦り面となり、砥石の可能性も想定される。



第18図　遺構外出土縄文石器（2）



第19図　遺構外出土縄文石器（3）

第４表　縄文土器属性表　　（）推定値　［］現存値

挿図番号	遺構番号 出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
第10図-1	SI054	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [3.1]	口縁破片	砂粒	外面 黒色 内面 黒色 焼成 良好	外面 沈線	RL ヨコ 潜い沈線
第10図-2	SI054	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [5.0]	口縁破片	砂粒	外面 黒褐色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 縄目	RL ヨコ 外面 貼土貼付け
第10図-3	SI054	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [2.9]	口縁破片	精緻 砂粒	外面 橙色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 沈線・縄目	0段多条 RL 外面 貼土貼付け
第10図-4	SI054	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [3.3]	口縁破片	精緻 砂粒	外面 明褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 沈線	LR ヨコ 外面 貼土貼付け
第10図-5	SI054	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [3.4]	胴破片	砂粒	外面 明褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 縄目	RL タテ
第10図-6	SI054	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [3.0]	胴破片	砂粒	外面 褐色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 縄目・タテ沈線	RL タテ
第10図-7	SI054	縄文土器	浅鉢	口径 — 底径 — 器高 [4.4]	胴破片	精緻 砂粒	外面 明褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 タテ沈線	RL タテ
第10図-8	SI054	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [4.5]	胴破片	砂粒	外面 明褐色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 縄目	RL タテ
第10図-9	SI054	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [5.4]	胴破片	砂粒	外面 明褐色 内面 褐色 焼成 良好	外面 縄目 内面 ナデ	LR タテ
第10図-10	SI054	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [4.3]	胴破片	精緻 砂粒	外面 黒褐色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 縄目 内面 ナデ	0段多条 RL
第10図-11	SI054	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [3.7]	胴破片	砂粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 縄目 内面 ナデ	RL タテ（一部ヨコ）
第11図-1	SK035	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	精緻	外面 明褐色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	区画文（沈線） 斜位の刺み目付隆起線 R/L（縄）
第11図-2	SK035	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [6.8] [3.6]	底部 20%	精緻 砂粒	外面 褐色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	R/L（縄）
第12図-1a	SK041	縄文土器	深鉢	—	破片	粗い 砂粒多 雲母	外面 にぶい褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	
第12図-1b	SK041	縄文土器	深鉢	—	破片	粗い 砂粒多 雲母	外面 にぶい褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	
第12図-2	SK041	縄文土器	深鉢	—	破片	粗い 砂粒多	外面 にぶい褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	
第12図-3	SK041	縄文土器	深鉢	—	破片	精緻	外面 にぶい褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	
第12図-4	SK041	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	精緻 砂粒	外面 褐色 内面 褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	沈線文 R/L（縄）
第12図-5	SK041	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 12.4 器高 [7.4]	底部 80%	粗い 砂粒 赤褐 白色粒多	外面 赤褐色～にぶい赤褐色 内面 褐色～暗褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	
第12図-6	SK041	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 9.8 器高 [12.1]	底部 100%	粗い 砂粒多 白色粒	外面 赤褐色 内面 暗褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	
第13図-1	SK047	縄文土器	深鉢	口径 17.4 底径 8.0 器高 26.0	80% 口縁 95%	やや粗 砂粒多	外面 赤褐色～暗褐色 内面 暗褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 L/R
第13図-2	SK047	縄文土器	深鉢	口径 12.8 底径 6.5 器高 20.0	75% 底径 80%	精緻 砂粒	外面 赤褐色～暗赤褐色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 R/L（縄）
第13図-3	SK047	縄文土器	深鉢	口径 10.8 底径 7.2 器高 12.1	60% 底部 100%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 明褐色 内面 暗褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 L/R
第13図-4	SK047	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 (7.2) 器高 [16.6]	底部 75%	精緻 砂粒多	外面 明赤褐色～褐色 内面 暗褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 R/L（縄）
第13図-5	SK047	縄文土器	小形深鉢	口径 — 底径 — 器高 [5.2]	胴部破片	やや粗 砂粒多	外面 褐色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	R/L（縄） 外面 口縁部下端を沈線文で区画。 以下にタテの波状沈線文2本が懸垂文。
第13図-6	SK047	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [4.0]	底部 60%	精緻 砂粒 赤褐少々	外面 明褐色 内面 暗褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 R/L（縄）
第13図-7	SK047	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 10.4 器高 [11.8]	底部 100%	精緻	外面 明褐色 内面 暗褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 L/R
第13図-8	SK047	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 9.0 器高 [5.2]	底部 100%	精緻 砂粒 白色針状物質	外面 赤褐色 内面 暗褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 R/L（縄）
第13図-9	SK047	縄文土器	深鉢	—	口縁部破片	精緻 長石 雲母	外面 にぶい褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	被力な波状口縁部が装飾文となる。 R/L（縄）
第13図-10	SK047	縄文土器	浅鉢	—	口縁部破片	精緻 砂粒	外面 明褐色 内面 灰褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	口縁部は幅広で平坦。 内面 幅広沈線 胴部 斜走縄・沈線
第13図-11	SK047	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	精緻 砂粒 赤色スコリア	外面 にぶい褐色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 R/L（縄） 懸垂文（3本のタテ沈線）
第13図-12	SK047	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	精緻 砂粒 赤色スコリア	外面 にぶい褐色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	R/L タテ
第14図-1	SK055	縄文土器	—	口径 — 底径 — 器高 [7.8]	破片	繊維 光い砂粒	外面 黒褐色 内面 赤褐色 焼成 —	外面 — 内面 —	内・外面　貝殻条痕文

第５表　縄文石器属性表

挿図番号	遺構番号 出土位置	種別	石材	法量				備考
				最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
第10図-12	SI034	打製石斧	ホルンフェルス	6.8	5.2	3.3	135.54	
第13図-13	SK047	楔形石器	黒曜石	1.9	1.5	0.8	1.83	
第13図-14	SK047	石鏃	黒曜石	2.2	1.5	0.5	0.96	

第６表　遺構外出土縄文土器属性表（１）　[ ] 現存値

挿図番号	遺構番号 出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
第15図-1	SI017	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [4.8]	口縁破片	繊維	外面 にぶい褐色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 荒代口縁 無み貝付隆帯紋 内面 —	条痕文 無み貝付隆帯紋（口縁頂部都坪痕） 丸ヶ沈線文
第15図-2	10P-05	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [5.0]	口縁破片	繊維	外面 褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 条痕 内面 —	条痕文系 外面 貝殻腹縁刺突文 口縁にキザミ 内面 貝殻条痕文
第15図-3	SI025	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [4.0]	胴部破片	繊維	外面 明褐色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	条痕文系 内・外面 貝殻条痕文
第15図-4	10P-08	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [6.7]	胴破片	繊維	外面 褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	条痕文系 外面 貝殻腹縁刺突文 内面 貝殻条痕文
第15図-5	SI032	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [3.5]	胴部破片	繊維	外面 褐色 内面 灰褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	条痕文系 内・外面 貝殻条痕文
第15図-6	SI029	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [3.5]	胴部破片	繊維	外面 明褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	条痕文系 内・外面 貝殻条痕文
第15図-7	SI037	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 明赤褐色 内面 にぶい赤褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	区画文（隆起線＋沈線） 結、タテ
第15図-8	10Q-01	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [8.1]	口縁破片	—	外面 明褐色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	キャリパー形深鉢 口縁部区画文 （楕円＋渦巻き） 単純構文が区画内にヨコ方向に施される。 器壁は均等な口縁部を呈す。 単節 RL（9段多巻）ヨコ
第15図-9	SI036	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 にぶい褐色 内面 褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	区画文（隆起線＋沈線） 結、ヨコ
第15図-10	9Q-51	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 にぶい橙色 内面 灰褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	波状の口縁部に沈線文が巡る。
第15図-11	9Q-26	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 明赤褐色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	隆起線により口縁部文節作出。 結、タテ
第15図-12	9Q-83	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 にぶい褐色 内面 褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	区画文（隆起文＋隆起文＋沈線文）
第15図-13	SI043	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 赤褐色 内面 にぶい赤褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	口縁部直下渦巻文 隆起文＋隆起線文＋沈線文 結、ヨコ
第15図-14	10P-08	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 褐色 内面 赤褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	口縁部無文帯 沈線文 結、タテ
第15図-15	SI035	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [4.9]	口縁破片	—	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	波状口縁で頂部直下渦巻文 渦巻文にかからない口縁上に沈線文が巡る。 口縁から2本の沈線が垂下する。
第15図-16	9Q-26	縄文土器	浅鉢	—	口縁破片	—	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	波状の口縁端部に沈線文が巡り、波頂部で渦巻文となる。
第15図-17	10P-38	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 にぶい褐色 内面 灰褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	口縁隆起に沈線文が巡る。 区画文（抵平な隆起線＋沈線文） 結、タテ
第15図-18	10P-05	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 灰褐色 内面 褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	口縁部無文帯 結、タテ
第15図-19	10P-05	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 にぶい褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	隆帯文＋集合沈線文
第15図-20	SI042	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 にぶい褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	口縁端部上に太沈線が巡る。以下に隆起線文が貼付。
第15図-21	SI049	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 にぶい褐色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	区画文（隆起線＋沈線） 結、ヨコ
第15図-22	SI032	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 明褐色 内面 褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	口縁部結、ヨコ 胴部結、タテ 区画文（隆起線＋沈線）
第15図-23	9P-89	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 にぶい褐色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	円形刺突文 区画文（沈線文）
第15図-24	SI040	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 褐色 内面 褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	区画文（隆起線＋沈線） 0段多巻結、ヨコ

第７表　遺構外出土縄文土器属性表（２）　［］現存値

挿図番号	遺構番号 出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
第15図-25	SI032	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 にぶい褐色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	口縁端部を欠損するが(区画文（隆起線＋沈線）を形成。
第15図-26	10E-01	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	磨耗文
第15図-27	10F-05	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [5.1]	胴部破片	—	外面 明褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	口縁矢羽だがキャリパー型深鉢の口縁部で、区画文(単節縄ヨコ)が施される。やや内湾する器形。単節 LR ヨコ
第15図-28	SI040	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 にぶい褐色 内面 褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	区画文（隆帯の下に波状沈線文が巡る）
第15図-29	SI032	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 褐色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	区画文（隆起線＋沈線） LR タテ
第15図-30	SI028	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 にぶい褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	口縁端部を欠損するが、区画文（隆起線＋沈線文）を形成。 RL ヨコ
第15図-31	SI035	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 灰褐色 内面 灰褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	RL タテ タテの波状沈線文
第15図-32	10Q-01	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 暗褐色 内面 暗褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	頸部は無文で、以下の胴部との境目に三列の沈線文が巡る。 RL タテ
第15図-33	SI041	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 褐色 内面 暗褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	隆起線により口縁部無文帯を作出。
第15図-34	SH200	縄文土器	深鉢	—	口縁破片	—	外面 暗褐色 内面 褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	頸部に三列の沈線文が巡る。 RL タテ
第15図-35	SI045	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	長石少量	外面 明褐色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	頸部に三列の沈線文が巡る。 RL ヨコ
第15図-36	9P-74	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 褐色 内面 褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	RL タテ 整垂文（2 本のタテ沈線）
第15図-37	9Q-75	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	長石	外面 暗褐色 内面 暗褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	RL タテ 整垂文（2 本のタテ沈線）
第15図-38	SI041	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 暗褐色 内面 暗褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	6 段多条 RL タテ タテの波状沈線文
第15図-39	10P-38	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 にぶい褐色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	LRL タテ 整垂文（3 本のタテ沈線）
第15図-40	9Q-51	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 暗褐色 内面 灰褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	LR タテ 整垂文（2 本のタテ沈線）
第15図-41	SI032	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 明褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	LRL タテ 波状整垂文（2 本のタテ沈線）
第15図-42	SI037	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 明褐色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	整垂文（3 本のタテ沈線） RL タテ
第15図-43	SH032	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 灰褐色 内面 灰褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	LR タテ
第15図-44	SI035	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 褐色 内面 褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	撚糸文 L
第15図-45	SI043	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 褐色 内面 褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	RL タテ 整垂文（2 本のタテ沈線）
第15図-46	10P-22	縄文土器	深鉢	口径 — 底径 — 器高 [13.0]	15%	雲母 砂粒多 繊維少量	外面 黒褐色 内面 暗褐色 焼成 良好	外面 縄文施文 内面 ナデ	
第15図-47	9Q-83	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 褐色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	整垂文（3 本のタテ沈線） RL タテ
第15図-48	SI043	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 褐色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	撚糸文 L
第16図-49	10P-05	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 にぶい褐色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	LR タテ 整垂文（3 本のタテ沈線）
第16図-50	SI040	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 にぶい褐色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	集合沈線文
第16図-51	10Q-01	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 褐色 内面 褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	RL タテ
第16図-52	SI019	縄文土器	深鉢	—	胴部破片	—	外面 明褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	RL タテ 磨消整垂文
第16図-53	SI053	縄文土器	深鉢	—	胴部(底部付近)破片	—	外面 暗褐色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	RL タテ
第16図-54	SI031	弥生土器	壺	口径 — 底径 5.5 器高 [3.5]	底部破片	雲母 砂粒多	外面 赤褐色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	無文

第８表　遺構外出土縄文時代土製品属性表

挿図番号	遺構番号 出土位置	種別	法量					胎土	色調	備考
			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第16図-55	SI056	土器片錘 （縄文土器片）	3.9	3.5	1.0	—	17.73	—	—	
第16図-56	SI059	土器片錘 （縄文土器片）	3.0	2.8	1.1	—	9.33	—	—	

第９表　遺構外出土縄文石器属性表

挿図番号	遺構番号 出土位置	種別	石材	法量				備考
				最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
第17図-1	SI024	石鏃	ガラス質黒色安山岩	3.0	1.6	0.5	1.54	
第17図-2	SI030	石鏃	ガラス質黒色安山岩	2.3	1.5	0.6	0.98	
第17図-3	SK001	石鏃	ガラス質黒色安山岩	2.0	1.3	0.5	1.27	
第17図-4	SI011	石鏃	ガラス質黒色安山岩	2.3	1.6	0.5	1.30	
第17図-5	SI030	石鏃	チャート	1.8	1.4	0.5	1.00	
第17図-6	11O	石鏃	黒曜石	1.6	1.3	0.5	0.61	
第17図-7	SI062	石鏃	黒曜石	1.4	1.0	0.2	0.21	
第17図-8	11O-40	石鏃	珪質頁岩	3.3	1.8	0.6	2.72	
第17図-9	SI059	石鏃	黒曜石	1.7	1.3	0.4	0.72	
第17図-10	SI047	石鏃	黒曜石	2.0	1.6	0.5	1.05	
第17図-11	SI071	石鏃	黒曜石	2.6	1.5	0.6	1.39	
第17図-12	SK005	石鏃（未成品）	黒曜石	1.3	1.0	0.4	0.35	
第17図-13	SI031	石鏃（未成品）	黒曜石	2.1	1.4	0.7	1.36	
第17図-14	SI028	石鏃（未成品）	石英	1.6	2.1	0.6	1.56	
第17図-15	SI057	石鏃（未成品）	黒曜石	1.2	0.8	0.3	0.20	
第17図-16	SI042	石鏃（未成品）	黒曜石	3.2	2.0	1.3	5.18	
第17図-17	SI059	石鏃	黒曜石	1.8	0.8	0.5	0.64	
第17図-18	SI031	両極石核（剥片）	黒曜石	1.8	1.5	0.7	1.97	
第17図-19	SI035	両極石核（剥片）	黒曜石	2.0	1.8	0.9	1.92	
第17図-20	SI009	両極石核（剥片）	ガラス質黒色安山岩	3.0	2.2	0.8	6.64	
第17図-21	SI022	両極石核（剥片）	チャート	2.4	1.6	0.8	2.42	
第17図-22	SH232	両極石核（剥片）	チャート	2.5	2.7	1.0	6.51	
第17図-23	11N-48	石核	黒曜石	3.2	4.0	2.3	17.00	
第17図-24	11O-30	石核	チャート	3.5	4.3	2.1	35.22	
第18図-25	SI056	打製石斧	安山岩	11.3	5.6	2.6	166.18	
第18図-26	SI033	打製石斧	砂岩	9.4	5.1	1.8	103.95	
第18図-27	SI073	打製石斧	安山岩	4.3	2.8	1.0	14.31	
第18図-28	SI036	磨製石斧	安山岩	10.2	4.2	2.4	134.2	
第18図-29	9Q-04	磨製石斧	安山岩	7.1	3.4	2.0	72.27	
第18図-30	SH033	磨製石斧	蛇紋岩	6.6	3.0	2.3	65.77	
第18図-31	10P-49	磨製石斧	砂岩	5.8	4.0	1.0	32.79	
第18図-32	SH013	磨製石斧	砂岩	6.4	2.2	1.4	29.04	
第18図-33	SK007	石核	黒色安山岩	6.2	6.4	6.4	384.27	
第18図-34	SK049	敲石	流紋岩	9.8	6.2	4.3	366.39	
第18図-35	SK049	磨石	安山岩	8.5	7.7	3.2	253.98	
第18図-36	10O-35	磨石	砂岩	8.3	8.8	2.7	288.05	
第19図-37	SI043	敲石	砂岩	16.2	8.6	5.9	1261.3	
第19図-38	SI043	凹石	砂岩	15.9	6.0	4.7	543.50	
第19図-39	SI064	磨石	砂岩	13.5	8.1	4.2	589.6	

第４章　弥生時代の遺構と遺物

第１節　概要

調査区内から検出された弥生時代の遺構は、中期の方形周溝墓１基、後期の竪穴住居跡４軒、土坑１基である。分布は主に調査区南側に位置している。古墳時代以降の竪穴住居跡等に削平されており、遺存状態は悪い。遺物は主に弥生時代中期の宮ノ台式や後期の土器・石器が出土している。また、遺構外から宮ノ台式の土器が完形に近い状態で出土しているため、この時期から集落が存在していたと想定される。

第２節　遺構と遺物

１　竪穴住居跡

SI057B（第20図、図版12・26・27）

10O-36・37・38・46・47・48・55・56・57・58・66・67・68 グリッドに所在する。

重複関係　SI056・057A・058、SK027・028・029・045 に掘り込まれている。

規模と形状　推定長軸長7.88m・短軸長7.16mの楕円形、主軸方向はＮ－４°－Ｗである。

炉　中央部北寄りで、南側はSI057Aの P4 に掘り込まれている。

ピット　15基検出された。P1～4 は規則的に配列されており、大型住居にみられる横長の楕円形である。規模・配列から主柱穴と考えられる。P1 は長径 1.6m・短径 0.8m、床面からの深さは57cmである。P2 は長径 1.2m・短径 0.8m、床面からの深さは 67cmである。P3 は長径 0.9m・短径 0.6m、床面からの深さは66cmである。P4 は長径 1.0m・短径 0.6m、床面からの深さは30cmである。P5～P7は北側壁際付近で、床面からの深さは30cm前後である。P8～P11は東側壁際付近で、床面からの深さは10～20cmである。P12～P15は中央部付近で、床面からの深さは５cm未満である。P5～P15は本遺構に伴う可能性があるが、性格は不明である。

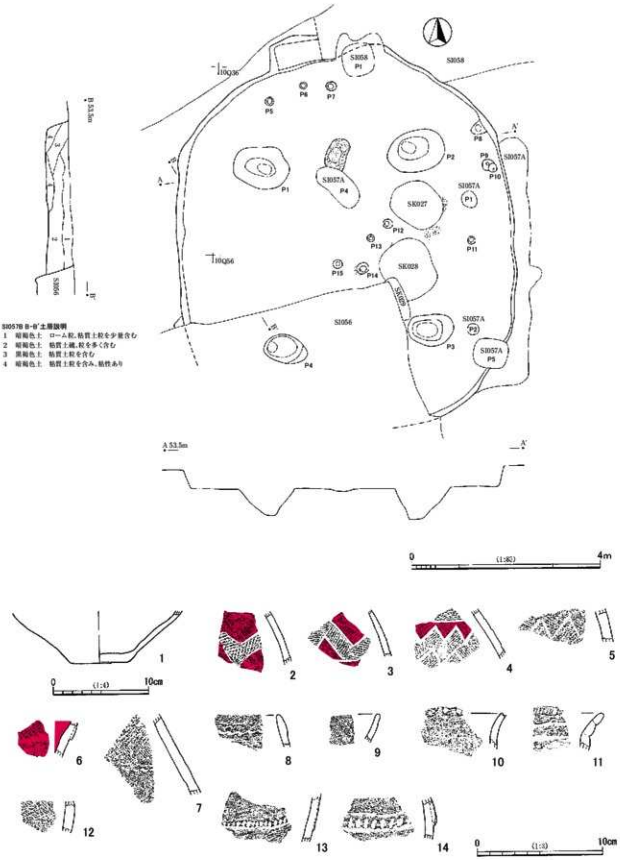
出土遺物　図示した遺物は土器14点である。１～５・７は壺である。２・３・４は外面が赤彩されている。２・３は沈線で山形に区画した内部を縄文で充填している。同一個体と考えられる。４は上部を沈線と結節文で区画し、下部に縄文を充填した山形文を施す。５も同様に山形文が施文されている。７は上部に羽状縄文を施し、下部を結節文で区画している。６・８・９・12は鉢である。６は内外面ともに赤彩され、折返し部には縄文を施文する。８は折返し部に結節文、口唇端部に縄文を施文する。９は羽状縄文、12は網目状撚糸文がみられる。10・11・13・14 は甕である。10は口唇部を棒状工具で押捺して波状をなし、外面はヘラナデ調整が施されている。また、外面にススの付着が認められる。11は口唇部に刻みが入り、３段の輪積痕がみられる。13は１段の輪積痕の端部に用具不明の押捺が巡る。14は２段の輪積痕を残し、端部には縄文原体による押捺が施されている。

時期　出土遺物の状況から、後期後半と考えられる。

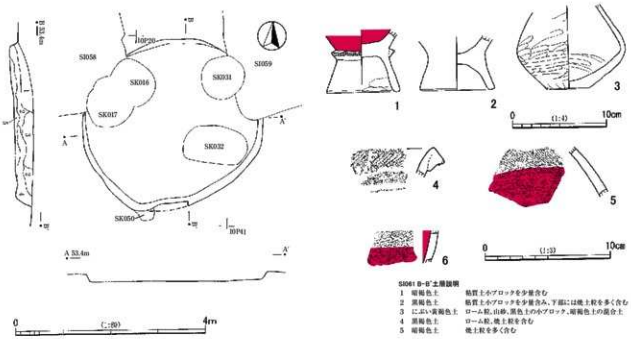
SI061（第21図、図版13・26・27）

10O-29・39・10P-20・21・30・31 グリッドに所在する。

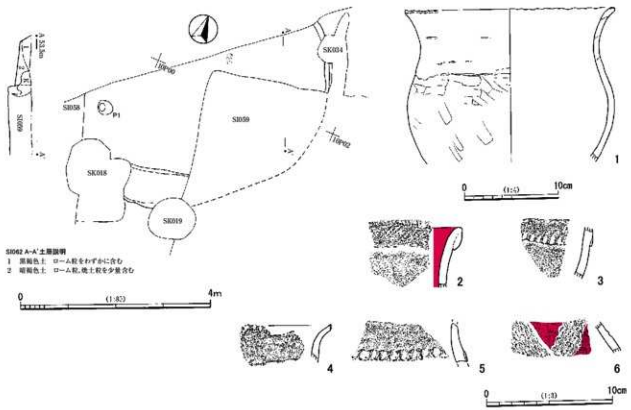
重複関係　SI058・059、SK016・017・031・032 に掘り込まれており、SK050 を掘り込んでいる。



第20図　SI057B 平面図・出土遺物実測図



第21図　SI061 平面図・出土遺物実測図



第22図　SI062 平面図・出土遺物実測図

規模と形状　長軸長3.80m・短軸長3.44mの円形である。炉やピット等は検出されていない。

出土遺物　図示した遺物は土器６点である。１は高坏で、内外面赤彩されている。脚部との接合部分に突帯を巡らし、端部に縄文原体による押捺を施す。２は台付甕底部で、外面はヘラケズリで調整されている。内面にコゲが認められる。３は壺で、胴下部がソロバン玉状に膨れている。外面にタール状の付着物がみられる。４・５は壺である。４は口縁部片で折返し部に縄文を施し、端部は縄文原体により押捺されている。５は胴部片で、外面が赤彩され、縄文と結節文が施されている。６は鉢である。内外面ともに赤彩され、縄文と結節文が施されている。

時期　出土遺物の状況から、後期後半と考えられる。

SI062（第22図、図版26・27）

9P-90・91・10P-00・01・10グリッドに所在する。

重複関係　SI058・059、SK018・019・034に掘り込まれており、北側半分は調査区外に広がっている。

規模と形状　楕円形である。炉は検出されていない。

ピット　１基のみである。P1は径32cm、床面からの深さは88cmである。主柱穴の可能性があるが、詳細は不明である。

出土遺物　図示した遺物は土器６点である。１は甕胴部～底部で、口唇部は交互指頭押捺を施す。口縁部には６段の輪積痕を残し、粗く指で輪積痕をナデ消している。調整はヘラケズリである。２・６は壺で、２は内面、６は外面が赤彩されている。２は口縁部を折返し、縄文を施文している。６は沈線で区画した内部を結節文で充填している。３～５は甕口縁部～胴部片である。３は輪積痕端部に縄文原体による押捺が巡り、４の口唇部には刻みが施されている。５の輪積痕端部にはヘラ状工具による連続する押捺がみられる。

時期　出土遺物の状況から、後期後半と考えられる。

SI065（第23図、図版14・26）

9P-47・48グリッドに所在する。

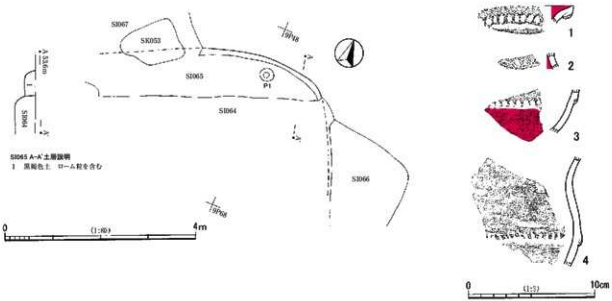
重複関係　SI064・067に掘り込まれており、遺存状態が悪い。

規模と形状　推定で一辺2.60mの楕円形である。炉は検出されていない。

ピット　１基のみである。P1は径24cm、床面からの深さは23cmである。本遺構に伴う可能性があるが、性格は不明である。

出土遺物　図示した遺物は土器４点である。１・２は壺で、ともに内面を赤彩している。１は口縁部を折返し、縄文を施文して端部に縄文原体を押捺している。２は縄文が施文されている。３は鉢で、外面を赤彩している。折返し部には縄文を施文し、端部には縄文原体による押捺が巡る。４は甕である。輪積痕を１段残し、端部には布巻棒状工具による押捺が施されている。

時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。



第23図　SI065 平面図・出土遺物実測図

2　土坑

SK050（第24図）

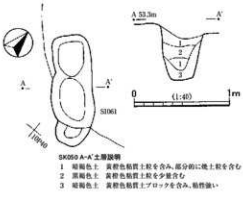
10O-39・10P30 に所在する。

重複関係　SI061 に掘り込まれている。

規模と形状　長軸長 1.2m・短軸長 0.5m の不整方形である。断面は箱形をなし、確認面からの深さは 23～63cm である。

出土遺物　遺物は出土しなかった。

時期　重複関係から、後期と考えられる。



第24図　SK050 平面図

3　方形周溝墓

SK048（第25図、図版27）

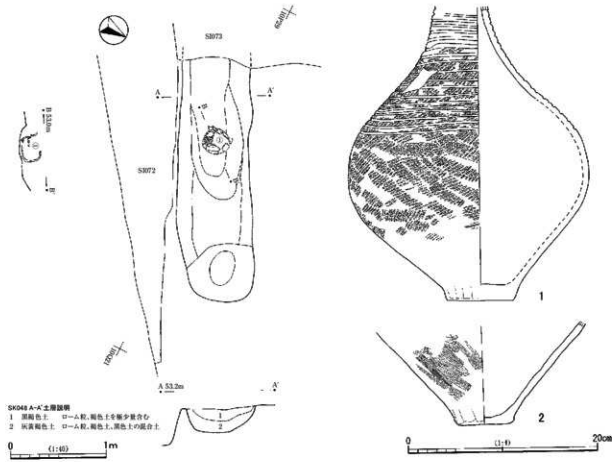
10P-19・29・10Q-10・20 グリッドに所在する。

重複関係　SI072・073 に掘り込まれており、西側は削平されている。

規模と形状　溝の一部のみ残存している。残存長軸長 2.6m・短軸長 0.8m、確認面からの深さは 17～31cm で、縦断面は舟形をなす。方形周溝墓のうち、四隅が切れるタイプと思われる。

出土遺物　図示した遺物は土器２点である。１・２は壺である。１は口縁部を除き完形である。器形は頸部が細く、胴部は球形をなす。LR の縄文を頸部から胴下半部にかけて施し、頸上部から胴上半部に横位の沈線文を多条に施している。頸部破断面は摩滅し、底部外面は摩耗している。外面にイネ圧痕を２か所確認できる。２は底部である。外面はハケ目調整が施され、内面は剥落が著しい。底部外面は摩耗している。内面にイネ圧痕を１か所確認できる。１は頸部を上にして、やや斜めに傾いた状態で底面から出土した。

時期　出土遺物の状況から、中期の宮ノ台式期と考えられる。



第25図　SK048 平面図・出土遺物実測図

第３節　遺構外出土の遺物（第26・27図、図版25・27・28・62）

古墳時代以降の遺構、あるいはグリッド一括で検出した遺物のうち弥生時代の所産と考えられるものをここで扱う。図示した遺物は、土器19点、石器１点、銅製品１点である。

１～３・16・18は中期宮ノ台期に属し、いずれも壺である。１は胴部で、胴部中央が大きく膨れている。胴上部に横位の２本単位の沈線が４段巡り、内部を複合鋸歯文で充填している。外面はハケ調整の後、ナナメ方向のミガキ、内面はナナメ方向のハケ調整を施す。内面胴下部の剥落が著しい。２は完形である。口縁は素口縁で、頸部は細く胴部に向けて緩やかに開いていく。口唇部には縄文が施文され、胴部上半には５段の縄文が巡る。外面上部はタテ方向、下部はナナメ方向のミガキが施されている。底部外周部が摩耗している。外面にイネ圧痕が１か所認められる。３は頸部から底部にかけて遺存している。外面の一部に赤彩の痕跡がみられる。胴部中央に縄文が２段巡る。外面上部はナナメ方向、下部はタテ方向のヘラケズリが施されている。内面には部分的に輪積み痕跡をとどめる。頸部破断面は摩滅し、底部外周部は摩耗、内面底部は器面が剥落している。16は胴上部の破片で、無文部分を赤彩している。上下に縄文を施し、間を沈線で区画した結紐文で埋めている。内面の剥落が著しい。18は底部で、破片上部に沈線の痕跡がみられる。タテ方向のハケ調整の後、ヨコ方向のミガキを施す。底部外周部が摩耗し、内面が剥落している。

４～15・17・19は後期に属する。５・10・17は壺である。５は口縁部で、内外面赤彩されている。口縁部は折返され網目状撚糸文を施し、端部には縄文原体の押捺が巡る。また、折返し部には２本１単位の棒

状浮文が貼り付き、端部には縄文原体が押捺されている。頸部は沈線で区画し、内部を網目状撚糸文で充填している。外面はタテ方向、内面はナナメ方向のミガキが施されている。10・17は胴下半部で、いずれも外面が赤彩されている。10は外面はヨコ方向のミガキ、内面はナデ調整が施され、内面底部にやや剥落がみられる。17の外面はナナメ方向のミガキが施され、底部が若干摩耗している。内面の剥落が著しい。

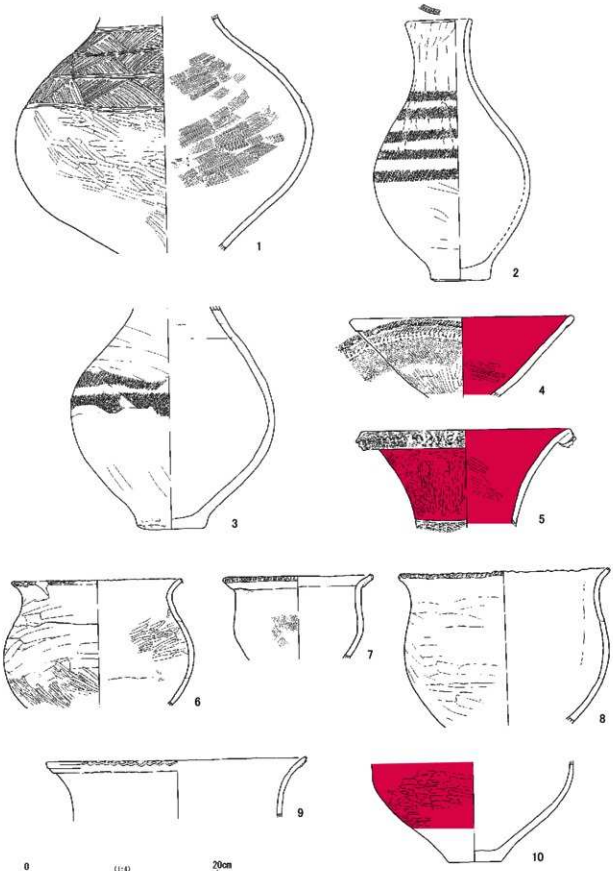
4・13は鉢である。4は内面、13は内外面赤彩されている。4は口唇部から口縁部にかけて縄文が施文され、折返し端部には縄文原体による押捺が巡る。外面はタテ方向、内面はヨコ方向のミガキが施されている。13は口唇部から口縁部にかけて縄文が施文され、口縁部下端を横位の沈線で区画している。内外面タテ方向のミガキが施されている。

6～9・11・12・14・15は甕である。6は1段の輪積痕を残し、口唇端部は交互指頭押捺が巡っている。外面はナナメ方向のケズリとミガキ、内面はヨコ方向のミガキが施されている。外面にはススの付着が認められる。7は胴部が球形となる小型甕で、口縁部を折返し、口唇端部には縄文原体による押捺が巡る。内外面ともハケ調整の後ナデが施されている。外面にススが付着している。器形から台付甕の可能性も考えられる。8は口唇端部に板状工具による交互押捺が巡る。内外面ともヨコ方向のナデ調整がみられる。9は口縁部を折返し、口唇端部に刻みを施す。11は頸部に6段の輪積痕を残し、外面はヨコ方向のハケ調整、内面はヨコ方向のナデ調整が認められる。12は7段の輪積痕を残し最下段の端部には布巻棒状工具による押捺が巡る。外面はナナメ方向のハケ調整の後粗いミガキ、内面はナナメ方向のナデがみられる。14は胴部が球形となる小型甕で、輪積痕を1段残し端部には竹管による押捺が巡る。外面はヨコ方向のハケ調整、内面にはナデがみられる。外面にはススが付着し、内面下半部の器面は剥落しコゲが認められる。内面に円形種子圧痕が1か所確認できる。器形から台付甕の可能性も考えられる。15は大型の甕で、輪積痕を一段残し、端部には工具不明の押捺が巡る。口縁部破断面が摩滅している。内面の下部はタテ方向、上部はヨコ方向のミガキが施されている。遺物が破損した後、二次的に火を受けたため、破片によって二次焼成によるススの付着が異なる。

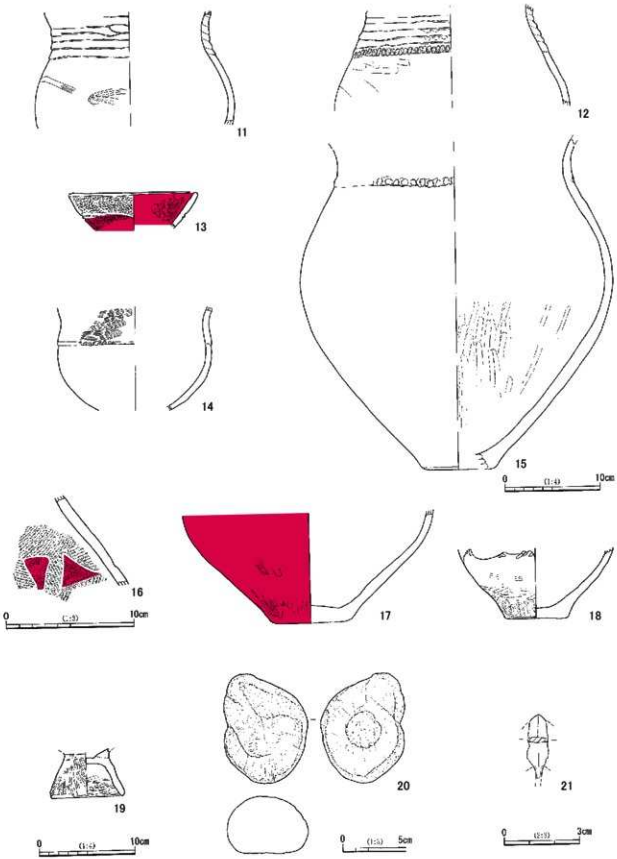
19は台付甕の脚部である。外面はタテ方向のミガキ、内面はヨコ方向のナデとミガキが施されている。

20は砥石である。表裏面が擦り面となり、裏面にごく浅い窪み状の敲打痕がみられる。さらに表裏面にはタテ方向の線状痕がみられ、特に表面下端部が顕著である。鉄製品などの研ぎによって生じた痕跡と考えられ、磨石を転用した弥生時代以降の砥石と思われる。

21は銅鏃である。鏃身頭部は柳葉形もしくは三角形と想定されるが、土が付着しているため詳細は不明である。



第26図　遺構外出土弥生土器



第27図　遺構外出土弥生土器・石器・金属器

第10表　弥生土器属性表　　（）推定値　［］現存値

挿図番号	遺構番号 出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
第20図-1	SI057B	弥生土器	壺	口径 — 底径 (6.0) 器高 [5.4]	破片	白色粒 砂粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 やや不良	外面 — 内面 —	
第20図-2	SI057B	弥生土器	壺	口径 — 底径 — 器高 [4.2]	破片	赤色粒	外面 にぶい橙色 赤褐色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 赤彩 山形文 縄（左）L/R
第20図-3	SI057B	弥生土器	壺	口径 — 底径 — 器高 [3.7]	破片	赤色粒	外面 橙色 赤褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 赤彩 縄（右）R/L front、山形文
第20図-4	SI057B	弥生土器	壺	口径 — 底径 — 器高 [4.3]	破片	石英 長石 雲母 赤色粒 砂粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 赤彩
第20図-5	SI057B	弥生土器	壺	口径 — 底径 — 器高 [2.7]	破片	白色粒 砂粒	外面 橙色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	
第20図-6	SI057B	弥生土器	鉢	口径 — 底径 — 器高 [2.9]	破片	白色粒 砂粒	外面 明褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 赤彩 縄（左）L/R 内面 赤彩
第20図-7	SI057B	弥生土器	壺	口径 — 底径 — 器高 [6.8]	破片	白色粒 砂粒	外面 明褐色 赤褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	縄文・結節文
第20図-8	SI057B	弥生土器	鉢	口径 — 底径 — 器高 [2.6]	破片	赤色粒	外面 明赤褐色 内面 明赤褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	口縁部縄文 結節文
第20図-9	SI057B	弥生土器	鉢	口径 — 底径 — 器高 [2.2]	破片	赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	羽状縄文
第20図-10	SI057B	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 [2.9]	破片	白色粒 赤色粒	外面 暗褐色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヘラナデ	口縁部棒状押捺
第20図-11	SI057B	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 [3.0]	破片	白色粒 赤色粒 砂粒	外面 明色 内面 にぶい黄色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 口縁部刻み 輪積痕
第20図-12	SI057B	弥生土器	鉢	口径 — 底径 — 器高 [2.5]	破片	白色粒 雲母 砂粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	細目状黐赤文
第20図-13	SI057B	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 [3.9]	破片	雲母 赤色粒 砂粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	輪積痕 端部押捺
第20図-14	SI057B	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 [3.1]	破片	雲母 砂粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	輪積痕 端部縄文原体押捺
第21図-1	SI061	弥生土器	高坏	口径 — 底径 (7.7) 器高 [6.5]	底部 10%	雲母 白色粒	外面 明色 内面 明黄褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ナデ 内面 ナデ	内面 赤彩 櫛子圧痕1 外面 赤彩 突起 縄文縄文原体押捺
第21図-2	SI061	弥生土器	台付甕	口径 — 底径 (8.0) 器高 [5.6]	底部 10%	砂粒	外面 黄褐色 内面 明赤褐色 焼成 やや不良	外面 — 内面 —	内面 コゲ付着 脚端部 潰減
第21図-3	SI061	弥生土器	壺	口径 — 底径 4.4 器高 [8.7]	80%	雲母 白色粒	外面 明黄褐色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 ヘラミガキ 内面 —	外面 タール付着
第21図-4	SI061	弥生土器	壺	口径 — 底径 — 器高 [2.3]	破片	砂粒	外面 明黄褐色 内面 明黄褐色 焼成 やや不良	外面 — 内面 —	口縁部 縄（左）L/R 端部縄文原体押捺
第21図-5	SI061	弥生土器	壺	口径 — 底径 — 器高 [3.2]	破片	砂粒	外面 明黄褐色 内面 黄褐色 焼成 やや不良	外面 — 内面 —	外面 縄（右）R/L 結節文
第21図-6	SI061	弥生土器	鉢	口径 — 底径 — 器高 [2.7]	破片	雲母	外面 明褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 赤彩・縄（左）L/R 結節文 内面 赤彩
第22図-1	SI062	弥生土器	甕	口径 (22.2) 底径 — 器高 [16.1]	30%	赤色粒 砂粒	外面 黄褐色 内面 明赤褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ヘラナデ 内面 —	口縁部 交互指頭押捺 外面 輪積痕 6段
第22図-2	SI062	弥生土器	壺	口径 — 底径 — 器高 [3.9]	破片	白色粒 砂粒	外面 明赤褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 縄（左）L/R
第22図-3	SI062	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 [3.9]	破片	白色粒 赤色粒	外面 明赤褐色 内面 明赤褐色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 —	外面 端部縄文原体押捺
第22図-4	SI062	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 [2.7]	破片	赤色粒	外面 にぶい黄褐色 内面 暗色 焼成 良好	外面 — 内面 —	口縁部刻み
第22図-5	SI062	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 [3.3]	破片	砂粒多	外面 明黄褐色 内面 明黄褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 端部ヘラ状工具押捺
第22図-6	SI062	弥生土器	壺	口径 — 底径 — 器高 [2.6]	破片	赤色粒	外面 明黄褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 赤彩・結節文
第23図-1	SI065	弥生土器	壺	口径 — 底径 — 器高 —	破片	—	外面 — 内面 — 焼成 良好	外面 — 内面 —	内面 赤彩・縄・端部縄文原体押捺
第32図-2	SI065	弥生土器	壺	口径 — 底径 — 器高 —	破片	—	外面 — 内面 — 焼成 良好	外面 — 内面 —	内面 赤彩・縄
第23図-3	SI065	弥生土器	鉢	口径 — 底径 — 器高 —	破片	—	外面 — 内面 — 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 赤彩・縄・端部縄文原体押捺
第23図-4	SI065	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	破片	—	外面 — 内面 — 焼成 良好	外面 — 内面 —	輪積痕 1段・端部布巻棒状工具押捺
第25図-1	SK048	弥生土器	壺	口径 — 底径 7.3 器高 [31.5]	90%	雲母 砂粒	外面 橙色 内面 明赤褐色 焼成 良好	外面 縄文 内面 ナデ	外面 縄文L/R・沈線文 口縁部潰減 底部潰れ イ手圧痕2
第25図-2	SK048	弥生土器	壺	口径 — 底径 (6.0) 器高 [10.4]	10%	白色粒(長石)	外面 灰褐色 内面 にぶい赤褐色 焼成 良好	外面 ハケ目 内面 —	内面 調整 底部潰れ イ手圧痕1

第11表　遺構外出土弥生土器属性表　　( ) 推定値　[ ] 現存値

掲図番号	遺構番号 出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
第26図-1	10Q-10	弥生土器	壺	口径 — 底径 — 器高 [24.2]	胴部 50%	やや粗 赤色粒 白色粒	外面 灰褐色～黒褐色 内面 橙～にぶい褐色 堅成 良好	外面 ミガキ 内面 ハケ	外面 櫛合線痕文
第26図-2	9P-98	弥生土器	壺	口径 6.4 底径 6.0 器高 22.6	100%	精緻	外面 にぶい褐色 内面 にぶい褐色 堅成 良好	外面 ナデ　ヘラミガキ 内面 ナデ	外面 縄文5段 口縁部　縄文
第26図-3	10P	弥生土器	壺	口径 — 底径 7.4 器高 [23.4]	80% 底部 100%	精緻 砂粒多	外面 明黄褐色 内面 明黄褐色 堅成 良好	外面 ナデ　ヘラナデ 内面 ナデ　ヘラナデ	外面 一部赤彩痕　縄文 口縁部破断面摩滅　底部外周摩滅　内面剥落
第26図-4	9P	弥生土器	鉢	口径 (23.0) 底径 — 器高 [8.5]	口縁部 20%	精緻 砂粒	外面 橙色 内面 明褐色 堅成 良好	外面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ	外面 縄文　沓直し　端部縄文原体押捺 内面 赤彩
第26図-5	SI068	弥生土器	壺	口径 (22.0) 底径 — 器高 [13.0]	口縁部 20%	精緻 雲母 砂粒	外面 にぶい橙色～赤褐色 内面 にぶい橙色～赤褐色 堅成 良好	外面 ミガキ 内面 ミガキ	外面 赤彩　櫛目状熱赤文 修法淳文　縄文原体押捺 内面 赤彩
第26図-6	11O-53	弥生土器	甕	口径 (17.6) 底径 — 器高 [13.4]	20%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 明黄褐色 内面 明黄褐色 堅成 良好	外面 ヘラケズリ　ヘラミガキ 内面 ヘラナデ　ヘラミガキ	外面 輪積痕1段　口縁部刻文 又擬櫛押捺　スス付着
第26図-7	10P-33	弥生土器	甕	口径 (15.6) 底径 — 器高 [8.7]	25% 口縁部 40%	精緻 砂粒多	外面 黒褐色 内面 明黄褐色 堅成 良好	外面 ハケ　ヘラナデ 内面 ハケ　ヘラナデ	外面 口縁部折返し 口縁部縄文原体押捺　スス付着
第26図-8	10P	弥生土器	甕	口径 (22.0) 底径 — 器高 [36.3]	口縁部 25%	精緻 砂粒 赤色粒多	外面 明褐色 内面 暗褐色 堅成 良好	外面 ヘラナデ 内面 ヘラナデ	外面 口縁部板状工具による交互押捺
第26図-9	9P	弥生土器	甕	口径 (22.5) 底径 — 器高 [6.0]	口縁部 10%	やや粗 砂粒	外面 明褐色 内面 橙色 堅成 やや不良	外面 ナデ 内面 ナデ	外面 口縁部折返し　口唇部刻み
第26図-10	SI063	弥生土器	壺	口径 — 底径 5.5 器高 [10.5]	底部～胴部 50%	精緻 砂粒	外面 明褐色 内面 橙色 堅成 良好	外面 ヘラミガキ 内面 ヘラナデ	外面 赤彩 内面 底部剥落
第27図-11	SI063	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 [12.0]	40%	精緻 白色粒	外面 橙色 内面 にぶい橙色 堅成 良好	外面 ハケ 内面 ナデ	外面 輪積痕6段
第27図-12	SI068	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 [10.8]	頸～胴 20%	精緻 白色粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい赤褐色 堅成 良好	外面 ハケ　ミガキ 内面 ヘラナデ	外面 輪積痕7段　端部布巻棒状工具押捺
第27図-13	10P	弥生土器	鉢	口径 (12.8) 底径 — 器高 [3.8]	口縁部 25%	精緻	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい赤褐色 堅成 良好	外面 ヘラミガキか 内面 ヘラミガキ	外面 赤彩　縄文・沈線 内面 赤彩
第27図-14	SI063	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 [11.0]	胴部 60%	砂粒	外面 褐色 内面 にぶい褐 堅成 良好	外面 ハケ 内面 ナデ	外面 輪積痕1段　端部竹管押捺 スス付着 内面 剥落　コゲ　種子圧痕1
第27図-15	SI063	弥生土器	甕	口径 — 底径 17.5 器高 34.5	60%	精緻 砂粒 白色粒多	外面 黒褐色 内面 明褐色 堅成 にぶい褐色 良好	外面 — 内面 ヘラミガキ	外面 輪積痕1段　端部用具不明押捺　口縁部破断面摩滅
第27図-16	10P	弥生土器	壺	—	破片	砂粒 雲母 白色針状物質	外面 明褐色 内面 黄褐色 堅成 良好	外面 — 内面 —	外面 赤彩　縄文・結束文
第27図-17	SI068	弥生土器	壺	口径 — 底径 (7.5) 器高 [12.6]	胴部～底部 50%	砂粒	外面 にぶい褐色 内面 橙色 堅成 良好	外面 ヘラミガキ 内面 不明	外面 赤彩　底部摩耗 内面 剥離
第27図-18	10P	弥生土器	壺	口径 — 底径 (7.0) 器高 [7.4]	底部 50%	精緻 砂粒多	外面 にぶい黄褐色 内面 明黄褐色 堅成 良好	外面 ハケ　ヘラナデ 内面 ヘラミガキ ナデ	外面 沈線　底部外周部摩耗 内面 剥落
第27図-19	11N-18	弥生土器	台付甕	口径 — 底径 7.6 器高 [4.8]	台部ほぼ 100%	精緻 砂粒 赤色粒多	外面 にぶい黄橙色 内面 黄褐色 堅成 良好	外面 ヘラミガキ 内面 ナデ　ヘラミガキ	

第12表　遺構外出土弥生石器属性表

掲図番号	遺構番号 出土位置	種別	石材	法量				備考
				最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	
第27図-20	10P	紡石	流紋岩	8.6	6.7	4.7	322.59	

第13表　遺構外出土弥生時代金属器属性表　　( ) 推定値

掲図番号	遺構番号 出土位置	種類	部位	法量				備考
				最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	
第27図-21	SI038	銅鏃	鏃身部	2.5	(2.0)	(0.8)	1.06	中央に鏃が入ると思われるが、土付着のため推定

第５章　古墳時代の遺構と遺物

第１節　概要

調査区内から検出された古墳時代の遺構は、前期の竪穴住居跡４軒、中期の竪穴住居跡15軒、後期の竪穴住居跡が34軒の総計53軒、掘立柱建物跡３棟、土坑37基、ピット６基、溝跡１条である。分布は、主に前期は調査区南側、中期は調査区中央、後期は北側に多く、南側に数軒位置している状況である。遺物は前期から後期の須恵器・土師器・土製品・石製品・鉄製品が出土している。図示したものは、須恵器22点、土師器388点、土製品29点、石製品18点、鉄製品９点で、土師器は坏、高坏、甕等が主になっている。また、SK007の底面付近から完形の子持勾玉が出土している。

なお、奈良・平安時代を含めた竪穴住居跡の重複が激しいことから、覆土内に古墳～奈良・平安時代の遺物が混在している状況であった。

第２節　遺構と遺物

１　竪穴住居跡

SI009（第28・29図、図版２・３・29・60）

7Q-98・99・8Q-08・09・18・19・28・29・8R-00・01・10・11・12・20・21・22グリッドに所在する。

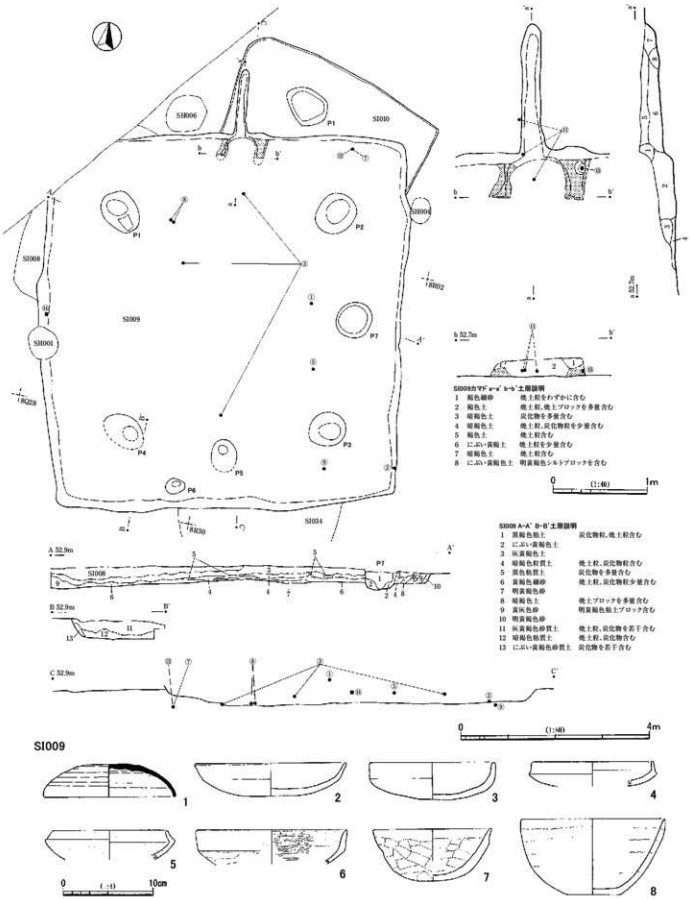
重複関係　SI008・034に掘り込まれており、SI010を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長7.92m・短軸長7.58mの方形で、主軸方向はN－13°－W、壁高は30cmである。

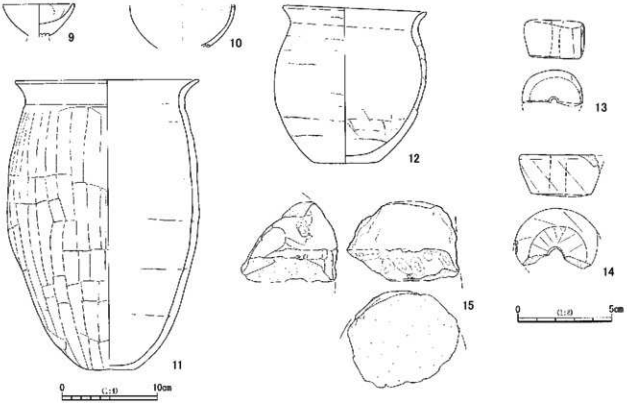
カマド　北壁中央に付設される。煙道部は長さ1.36m、幅0.2mと細長く、火床部から緩やかに立ち上がっている。

ピット　７基検出された。P1～4は配列から主柱穴と考えられる。P1は長軸長96cm・短軸長68cm、床面からの深さは70cmである。P2は長軸長84cm・短軸長76cm、床面からの深さは74cmである。P3は径68cm、床面からの深さは71cmである。P4は長軸長96cm・短軸長60cm、床面からの深さは49cmである。P5は配置から出入口ピットと推定される。長軸長64cm・短軸長52cm、床面からの深さは30cmである。P6・７は位置や形状から補助柱穴と考えられる。P6は径35cm前後、床面からの深さは17cmである。P7は径80cm、床面からの深さは52cmである。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器１点、土師器11点、土製品３点である。１は須恵器坏蓋である。回転ヘラケズリによる調整が施されている。口縁部は直立し、天井部は平らに近い形状である。内面に赤色顔料が付着している。２～６は土師器坏で、３は完形である。２・３・６は須恵器模倣坏蓋、４・５は須恵器模倣坏身である。２は口縁部が外反し、３・６は上方に立ち上がっている。４・５は口縁部が短く内傾している。７・８は土師器鉢で、７は完形である。ヘラケズリにより調整されている。８は大型品で平底を呈し、内面に赤彩の痕跡を残す。９・10は土師器高坏である。坏部に稜がなく口縁部がそのまま開くようにつくられている。９の外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ調整されている。10は内面にミガキ調整が施され、黒色処理されている。11・12は土師器甕である。ヘラナデ等により調整されている。11はいわゆる長胴甕で、胴部の張りが弱く全体的に細長い。12は胴部に球状の膨らみをもち、平底を呈する。外面に



第28図　SI009・010 平面図・出土遺物実測図



第29図　SI009 出土遺物実測図

二次的被熱を受ける。13・14は土製紡錘車である。15は支脚で、ごく一部に被熱箇所がみられる。８は床面直上、11・15はカマド内、他は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の７世紀前半と考えられる。

SI010（第28図、図版２）

7Q-88・89・98・99・8R-00・01 グリッドに所在する。

重複関係　SI009 に掘り込まれており、南側は削平されている。

規模と形状　東西軸長4.40mの方形である。主軸方向はN－13°－Eで、壁高は５cmほどである。

ピット　１基検出された。P1は長軸長96cm・短軸長64cm、床面からの深さは23cmである。

出土遺物　土師器片のみ出土している。

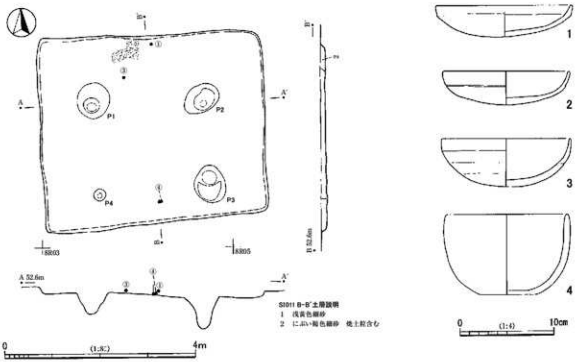
時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。

SI011（第30図、図版３・４・29）

7R-73・74・75・83・84・85・93・94・95 グリッドに所在する

規模と形状　長軸長4.76m・短軸長4.12mの方形である。主軸方向はN－３°－W、壁高は15cmほどである。北壁中央に焼土が堆積している。

ピット　４基検出された。P1～4は配列から主柱穴と考えられる。P1は長軸長68cm・短軸長60cm、床面か



第30図　SI011 平面図・出土遺物実測図

らの深さは44cmである。P2は長軸長72cm・短軸長44cm、床面からの深さは67cmである。P3は長軸長76cm・短軸長60cm、床面からの深さは56cmである。P4は径28cm、床面からの深さは10cmである。

出土遺物　図示した遺物は、土師器４点である。１～３は土師器坏で、須恵器模倣坏蓋である。口縁部は上方に立ち上がっている。４は土師器鉢である。口縁部が直立する形状である。外面にヨコナデ調整が施されている。１・３・４は北側及び南側の床面直上、２は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の７世紀前半と考えられる。

SI012（第31図、図版３・４・29・60）

7R-56・57・58・66・67・68・76・77・78 グリッドに所在する。

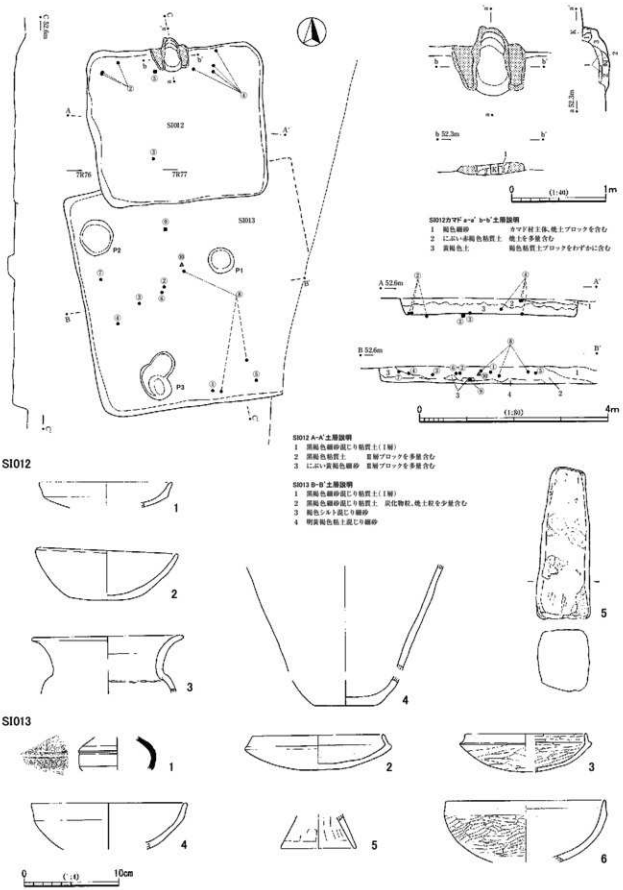
重複関係　SI013 を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長3.68m・短軸長3.26mの方形で、主軸方向はN－4°－W、壁高は10～25cmである。

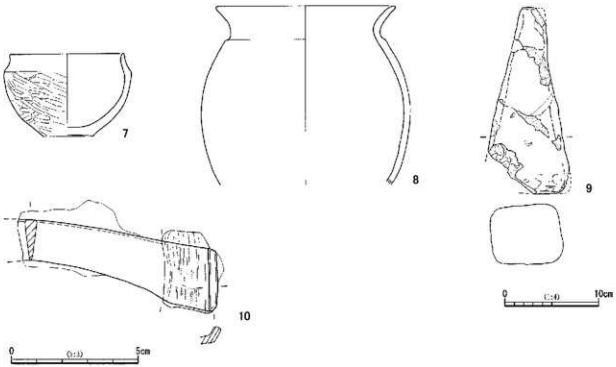
カマド　北壁中央に付設される。規模は焚口から煙道部まで76cmで、燃焼部幅は32cmである。

出土遺物　図示した遺物は、土師器４点、土製品１点である。１・２は土師器坏で、１は須恵器模倣坏蓋である。口縁部はヨコナデ調整されている。外面を黒色処理している。２は底部から胴部上位にかけてわずかに内湾し、口唇部が小さく立つ。内外面が摩耗して調整痕は不明だが、胴部にヘラケズりの痕跡がみられる。３・４は土師器甕である。３の口縁部は「く」の字状に折れるように外反している。ヨコナデ調整が施されている。５は方柱状の支脚で、一部に被熱箇所がみられる。２・３は床面直上、他は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の７世紀前半と考えられる。



第31図　SI012・013 平面図・出土遺物実測図



第32図　SI013 出土遺物実測図

SI013（第31・32図、図版３・４・29・30・62）

7R-75・76・77・78・86・87・88・96・97・98 グリッドに所在する。

重複関係　SI012 に掘り込まれている。

規模と形状　長軸長4.84m・推定短軸長4.72mの方形で、主軸方向はN－10°－W、壁高は30cmである。

ピット　３基検出された。P1は径52cm、床面からの深さは15cmである。P2は長軸長80cm・短軸長64cm、床面からの深さは22cmである。P3は長軸長84cm・短軸長56cm、床面からの深さは６cmである。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器１点、土師器７点、土製品１点、鉄製品１点である。１は須恵器蓋で、外面に櫛描き波状文が施されている。２～４は土師器坏で、２・３は須恵器模倣坏身、４は須恵器模倣坏蓋である。２・３は口縁部が短く内傾しており、内面は黒色処理されている。２はナデ調整、３は外面にヘラケズリ、内面がミガキ調整されている。４の外面にイネ圧痕が１か所確認できる。５は土師器高坏脚部である。タテ方向のケズリ調整が施されている。６・７は土師器鉢で、６は内外面とも黒色処理されている。７は外稜を有し、口縁部は直立している。外面にミガキ調整が施されている。８は土師器甕で、胴部は卵球状の張りを持つ。９は方錐状の支脚で、先端部に被熱箇所がみられる。10は鉄鎌で、切っ先部分は欠損しており、一部木質部分が残存している。１～10は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の６世紀後半と考えられる。

SI014（第33図、図版３・４）

7R-42・51・52 グリッドに所在する。

重複関係　SI015を掘り込んでいる。

規模と形状　残存長軸長2.76m・短軸長2.24mの方形で、主軸方向はN－2°－E、壁高は15cmである。

ピット　1基検出された。P1は配列から主柱穴と考えられる。長軸長52cm・短軸長36cm、床面からの深さは46cmである。

出土遺物　土師器片のみ出土している。

時期　出土遺物から、後期と考えられる。

SI015（第34図、図版3・4・30）

7R-42・43・44・52グリッドに所在する。

重複関係　SI014に掘り込まれており、SI016を掘り込んでいる。

規模と形状　一辺6.56mである。壁高は30cmほどである。

ピット　1基検出された。径76cm、床面からの深さは34cmである。

出土遺物　須恵器・土師器・粘土塊等が出土した。そのうち図示した遺物は、土師器3点である。1は土師器坏で、須恵器模倣坏蓋である。口縁部はナデ、胴部はヘラケズリによる調整が施されている。2・3は土師器鉢である。内外面が摩耗しているが、胴部にミガキ調整がみられる。1は床面直上、他は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の6世紀後半と考えられる。

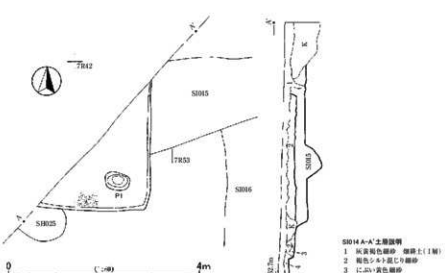
SI016（第35図、図版4・30）

7R-43・44・45・46・53・54・55・56・63・64・65・66グリッドに所在する。

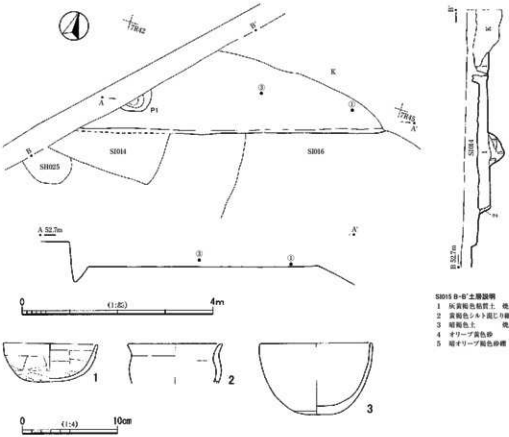
重複関係　SI015に掘り込まれている。

規模と形状　長軸長4.96m・短軸長4.60mの方形で、壁高は30cmほどである。壁溝は全周している。

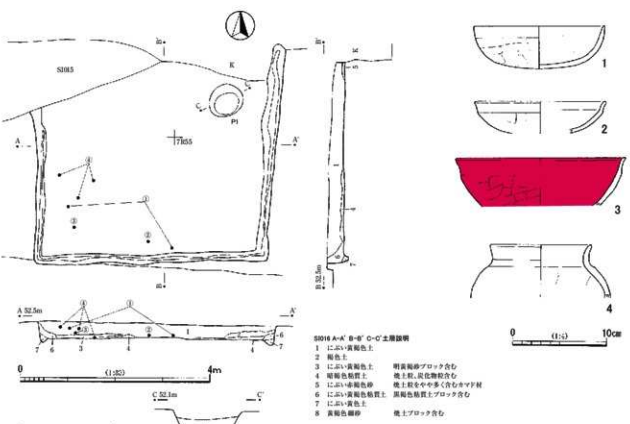
ピット　1基検出された。P1は、長軸長76cm・短軸長64cm、床面からの深さは26cmである。



第33図　SI014平面図・出土遺物実測図



第34図　SI015 平面図・出土遺物実測図



第35図　SI016 平面図・出土遺物実測図

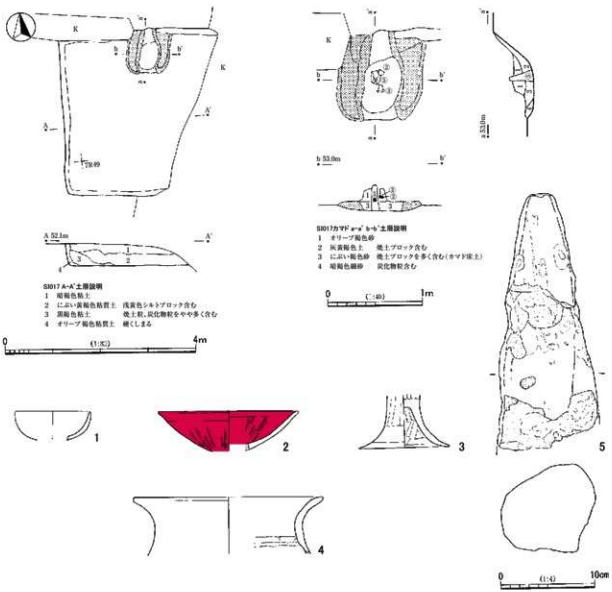
出土遺物　須恵器・土師器が出土した。そのうち図示した遺物は、土師器４点である。１～３は土師器坏で、須恵器模倣坏蓋である。１は内面に黒色処理をされている。ヘラケズリ調整されている。２は外面にヘラナデ、内面にナデやヘラミガキ調整が施されている。３は内外面赤彩され、外面にヘラミガキ、内面にヘラナデ調整が施されている。４は土師器壺で、短頸壺の可能性がある。ナデ調整されている。口縁部はわずかに外反している。１～４は南東側の覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の６世紀後半と考えられる。

SI017（第36図、図版４・30・60）

7R-29・39・49・7S-20・30グリッドに所在する。

規模と形状　長軸長3.54m・残存短軸長3.32mの方形である。主軸方向はN－３°－E、壁高は40cmほどである。ピットは検出されなかった。



第36図　SI017 平面図・出土遺物実測図

カマド　北壁中央に付設される。規模は焚口から煙道部まで96cmで、燃焼部幅は32cmである。

出土遺物　須恵器・土師器・土製品等が出土した。そのうち図示した遺物は、土師器４点、土製品１点である。１は土師器坏で、素縁口縁である。２・３は土師器高坏で、２は内外面赤彩し、ヘラケズリ後にミガキ調整が施されている。３はヘラナデやケズリ調整されている。４は土師器甕で、内面はヘラナデにより調整されている。５は方錐状の支脚で、一部ススや被熱箇所がみられる。２・３はカマド覆土内、５はカマド中央に直立した状態で出土した。

時期　出土遺物の状況から、後期の６世紀後半と考えられる。

SI019（第37図、図版４・５・30・61）

8R-45・46・47・54・55・56・64・65 グリッドに所在する。

重複関係　SI022に掘り込まれており、SI020を掘り込んでいる。SI023・030と同時期に重複する。

規模と形状　長軸長4.48m・残存短軸長4.32mの方形である。壁高は10～50cmである。

ピット　２基検出された。P1は径40cm、床面からの深さは38cmである。P2は長軸長60cm・短軸長44cm、床面からの深さは19cmである。

出土遺物　図示した遺物は、土師器３点、石製品１点である。１～２は土師器坏で、１は須恵器模倣坏身である。底部はヘラケズリ後ミガキを施している。２は内外面ともにミガキ調整後黒色処理がされている。３は土師器甕の小型品で、胴部はやや縦長で、口縁部が直立している。内面はヘラナデ調整されている。全体に被熱により赤変している。４は滑石製の臼玉である。１～４は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の６世紀後半と考えられる。

SI022（第37図、図版４・31・61）

8R-55・56・57・65・66・67・75 グリッドに所在する。

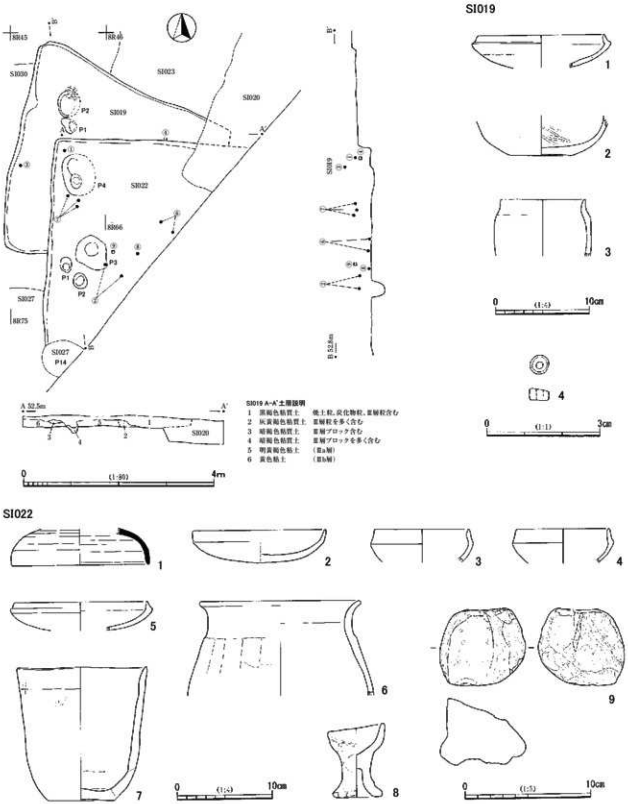
重複関係　SI019・020・027を掘り込んでいる。南東側は調査区外である。

規模と形状　残存長軸長4.32m・残存短軸長2.96mの方形である。壁高は20cmほどである。

ピット　４基検出された。P1は径28cm、床面からの深さは24cmである。P2は径36cm、床面からの深さは39cmである。P3は長軸長76cm・短軸長64cm、床面からの深さは46cmである。P4は長軸長88cm・短軸長56cm、床面からの深さは38cmである。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器１点、土師器７点、石製品１点である。１は須恵器蓋で、回転ヘラケズリにより調整されている。口縁部は直立し、天井部は平らに近い形状である。２～５は土師器坏で、２は須恵器模倣坏蓋、３～５は須恵器模倣坏身である。２は内外面ともにミガキ後黒色処理されている。３・４は同一個体で口縁部がやや長く、５は短く内傾している。６は土師器甕で、口縁部は緩やかに外反している。外面にヘラケズリ、内面にヘラナデ調整されている。７は小型の土師器甕で、筒形を呈し、器面に粘土積み上げ痕跡がみられる。不鮮明であるが、底部に木葉痕が確認される。ナデやヘラケズリ調整が施されている。外面は被熱により赤変している。８は手捏ね土器の高坏で、坏部には輪積痕がみられる。９は軽石の砥石で、表裏面が擦り面となる。６・８は床面直上、他は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の７世紀前半と考えられる。



第37図　SI019・022 平面図・出土遺物実測図

SI020（第38図、図版５・30・31・62）

8R-37・47・56・57グリッドに所在する。

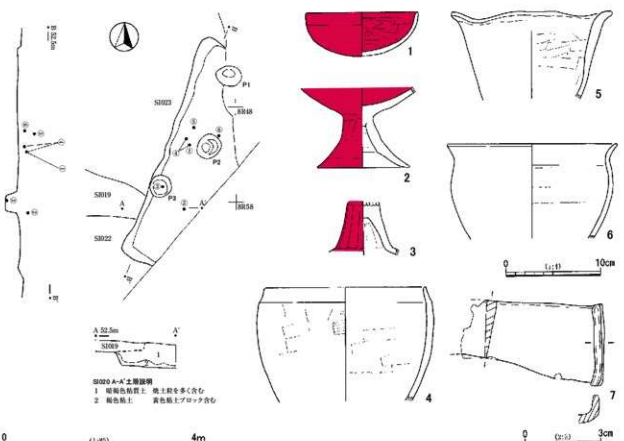
重複関係　SI019・022・023に掘り込まれている。

規模と形状　一辺4.92mの方形である。壁高は10～30cmである。

ピット　３基検出された。P1は位置から主柱穴と考えられる。長軸長48cm・短軸長36cm、床面からの深さは58cmである。P2・P3は主柱穴の可能性があるが、詳細は不明である。P2は径56cm、床面からの深さは46cmである。P3は径32cm、床面からの深さは22cmである。

出土遺物　図示した遺物は、土師器６点、鉄製品１点である。１は土師器坏で、須恵器模倣坏蓋である。内外面ともに赤彩され、ヨコナデやヘラナデ調整されている。２・３は土師器高坏で、内外面ともに赤彩している。ナデやヘラケズリ調整が施されている。４は土師器鉢で、外稜を有し、口縁部が内傾している。外面にヘラケズリ、内面にヘラナデ調整されている。５は土師器甕で、全体的に粗雑な作りで、口縁部に歪みが生じている。６は土師器甕で、口縁部が「く」の字状に外反している。ナデ調整が施されている。胴部外面が被熱により赤変している。７は鉄鎌で、切っ先部分は欠損している。１・２・４～６は覆土内、３はP3内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の６世紀前半と考えられる。



第38図　SI020 平面図・出土遺物実測図

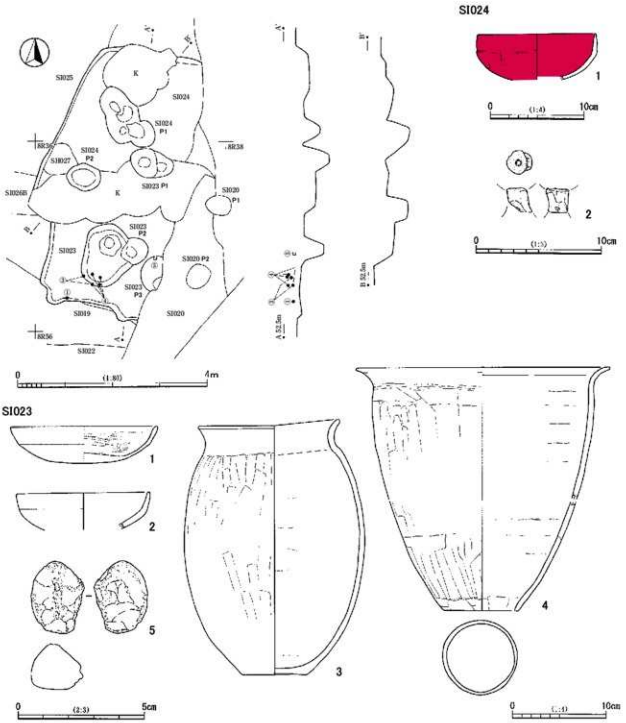
SI023（第39図、図版6・31・61）

8R-36・37・46・47グリッドに所在する。

重複関係　SI020・024を掘り込んでおり、SI019と同時期に重複する。

規模と形状　残存長軸長2.20m・残存短軸長1.28mの方形である。壁高は10～20cmである。

ピット　3基検出された。P1・2は主柱穴の可能性があるが、詳細は不明である。P1は長軸長92cm・短軸



第39図　SI023・024平面図・出土遺物実測図

長60cm、床面からの深さは42～58cmほどである。P2は長軸長1.3m・短軸長1.2m、床面からの深さは47～70cmである。P3は長軸長80cm・短軸長44cm、床面からの深さは27cmである。

出土遺物　須恵器・土師器・石製品等が出土した。そのうち図示した遺物は、土師器４点、石製品１点である。１・２は土師器坏で、須恵器模倣坏蓋である。１は内外面ともにミガキ調整後黒色処理されている。２はナデ調整されている。３は土師器甕で、胴部の張りが弱い長胴甕である。外面にタテ方向のケズリ、内面にナデ調整が施されている。４は土師器甑で、胴部上半に張りをもち、口縁部は短く外傾している。外面にケズリ、内面にナデ調整されている。５は火打石である。１～５は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の６世紀後半と考えられる。

SI024（第39図、図版５・31・60）

8R-26・27・35・36・37に所在する。

重複関係　SI023に掘り込まれており、SI025・026を掘り込んでいる。

規模と形状　残存長軸長3.28m・残存短軸長1.72mの方形である。壁高は20cmである。

ピット　２基検出された。P1・2は配列や規模から主柱穴と考えられる。P1は長軸長1.4m・短軸長0.6m、床面からの深さは43～60cmである。P2は径56cm、床面からの深さは43cmである。

出土遺物　図示した遺物は、土師器１点、土製品１点である。１は土師器坏で、須恵器模倣坏身である。内外面ともに赤彩している。外面にヨコナデやヘラケズリ、内面にヘラナデ調整が施されている。２は用途不明の土製品である。中央部に穿孔が施されている。器台のミニチュアであろうか。

時期　出土遺物の状況から、後期の６世紀前半と考えられる。

SI025（第40図、図版５・31・32）

8R-05・06・15・16・24・25・26・35・36グリッドに所在する。

重複関係　SI024、SD002に掘り込まれており、SI026を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長5.16m・短軸長3.72mの長方形である。主軸方向はN－23°－E、壁高は15cmである。

ピット　３基検出された。P1は長軸長60cm・短軸長40cm、床面からの深さは42cmである。P2は径72cm、床面からの深さは12～48cmである。P3は長軸長1.1m・短軸長0.6m、床面からの深さは13～38cmである。

出土遺物　須恵器・土師器が出土した。そのうち図示した遺物は、土師器２点である。１は土師器高坏脚部で、裾部は大きく開く。２は小型の土師器甕で、外面はヘラケズリ、内面はナデにより調整されている。外面にススが付着している。１・２は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の６世紀前半と考えられる。

SI026A（第40図、図版５）

8R-04・05・06・14・15・24・25・34・35グリッドに所在する。

重複関係　SI024・025、SD002に掘り込まれている。SI026Bと同時期に重複する。

規模と形状　長軸長5.68m・短軸長5.40mの方形で、主軸方向はN－2°－E、壁高は20cmほどである。

ピット　４基検出された。P1は長軸長72cm・短軸長64cm、床面からの深さは10cmである。P2は径80cm、床面からの深さは18cmである。P3は径80cm、床面からの深さは38～65cmである。P4は長軸長96cm・短軸長64

cm、床面からの深さは15cmである。

出土遺物　土師器坏・高坏・甑等が出土している。坏は丸底で口縁部が外傾しているものがみられる。すべて破片であるため、実測等は省略している。

時期　出土遺物の状況から、中期の５世紀後葉と考えられる。

SI026B（第40図、図版５）

8R-34・35・36グリッドに所在する。

重複関係　SI024・025、SD002に掘り込まれている。SI026Aと同時期に重複する。

規模と形状　残存長軸長2.68m・残存短軸長1.20mの方形である。壁高は15cmほどである。

時期　重複関係から、中期と考えられる。

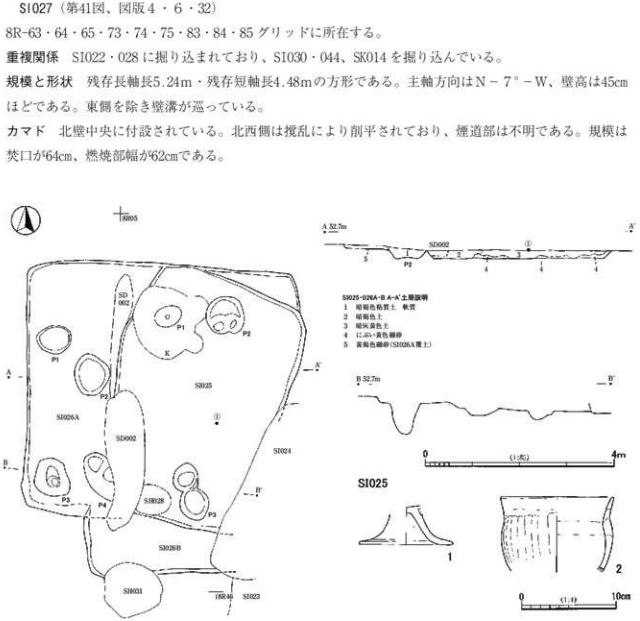
SI027（第41図、図版４・６・32）

8R-63・64・65・73・74・75・83・84・85グリッドに所在する。

重複関係　SI022・028に掘り込まれており、SI030・044、SK014を掘り込んでいる。

規模と形状　残存長軸長5.24m・残存短軸長4.48mの方形である。主軸方向はN－7°－W、壁高は45cmほどである。東側を除き壁溝が巡っている。

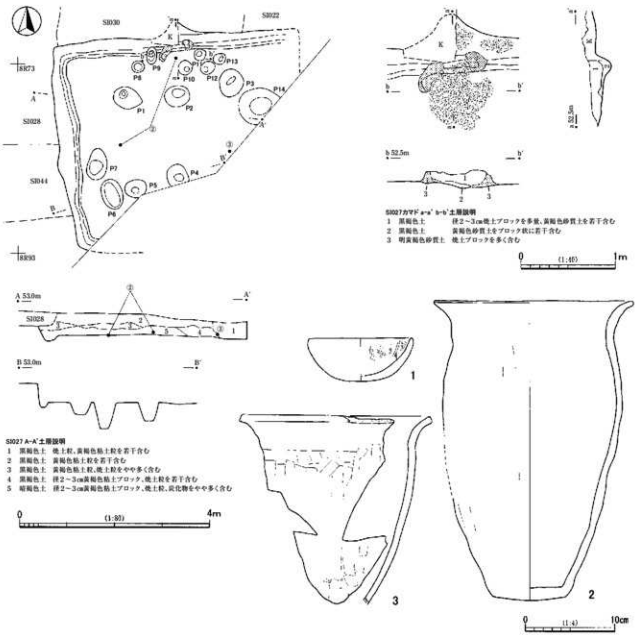
カマド　北壁中央に付設されている。北西側は攪乱により削平されており、煙道部は不明である。規模は焚口が64cm、燃焼部幅が62cmである。



第40図　SI025・026A・B平面図・出土遺物実測図

ピット　14基検出された。P1・3・5は配列・規模から主柱穴と考えられる。P1は長軸長64cm・短軸長40cm、床面からの深さは56cmである。P3は径56cm、床面からの深さは47cmである。P5は径40cm、床面からの深さは55cmである。P2・4・6・7は配列から補助柱穴と考えられる。P2は径40cm、床面からの深さは45cmである。P4は径40cm、床面からの深さは42cmである。P6は長軸長60cm・短軸長40cm、床面からの深さは17cmである。P7は長軸長64cm・短軸長40cm、床面からの深さは43cmである。P8～13は北側中央カマド付近に集中しており、本遺構に伴う可能性があるが、詳細は不明である。床面からの深さは10～30cmである。P14は規模から貯蔵穴の可能性がある。残存長軸長92cm・短軸長80cm、床面からの深さは21cmである。

出土遺物　須恵器・土師器が出土した。そのうち図示した遺物は、土師器３点である。１は土師器坏で、器高はあまり高くなく、口縁部が小さく立つ。外面にヘラケズリ、内面にヘラミガキ調整が施されている。

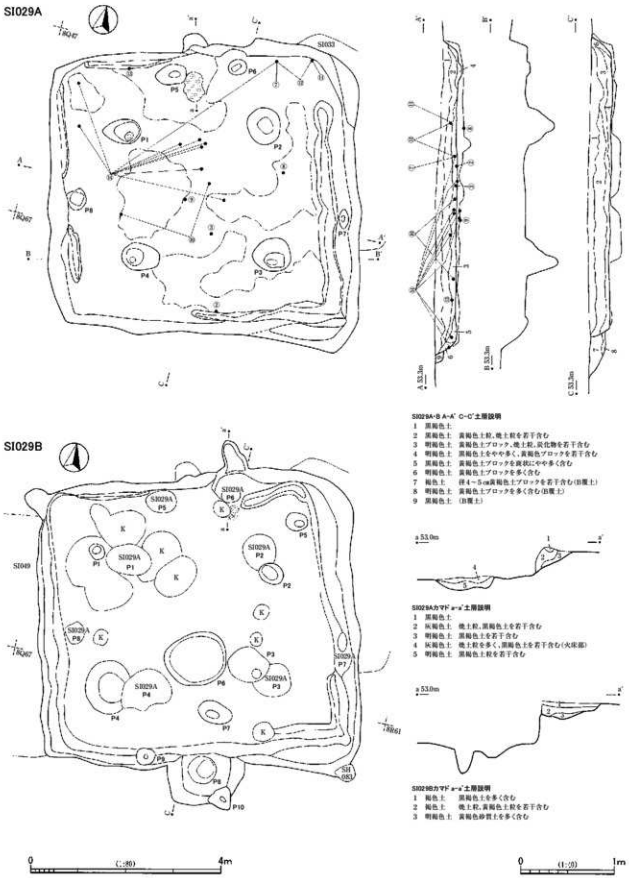


第41図　SI027 平面図・出土遺物実測図

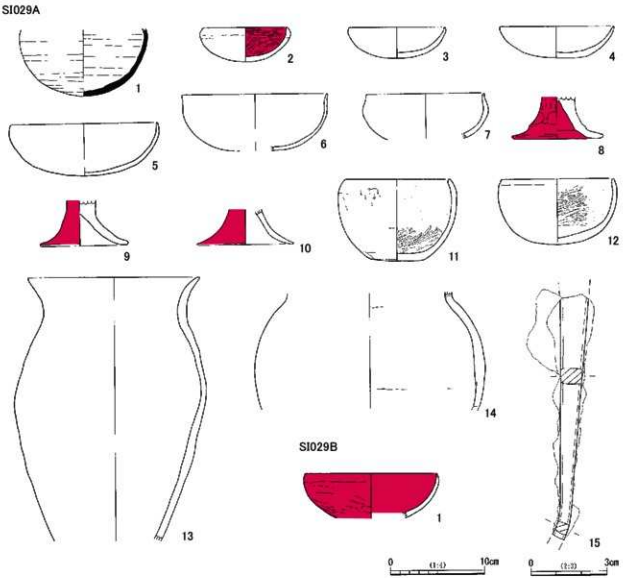
２は土師器甕で、いわゆる長胴甕である。外面にヘラケズリ、内面にヘラナデ調整されている。３は甑で、外面にヘラケズリ、内面に丁寧なミガキ調整が施されている。２・３は床面直上から出土した。
時期　出土遺物の状況から、後期の６世紀末葉～７世紀初頭と考えられる。

SI029A（第42・43図、図版７・32・62）
8Q-39・47・48・49・57・58・59・67・68・69・8R-30・40・50・60グリッドに所在する。
重複関係　SI029B・033・049を掘り込んでいる。
規模と形状　長軸長6.60m・短軸長6.32mの方形である。主軸方向はN－16°－W、壁高は45cmほどである。床は中央部から東側にかけて踏み固められている。南西・北東隅を除き壁溝が巡っている。
カマド　北壁中央に付設された。床面を掘り込んだ燃焼部と煙道部の一部のみ確認された。燃焼部は長軸長30cm・短軸長20cmで焼土粒が広く堆積している。
ピット　８基検出された。P1～4は配列から主柱穴と考えられる。P1は長軸長84cm・短軸長52cm、床面からの深さは46cmである。P2は長軸長80cm・短軸長64cm、床面からの深さは53cmである。P3は長軸長80cm・短軸長64cm、床面からの深さは59cmである。P4は長軸長80cm・短軸長60cm、床面からの深さは74cmである。P5～8は本遺構に伴う可能性があるが、詳細は不明である。床面からの深さは16～32cmである。
出土遺物　図示した遺物は、須恵器１点、土師器13点、鉄製品１点である。１は須恵器壺で、胴上半部を欠失している。回転ヘラケズリ調整が施されている。２～７は土師器坏で、２・３・７は須恵器模倣坏身である。２は完形で内面は赤彩され、ヘラミガキ調整が施されている。３・４は口縁部が外に開いている。５は口縁部がわずかに内湾している。６は口縁部が小さく外傾し、口唇部を摘まみ上げている。８～10は土師器高坏脚部で、８は外面および脚内面、９・10は外面を赤彩している。11・12は土師器鉢で、内面に黒色処理が施され、口縁部が内傾している。11は外面にヘラケズリやヘラナデ、内面にヘラミガキ調整が施されている。13・14は土師器甕で、13は張りが弱く全体的に細長い形態を示している。14の頸部破断面は摩耗し、丸くなっている。15は棒状品である。釘であろうか。１～14は覆土内から出土している。
時期　出土遺物の状況から、後期の６世紀前半と考えられる。

SI029B（第42・43図、図版７・33）
8Q-39・47・48・49・57・58・59・67・68・69・8R-30・40・50・60グリッドに所在する。
重複関係　SI029Aに掘り込まれている。
規模と形状　長軸長6.80m・短軸長6.28mの方形である。主軸方向はN－13°－W、壁高は28～57cmである。東側を除き壁溝がほぼ全周している。南側に張り出し部がある。
カマド　北壁やや東側に付設された。煙道部の一部のみ確認された。
ピット　10基検出された。P1～4は配列から主柱穴と考えられる。P1は径32cm、床面からの深さは22cmである。P2は径48cm、床面からの深さは42cmである。P3は径72cm、床面からの深さは42cmである。P4は径1.1m、床面からの深さは29cmである。P5・6は床面からの深さは30cmである。P7は配列から出入口ピットと考えられる。長軸長64cm・短軸長36cm、床面からの深さは25cmである。P8は張り出し部中央にあり、貯蔵穴が想定され、P9～10は張り出し部付近にあるが、詳細は不明である。床面からの深さは28～95cmである。
出土遺物　須恵器・土師器が出土した。そのうち図示した遺物は、土師器１点である。１は土師器坏で、



第42図　SI029A・B 平面図



第43図　SI029A･B 出土遺物実測図

丸底で半球形を示している。内外面ともに赤彩され、ヨコナデやヘラケズリにより調整されている。

時期　出土遺物の状況から、後期の6世紀前半と考えられる。

SI030（第44・45図、図版6・7・8・33・60）

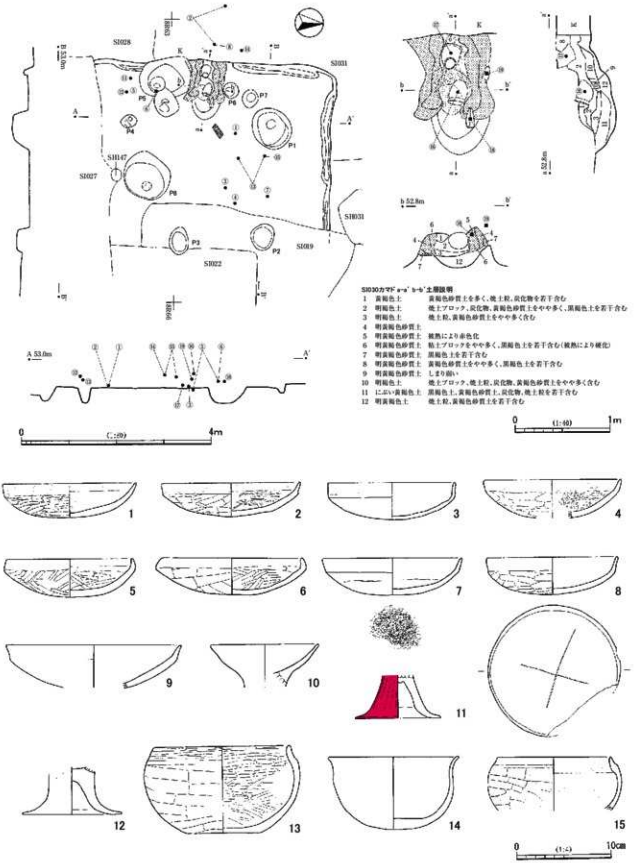
8R-43・44・45・53・54・55・63・64・65 グリッドに所在する。

重複関係　SI027・028 に掘り込まれており、SI031 を掘り込んでいる。SI019 は同時期に重複している。

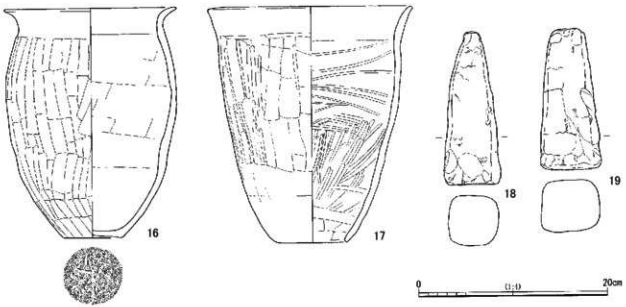
規模と形状　残存長軸長5.12m・残存短軸長3.24mの方形である。主軸方向はN－91°－W、壁高は20cmほどである。壁溝はほぼ全周している。

カマド　西壁中央に付設されている。煙道部は攪乱のため確認できなかった。袖部は床面の上に積み上げて構築されている。

ピット　8基検出された。P1～3・4は配列から主柱穴と考えられる。P1は径80cm、床面からの深さは29cm



第44図　SI030 平面図・出土遺物実測図



第45図　SI030 出土遺物実測図

である。P2は径64cm、床面からの深さは21cmである。P4は径20cm、床面からの深さは56cmである。カマド脇のP5は規模から貯蔵穴と考えられる。長軸長1.4m・短軸長1.0m、床面からの深さは47～72cmである。P3は長軸長60cm・短軸長36cm、床面からの深さは13cmである。P6～8は床面からの深さは18～67cmである。

出土遺物　須恵器・土師器・土製品が出土した。そのうち図示した遺物は土師器17点、土製品2点である。1～9は土師器坏で、2～4・7～9は須恵器模倣坏蓋、5・6は須恵器模倣坏身である。1・2・4・5は内外面が黒色処理されている。1は外面にミガキ,内面にナデ調整が施されている。2は外面にヘラケズリ、内面にミガキ調整が施されている。3は口縁部が上方へ立ち上がっている。4は外面にヨコナデやヘラケズリ、内面にヘラミガキ調整が施されている。5はミガキやヘラナデ調整されている。6は完形で、ヘラケズリやミガキ調整が施されている。7は底部に木葉痕がみられる。8は底部に「×」の焼成後線刻が施されている。10～12は土師器高坏で、10は坏部、11・12は脚部のみ残存している。11は外面を赤彩している。外面にヘラケズリが施されている。13～15は土師器鉢で、15は内外面黒色処理を施す。13・15は外稜を有し、口縁部が内傾している。16は完形の土師器甕である。底部に木葉痕がみられる。外面にヘラケズリ、内面にヘラナデ調整が施されている。17は甑でナデやミガキ調整されている。胴外面にイネ圧痕が1か所確認できる。18･19は支脚で、18は方錐状、19は方柱状を呈し、一部にススや被熱箇所がみられる。1～3は床面直上、5・6・12～15は覆土内、16・17はカマド覆土上層から横位の状態、18・19はカマド脇から出土している。

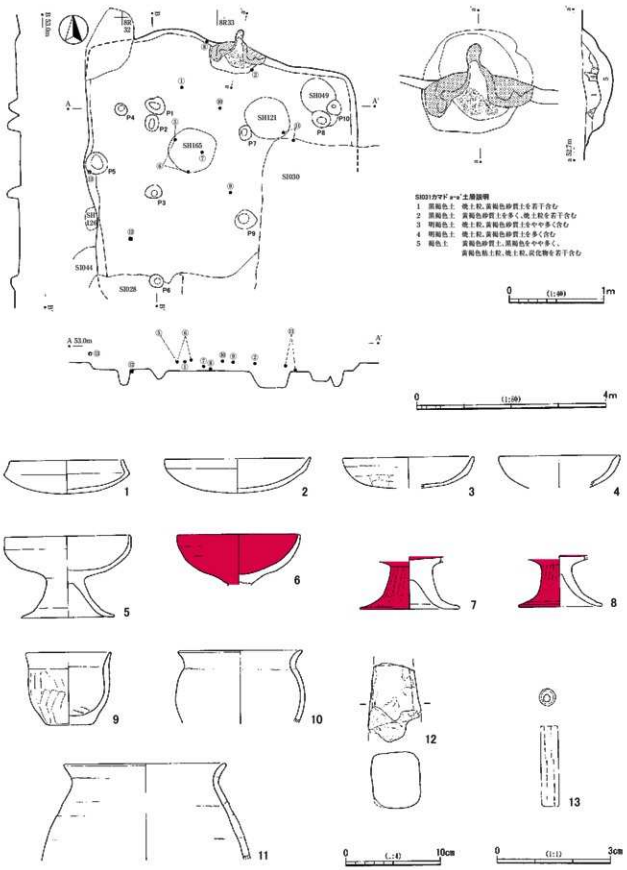
時期　出土遺物の状況から、後期の6世紀後半と考えられる。

SI031（第46図、図版7・8・34・61）

8R-31・32・33・34・41・42・43・44・51・52・53・54グリッドに所在する。

重複関係　SI028・030に掘り込まれており、SI044を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長5.68m・残存短軸長5.28mの方形で、主軸方向はN－9°－E、壁高は34cmである。



第46図　SI031 平面図・出土遺物実測図

カマド　北壁中央に付設された。規模は焚口から煙道部まで80cm、燃焼部幅が40cmである。カマド周辺を床面から10cmほど掘り下げてから構築している。

ピット　10基検出された。P1・6・8は配列から主柱穴と考えられる。P1は径28cm、床面からの深さは20cmである。P6は径20cm、床面からの深さは84cmである。P8は径32cm、床面からの深さは18cmである。P2～5・7・9・10は床面の深さが20～34cmである。

出土遺物　須恵器・土師器・土製品等が出土した。そのうち図示した遺物は、土師器11点、土製品１点、石製品１点である。１～４は土師器坏で、１は須恵器模倣坏身、２～４は須恵器模倣坏蓋である。３はヨコナデやヘラケズリ調整が施されている。４はナデ調整されている。５～８は土師器高坏で、６は坏部、７・８は脚部のみ遺存している。６～８はナデやヘラケズリ調整が施されている。６～８は内外面を赤彩している。９は土師器鉢の小型品である。平底で口縁部が外傾している。ナデやヘラケズリ調整されている。10・11は土師器甕で、ヨコナデにより調整されている。12は方柱状の支脚で、一部ススや被熱箇所がみられる。13は管玉で、長さ20.93mm、幅4.57mmである。11・12は床面直上、他は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の６世紀前半と考えられる。

SI032A（第47・48図、図版８・34・35・61・62）

8Q-82・83・84・85・92・93・94・95・96・9Q-02・03・04・05・12・13グリッドに所在する。

重複関係　SI036・046、SK005・006・008・012・013に掘り込まれており、SI032Bを掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長7.28m・短軸長7.16mの方形で、主軸方向はN－63°－E、壁高は20cmほどである。

カマド　東壁やや南側に付設された。燃焼部のみ確認された。

ピット　29基検出された。P17・21・29は配列・規模から主柱穴と想定される。P17は径24cm、床面からの深さは54cmである。P21は長軸長60cm・短軸長44cm、床面からの深さは74cmである。P29は径40cm、床面からの深さは75cmである。P9～12・15は配列から壁柱穴の可能性がある。床面からの深さは15～61cmである。ほかのピットは性格不明である。床面からの深さは13～69cmである。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器５点、土師器20点、土製品１点、石製品１点、鉄製品１点、その他１点である。１～３は須恵器坏蓋で、稜を有している。回転ヘラケズリ調整が施されている。口縁部は直立し、天井は比較的丸い。４は須恵器坏身で、回転ヘラケズリにより調整されている。口縁部立ち上がりは内傾し、受部はやや外方へ伸びる。５は須恵器壺で、頸部に櫛描き波状文が２条線刻されている。７～11は土師器坏で、底部の丸い半球形のものである。７～10は内外面ともに赤彩されている。７・９は同一個体の可能性があり、ヘラケズリ後にナデ、８・10はミガキ調整が施されている。11はヘラナデ調整が施されているが、調整は粗い。内面に白色の付着物がみられる。また、８の内面にはモミガラの圧痕が１か所確認される。６・12～20は土師器高坏で、６・12～16は坏部、17～20は脚部のみ残存している。15は内外面、６・16～20は外面が赤彩されている。13・18・19はヘラケズリ、６・15・20はヘラナデ調整が施されている。14はヘラケズリ・ナデ調整が施されているが粗く、器形も歪んでいる。16の外面にはタール状の付着物が認められる。21は土師器埦で、内外面ともに赤彩されている。ナデ調整が施されている。22は土師器坩で、頸部にタテ方向のヘラケズリが施されている。23は土師器鼎で、外面は赤彩され、胴部中央に穿孔がみられる。24・25は土師器甕である。24は内面に輪積み痕がみられる。外面にヘラケズリ、内面にヘラナデ調整が施されている。25はヘラケズリ調整されている。底部外周部が摩耗している。26は鳥帽

子形の支脚で、上端部分のみ残存し、先端部が外反している。27は縄文ないし弥生土器のミニチュア土器で、外面に粗い縄文が巡る。28は有孔円板で、長さ26.08mm、幅16.60mmである。29は刀子で、切っ先部分のみ残存し、直線的に伸びている。7・10・11・14は床面直上、他は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、中期の5世紀後半と考えられる。

SI032B（第47・48図、図版8・35）

8Q-83・84・85・86・95・96・9Q-05・06グリッドに所在する。

重複関係　SI032A・046・SK005・006に掘り込まれている。

規模と形状　長軸長7.00m・短軸長5.76mの方形である。主軸方向はN－17°－E、壁高は20cmである。

ピット　3基検出された。P1～3の床面からの深さは17～34cmである。

出土遺物　図示した遺物は、土師器1点である。1は土師器椀である。平底を呈し、ヘラケズリにより調整されている。P1内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、中期の5世紀後半と考えられる。

SI033（第49図、図版8・35）

8Q-39・49・59・8R-30・40・50グリッドに所在する。

重複関係　SI029A・034に掘り込まれている。

規模と形状　残存長軸長4.04m・残存短軸長3.04mの長方形である。主軸方向はN－3°－W、壁高は10～20cmで、東側は有段状に立ち上がる。

ピット　2基検出された。P1・2は配列から主柱穴と考えられる。P1は長軸長80cm・短軸長40cm、床面からの深さは59cmである。P2の床面からの深さは32cmである。

出土遺物　図示した遺物は、土師器1点である。1は土師器甕で、胴部の張りが弱く細長い形態を示す。外面にヘラケズリ、内面にヘラナデ調整が施されている。覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の所産と考えられる。

SI037（第50図、図版9・35・62）

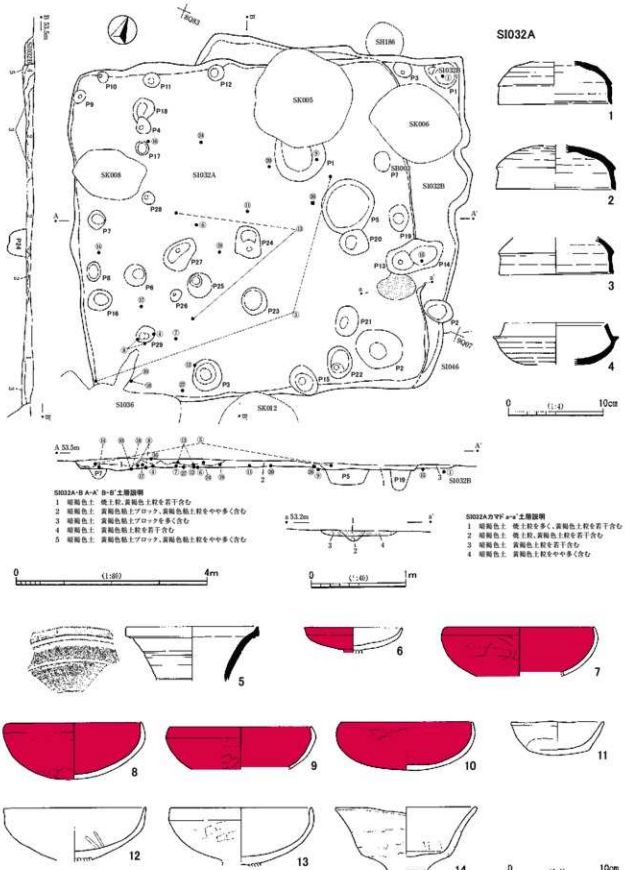
9Q-34・35・43・44・45・53・54・55グリッドに所在する。

重複関係　SI035・036・039に掘り込まれており、SI038・043を掘り込んでいる。

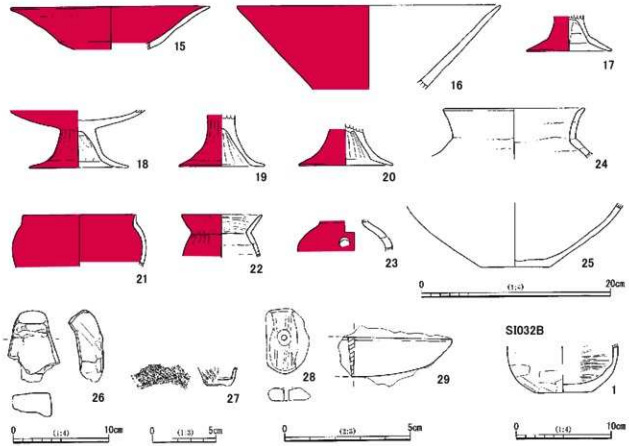
規模と形状　残存長軸長4.48m・短軸長4.16mの方形で、主軸方向はN－19°－W、壁高は20cmである。

ピット　5基検出された。P2・3は配列・規模から主柱穴と考えられる。P2は径88cm、床面からの深さは24cmである。P3は径60cm、床面からの深さは59cmである。P1・4・5の床面からの深さは13～30cmである。

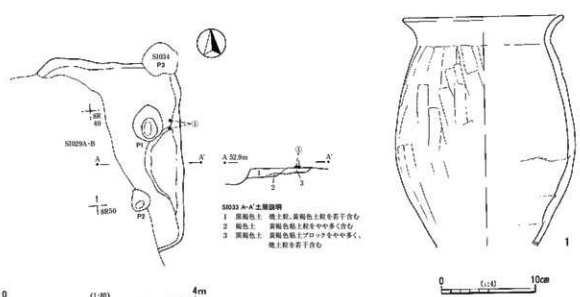
出土遺物　図示した遺物は土師器9点、銅製品1点である。1・2は土師器坏で、内外面ともに赤彩されている。1は外面にヘラケズリ、内面にヘラナデ調整が施されている。2は外面にヘラケズリ、内面にヨコナデ調整が施されている。3～6は土師器高坏で、5・6は脚部のみ残存している。3は内外面ともに赤彩され、5・6は外面が赤彩されている。4はタテ方向のミガキが施され、脚部の上段に3つ、下段に3つ穿孔がみられる。3の脚端部にモミガラ圧痕が1か所みられる。7は土師器壺で、外面および口縁部内面が赤彩されている。ヘラケズリやヨコナデにより調整されている。8は土師器甕で、ヨコナデやヘラ



第47図　SI032A・B 平面図・出土遺物実測図



第48図　SI032A・B 出土遺物実測図



第49図　SI033 平面図・出土遺物実測図

ケズリにより調整されている。口縁部内側にイネ圧痕が1か所確認できる。9は鉢である。内外面赤彩が施されている。10は不明銅製品で、孔があるが貫通はしていない。銅滓であろうか。1・4・7・8は覆土内、3・5・6・9は床面直上から出土している。

時期　出土遺物の状況から、中期の5世紀後半と考えられる。

SI038（第51図、図版9・35）

9Q-54・55・64・65グリッドに所在する。

重複関係　SI035・037・039に掘り込まれている。

規模と形状　残存長軸長2.40m・残存短軸長1.48mの方形である。主軸方向はN－15°－W、壁高は20cmである。

出土遺物　図示した遺物は、土師器3点である。1は土師器坏で、内外面ともに赤彩されている。ヨコナデ調整が施されている。2は土師器高坏脚部で、外面にタテ方向のミガキが施されている。3は土師器壺で、内外面ともに赤彩されている。ナデ調整が施されている。1～3は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、中期の5世紀後葉と考えられる。

SI041（第52・53図、図版11・35・36）

9Q-61・62・63・71・72・73・74・81・82・83・84グリッドに所在する。

重複関係　SI040、SB005に掘り込まれており、SI042・043を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長4.92m・短軸長4.72mの方形である。主軸方向はN－84°－E、壁高は20cmほどである。東側を除き壁溝が巡っている。

カマド　東壁中央に付設された。袖部と煙道部のみを確認した。

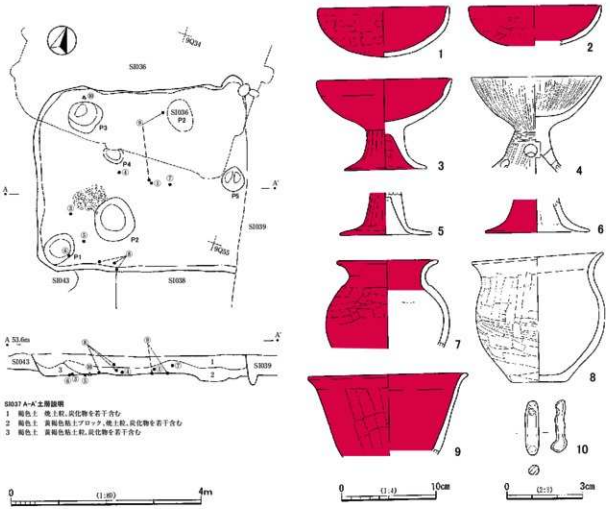
ピット　8基検出された。P1～4は配列から主柱穴と考えられる。P1は径52cm、床面からの深さは85cmである。P2は径45cm、床面からの深さは65cmである。P3は径32cm、床面からの深さは65cmである。P4は径48cm、床面からの深さは72cmである。P5～8は配列から壁柱穴の可能性がある。P5は径68cm、床面からの深さは22cmである。P6は径40cm、床面からの深さは25cmである。P7は径36cm、床面からの深さは48cmである。P8は径32cm、床面からの深さは23cmである。

出土遺物　須恵器・土師器・土製品が出土した。そのうち図示した遺物は、土師器10点、土製品1点である。1～6は土師器高坏で、2はほぼ完形、3は坏部、4～6は脚部のみ残存している。2・3・5は内外面、4・6は外面が赤彩されている。器面調整はナデやヘラケズリが施されている。1・2は埦形の坏部に「八」字形の短い脚部が付く。3は口縁部に稜を有し、わずかに外反している。7～10は土師器甕で、ヘラナデ等により調整されている。7は完形である。8は胴部の張りが弱く、細長い形態を示している。10は外面にススが強く付着している。11は円柱状の支脚で、全体的に熱を受け灰色を呈している。1～3・8・9は床面直上、7・11はカマド内、他は覆土内から出土している。

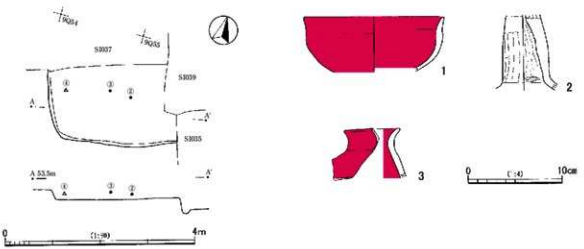
時期　出土遺物の状況から、中期の5世紀後半と考えられる。

SI042（第52・53図、図版11・36）

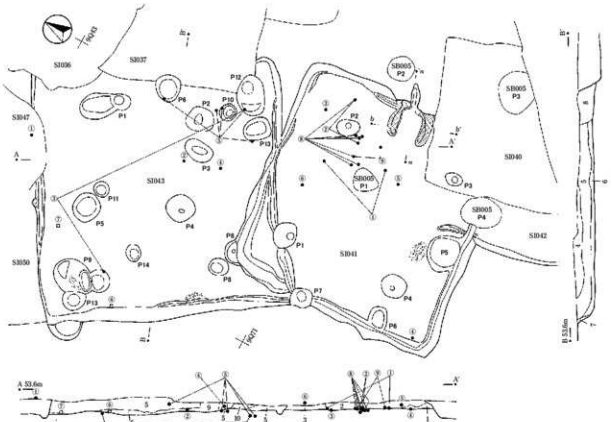
8Q-83・93グリッドに所在する。



第50図　SI037 平面図・出土遺物実測図

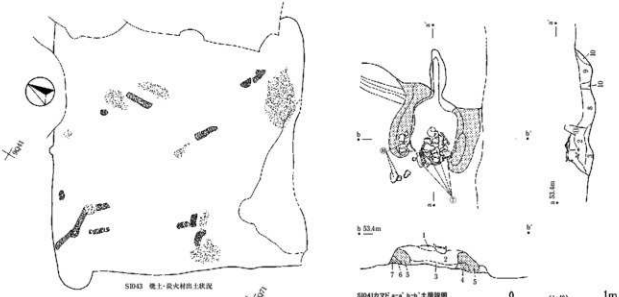


第51図　SI038 平面図・出土遺物実測図



SI041・042・043 A-A' B-B' 土層説明

1 黒褐色土 黄褐色土ブロックをやや多く,焼土ブロックを若干含む(SI041覆土)
2 暗褐色土 黄褐色粘土粒,焼土粒・炭化物を若干含む(SI041覆土)
3 暗褐色土 黄褐色粘土粒をやや多く,焼土粒,炭化物を若干含む(SI041覆土)
4 暗褐色土 炭化物を若干含む(SI043覆土)
5 暗褐色土 黄褐色粘土粒,炭化物を若干含む(SI043覆土)
6 暗褐色土 黄褐色粘土粒,焼土粒を若干,炭化物をやや多く含む(SI043覆土)
7 褐色土 黄褐色土粒をやや多く含む(SI043覆土)
8 褐色土 焼土ブロック,焼土粒,炭化物をやや多く含む(SI043覆土)
9 黒褐色土 黄褐色粘土粒,焼土粒を若干含む(SI043覆土)
10 暗褐色土 黄褐色土ブロックをやや多く含む(SI043覆土)

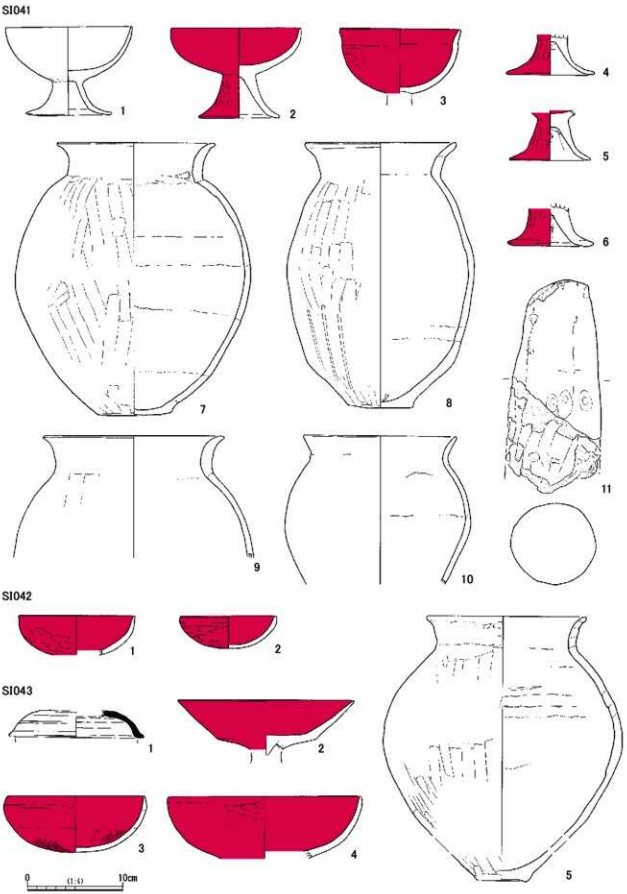


SI041カマド a-a' b-b' 土層説明

1 黒褐色土 焼土粒を若干含む
2 暗褐色土 焼土粒を多く含む
3 黒褐色土 暗褐色土,焼土粒を若干含む
4 黄褐色砂質土 焼土粒をやや多く,黒褐色土を若干含む
5 黄褐色砂質土 焼土粒を若干含む
6 黄褐色砂質土 黒褐色土を多く含む
7 黄褐色土
8 黒褐色土 焼土ブロック,炭化物をやや多く含む
9 黒褐色土 黄褐色土粒を若干含む
10 黄褐色土

0 (1:10) 1m

第52図 SI041・042・043 平面図



第53図　SI041・042・043 出土遺物実測図

重複関係　SI040・041、SB005に掘り込まれている。

規模と形状　残存一辺2.16mで、壁高は18cmである。西側に壁溝が一部確認された。

出土遺物　図示した遺物は、土師器2点である。1・2は土師器坏で、内外面ともに赤彩されている。器面調整はヨコナデやヘラケズリが施されている。1の外面にイネ圧痕が1か所確認できる。

時期　出土遺物の状況から、中期の5世紀後半と考えられる。

SI043（第52・53図、図版10・36）

9Q-40・41・42・43・50・51・52・53・60・61・62・63・71グリッドに所在する。

重複関係　SI036・037・041・047・050に掘り込まれている。

規模と形状　一辺5.28mの正方形である。主軸方向はN－67°－E、壁高は20～40cmである。北西壁の一部及び南側に壁溝が巡っている。

ピット　14基検出された。配列や規模がいずれも不規則であるため明瞭ではないが、P1・8・9・10が主柱穴の可能性を残す。床面からの深さは11～66cmである。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器1点、土師器4点である。1は須恵器坏蓋で回転ヘラケズリ調整が施されている。口縁部は欠損し、天井部は平らに近い形状である。2は土師器高坏坏部で、内外面ともに赤彩されている。3・4は土師器坏で、丸底の半球形を呈している。内外面ともに赤彩されている。3はヨコナデやヘラミガキ調整が施されている。4はヨコナデやヘラケズリで調整されている。5は土師器甕で、ヨコナデやヘラケズリ調整が施されている。胴部外面にはススが付着し、内面底部にイネ圧痕が1か所確認できる。1～5は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、中期の5世紀前半と考えられる。焼土や炭化材、炭化物が床面から出土しており、焼失家屋とみられる。

SI044（第54図、図版6）

8R-51・52・53・61・62・63・71・72・73・81・82・83・84グリッドに所在する。

重複関係　SI027・028・031に掘り込まれている。

規模と形状　長軸長6.48m・残存短軸長5.20mの方形で、主軸方向はN－9°－E、壁高は10cmである。

ピット　1基検出された。P1は径48cm、床面からの深さは12cmである。

出土遺物　土師器細片のみ出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の6世紀前葉と考えられる。

SI048（第55図、図版10）

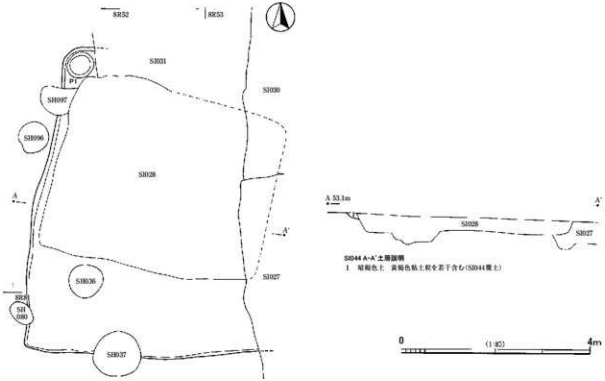
9Q-18・19・28・29・9R-20グリッドに所在する。

重複関係　SI045、SB002に掘り込まれている。

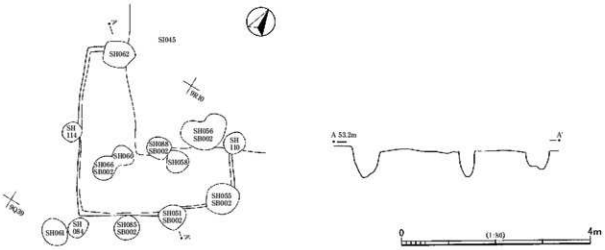
規模と形状　長軸長3.52m・短軸長3.32mの方形である。主軸方向はN－31－W、壁高は10cmである。

出土遺物　土師器細片のみ出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。



第54図 SI044 平面図



第55図 SI048 平面図

SI049（第56図、図版11・61）

8Q~46・56・57・66・67・76・77グリッドに所在する。

重複関係　SI029A、SK004に掘り込まれている。

規模と形状　長軸長5.04m・残存短軸長2.04mの方形で、主軸方向はN－11°－W、壁高は10cmである。

ピット　4基検出された。P1は規模から主柱穴の可能性も考えられる。径56cm、床面からの深さは68cmである。P2～4の床面の深さは21～50cmである。

出土遺物　須恵器・土師器・石製品が出土している。そのうち図示した遺物は、石製品1点である。1は滑石製の鎌形模造品と想定される。切っ先部分が残存し、柄に近い部分に穿孔が施されている。

時期　出土遺物の状況から、中期の5世紀後半と考えられる。

SI050（第57図、図版11）

9P~49・9Q~32・40・41・50グリッドに所在する。

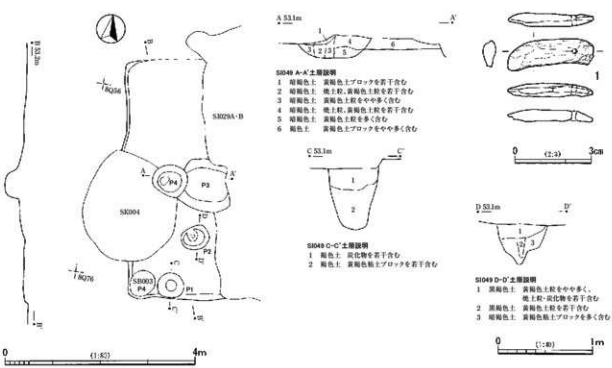
重複関係　SI047に掘り込まれており、SI043・047を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長5.44m・残存短軸長2.00mの方形である。壁高は30cmほどである。

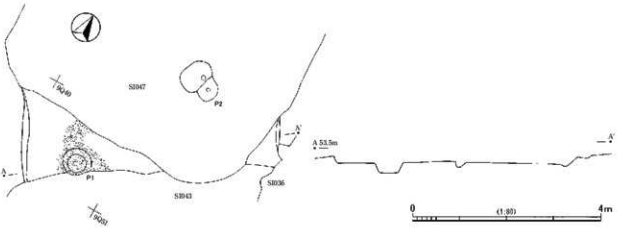
ピット　2基検出された。P1は径60cm、床面からの深さは20cmである。P2は長軸長96cm・短軸長64cm、床面からの深さは50cmである。

出土遺物　土師器細片が出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。



第56図　SI049 平面図・出土遺物実測図



第57図　SI050 平面図

SI051（第58図、図版11・60）

9P-18・19・28・29・38・39 グリッドに所在する。

重複関係　SI047・052 に掘り込まれている。

規模と形状　残存長軸長1.40m・残存短軸長0.92mの方形である。壁高は20cmである。

ピット　6基検出された。P1・6は配列・規模から主柱穴の可能性がある。P1は径32cm、床面からの深さは74cmである。P6は径36cm、床面からの深さは63cmである。P2～5は性格不明である。床面からの深さは14～51cmである。

出土遺物　須恵器・土師器・土製品が出土した。そのうち図示した遺物は、土師器3点、土製品1点である。1は土師器坏で、須恵器模倣坏蓋である。内外面ともに赤彩されている。外面口縁部にヨコナデ、胴部にヘラケズリ後にナデ、内面にヘラナデ調整が施されている。2は土師器高坏脚部で、タテ方向のヘラケズリが施されている。3は土師器甕で、ヘラケズリ・ヘラナデにより調整されている。4は不明土製品で、表面に篠竹状植物茎の圧痕が認められる。1・4は床面直上、2は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の6世紀前葉と考えられる。

SI052（第58図、図版11・37・60）

9P-27・28・37・38 グリッドに所在する。

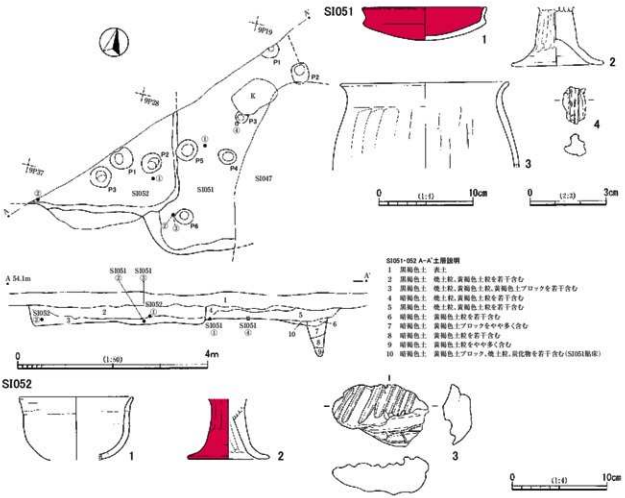
重複関係　SI051 を掘り込んでいる。

規模と形状　残存長軸長3.12m・短軸長1.84mの方形である。壁高は30cmである。

ピット　3基検出された。P2は規模から主柱穴と考えられる。P2は径48cm、床面からの深さは76cmである。P1・3は配列から補助柱穴の可能性がある。P1は径48cm、床面からの深さは50cmである。P3は径40cm、床面からの深さは66cmである。

出土遺物　図示した遺物は、土師器2点、土製品1点である。1は土師器鉢で、内面に輪積み痕がみられる。外面にケズリ、内面にナデ調整が施されている。2は土師器高坏脚部で、外面を赤彩している。外面にヘラケズリ、内面にヘラナデが施されている。3は不明土製品で、完形である。船底形をなし、表面には篠竹状植物茎の圧痕が認められる。1～3は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の7世紀前半と考えられる。



第58図　SI051・052 平面図・出土遺物実測図

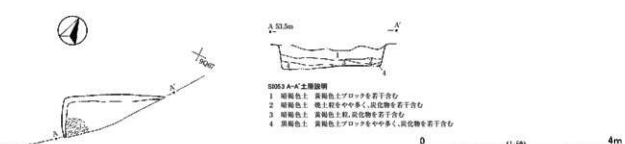
SI053（第59図、図版11）

9Q-66・76 グリッドに所在する。

規模と形状　残存長軸長2.12m・短軸長0.80mの方形で、主軸方向はN－29°－W、壁高は30cmである。

出土遺物　土師器坏・高坏・甕等が出土した。坏は須恵器模倣坏蓋や坏身が確認されている。すべて破片のため、実測等の記録は省略した。

時期　出土遺物の状況から、後期の７世紀前半と考えられる。



第59図　SI053 平面図

SI056（第60・61図、図版12・37・38・63）

10Q-64・65・66・67・68・75・76・77・78・85・86・87・88・95・96 グリッドに所在する。

重複関係　SI057A・B、SK029 を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長7.04m・短軸長6.64mの方形である。主軸方向はN－190°－W、壁高は17～73cmである。南壁を除き、壁溝が全周している。

カマド　南壁中央に付設されている。規模は焚口から煙道部まで1.5m、燃焼部幅は0.5mである。袖部は山砂や粘土質土を含み基盤層の上から構築されている。

ピット　7基検出された。P1～4は配列から主柱穴と考えられる。P1は長軸長40cm・短軸長32cm、床面からの深さは90cmである。P2は径20cm、床面からの深さは64cmである。P3は長軸長56cm・短軸長44cm、床面からの深さは75cmである。P4は径64cm、床面からの深さは68cmである。P5は配列・規模から円形の貯蔵穴と考えられる。径80cm、床面からの深さは64cmである。P6・7の床面からの深さは25cmである。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器3点、土師器23点、鉄製品1点である。1は須恵器蓋で、稜を持ち口縁部が外反している。2は須恵器甕で、頸部に櫛描き波状文が施文されている。3は須恵器瓶である。4～10は土師器坏で、9は須恵器模倣坏身である。4・5・8・9は完形である。4～10は内外面ともに赤彩されている。このうち4・6の赤彩範囲は外面口縁部下まで、8は内面胴下部まで塗り分けられている。4・5・8は外面がヘラケズリにより調整されている。7・10は口縁部にナデ調整が施され、わずかに内湾している。6・9はナデ調整が施されている。11～19は土師器高坏で、11は完形、15・16は坏部、17～19は脚部のみ残存している。器面調整はナデやヘラケズリが施されている。11～16は内外面、17～19は外面が赤彩されている。11・13～16の坏部は埦形を呈し、12は大型で口縁部が外に開く形態を示している。20～23は土師器甕で、器面調整はナデやヘラケズリが施されている。21の外面口縁部にイネ圧痕が1か所確認できる。24は鉢で、内外面ともに赤彩されている。25・26は土師器小形壺で、球形に近い胴部を呈する。25は口縁部が上方に立ち上がり、ナデやヘラケズリによる器面調整が施されている。26は口縁部が欠損し、ナデやヘラケズリ調整されている。27は鉄鏃である。片刃式長頸鏃で、刃部及び茎部の一部が欠損する。鏃身関は錆膨れにより不明瞭だが、角関と考えられる。茎部は木質部分が残っている。4・10はカマド覆土内から出土している。

時期　時期は出土遺物の状況から、後期の6世紀前半と考えられる。

SI057A（第62・63図、図版12・38・39・40・41・60・63）

10O-36・37・38・39・46・47・48・49・56・57・58・59・66・67・68・69 グリッドに所在する。

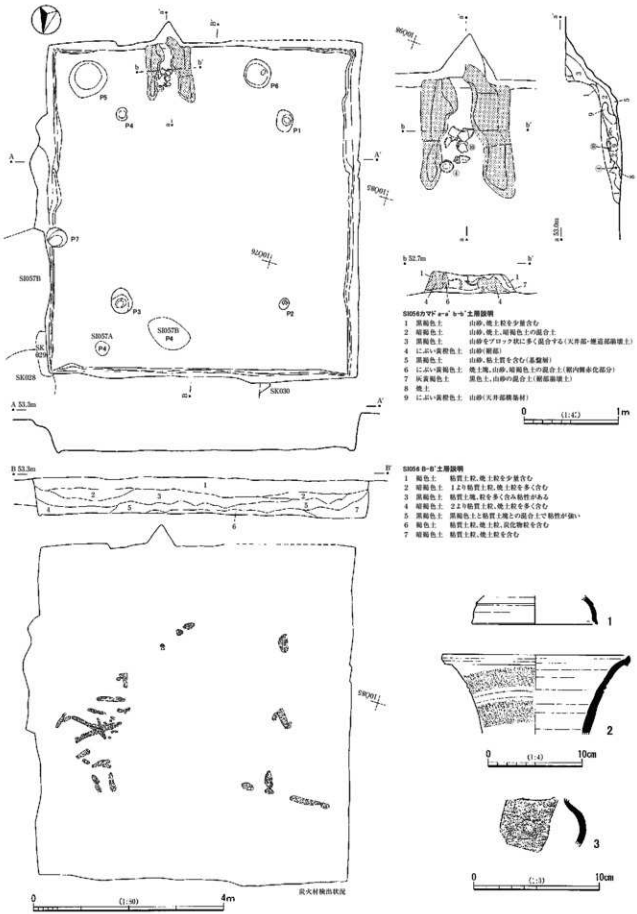
重複関係　SI056 に掘り込まれており、SI057B、SK027・028・029 を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長5.28m・残存短軸長1.08mの方形で、主軸方向はN－88°－E、壁高は40cmである。

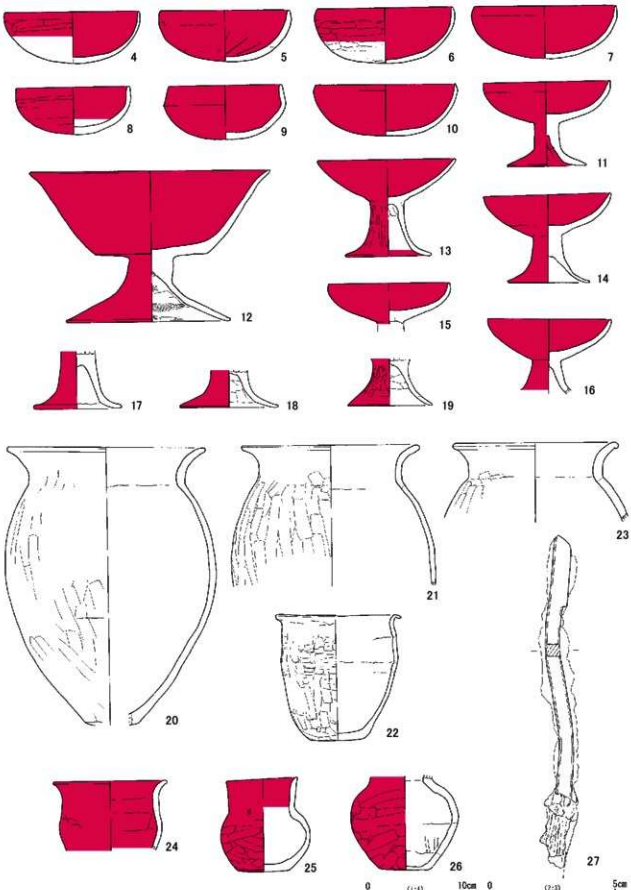
カマド　東壁中央に付設された。規模は焚口から煙道部まで1.28m、燃焼部幅は0.36mである。袖部は山砂を含み基盤層の上から構築されている。

ピット　5基検出された。P1～4は配列から主柱穴と考えられる。P1は径36cm、床面からの深さは64cmである。P2は径28cm、床面からの深さは58cmである。P3は径32cm、床面からの深さは51cmである。P4は径28cm、床面からの深さは56cmである。P5は配列・規模から楕円形の貯蔵穴と考えられる。長軸長72cm・短軸長64cm、床面からの深さは57cmである。

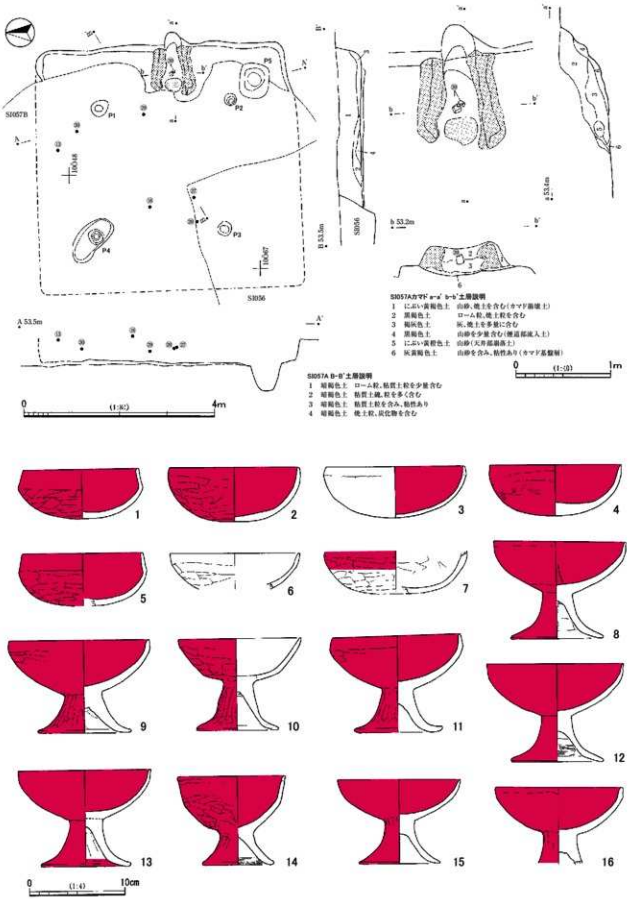
出土遺物　須恵器・土師器・土製品等が出土した。そのうち図示した遺物は、土師器37点、土製品3点、



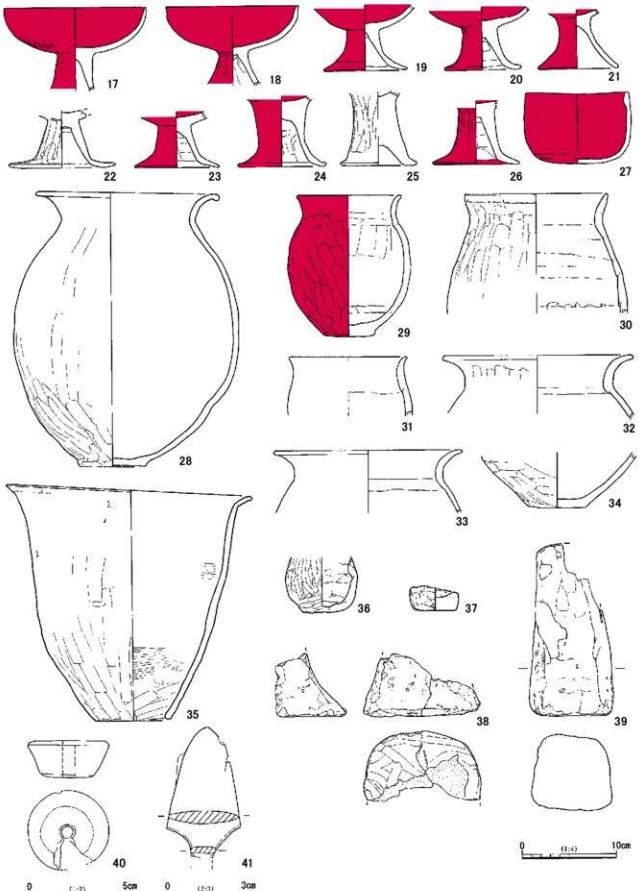
第60図　SI056 平面図・出土遺物実測図



第61図　SI056 出土遺物実測図



第62図　SI057A 平面図・出土遺物実測図



第63図　SI057A 出土遺物実測図

鉄製品１点である。１～７は土師器坏で、１・５は須恵器模倣坏身、３・４・６は須恵器模倣坏蓋である。１・２・４・５は内外面、３は内面、７は外面上部のみ赤彩されている。１は完形である。２・３は口縁部がわずかに内湾する。１～７はナデやヘラケズリによる器面調整が施されている。８～26は土師器高坏で、８・10は完形、16～18は坏部、19～26は脚部のみ残存している。８・９・11～21・23・24・26は内外面が赤彩されている。８・９・11～13・15～18は埦形に近い器形を示している。11は口縁部に稜をもち、わずかに内湾している。27は土師器鉢で、外面にヘラケズリ、内面にヘラナデの器面調整が施されている。内外面ともに赤彩されている。28～34は土師器甕である。28・30～34はナデやヘラケズリによる調整が施されている。29は外面が赤彩され、ナデ調整されている。30の内面にモミガラ圧痕が１か所確認できる。33の口縁部は破損後、新たに粘土を貼り付けた上で再度焼成して補修している。内面に種子圧痕が１か所確認できる。35は土師器甑で、口縁部は短く外傾している。ヘラケズリやヘラナデにより調整されている。内面口縁部にイネ圧痕が１か所確認できる。36・37は手捏ね土器である。36はヘラミガキ、37はナデにより調整されている。38・39は支脚で、39は方柱状をなす。38の底面には篠竹状の圧痕が多数みられ、モミガラ圧痕も１か所確認できる。39にはケズリやナデ調整が施されている。40は土製紡錘車である。41は鉄鏃で、鏃身部のみ残存している。頭部形態は柳葉形で、断面形は丸造である。39の支脚はカマド内の出土で、１～38・40・41は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、中期の５世紀後半と考えられる。

SI058（第64図、図版13・41・60）

10O-17・18・19・27・28・29・37 グリッドに所在する。

重複関係　SK016・017・018に掘り込まれており、SI057B・061・062、SK035・045を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長5.84m・残存短軸長4.00mの方形で、主軸方向はN－18°－W、壁高は45cmである。

ピット　３基検出された。P2・3は配列から主柱穴と考えられる。P2は径72cm、床面からの深さは68cmである。P3は径120cm、床面からの深さは100cmである。P1は長軸長72cm・短軸長64cm、床面からの深さは42cmである。

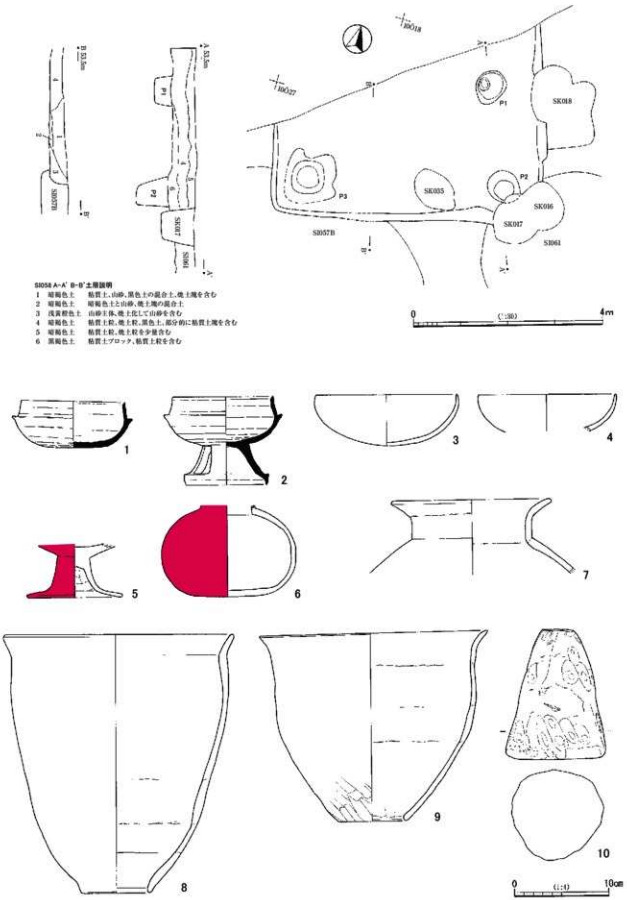
出土遺物　図示した遺物は、須恵器２点、土師器７点、土製品１点である。１は須恵器坏で、口縁部に稜を有する。底部に回転ヘラケズリが施されている。口縁部はやや内傾し、受部は外方に伸びる。２は須恵器高坏である。坏部口縁は内傾し、稜を有する。受部は外方に伸び、底部はやや丸い。脚部は短く外反し、端部は段をなしている。透孔が３か所穿孔されている。３・４は土師器坏で、丸底で口縁部が外に開くものである。内外面ともに摩耗しており、調整は不明である。５は土師器高坏脚部で、外面が赤彩されている。内外面は摩耗しているが、脚部にヘラケズリ痕がみられる。６は土師器坩で、口縁部は欠損している。外面は赤彩され、下膨れの球形に近い胴部を呈している。７は土師器甕で、ナデによる器面調整が施されている。８・９は土師器甑で、９は胴部中位に膨らみをもつ。ナデにより調整されている。内面にモミガラ圧痕が１か所確認できる。10は円錐状の支脚で、指によるナデ調整が施されている。

時期　出土遺物の状況から、後期の６世紀前半と考えられる。

SI059（第65・66・67図、図版13・41・42・43・60・61）

9P-90・91・92・93・10P-00・01・02・03・10・11・12・13・20・21・22・23 グリッドに所在する。

重複関係　SK019・031に掘り込まれており、SI060・061・062、SK026・034・041を掘り込んでいる。



第64図 SI058 平面図・出土遺物実測図

規模と形状　長軸長6.28m・短軸長6.20mの方形である。主軸方向はN－14°－W、壁高は50cmである。

カマド　北壁中央カマドAと中央やや東よりカマドBの２基が付設され、カマドBからAにつくりかえている。カマドAは、規模が焚口から煙道部まで2.5m、燃焼部幅は0.3mである。袖部は山砂を含む基盤層の上から構築されている。カマドBは、煙道部及び燃焼部の一部のみ確認された。煙道部は長さ1.4m、燃焼部幅は0.3mである。

ピット　６基検出された。P1～4は配列から主柱穴と考えられる。P1は径24cm、床面からの深さは78cmである。P2は長軸長52cm・短軸長40cm、床面からの深さは80cmである。P3は径32cm、床面からの深さは80cmである。P4は径44cm、床面の深さは81cmである。P5は位置・規模から方形の貯蔵穴と考えられる。長軸長76cm・短軸長60cm、床面の深さは64cmである。P6は位置から出入口ピットと考えられる。径48cm、床面からの深さは58cmである。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器１点、土師器33点、土製品５点、石製品２点である。１は須恵器坏身で、口縁部は内傾し、稜を有している。受部は外方に伸び、底部は丸い。回転ヘラケズリ調整が施されている。２～22は土師器坏で、２・４は完形である。２・４・６・11・15～20は須恵器模倣坏蓋、３・５・７～10・13・14・21・22は須恵器模倣坏身である。２・３・５・７・８・10・12・15・20・21は内外面が、４は内面が、16は外面が黒色処理されている。２・４は口縁部が上方に立ち上がり、11・15～20は外傾している。20の底面に「×」の焼成後線刻がみられる。２～４・12・15・16はミガキによる器面調整が施されている。５は外面にヘラケズリ、内面にヨコナデ調整がされている。６～８・10・11・13・17～19・22はナデ調整がされている。９・14・20・21は内外面が摩耗しており、調整は不明である。23～25は土師器高坏で、24・25は脚部のみ残存している。24の脚部はやや太い円筒状を呈している。25は裾部に稜を持ち、脚端部が広がっている。外面が赤彩されている。23・24はナデ調整が施されている。25は外面にヘラケズリ調整が施されている。26は土師器坩で、口縁部は欠失している。胴部下部が張り出している。27は土師器壺で、外面が赤彩されている。ヘラナデにより調整され、外面に黒斑がみられる。28・29は土師器鉢で、28は外稜を有し、口縁部が内湾している。ナデ調整やヘラケズリにより器面調整されている。内外面に赤彩が施されている。29は口縁部が外傾し、底部にはわずかに木葉痕が残る。外面はヨコナデにより調整されている。30・31・33は土師器甕で、30は小型品で、外面に黒斑がみられる。ナデにより調整されている。31はハケやナデにより器面調整されている。33の内面口縁部に種子圧痕が１か所確認できる。32・34は土師器甑で、胴部上半に張りをもち、口縁部はゆるやかに外反している。35～37は支脚である。35が角錐状、36・37が円錐状をなす。38はスサ押捺土製品である。39は土師器片を円盤状に加工したもので、上下に土器片錘にも似た刻みを有する。40・41は砥石で、40は砂岩製である。表裏面及び側面を擦り面としている。36はカマド内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の７世紀前半と考えられる。

SI060（第68・69図、図版13・43）

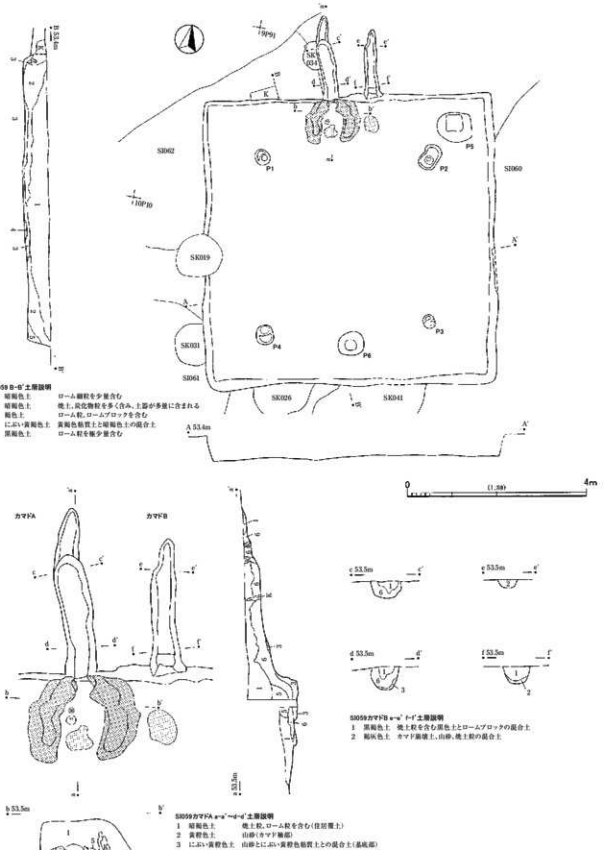
9P-84・85・86・94・95・96・10P-03・04・05・06・13・14・15・16グリッドに所在する。

重複関係　SI059・073、SK036に掘り込まれており、SI068を掘り込んでいる。

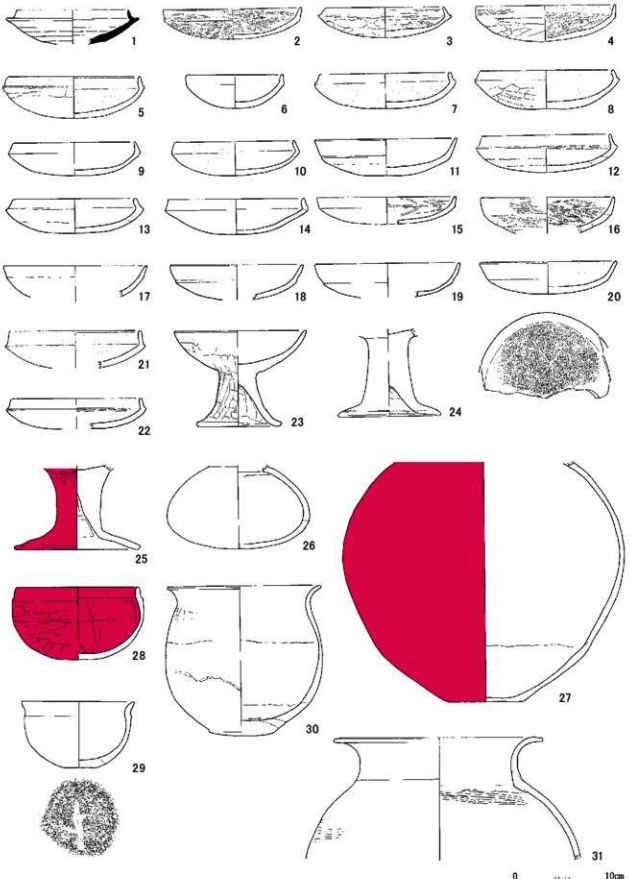
規模と形状　残存長軸長8.00m・短軸長6.84mの楕円形で、主軸方向はN－20°－E、壁高は20cmである。

炉　中央北側に位置する地床炉である。長軸長52cm・短軸長40cm、深さ５cmの楕円形である。

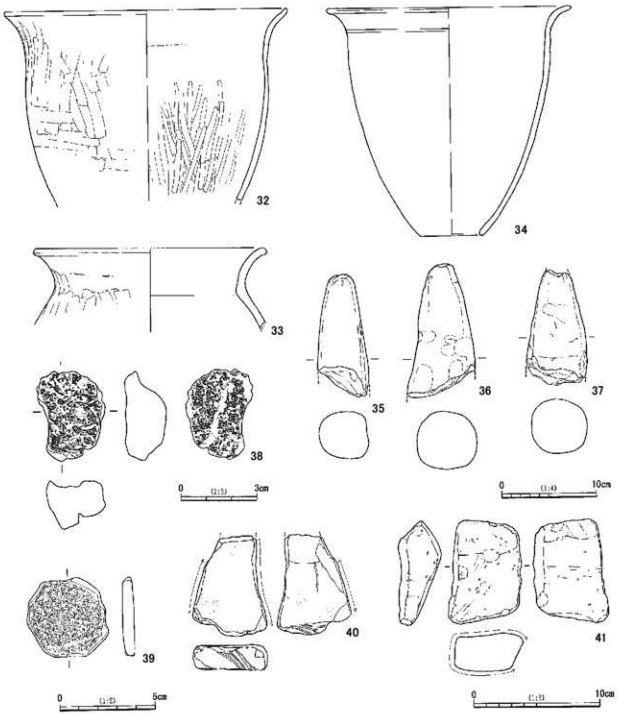
ピット　23基検出された。P1～4は配列から主柱穴と考えられる。P1は長軸長84cm・短軸長60cm、床面か



第65図　SI059 平面図



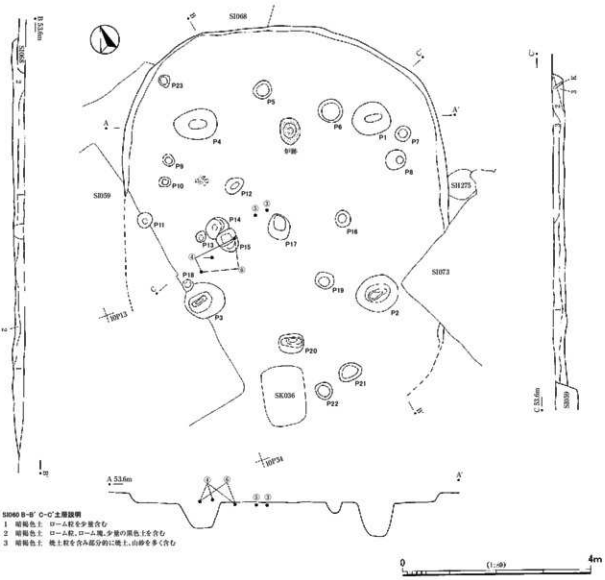
第66図　SI059 出土遺物実測図（1）



第67図　SI059 出土遺物実測図（２）

らの深さは72cmである。P2は長軸長1.0 m・短軸長0.8 m、床面からの深さは 57cmである。P3は径80cm、床面からの深さは78cmである。P4は長軸長84cm・短軸長60cm、床面からの深さは51cmである。P5～23の床面の深さは５～42cmである。

出土遺物　須恵器・土師器が出土した。そのうち図示した遺物は、土師器６点である。１は弥生末から古墳初頭の鉢で、口縁部のみ残存している。口唇部に縄文が施文されている。外面はヘラミガキ、内面はナ



第68図　SI060 平面図

デ調整が施されている。2は土師器器台で、受部のみ残存している。脚部に4か所、穿孔がみられる。内外面ともにナデによる器面調整が施される。3～6は土師器甕で、口縁部は「く」の字状に外反している。3・5は完形である。3はヘラケズリ後にヘラナデを施している。4は外面にヘラケズリ、内面にヘラナデ調整がされている。5はハケ後にケズリ調整が施されている。

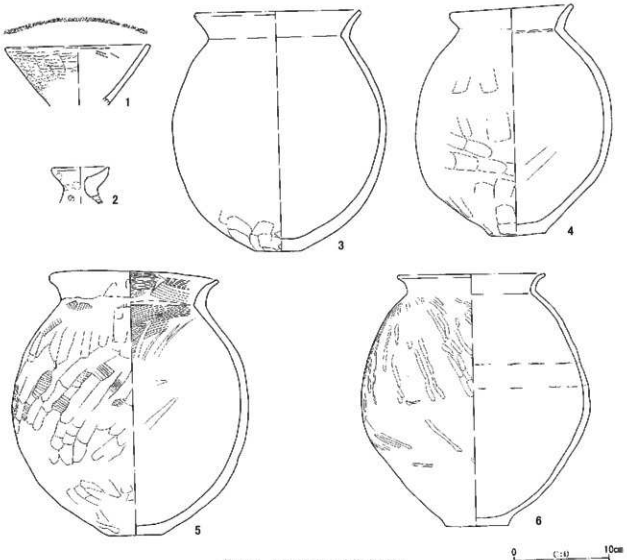
時期　出土遺物の状況から、前期の4世紀後半と考えられる。

SI063（第70図）

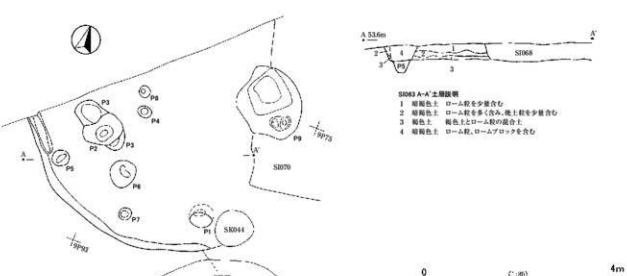
9P-63・64・73・74・82・83・84グリッドに所在する。

重複関係　SI068・070、SK044に掘り込まれている。

規模と形状　残存長軸長5.00m・残存短軸長3.92mの楕円形で、壁高は30cmである。西壁一部に壁溝が確



第69図　SI060 出土遺物実測図



第70図　SI063 平面図

認される。

ピット　9基検出された。P2・9は配列・規模から主柱穴の可能性がある。P2は長軸長80cm・短軸長56cm、床面からの深さは50cmである。P9は長軸長40cm・短軸長24cm、床面からの深さは40～73cmである。ほかのピットの床面からの深さは4～43cmである。

出土遺物　土師器が出土している。

時期　出土遺物の状況から、弥生後期から古墳前期と考えられる。

SI064（第71・72図、図版13・14・43・44・60・61）

9P-55・56・57・58・59・65・66・67・68・69・75・76・77・78・79・85・86・87・88・89 グリッドに所在する。

重複関係　SI070、SK020・033に掘り込まれており、SI065・066・067・068を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長7.60m・短軸長7.16mの方形である。主軸方向はN－63°－E、壁高は30cmである。間仕切り溝が東側に2条、南西隅に2条、西に1条確認された。

カマド　東壁中央南寄りに付設された。壁への掘り込みは少なく、カマド構築材は袖部のみ残存している。

ピット　31基検出された。P1～4は配列・規模から主柱穴と考えられる。P1は径56cm、床面からの深さは53cmである。P2は径40cm、床面からの深さは43cmである。P3は径28cm、床面からの深さは50cmである。P4は径32cm、床面からの深さは62cmである。P5は位置や規模から円形の貯蔵穴と考えられる。長軸長80cm・短軸長72cm、床面からの深さは78cmである。P30・31はP2に切られており、古い段階の柱穴の可能性がある。床面からの深さは37～50cmである。他のピットの床面からの深さは7～52cmである。

出土遺物　須恵器・土師器・土製品等が出土した。そのうち図示した遺物は、土師器17点、土製品2点、石製品1点である。1・2は土師器坏で、内外面ともに赤彩されている。2はほぼ完形である。1はヘラナデ、2はナデやケズリ調整が施されている。3～6は土師器高坏で、4・6は脚部のみ残存している。4・5は内外面ともに赤彩されている。5はヘラケズリやナデ調整が施されている。7・9～11は土師器坩で、7・9は外面、10・11は内外面ともに赤彩されている。7はヘラケズリやナデ調整、9～11はナデ調整が施されている。8は土師器壺で、口縁部のみ残存しており、折り返している。ヨコナデ調整されている。外面口縁部に種子圧痕が1か所確認できる。12・13は土師器甕で、ヘラケズリ調整が施されている。14～16は手捏ね土器で、ナデ調整により整形されている。17は奈良・平安時代の土師器坏破片で、焼成前にヘラ書きで「得」と書かれている。18は烏帽子形の支脚で、一部被熱箇所がみられる。19は土製勾玉で表裏両面から穿孔されている。20は砥石で表裏面を擦り面としている。3・6・11は床面直上、9・13・18はカマド内からの出土で、他は覆土内から出土している。なお、18の支脚は通常炉に伴って使用されるものであるが、カマド用支脚に転用されている。

時期　出土遺物の状況から、中期の5世紀後半と考えられる。

SI066（第71図、図版14）

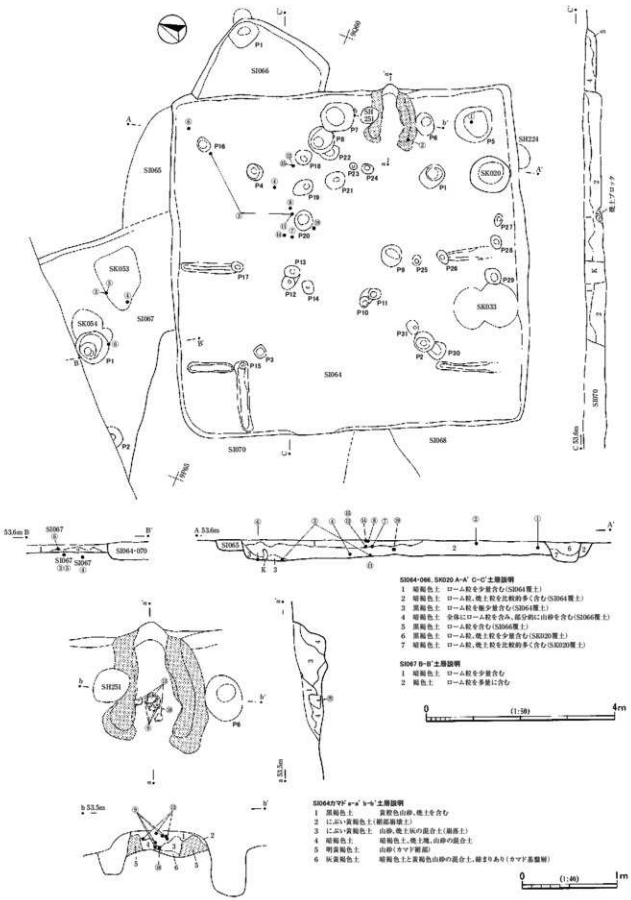
9P-47・48・49・58・59に所在する。

重複関係　SI064に掘り込まれている。

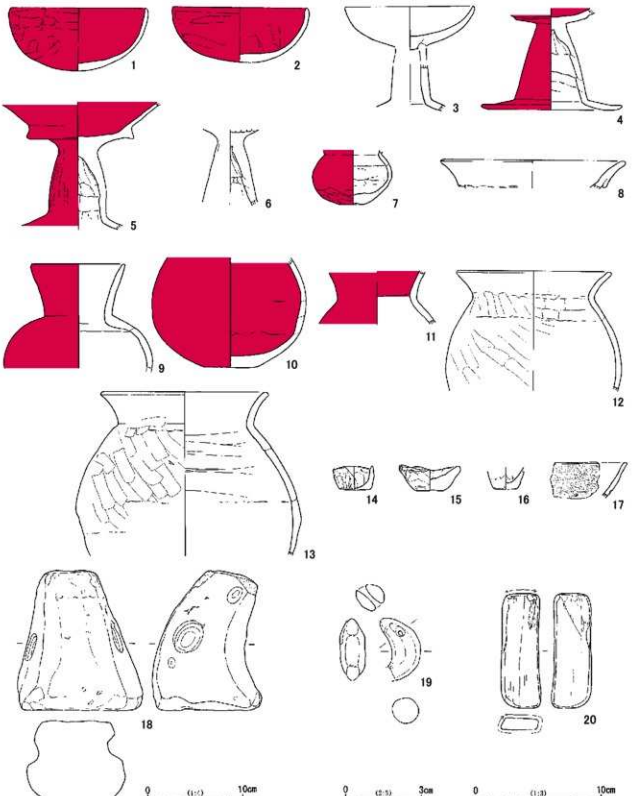
規模と形状　長軸長2.40m・残存短軸長1.92mの方形である。主軸方向はN－9°－E、壁高は30cmである。

ピット　1基検出された。P1は径48cm、床面からの深さは19cmである。

出土遺物　土師器のみ出土している。



第71図 SI064・066・067、SK020 平面図



第72図　SI064 出土遺物実測図

時期　出土遺物から、中期と考えられる。

SI067（第71・73図、図版44）

9P-36・45・46・47・55・56・57に所在する。

重複関係　SI064・070、SK053・054に掘り込まれており、SI065を掘り込んでいる。

規模と形状　残存長2.96mの方形である。壁高は24cmである。

ピット　2基検出された。P1・2の床面からの深さは35～39cmである。

出土遺物　須恵器・土師器・土製品が出土した。そのうち図示した遺物は、土師器9点である。1～8は土師器高坏で、1～3は坏部、5～8は脚部のみ残存している。1～3は同一個体の可能性がある。1～4は内外面、5～7は外面が赤彩されている。5・6は脚柱の中程に膨らみをもつ。9は土師器甕で、口唇部に刻み目がみられる。1～9は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、中期の5世紀前半と考えられる。

SI068（第74図、図版14・44・45）

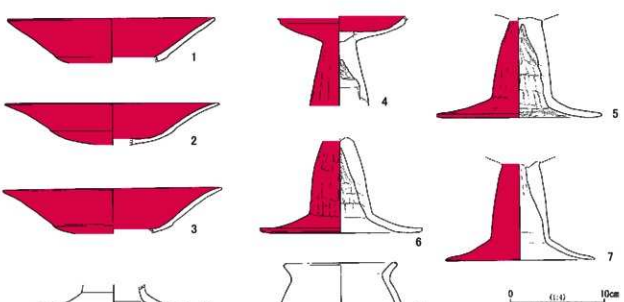
9P-64・65・74・75・76・84・85・86グリッドに所在する。

重複関係　SI060・064・070、SK044に掘り込まれており、壁面の一部のみ残存している。SI063を掘り込んでいる。

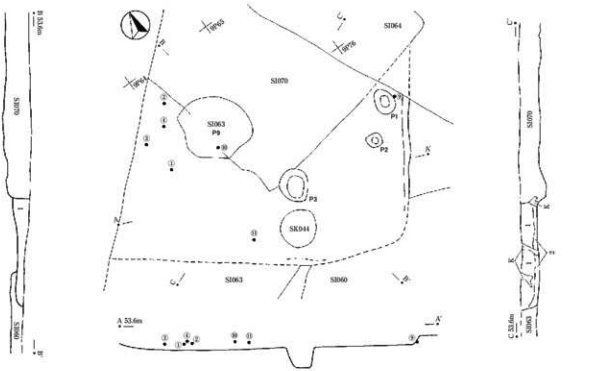
規模と形状　規模は推定で、一辺6.0m、壁高は20cmである。

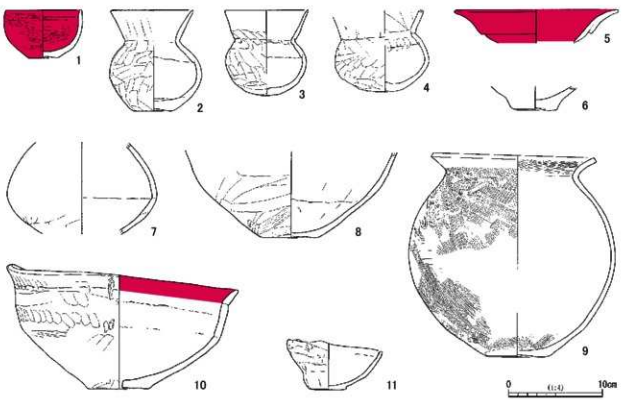
ピット　3基検出された。P1～3の床面の深さは28～43cmである。

出土遺物　須恵器・土師器・土製品が出土した。そのうち図示した遺物は、土師器11点である。1は土師器鉢で、内外面ともに赤彩されている。ナデやミガキにより調整されている。2～4は土師器坩で、ナデやヘラケズリ調整が施されている。5・7は土師器壺である。5は折り返し口縁を呈し、内外面ともに赤彩されている。7はナデやヘラケズリ調整が施されている。6・8・9は土師器甕である。9は外面にハケ、



第73図　SI067 出土遺物実測図





第74図　SI068 平面図・出土遺物実測図

内面にナデやハケ調整が施されている。底部にイネ圧痕が１か所確認できる。10は土師器甑で、濾過用と考えられ底部に小さい孔が穿たれている。内面口縁部が赤彩されている。完形である。ナデにより調整され、外面に指頭痕がみられる。内面口縁部にモミガラ圧痕が１か所確認できる。11は手捏ね土器で、ナデにより調整されている。外面に輪積み痕がみられる。１～11は覆土内からの出土である。

時期　出土遺物の状況から、前期の４世紀中葉と考えられる。

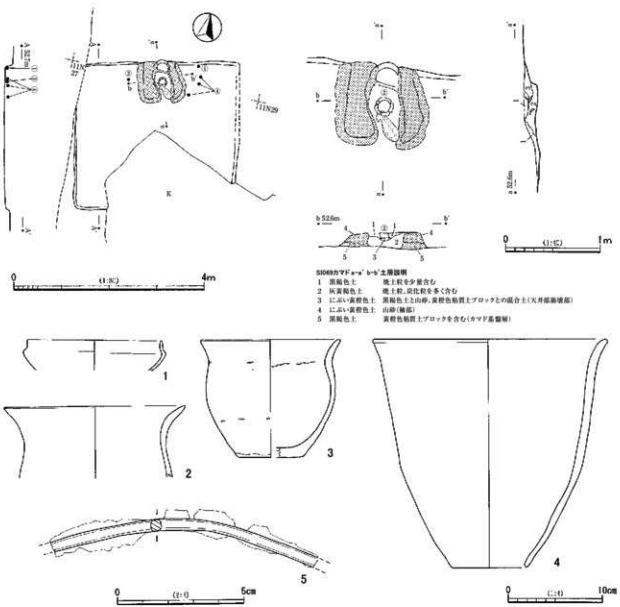
SI069（第75図、図版14・45・63）

11N-18・19・27・28・37・38グリッドに所在する。

規模と形状　長軸長3.44m・短軸長3.12mの方形である。主軸方向はN－11°－W、壁高は15cmである。

カマド　北壁中央に付設される。規模は焚口から煙道部まで80cm、燃焼部幅は16cmである。

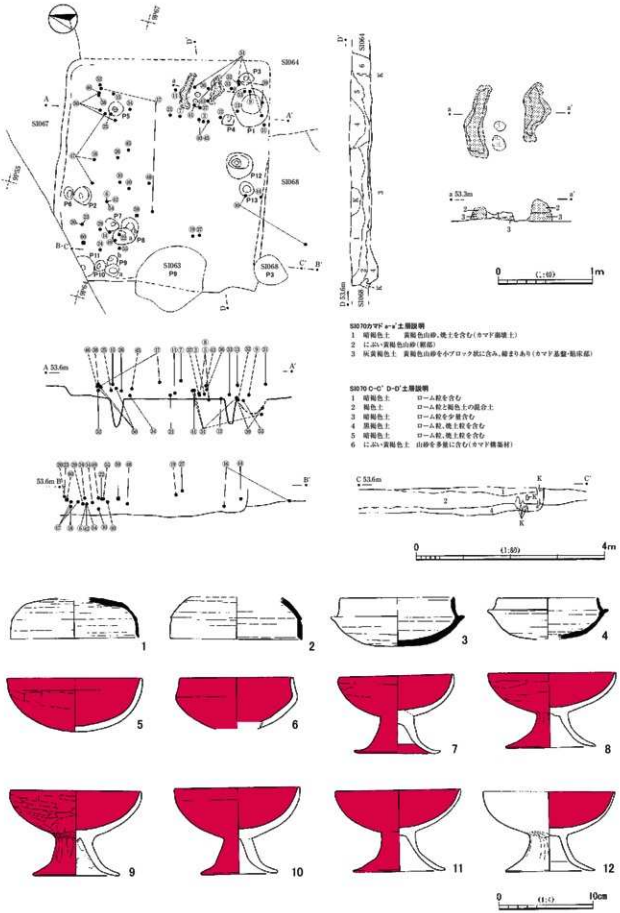
出土遺物　須恵器・土師器・鉄製品が出土した。図示した遺物は、土師器４点、鉄製品１点である。１は



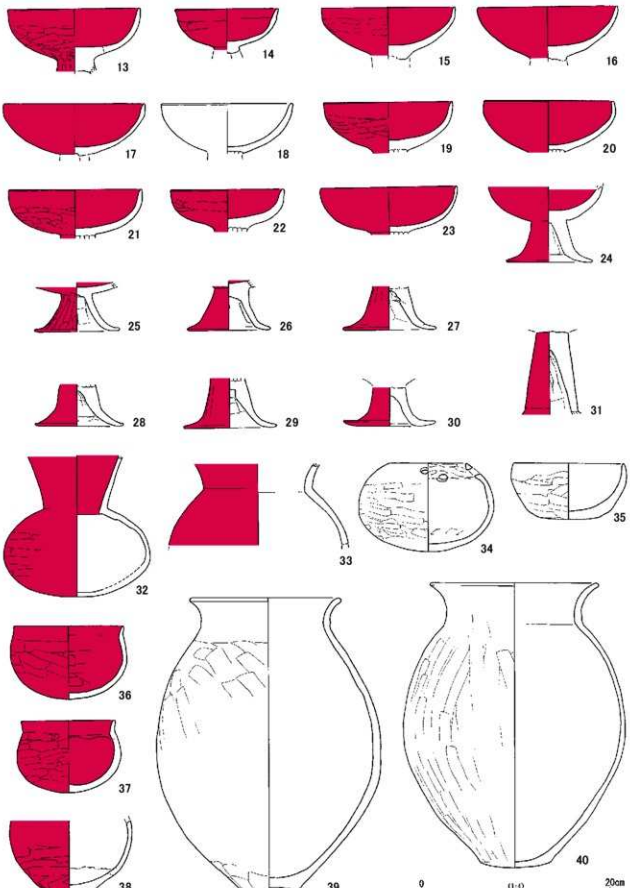
第75図　SI069 平面図・出土遺物実測図

土師器坏で、須恵器模倣坏身である。ナデにより調整されている。２・３は土師器甕で、ナデ調整が施されている。３は小型品で、器高に比して口径が大きく、口縁部は緩やかに外反し、広口を呈している。４は甑である。５は用途不明の棒状鉄製品で、断面は円形である。１は床面直上、他は覆土内から出土している。
時期　出土遺物の状況から、後期の６世紀後半と考えられる。

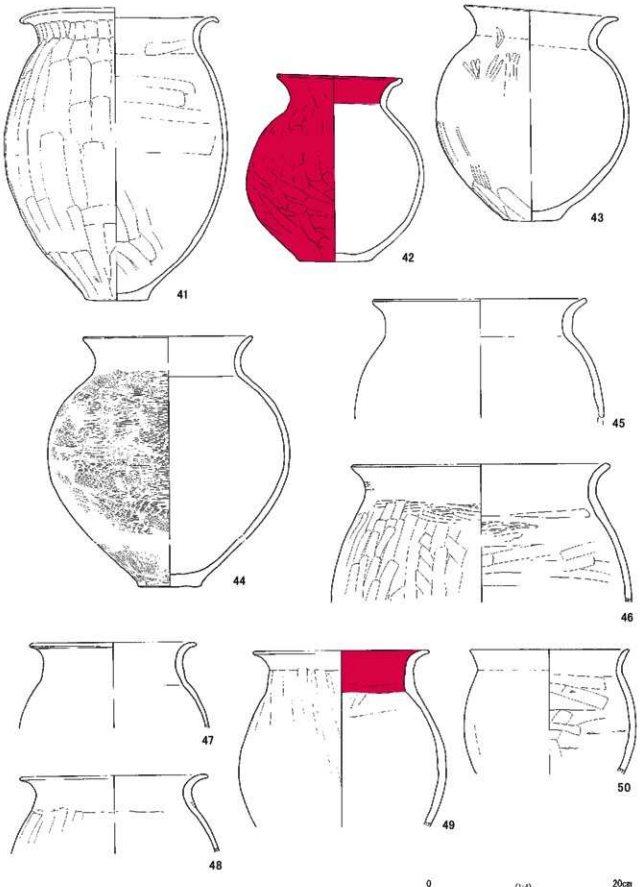
SI070（第76・77・78・79図、図版14・15・45・46・47・48・49）
9P-54・55・56・64・65・66・74・75・76・84・85・86 グリッドに所在する。
重複関係　SI063・064・067・068を掘り込んでいる。
規模と形状　残存長軸長4.76m・短軸長4.44mの方形である。主軸方向はN－80°－E、壁高は15cmである。
カマド　東壁南寄りに付設される。遺構による削平で袖部の一部と燃焼部のみ残存している。
ピット　13基検出された。P1は配列・規模から円形の貯蔵穴と考えられる。径80cm、床面からの深さは60cmである。P4・5・7は配列から主柱穴と考えられる。P4は径24cm、床面からの深さは53cmである。P5は径28cm、床面からの深さは60cmである。P8a・8bは柱の建て替えの可能性があり、P8bが古く、P8aが新しい。直径32cm、床面からの深さは24～70cmである。P2・3・6・9～13は性格不明である。
出土遺物　図示した遺物は須恵器４点、土師器54点、土製品２点である。１・２は須恵器蓋で、ヘラケズリ調整が施されている。口縁部は直立し、段を有する。天井部が丸くつくられている。３・４は須恵器坏で、口縁部は内傾し、稜を有する。受部は外方に伸び、底部は丸くつくられている。回転ヘラケズリ調整が施されている。５・６は土師器坏で、５は須恵器模倣坏蓋、６は須恵器模倣坏身である。５は口縁部が外反し、６は内傾している。内外面ともに赤彩され、ナデ調整が施されている。７～31は土師器高坏で、７～10・12は完形、13～23は坏部、25～31は脚部のみ残存している。７～11・13～17・19～26は内外面、12は内面、27～31は外面が赤彩されている。調整は７・10・14・15・17・19・26・27は内外面にナデ、８・９・12・13・21・22・25はケズリやナデ、11はヘラナデやナデ、16・20は内面にナデ、28・29は外面にナデ、内面にヘラケズリ、30は内面にヘラケズリ調整が施されている。７の脚内面にモミガラ圧痕が１か所、21外面、24内面にイネ圧痕が１か所確認できる。32は土師器坩で、内外面ともに赤彩されている。ヘラケズリやナデ調整が施されている。33・38は土師器壺で、外面に赤彩されている。38はヘラナデやユビナデにより調整されている。34は土師器無頸壺である。底部に黒斑がみられ、口縁部付近にケズリ、内外面にナデ調整が施されている。口縁部付近に２か所焼成前の穿孔がみられる。35～37は土師器鉢である。35は口縁部がわずかに内湾している。外面にヨコナデやヘラケズリ、内面にナデ調整が施されている。36・37は内外面ともに赤彩されている。36はヨコナデやヘラケズリ、37はヘラケズリやナデにより調整されている。39～51は土師器甕で、40～43は完形である。42は外面と口縁部内面、49は口縁部内面が赤彩されている。調整は39・41・42・46・50はヘラケズリやナデ、40・48・49はナデ、43は外面にヘラケズリやヘラミガキ、内面にナデ、44はハケやナデ、47はヨコナデにより整形されている。51は底部を穿孔している可能性がある。40の外面にモミガラ圧痕が１か所、51の内面と外面にイネ圧痕が各１か所確認できる。52～55は土師器甑で、52・53は完形である。55はケズリやナデ、53はナデ調整が施されている。52の外面にはイネ圧痕が１か所、53外面にはモミガラ圧痕が１か所確認できる。56～58はミニチュア土器で、ナデ調整が施されている。56は内面に輪積み痕がみられる。外面にイネ圧痕が１か所みられる。57は器台脚部に３か所、受け部に１か所穿孔がみられる。59・60は支脚である。59は方柱状で一部被熱箇所がみられ、表面の風化が著しい。60は円柱状で荒いケズリやナデで整形



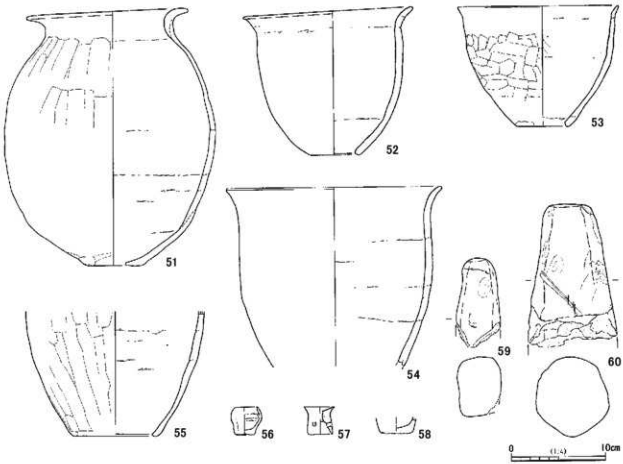
第76図　SI070 平面図・出土遺物実測図



第77図　SI070 出土遺物実測図（1）



第78図　SI070 出土遺物実測図（2）



第79図　SI070 出土遺物実測図（3）

され、一部ススや被熱箇所がみられる。3・5～27・29・31～34・36～55・59・60は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、中期の5世紀後半と考えられる。

SI071（第80図、図版15・49）

9Q-90・91・92・93・10Q-00・01・02・03・10・11 グリッドに所在する。

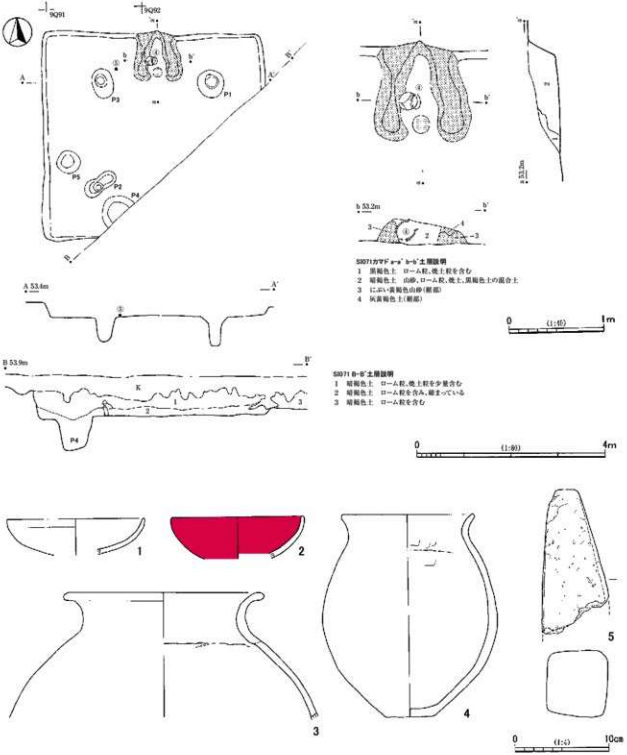
重複関係　SK058 を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長4.72 m・短軸長4.44 mの方形である。主軸方向はN－0°、壁高は30cmである。

カマド　北壁中央に付設される。規模は焚口から煙道部まで96cm、燃焼部幅は14cmである。

ピット　5基検出された。P1・2・3は配列から主柱穴と考えられる。P1は径 60cm、床面からの深さは61cmである。P3は長軸長60cm・短軸長48cm、床面からの深さは52cmである。P4・5は性格不明である。P4は径76cm、床面からの深さは109cmである。P5の床面からの深さは31cmである。

出土遺物　図示した遺物は、土師器4点、土製品1点である。1・2は土師器坏で、ナデ調整されている。2は内外面ともに赤彩されている。3・4は土師器甕で、4は完形である。3は口縁部から頸部にかけてヨコナデ調整が施されている。4は口縁部をヨコナデ、胴部をタテ方向にナデ調整が施されている。内面にはヨコ方向のヘラナデ調整がされている。5は角錐状の支脚である。4はカマド内から横位の状態で出土した。

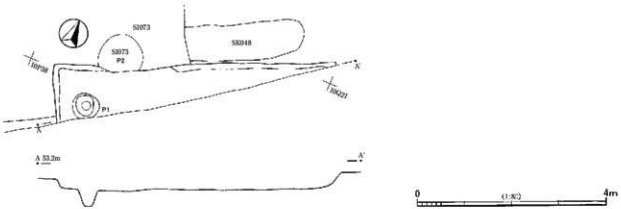


第80図　SI071 平面図・出土遺物実測図

時期　出土遺物の状況から、後期の６世紀末葉～７世紀初頭と考えられる。

SI072（第81図、図版15）

10P-28・29・10Q-20・10P-38・39 グリッドに所在する。



第81図　SI072 平面図

重複関係　SI073を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長5.94m・残存短軸長1.24mの方形である。主軸方向はN－25°－W、壁高は30cmである。

ピット　1基検出された。P1は径52cm、床面からの深さは43cmである。

出土遺物　土師器が出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。

SI073（第82・83図、図版15・49）

10P-08・16・17・18・19・26・27・28・29・36・37・38・39・47グリッドに所在する。

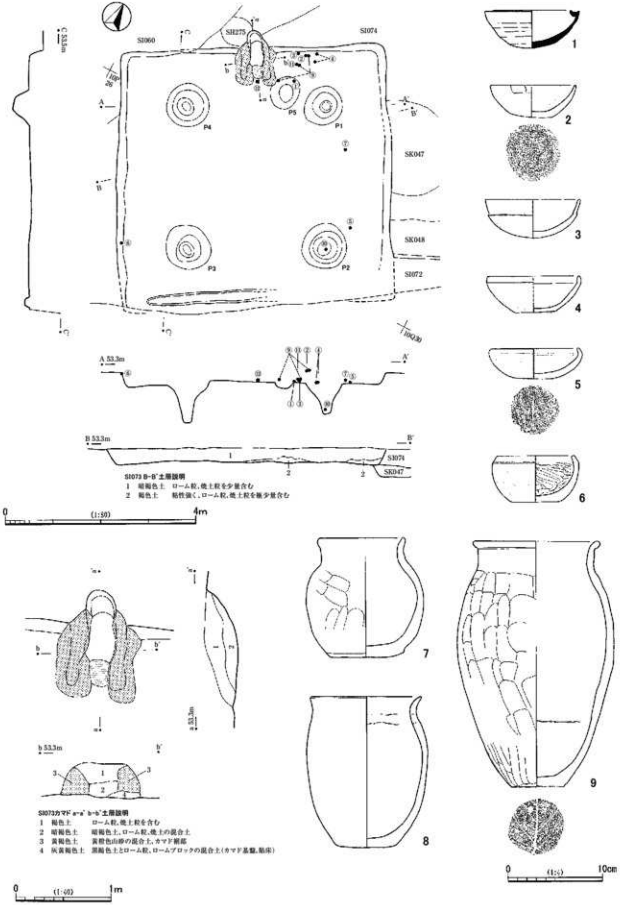
重複関係　SI072に掘り込まれており、SI060・074、SK047・048・057を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長5.84m・残存短軸長5.44mの方形である。主軸方向はN－31°－W、壁高は35cmである。南壁の一部に壁溝が確認された。

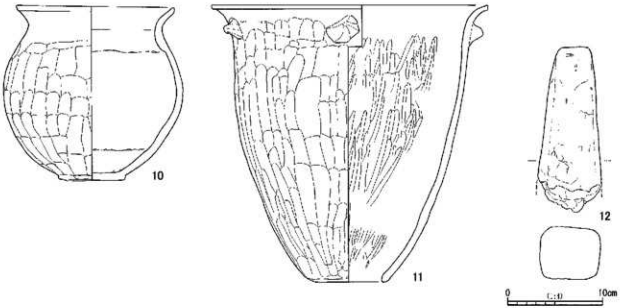
カマド　北壁中央に付設される。規模は焚口から煙道部まで96cm、燃焼部幅は26cmである。袖部の一部は貼床を基盤層として構築されている。

ピット　5基検出された。P1～4は配列から主柱穴と考えられる。P1は径84cm、床面からの深さは65cmである。P2は径92cm、床面からの深さは65cmである。P3は径96cm、床面からの深さは82cmである。P4は径96cm、床面からの深さは84cmである。P5は性格不明であるが、貯蔵穴の可能性がある。径64cm、床面からの深さは17cmである。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器1点、土師器10点、土製品1点である。1は須恵器坏身で、口縁部が短く内湾している。底面が摩耗している。湖西産と考えられる。2～5は土師器坏で、2・5は完形である。3は須恵器模倣坏蓋、4・5は須恵器模倣坏身である。いずれも内外面を黒色処理している。2～5はナデ調整が施されている。2の底面には五芒星のような焼成後線刻がみられ、5の底面には木葉痕がみられる。6は土師器鉢である。胴部が内湾し、口縁端部は内側に曲がっている。7・8は小型の土師器甕である。外面にヘラケズリ、内面にナデ調整がみられる。9・10は土師器甕で、10は完形である。ヘラナデやヘラケズリにより調整されている。9は底部に木葉痕がみられる。10の外面には種子圧痕が1か所確認できる。11は完形の土師器甑で、外面にケズリ、内面にヨコナデ後にミガキ調整が施されている。外面には突起が5か所付いている。



第82図　SI073 平面図・出土遺物実測図



第83図　SI073 出土遺物実測図

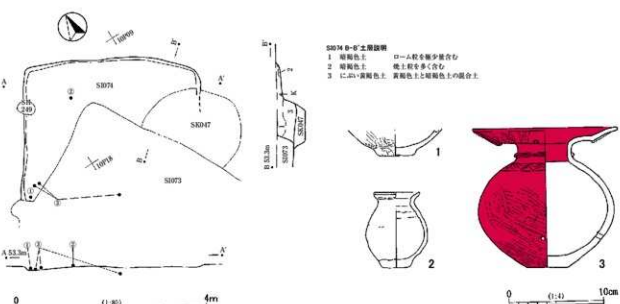
12は角錐状の支脚である。外面にモミガラ圧痕が5か所、イネ圧痕が1か所、種子圧痕が3か所確認できる。1・3・5は床面直上、12はカマド焚口前、2・4・6・7・9・11は覆土内、10はP2内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期の7世紀後半と考えられる。

SI074（第84図、図版15・50）

9P-97・10P-07・08・09グリッドに所在する。

重複関係　SI073に掘り込まれており、SK047を掘り込んでいる。



第84図　SI074 平面図・出土遺物実測図

規模と形状　長軸長3.72m・残存短軸長2.76mの方形である。主軸方向はN－32°－E、壁高は10cmである。
出土遺物　図示した遺物は、土師器３点である。１～３は土師器壺である。１は外面にミガキ、内面にナデ調整が施されている。２は口縁部がナデ調整されている。口縁部から底部にかけて輪積み痕がみられる。外面胴部にイネ圧痕が１か所確認できる。３はパレススタイルの壺で、内外面ともに赤彩され、外面胴部にミガキ、内面にナデ調整が施されている。二重口縁で、口縁部に刻み目を伴う２本１単位の棒状浮文や刺突を伴う円形浮文がみられる。頸部中央には突帯が巡り端部に刻みを施す。胴部上段に細い沈線による山形文が施文されている。胴下部に１か所焼成前穿孔がみられる。外面胴部にモミガラ圧痕が１か所、種子圧痕が２か所みられる。１～３は床面直上から出土している。
時期　時期は出土遺物の状況から、前期の４世紀前半と考えられる。

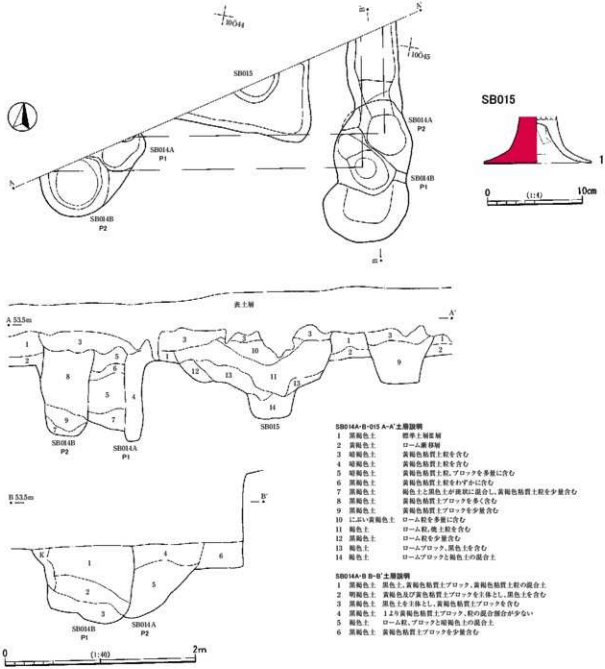
２　掘立柱建物跡

SB014A・B（第85図、図版16）
10O-43・44・45グリッドに所在する。
重複関係　SB015に掘り込まれている。２棟重複しており、SB014Bの方が新しい。
規模と形状　SB014Aは桁行２間（2.70m）、梁間は調査区外のため不明の建物跡である。各柱穴の直径は48～88cm、深さ76～81cmである。軸方位が明確にしにくいが南北方向を主軸方向とすると、N－11°－Wである。SB014Bは桁行２間（3.04m）、梁間は調査区外のため不明の建物跡である。各柱穴の直径は72～78cm、深さ79～86cmである。主軸方向はN－10°－Wである。
時期　重複関係から後期の可能性がある。

SB015（第85図、図版16・50）
10O-43・44グリッドに所在する。
重複関係　SB014A・Bを掘り込んでいる。
規模と形状　推定長軸長2.40m・推定短軸長1.20m、深さ1.00mのピットが１基検出された。
出土遺物　図示した遺物は、土師器１点である。１は土師器高坏脚部で、外面に赤彩されている。内面にヘラナデやヨコナデ調整が施されている。
時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。

３　土坑・ピット

SK007（第86図、巻頭図版２、図版17・50）
8R-72・73グリッドに所在する。
重複関係　SI028に掘り込まれている。
規模と形状　長軸長1.06m・短軸長0.84mの不整形である。確認面からの深さは48cmである。
出土遺物　図示した遺物は、土師器２点、石製品１点である。１は土師器埦で、内外面ともに赤彩されている。外面にヘラケズリ調整が施されている。２は土師器甕で、ヨコナデやヘラナデにより調整されている。３は滑石製の子持勾玉で、穿孔は表裏面から行われている。小勾玉は両側面ともに３個、背部に３個、腹部に１個の合計10個あり、背部の小勾玉は他に比べて大きい。背部の小勾玉は１個欠失している。１・３



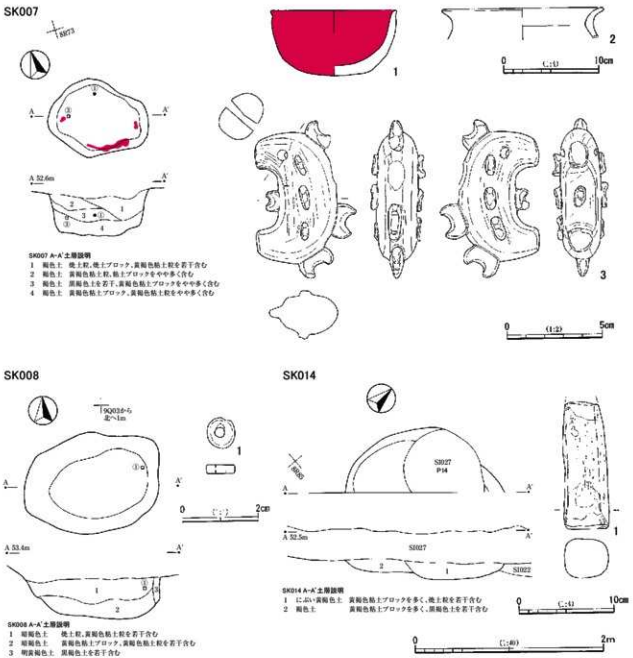
第85図　SB014A・B・015 平面図・出土遺物実測図

は覆土内からの出土である。

時期　出土遺物の状況から、中期と考えられる。

SK008（第86図、図版17・61）

8Q-92・93・9Q-02・03 グリッドに所在する。



第86図　SK007・008・014 平面図・出土遺物実測図

重複関係　SI032Aを掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長1.42m・短軸長1.08mの楕円形である。確認面からの深さは46cmである。

出土遺物　図示した遺物は、石製品１点である。１は滑石製の臼玉で、幅7.78mm、厚さ2.21mm、孔径2.34mmである。覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、中期と考えられる。

SK014（第86図）

8R-85グリッドに所在する。

重複関係　SI027に掘り込まれている。

規模と形状　長軸長1.70m・残存短軸長0.68mの円形である。確認面からの深さは13cmである。

出土遺物　図示した遺物は土製品１点である。１は方柱状の支脚で、一部被熱箇所がみられる。外面にイネ圧痕が１か所、モミガラ圧痕が１か所確認できる。

時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。

SK015（第87図、図版17）

11N-58・59グリッドに所在する。

規模と形状　長軸長2.00m・短軸長1.12mの溝状である。確認面からの深さは21cmである。

出土遺物　土師器のみ出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。

SK016・17（第87図、図版17）

10O-29・39・10P-20グリッドに所在する。

重複関係　SI058・061を掘り込んでいる。２基重複しており、SK017・016の順に新しい。

規模と形状　SK016は長軸長0.98m・短軸長0.94mの円形である。確認面からの深さは73cmである。SK017は長軸長1.08m・短軸長0.98mの円形である。確認面からの深さは75cmである。

出土遺物　土師器のみ出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。

SK018A・B・C（第87図、図版17・50）

10O-19・10P-10グリッドに所在する。

重複関係　SI058を掘り込んでいる。３基重複しており、SK018C・A・Bの順に新しい。

規模と形状　SK018Aは長軸長1.22m・短軸長0.90m、SK018Bは残存長軸長1.08m・残存短軸長0.46m、SK018Cは長軸長0.64m・短軸長0.50mの楕円形である。確認面からの深さは74～89cmである。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器１点である。１は須恵器坏身で、口縁部は直立し、端部がわずかに外反する。稜を有している。

時期　出土遺物の状況から、中期と考えられる。

SK019（第87図、図版18）

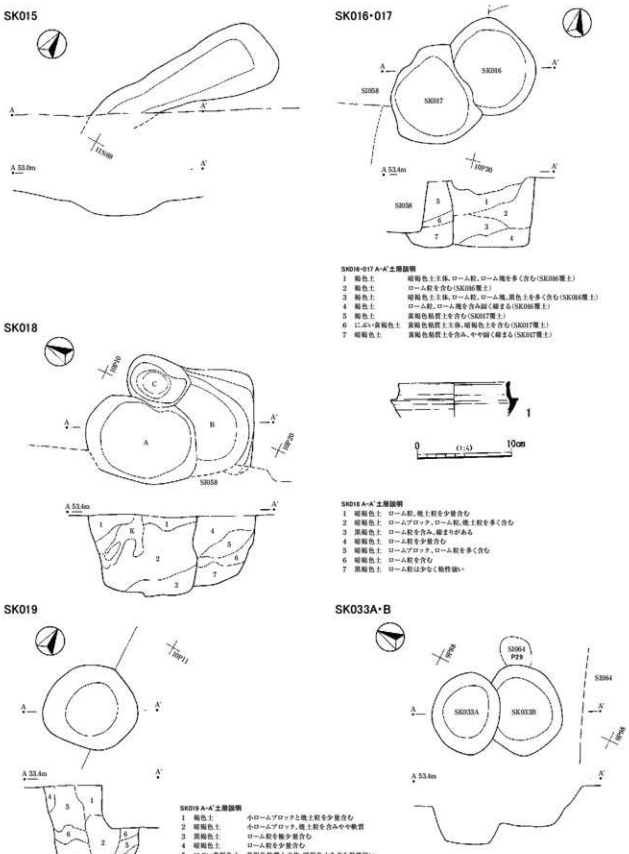
10P-10グリッドに所在する。

重複関係　SI059を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長0.94m・短軸長0.90mの円形である。確認面からの深さは65cmである。

出土遺物　土師器のみ出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。



SK016・017 A-A'土層説明

1	褐色土	暗褐色土主体、ローム粒、ローム塊を多く含む(SK016覆土)
2	褐色土	ローム粒を含む(SK016覆土)
3	褐色土	暗褐色土主体、ローム粒、ローム塊、黒色土を多く含む(SK016覆土)
4	褐色土	ローム粒、ローム塊を含み緩く締まる(SK016覆土)
5	褐色土	黄褐色粘質土を含む(SK017覆土)
6	にぶい黄褐色土	黄褐色粘質土主体、暗褐色土を含む(SK017覆土)
7	暗褐色土	黄褐色粘質土を含み、やや固く締まる(SK017覆土)

SK018 A-A'土層説明

1	暗褐色土	ローム粒、焼土粒を少量含む
2	暗褐色土	ロームブロック、ローム粒、焼土粒を多く含む
3	黒褐色土	ローム粒を含み、締まりがある
4	暗褐色土	ローム粒を少量含む
5	暗褐色土	ロームブロック、ローム粒を多く含む
6	暗褐色土	ローム粒を含む
7	黒褐色土	ローム粒は少なく粘性強い

SK019 A-A'土層説明

1	褐色土	小ロームブロックと焼土粒を少量含む
2	暗褐色土	小ロームブロック、焼土粒を含みやや軟質
3	黒褐色土	ローム粒を極少量含む
4	暗褐色土	ローム粒を少量含む
5	にぶい黄褐色土	黄褐色粘質土主体、暗褐色土を含み粘性強い
6	黒褐色土	小ロームブロックを含む
7	黒褐色土	小ロームブロックを極少量含み締まっている

第87図　SK015～019・033A・B 平面図・出土遺物実測図

SK020（第71図）

9P-79・89 グリッドに所在する。

重複関係　SI064 を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長0.84m・短軸長0.76mの円形である。確認面からの深さは40cmである。

出土遺物　土師器のみ出土している。

時期　出土遺物の状況から、中期と考えられる。

SK033A・B（第87図）

9P-87・88 グリッドに所在する。

重複関係　SI064 を掘り込んでいる。２基重複しており、SK033A・B の順に新しい。

規模と形状　SK033A は長軸長0.82m・短軸長0.50m、SK033B は長軸長0.88m・短軸長0.84mの円形である。確認面からの深さは20～41cmである。

出土遺物　土師器のみ出土している。

時期　出土遺物の状況から、中期と考えられる。

SK034（第88図、図版18）

9P-91 グリッドに所在する。

重複関係　SI059 に掘り込まれており、SI062 を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長0.56m・短軸長0.52mの楕円形である。確認面からの深さは80cmである。

出土遺物　土師器のみ出土している。

時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。

SK037（第88図、図版61）

10P-00・01・10・11 グリッドに所在する。

規模と形状　長軸長0.64m・短軸長0.62mの円形である。確認面からの深さは50cmである。

出土遺物　図示した遺物は、石製品１点である。１は滑石製の有孔円板で、２か所穿孔されている。

時期　出土遺物の状況から、中期と考えられる。

SK045（第88図）

10P-27・28 グリッドに所在する。

重複関係　SI058 に掘り込まれており、SI057B を掘り込んでいる。

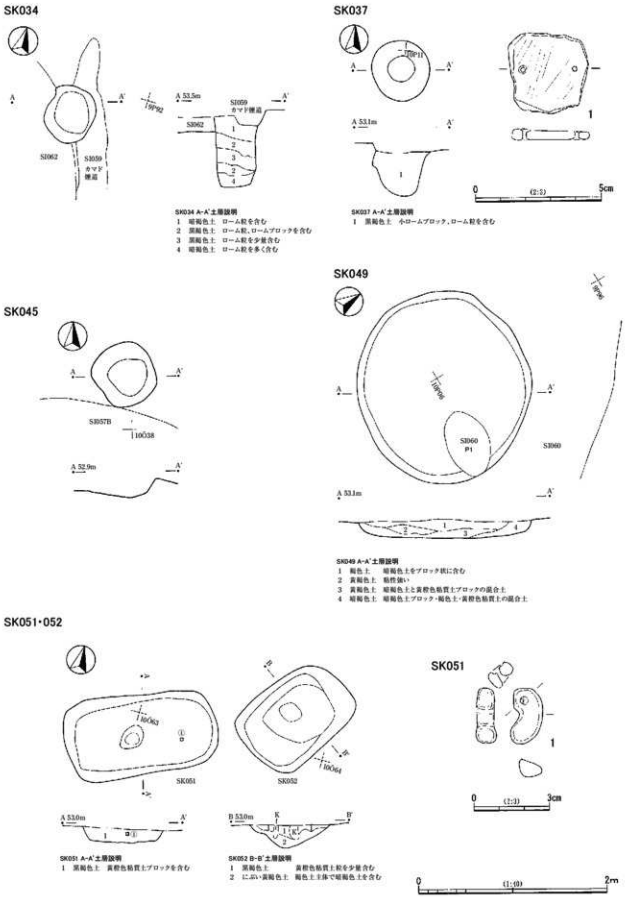
規模と形状　長軸長0.70m・短軸長0.68mの楕円形である。確認面からの深さは22cmである。

時期　重複関係から後期の可能性がある。

SK049（第88図）

9P-95・96・10P-05・06 グリッドに所在する。

重複関係　SI060 を掘り込んでいる。



第88図 SK034・037・045・049・051・052 平面図・出土遺物実測図

規模と形状　長軸長1.98m・短軸長1.64mの円形である。確認面からの深さは22cmである。
出土遺物　土師器のみ出土している。
時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。

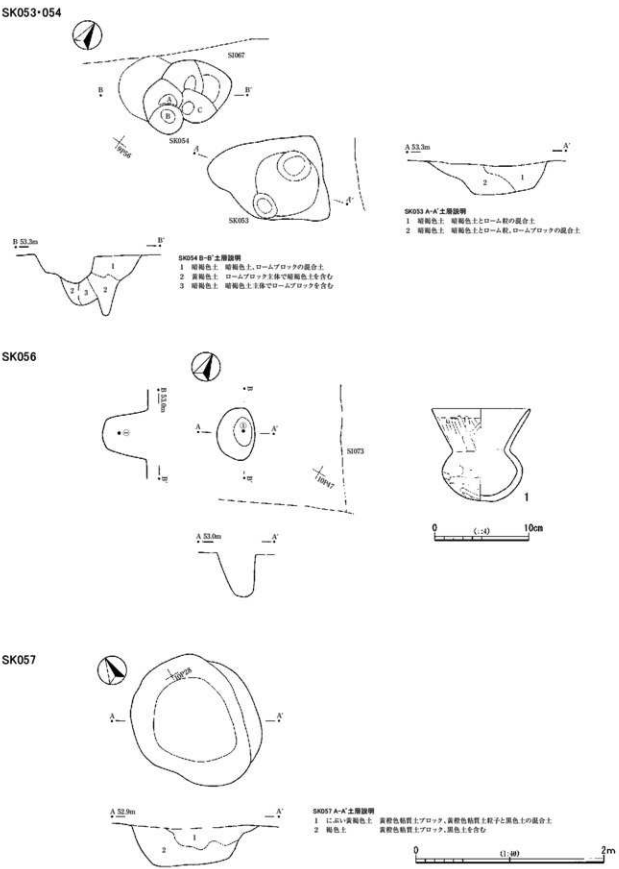
SK051・052（第88図、図版19・61）
10O-52・53・54・62・63・64グリッドに所在する。
規模と形状　SK051は長軸長1.62m・短軸長0.88mの長方形で深さ26cm、SK052は長軸長1.20m・短軸長0.86mの長方形で深さ35cmである。中央に浅いピットを伴う。
出土遺物　図示した遺物は、石製品1点である。1はヒスイ製の勾玉で、SK051から出土している。
時期　出土遺物の状況から、古墳時代と考えられる。

SK053（第89図、図版19）
9P-46・47グリッドに所在する。
重複関係　SI067を掘り込んでいる。
規模と形状　長軸長1.40m・短軸長0.96mの不整形である。確認面からの深さは51cmである。
出土遺物　土師器のみ出土している。
時期　出土遺物の状況から、中期と考えられる。

SK054（第89図、図版19）
9P-45・46グリッドに所在する。
重複関係　SI067を掘り込んでいる。3基重複しており、SK054B・A・Cの順に新しい。
規模と形状　SK054Aは長軸長0.48m・短軸長0.38m、SK054Bは径0.32m、SK054Cは長軸長0.40m・短軸長0.32mの不整形である。確認面からの深さは70cmである。
出土遺物　土師器のみ出土している。
時期　出土遺物の状況から、中期と考えられる。

SK056（第89図、図版19・50）
10P-36・46グリッドに所在する。
規模と形状　長軸長0.54m・短軸長0.40mの楕円形である。確認面からの深さは48cmである。
出土遺物　図示した遺物は土師器1点である。1は完形の土師器坩で、外面に黒斑がみられる。調整は外面にヘラナデやヘラミガキ、内面に横方向のヘラナデ調整が施されている。外面にイネ圧痕が1か所みられる。
時期　出土遺物の状況から、中期と考えられる。

SK057（第89図、図版19）
10P-17・18・27・28グリッドに所在する。
重複関係　SI073に掘り込まれている。
規模と形状　長軸長1.46m・短軸長1.30mの楕円形である。確認面からの深さは48cmである。



第89図　SK053・054・056・057 平面図・出土遺物実測図

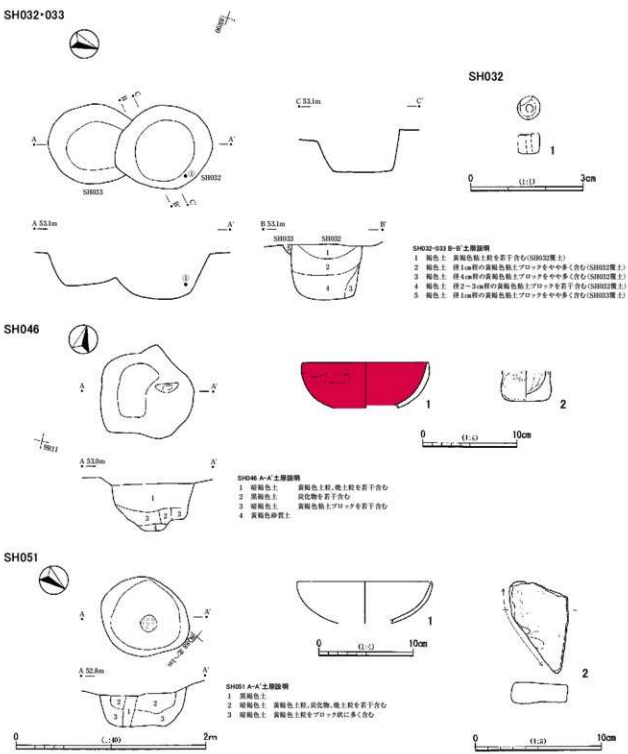
出土遺物　土師器のみ出土している。
時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。

SH032・033（第90図、図版61）
8R-90 グリッドに所在する。
重複関係　SI045 に掘り込まれている。2基重複しており、SH032 が新しい。
規模と形状　SH032 は長軸長1.05m・短軸長0.84m、深さ41cmである。SH033は残存長軸長1.00 m・短軸長0.82m、深さ35cmである。
出土遺物　図示した遺物は、石製品1点である。1は滑石製の臼玉で、SH032 から出土した。
時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。

SH046（第90図）
9R-01 グリッドに所在する。
重複関係　SI045 に掘り込まれている。
規模と形状　長軸長0.98m・短軸長0.92m、深さ1.27mである。
出土遺物　図示した遺物は、土師器2点である。1は土師器坏で、素口縁である。内外面赤彩されている。ヨコナデやヘラケズリ調整が施されている。2は手捏ね土器である。
時期　出土遺物の状況から、中期と考えられる。

SH051（第90図、図版61）
8W-87・88 グリッドに所在する。
規模と形状　長軸長0.96m・短軸長0.80m、深さ41cmである。中央部に柱痕跡が確認された。
出土遺物　図示した遺物は、土師器1点、石器1点である。1は土師器坏で、素口縁である。2は砂岩の砥石で、表面を擦り面としている。
時期　出土遺物の状況から、中期と考えられる。

SH083（第91図）
8R-60 グリッドに所在する。
重複関係　SI029B を掘り込んでいる。
規模と形状　漏斗状をなす。長軸長1.04m・短軸長0.76m、深さ94cmである。
出土遺物　図示した遺物は、土師器1点である。1は土師器甕で、外面の一部に黒斑がみられる。調整は外面にヨコナデやヘラケズリ、内面にヨコナデやヘラナデにより整形されている。外面にイネ圧痕が2か所確認できる。
時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。



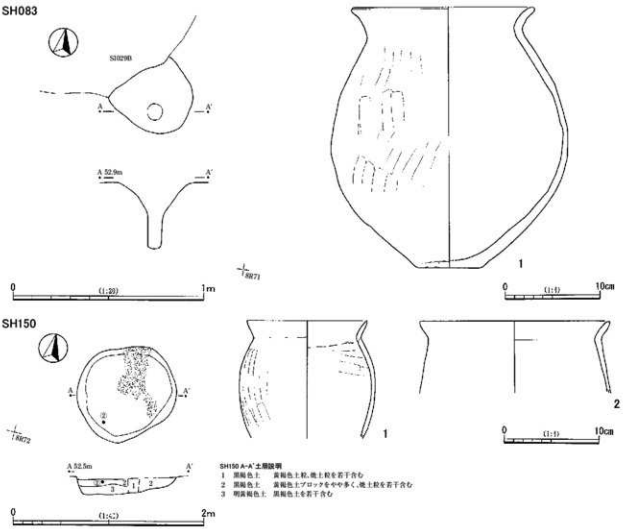
第90図　SH032・033・046・051 平面図・出土遺物実測図

SH150（第91図）

8R-62 グリッドに所在する。

重複関係　SI028 に掘り込まれている。

規模と形状　直径1.04m、深さ22cmである。



第91図　SH083・150 平面図・出土遺物実測図

出土遺物　図示した遺物は、土師器２点である。１・２は土師器甕である。１は口縁部にヨコナデ調整が施されている。張りが弱く、いわゆる長胴甕である。２は口縁部が外反する。外面にヨコナデやヘラケズリ、内面にヨコナデやヘラナデ調整されている。

時期　出土遺物の状況から、後期と考えられる。

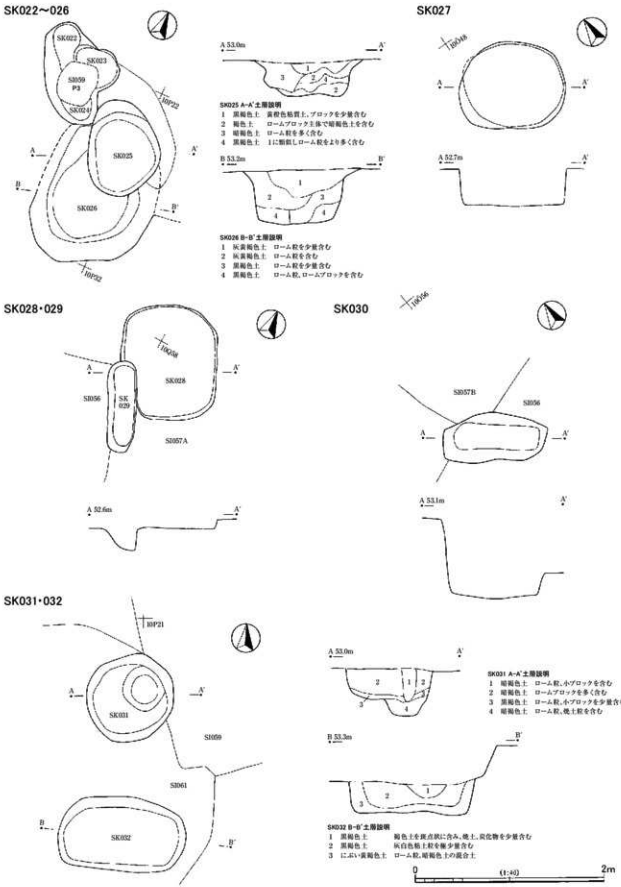
SK022～026（第92図）

10P-11・21・22グリッドに所在する。

重複関係　SI059に掘り込まれている。５基重複しており、SK025・024・023・026・022の順に新しい。

規模と形状　SK022は径0.42mの円形で深さ42cm、SK023は残存長軸長0.52m・短軸長0.26の円形で深さ59cm、SK024は径0.20mの円形で深さ44cm、SK025は長軸長1.02m・短軸長0.78mの楕円形で深さ35cm、SK026は長軸長1.18 m・残存短軸長0.90 mの楕円形で深さ58cmである。

時期　重複関係から後期の可能性がある。



第92図　SK022～032 平面図

SK027～030（第92図）

10O-47・48・55・56・57・58 グリッドに所在する。

重複関係　SI056・057A に掘り込まれており、SI057B を掘り込んでいる。SK028・029 は重複しており、SK029 が新しい。

規模と形状　SK027 は長軸長1.14m・短軸長0.96mの円形で深さ41cm、SK028 は長軸長1.22m・短軸長1.02mの隅丸方形で深さ32cm、SK029は長軸長2.16m・短軸長0.30mの長楕円形で深さ38cm、SK030 は長軸長1.08m・短軸長0.52mの長方形で深さ86cmである。

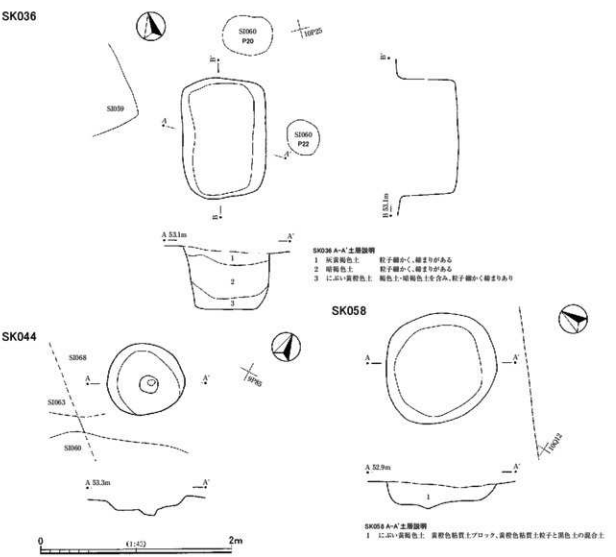
時期　重複関係から中期の可能性がある。

SK031・032（第92図）

10P-20・21・30・31 グリッドに所在する。

重複関係　SI059・061 を掘り込んでいる。

規模と形状　SK031は長軸長0.94m・短軸長0.92mの円形で深さ52cm、SK032は長軸長1.34m・短軸長0.78



第93図　SK036・044・058 平面図

mの隅丸長方形で深さ36cmである。
時期　重複関係から後期の可能性がある。

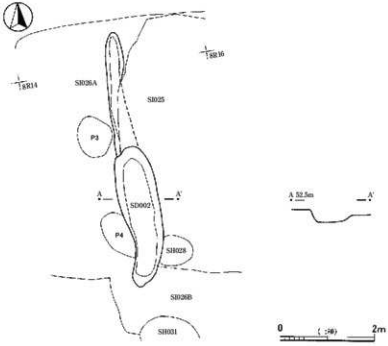
SK036（第93図）
10P-24グリッドに所在する。
重複関係　SI060を掘り込んでいる。
規模と形状　長軸長1.28m・短軸長0.90mの長方形である。確認面からの深さは66cmである。
時期　重複関係から前期の可能性がある。

SK044（第93図）
9P-84グリッドに所在する。
重複関係　SI063・068を掘り込んでいる。
規模と形状　長軸長0.80m・短軸長0.78mの円形である。底面に浅いピットを伴う。確認面からの深さは22cmである。
時期　重複関係から前期の可能性がある。

SK058（第93図）
10Q-01・02グリッドに所在する。
重複関係　SI071に掘り込まれている。
規模と形状　長軸長1.28m・短軸長1.16mの円形である。確認面からの深さは26cmである。
時期　重複関係から後期の可能性がある。

4　溝跡

SD002（第94図）
8R-04・05・14・15・24・25・34・35グリッドに所在する。
重複関係　SI025・026A・026Bを掘り込んでいる。
規模と形状　北から南に延びる直線的な溝で、長軸長2.70m・短軸長0.42m、深さ30cmである。
出土遺物　土師器細片のみ出土している。
時期　出土遺物の状況から、古墳時代と考えられる。



第94図　SD002平面図

第３節　遺構外出土の遺物（第95・96・97図、図版56・57・58・59・60・61・63）

グリッド一括で出土した遺物のうち古墳時代以降の所産と考えられるものをここで扱う。図示した遺物は、須恵器11点、土師器59点、灰釉陶器２点、土製品３点、石製品１点、石器２点、鉄製品５点である。時期区分は、１～３・７～９・12～27・29・35～70・79～83は古墳時代、４～６・10・11・28・30～34・72は奈良・平安時代、71は中世以降の所産と考えられる。

１～３は須恵器坏蓋である。天井部はいずれも回転ヘラケズリにより調整されている。口縁部は直立し、端部がわずかに外反する。１・２は口縁部と胴部の間に稜をもち、天井部は平らに近い形状である。３は天井部が丸くつくられている。１の外面天井部には、焼成前線刻がみられる。４～９は須恵器坏である。４～６・72は奈良・平安時代、７～９は古墳時代の所産である。４・５は底部を回転糸切りし、５はさらに外周をヘラケズリ調整している。６は底部に回転ヘラケズリが施されている。９は内面に粘土片の付着がみられる。７～９は口縁部が内傾し、受部はやや上外方にのびる。10は須恵器高台付坏である。10の底部は切り離し後に回転ヘラケズリで調整されている。11は須恵器であるが器種は判然としない。壺であろうか。外面胴部を穿孔して口縁部状に粘土を貼り付けている。粘土の貼り付け調整は丁寧ではない。72は小型の短頸壺である。底部は丸底で、手持ちヘラケズリにより調整されている。内外面に自然釉が付着している。

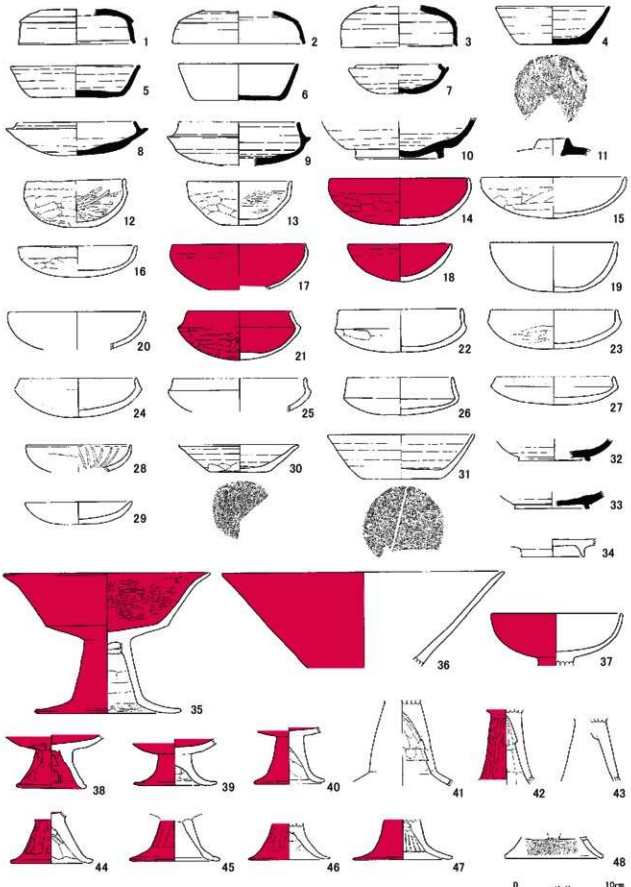
12～31は土師器坏である。12・14・18・19は完形である。21～27は須恵器模倣坏身である。14・17・18・21は内外面ともに赤彩されている。24は内外面、27は外面に黒色処理が施されている。調整は12・13は外面にヨコナデやヘラケズリ、内面にヨコナデやヘラミガキ、14～16は外面にナデやヘラケズリ、内面にナデ、17はナデやヘラケズリ、21・22は外面にヨコナデやヘラケズリ、内面にヨコナデ、24は内面にヨコナデ、25はナデ、26は内外面ともにヨコミガキが施されている。28・30・31は奈良・平安時代の所産で、28は外面にヘラケズリ、内面に放射状の暗文を施している。内面に種子圧痕が１か所確認できる。30の底部は回転糸切り後周縁部ヘラケズリ、31の底部は回転糸切り無調整である。34は土師器高台付坏で、ロクロ成形後、回転ヘラケズリにより調整されている。底部は断面が研磨されている。

32・33は灰釉陶器皿である。32は内面、33は内外面に施釉がみられる。

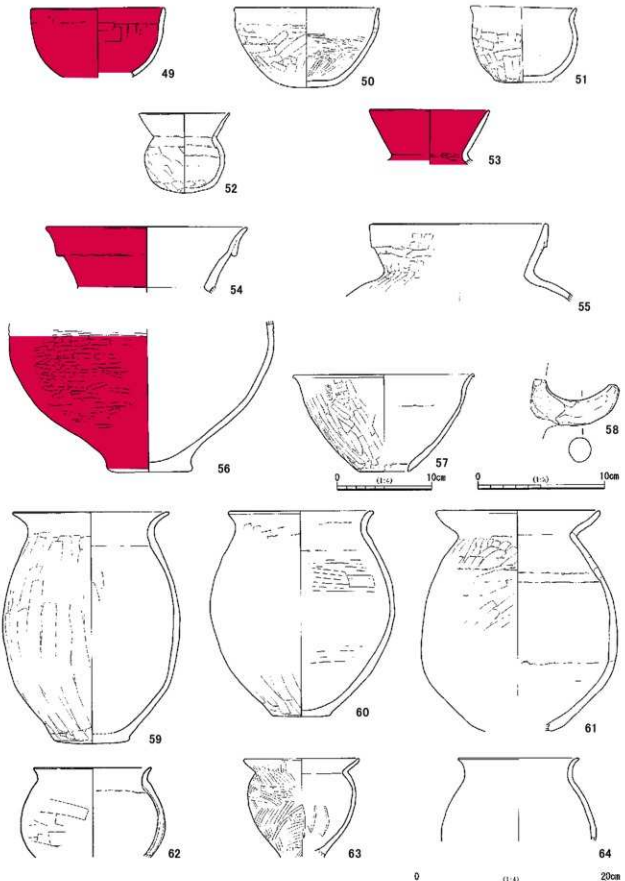
35～48は土師器高坏で、36・37は坏部、38～48は脚部のみ残存している。36は大型の高坏となる。48には方形ないし三角形の透かし孔が伴う。35・38～40・44は内外面、36・37・42・45・46・47は外面が赤彩されている。調整は、35はナデやヘラミガキ、38は内外面ともにヘラケズリやヘラナデ・ユビナデ、39・45・46・48は外面にヘラケズリやナデ、内面にナデ、40は内面にヘラケズリやヨコナデ、42は外面にタテミガキ、内面にタテヘラミガキ、44は内外面ともにヘラケズリやヨコナデ、47は内面にヘラケズリにより調整されている。38の内面には焼成後線刻が施され、42の外面には線状の研ぎ痕が認められる。

49～51は土師器鉢で、51は完形である。49は内外面ともに赤彩され、50・51は内外面が黒色処理されている。49の調整は外面にヨコナデやヘラケズリ、内面にヨコナデが施されている。50は外面に輪積み痕がみられる。外面にヨコナデやヘラケズリ、内面にヨコナデやヘラミガキ調整が施されている。51は外面にヨコナデやヘラケズリ、内面にヘラナデにより調整されている。外面にモミガラ圧痕が１か所確認できる。

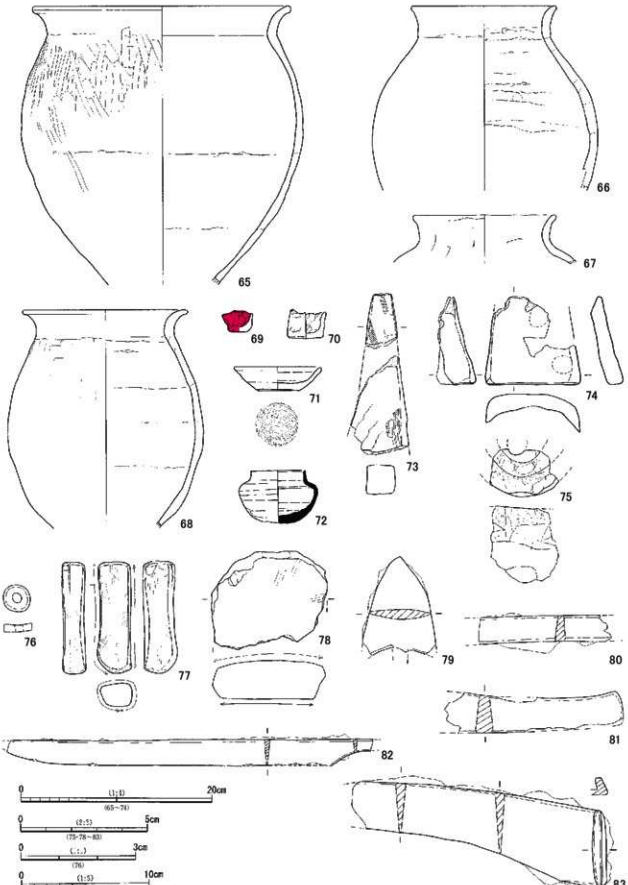
52・53は土師器坩である。52は外面に粗いヘラケズリ痕がみられる。53は内外面ともに赤彩され、ナデ調整されている。54～56は土師器壺で、54・55は二重口縁である。54・56は外面が赤彩されている。55はナデやヘラケズリ調整が施されている。56は胴部下半部のみで、胴上部に２本の沈線が巡る。外面にヨコ方向のミガキ、内面にナデ調整が施されている。底部周縁部が摩耗している。弥生終末から古墳初頭に属する。



第95図　遺構外出土古墳時代以降土器（1）



第96図　遺構外出土古墳時代以降土器（2）



第97図　遺構外出土古墳時代以降土器・土製品・石製品・金属器

57・58は土師器甑で、58は把手部分のみ残存している。57は器高の低いもので、ヘラケズリやナデ調整が施されている。

59～62・64～68は土師器甕である。59は下部がやや膨れ、外面はタテ方向のヘラケズリ、口縁部はヨコナデ、内面はヨコ方向のナデが施されている。60はほぼ完形で、胴部は球状を呈し、外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はヨコ方向のナデを施す。外面の胴上部にススが付着し、内面底部の器壁が若干剥落している。61は下膨れの器形で、外面はナナメ方向の粗いヘラケズリ、内面には輪積痕を残す。内面底部付近の器壁が剥落している。62は口縁部にヨコナデ、胴部にヘラナデ調整がみられる。64は全体に摩耗しており、外面胴部は被熱により器面が剥落している。65は胴部にやや丸みを持ち、外面はタテ方向のヘラケズリ後、粗いミガキ、口縁部はナデ、内面はヨコ方向のナデを施す。66の外面はタテ方向のヘラケズリ、内面には輪積痕を多く残す。67は表面の摩耗が著しく、外面の一部にヘラの当たり痕跡をとどめる。68の外面はタテ方向のヘラケズリ、口縁部はナデ調整を施している。63は台付甕である。外面にハケ目、内面にナデ調整が施される。南武蔵系台付甕の系譜と考えられる。

69・70は手捏ね土器である。69は内外面が赤彩されている。内外面ともにナデ調整されている。70はユビナデにより調整されている。

71はカワラケである。底部は回転糸切り無調整である。

73・74は支脚である。73は角錐状、74は鳥帽子型の支脚で、表面部分のみ残存している。外面にナデ調整が施されている。75は小型の羽口先端部分の破片である。

76は滑石製の臼玉で、幅7.28㎜、厚さ2.42㎜、孔径1.84㎜である。77は砂岩製の砥石で、表裏面を擦り面としている。78は砂岩製の砥石と思われるが、詳細は不明である。

79は鉄鏃で、鏃身部形は広根で、断面形は丸造である。80・81は刀子で、茎の部分のみ残存している。82は直刀である。鋒及び茎部は欠損している。関部は片関で、斜角に切れ込む。残存全長28.9㎝、残存刀身長25.5㎝、残存茎長3.4㎝、身幅2.0㎝、背幅0.4㎝、茎幅1.1㎝、茎厚0.3㎝である。83は鉄鏃で、切っ先が欠損している。

第14表　古墳時代土器属性表（１）　　（ ）推定値　［ ］現存値

神図番号	遺構番号/出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
第28図-1	SI009	須恵器（坏）	蓋	口径 (14.0) 底径 — 器高 3.5	25%	白色粒	外面 灰色 内面 灰色（天の部分）橙色 焼成 良好	外面 ロクロ 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ	内面 赤色顔料付着
第28図-2	SI009	土師器	坏	口径 (16.0) 底径 — 器高 3.5	30%	赤色スコリア 金雲母微量	外面 にぶい橙色 褐灰色 内面 にぶい橙色 焼成 やや不良	外面 ナデ 内面 —	内・外面 摩耗
第28図-3	SI009	土師器	坏	口径 13.4 底径 丸底 器高 4.0	98%	金雲母 赤色スコリア 白色岩状物質	外面 にぶい橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ヨコヘラナデ	内・外面 摩耗
第28図-4	SI009	土師器	坏	口径 (13.0) 底径 — 器高 [2.5]	口縁部 25%	赤色スコリア 雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ナデ、ヘラケズリ 内面 ヨコ方向のナデ	外面 黒色処理 内面 黒色処理
第28図-5	SI009	土師器	坏	口径 (12.2) 底径 — 器高 [3.1]	口縁部 25%	白色岩状物質	外面 褐灰色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ヨコナデ（口縁部） 内面 ヨコ方向のナデ	外面 黒色処理（口縁部） 内面 黒色処理
第28図-6	SI009	土師器	坏	口径 (16.0) 底径 — 器高 [3.6]	口縁部 20%	赤色スコリア	外面 にぶい黄橙色 焼成 やや不良	外面 ナデ、ミガキ 内面 ミガキ	外面 ミガキ後黒色処理 内面 ミガキ後黒色処理
第28図-7	SI009	土師器	鉢	口径 12.6 底径 丸底 器高 5.5	100%	赤色スコリア 雲母	外面 明褐色～黒褐色 内面 明褐色～褐灰色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ヨコナデ 内面 ヘラケズリ　ヨコナデ	
第28図-8	SI009	土師器	鉢	口径 15.4 底径 5.6 器高 8.0	80%	赤色スコリア 金雲母	外面 淡黄色 褐灰色 内面 にぶい橙色 焼成 やや不良	外面 ヘラケズリ 内面 ヨコナデ	内面 赤彩痕跡 内・外面 輪積痕残る
第29図-9	SI009	土師器	高坏	口径 7.6 底径 — 器高 [3.5]	坏部 70%	赤色スコリア	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	
第29図-10	SI009	土師器	高坏	口径 — 底径 — 器高 [4.5]	坏部 40%	赤色スコリア 白色粒微量	外面 淡黄橙色 内面 黄灰色 焼成 良好	外面 — 内面 ミガキ	内面 黒色処理

第15表　古墳時代土器属性表（2）　　（ ）推定値　[ ] 現存値

神図番号 出土位置	遺構番号 出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法		備考
神29図-11	SI009	土師器	甕	口径 19.4 底径 5.0 器高 30.6	70%	白色粒 白色岩状物質	外面 にぶい赤褐色 内面 にぶい赤褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ナデ 内面 ヨコナデ	外面 二次被熱	
神29図-12	SI009	土師器	甕	口径 (15.0) 底径 7.0 器高 16.8	20% 口縁部 50%	白色粒	外面 明赤褐色 内面 明赤褐色～褐灰色 焼成 やや不良	外面 — 内面 ヘラナデ	外面 輪積痕残る	
神30図-1	SI011	土師器	坏	口径 14.6 丸底 底径 — 器高 3.3	70% 口縁部 50%	赤色スコリア 雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ナデ		
神30図-2	SI011	土師器	坏	口径 (13.6) 底径 — 丸底 器高 3.5	25%	赤色スコリア	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 —		
神30図-3	SI011	土師器	坏	口径 14.0 丸底 底径 — 器高 5.1	90%	赤色スコリア 金雲母	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ヨコナデ	内・外面 摩耗	
神30図-4	SI011	土師器	鉢	口径 (13.0) 底径 (6.0) 器高 8.5	40%	精緻	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 やや不良	外面 ヨコナデ 内面 —	内・外面 摩耗	
神31図-1	SI012	土師器	坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 [2.7]	口縁部 20%	赤色スコリア 金雲母	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 口縁部ヨコナデ 内面 —	外面 黒色処理 内面 黒色処理か	
神31図-2	SI012	土師器	坏	口径 15.0 丸底 底径 — 器高 5.6	70%	白色岩状物質 雲母微量	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗	
神31図-3	SI012	土師器	甕	口径 (16.0) 底径 — 器高 [6.1]	口縁部 30%	精緻 スコリア微量	外面 黄灰色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ		
神31図-4	SI012	土師器	甕	口径 — 底径 6.5 器高 [2.7]	底部 100%	小礫 スコリア 雲母 砂粒	外面 赤褐色 内面 明褐色 焼成 やや不良	外面 — 内面 —		
神31図-1	SI013	須恵器 (坏)	蓋	口径 — 底径 — 器高 —	側部破片	精緻 白色粒(長石)	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ 内面 ナデ	陶邑窯 外面 櫛描き波状文	
神31図-2	SI013	土師器	坏	口径 (14.0) 底径 — 丸底 器高 3.5	40% 口縁部 25%	赤色スコリア 白色粒	外面 灰黄褐色 内面 褐灰色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内・外面 磨耗 内面 黑色処理	
神31図-3	SI013	土師器	坏	口径 (13.0) 丸底 底径 — 器高 4.0	30% 口縁部 30%	赤色スコリア	外面 にぶい橙色 内面 黑褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ミガキ	外面 黑色処理（部跡） 内面 黑色処理	
神31図-4	SI013	土師器	坏	口径 (16.4) 底径 — 器高 [4.9]	坏部70%	赤色スコリア	外面 灰黄褐色 内面 にぶい黄橙色 黑褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 磨耗 外面 イ水注痕	
神31図-5	SI013	土師器	高坏	口径 — 脚部径 (8.0) 器高 [1.6]	脚部70%	赤色スコリア 雲母	外面 にぶい黄橙色 褐灰色 内面 にぶい黄橙色 褐灰色 焼成 良好	外面 タテ方向ケズリ 内面 タテ方向ヘラナデ		
神31図-6	SI013	土師器	鉢	口径 (17.0) 底径 — 器高 [6.5]	脚部70%	雲母	外面 黑褐色 内面 黑褐色 焼成 良好	外面 ケズリ ミガキ 内面 ナデ 底部ミガキ	内・外面 黑色処理	
神32図-7	SI013	土師器	鉢	口径 (12.0) 底径 5.0 器高 8.8	25% 底部 50%	赤色スコリア	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ミガキ 内面 —	内面 磨耗	
神32図-8	SI013	土師器	甕	口径 (19.0) 底径 — 器高 [18.9]	30% 口縁部 25%	砂粒	外面 黑褐色 内面 橙～にぶい橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗	
神34図-1	SI015	土師器	坏	口径 (10.0) 底径 — 器高 [4.0]	25% 口縁部 25%	雲母 スコリア	外面 黑褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ナデ 内面 ナデ		
神34図-2	SI015	土師器	鉢	口径 (10.0) 底径 — 器高 [4.2]	口縁部 25%	精緻 赤色スコリア	外面 灰黄色 内面 にぶい黄橙色 焼成 やや不良	外面 — 内面 —	内・外面剥落にミガキ調整がみえるが、磨耗して不明	
神34図-3	SI015	土師器	鉢	口径 (12.0) 底径 5.0 器高 7.6	底部 100%	赤色スコリア 輝石	外面 にぶい黄橙色 内面 灰黄褐色 焼成 やや不良	外面 — 内面 —	内・外面とも磨耗が著しい。ミガキ調整痕黑色処理か	
神35図-1	SI016	土師器	坏	口径 14.0 底径 — 丸底 器高 4.5	50% 口縁部 40%	白色粒	外面 橙色 内面 にぶい橙色 焼成 やや不良	外面 ヘラケズリ 内面 ミガキ	内面 ミガキ後黑色処理	
神35図-2	SI016	土師器	坏	口径 (14.0) 底径 — 丸底 器高 [3.4]	口縁部 20%	雲母	外面 灰黄色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ナデ 内面 ナデ ヘラケズリ ミガキ	内面の磨耗著しい	
神35図-3	SI016	土師器	坏	口径 (18.0) 底径 — 器高 [5.0]	口縁部 20%	赤色スコリア	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ミガキ ヘラミガキ 内面 ヘラナデ	内・外面 赤彩	
神35図-4	SI016	土師器	甕	口径 (10.6) 底径 — 器高 [5.5]	口縁部 20%	赤色スコリア	外面 にぶい黄橙色 内面 灰黄褐色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ヘラナデ		
神36図-1	SI017	土師器	坏	口径 (8.0) 底径 — 器高 [3.0]	40%	精緻 砂粒微量	外面 灰白色～黄灰色 内面 黄灰色 焼成 良好	外面 — 内面 —		
神36図-2	SI017	土師器	高坏	口径 (15.0) 底径 — 器高 [4.1]	口縁部 30%	精緻 白色岩微量 赤色スコリア	外面 にぶい黄橙色 （赤彩）赤褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリの後ミガキ （ヨコ方向、単位不明） 内面 ミガキ	内・外面 赤彩	
神36図-3	SI017	土師器	高坏	口径 — 底径 9.6 器高 [5.5]	脚部 100%	精緻 赤色スコリア	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ケズリ 内面 ヘラナデ	内・外面 摩耗・赤彩	
神36図-4	SI017	土師器	甕	口径 (20.0) 底径 — 器高 [6.0]	口縁部 40%	精緻 雲母 砂粒	外面 黄褐色 ～にぶい黄橙色 内面 明黄褐色 ～にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 ヘラナデ	内・外面 摩耗	
神37図-1	SI019	土師器	坏	口径 — 底径 — 器高 [3.4]	口縁部 25% 強	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 底部ヘラケズリ後ミガキ 内面 ヨコナデ	外面 磨耗	

第16表　古墳時代土器属性表（3）　　（ ）推定値　[ ] 現存値

検図番号	遺構番号/出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成		技法		備考
第37図-2	SI019	土師器	坏	口径 — 底径 [6.4) 器高 [4.3]	底部40%	精緻 砂粒 赤色粒 白色砂状物質	外面 にぶい黄橙色 黒色 内面 にぶい黄橙色 オリーブ黒色 焼成 良好	外面 ヘラナデ後ミガキ 内面 ナデ　ヘラミガキ	内・外面 ミガキ調整後黒色処理
第37図-3	SI019	土師器	甕	口径 (8.9) 底径 — 器高 [6.0]	口縁部25%	普通 砂粒多 赤色粒	外面 明赤褐色 内面 明赤褐色 焼成 良好	外面 — 内面 ヘラナデ	外面 摩熱痕変質
第38図-1	SI020	土師器	坏	口径 12.0 底径 — 器高 4.6	50%	精緻 赤色スコリア	外面 橙色 内面 橙色 赤褐色 焼成 良好	外面 ヨコナデ 内面 ヘラナデ	内・外面 赤彩 底部外面に不定方向のミガキ調整が見られるが、摩耗して不明瞭
第38図-2	SI020	土師器	高坏	口径 — 底径 9.6 器高 [8.7]	70%	雲母 赤色スコリア	外面 橙色 内面 灰褐色 赤褐色 焼成 良好	外面 脚部タテヘラケズリ 内面 脚部ヘラナデ	内・外面 摩耗・赤彩
第38図-3	SI020	土師器	高坏	口径 — 底径 — 器高 [5.9]	脚部60%	赤色スコリア	外面 にぶい橙色 内面 黄灰色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 タテヘラケズリ	外面 赤彩
第38図-4	SI020	土師器	鉢	口径 (17.0) 底径 — 器高 [12.0]	口縁部40%	精緻 雲母 砂粒 赤色スコリア	外面 にぶい褐色 内面 明黄褐色	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	
第38図-5	SI020	土師器	甕	口径 (17.0) 底径 — 器高 [9.2]	口縁部40%	精緻 赤色スコリア 白色粒	外面 にぶい橙色 内面 褐灰色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	全体に風雨化作用 上端部ホゾ穴有り
第38図-6	SI020	土師器	甕	口径 (18.0) 底径 — 器高 [10.0]	口縁部25%	精緻 砂粒 雲母粒（微）	外面 橙色 内面 褐灰色 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内・外面 摩耗
第37図-1	SI022	須恵器（坏）	蓋	口径 (14.4) 底径 — 器高 [3.9]	口縁部25%	精緻 砂粒 白色粒若干	外面 黄灰色 内面 黄灰色 焼成 良好	外面 ロクロ　回転ヘラケズリ 内面 ロクロ	
第37図-2	SI022	土師器	坏	口径 (14.0) 底径 —　丸底 器高 3.5	80% 口縁部50%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 オリーブ黒色 内面 にぶい黄橙色 にぶい黄橙色 オリーブ黒色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ後ミガキ 内面 ミガキ	外面 底部横方向にヘラケズリ→ミガキ後黒色処理 内面 ミガキ後黒色処理
第37図-3	SI022	土師器	坏	口径 (10.0) 底径 — 器高 [3.5]	口縁部20%	精緻 砂粒	外面 褐灰色 内面 明黄褐色 褐灰色 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗 底部外面に不定方向のヘラケズリ痕が見えるが、摩耗のため不明瞭
第37図-4	SI022	土師器	坏	口径 (10.0) 底径 — 器高 [3.6]	口縁部25%	精緻 白色粒（長石） 雲母（微）	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗著しい
第37図-5	SI022	土師器	坏	口径 (14.0) 底径 —　丸底 器高 [3.0]	口縁部20%	赤色スコリア	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 褐灰色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	
第37図-6	SI022	土師器	甕	口径 (17.0) 底径 — 器高 [9.0]	脚部35%	雲母 石英 砂粒	外面 明赤褐色 内面 明赤褐色	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	
第37図-7	SI022	土師器	甕	口径 (13.4) 底径 6.9 器高 [14.1]	60% 底部100%	やや粗 砂粒多	外面 明赤褐色 内面 明赤褐色～黒褐色 焼成 やや不良	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ	外面 摩熱痕変質 底部 不明部分本葉痕
第37図-8	SI022	土師器	手捏ね（高坏）	口径 — 底径 4.8 器高 5.8	80%	精緻 赤色スコリア	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色	外面 指頭痕 内面 ナデ	
第39図-1	SI023	土師器	坏	口径 (15.2) 底径 —　丸底 器高 [3.9]	60% 口縁部25%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母 白色粒	外面 橙黒色 内面 橙黒色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ	外面 底部ヘラケズリ→ミガキ後黒色処理 内面 ミガキ後黒色処理
第39図-2	SI023	土師器	坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 [3.8]	口縁部30%	精緻 赤色スコリア 白色粒	外面 にぶい褐色 内面 にぶい黄褐色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	
第39図-3	SI023	土師器	甕	口径 15.0 底径 6.8 器高 27.0	60%	白色粒 砂粒	外面 橙色～褐灰色 内面 灰褐色 焼成 良好	外面 タテ方向のケズリ 内面 ナデ	土圧で楕円形になっている
第39図-4	SI023	土師器	甑	口径 (27.0) 底径 8.0 器高 [25.8]	口縁部40% 底部100%	精緻 雲母 赤色スコリア	外面 浅黄橙色 黒褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 やや不良	外面 ケズリ 内面 ナデ	
第39図-1	SI024	土師器	坏	口径 (12.3) 底径 —　丸底 器高 [4.8]	口縁部25%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	内・外面 赤彩
第40図-1	SI025	土師器	高坏	口径 (10.0) 底径 — 器高 [4.1]	脚部50%	砂粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 やや不良	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗
第40図-2	SI025	土師器	甕	口径 17.0 底径 — 器高 [8.0]	口縁部50%	精緻 砂粒	外面 橙色～黒褐色 内面 橙色～褐灰色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	外面 スス付着
第41図-1	SI027	土師器	坏	口径 (10.8) 底径 —　丸底 器高 [4.5]	40% 口縁部40%	やや粗 砂粒多 白色粒多	外面 明赤褐色 内面 明赤褐色～暗褐色 焼成 やや不良	外面 ヨコ方向ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	外面 摩耗
第41図-2	SI027	土師器	甕	口径 (20.8) 底径 (7.7) 器高 [31.6]	70% 口縁部50%	粗い 砂粒 赤褐ホゾ	外面 明赤褐色～暗褐色 内面 明赤褐色 焼成 やや不良	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	内・外面 摩耗著しい
第41図-3	SI027	土師器	甑	口径 — 底径 — 器高 [19.7]	口縁部20%	砂粒 赤色粒	外面 明赤褐色 内面 明赤褐色 焼成 やや不良	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ　ミガキ ナデ	
第43図-1	SI029A	須恵器（坏）	蓋	口径 — 底径 — 器高 [7.1]	底部付近100%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ　回転ヘラケズリ 内面 ロクロ　ヘラナデ	
第43図-2	SI029A	土師器	坏	口径 8.8 底径 —　丸底 器高 3.6	100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色～にぶい黄橙色 内面 明赤褐色 焼成 良好	外面 — 内面 ヘラミガキ	内面 赤彩
第43図-3	SI029A	土師器	坏	口径 (10.1) 底径 —　丸底 器高 3.3	50%	精緻 砂粒 赤色粒多 雲母	外面 黄橙色 内面 黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ 内面 —	内・外面 摩耗
第43図-4	SI029A	土師器	坏	口径 (11.9) 底径 (6.6) 器高 (3.3)	60% 底部70%	やや粗 砂粒多	外面 黄橙色 内面 黄灰色～にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 摩耗 内面 平面黒色化

第17表　古墳時代土器属性表（4）　　（ ）推定値　[ ] 現存値

種図番号	遺構番号/出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
第43図-5	SI029A	土師器	坏	口径 (15.2) 底径 — 器高 [5.5]	30% 口縁部25%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 黄橙色 内面 黄橙色 焼成 良好	外面 一 内面 一	内・外面 摩耗
第43図-6	SI029A	土師器	坏	口径 (15.3) 底径 — 器高 [6.0]	20%	精緻 砂粒 赤色粒微量	外面 黄橙色 内面 黄橙色 焼成 良好	外面 一 内面 一	内・外面 摩耗
第43図-7	SI029A	土師器	坏	口径 (12.4) 底径 — 器高 [4.8]	20% 口縁部25%前	精緻 砂粒 赤色粒多	外面 にぶい黄橙色 内面 黄橙色 焼成 良好	外面 一 内面 一	内・外面 摩耗
第43図-8	SI029A	土師器	高坏	口径 — 底径 9.6 器高 [4.4]	50%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 黄橙色 内面 黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ユビナデ 内面 ヨコナデ 内面 ヘラケズリ ヨコナデ	内・外面 赤彩
第43図-9	SI029A	土師器	高坏	口径 — 底径 9.2 器高 [4.8]	脚部60%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 九黄橙色 焼成 良好	外面 一 内面 ヘラケズリ ヘラナデ	外面 赤彩
第43図-10	SI029A	土師器	高坏	口径 — 底径 10.3 器高 [3.8]	底部80%	精緻 砂粒	外面 にぶい黄橙色 内面 褐灰色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	外面 赤彩
第43図-11	SI029A	土師器	鉢	口径 (11.0) 底径 5.5 器高 [8.6]	50% 底部90%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ヘラナデ 内面 ヘラミガキ	内面 黒色処理
第43図-12	SI029A	土師器	鉢	口径 (11.2) 底径 — 器高 6.9	50%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 一 内面 ヘラミガキ	外面 摩耗 内面 黒色処理
第43図-13	SI029A	土師器	甕	口径 17.9 底径 — 器高 [27.9]	20% 口縁部70%	やや粗 砂粒多 砂礫含む	外面 明赤褐色～暗赤褐色 内面 明赤褐色～暗赤褐色 焼成 良好	外面 一 内面 一	内・外面 摩耗
第43図-14	SI029A	土師器	甕	口径 — 底径 — 器高 [12.1]	脚部50%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 一 内面 一	内・外面 摩耗
第43図-1	SI029B	土師器	坏	口径 (13.8) 底径 — 器高 [4.7]	口縁部25%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ ヘラケズリ 内面 ヨコナデ	内面 摩耗 内・外面 赤彩
第44図-1	SI030	土師器	坏	口径 14.2 底径 — 器高 3.6	20%	精緻 赤色スコリア多 雲母	外面 にぶい黄橙色 褐灰色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 ミガキ ヘラナデ 内面 ナデ ヘラナデ	内・外面 黒色処理
第44図-2	SI030	土師器	坏	口径 14.6 底径 — 器高 3.6	50%	精緻 赤色スコリア 砂粒	外面 にぶい橙色 九黄色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ミガキ	内・外面 黒色処理
第44図-3	SI030	土師器	坏	口径 (13.4) 底径 — 器高 3.9	20% 口縁部40%	やや粗 砂粒多 赤色粒多	外面 橙色 内面 橙色～オリーブ黒色 焼成 良好	外面 一 内面 一	内・外面 摩耗 外面 底部ヘラケズリ後ミガキ 内面 ミガキ後いぶす
第44図-4	SI030	土師器	坏	口径 (14.4) 底径 — 器高 [4.0]	口縁部25%	精緻 砂粒 雲母 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ ヘラケズリ 底部ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	内・外面 ミガキ後黒色処理
第44図-5	SI030	土師器	坏	口径 13.2 底径 — 器高 4.0	80%	精緻 雲母 赤色スコリア 砂粒	外面 黒褐色 内面 黒褐色～にぶい褐色	外面 ミガキ ヘラナデ 内面 ミガキ ヘラナデ	内・外面 黒色処理
第44図-6	SI030	土師器	坏	口径 14.8 底径 — 器高 3.9	98%	精緻 白色スコリアやや多 砂粒微量	外面 黒褐色 内面 褐～黒褐色～黒褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ミガキ 内面 ヨコ方向にミガキ	外面 黒斑
第44図-7	SI030	土師器	坏	口径 (14.6) 底径 — 器高 [3.9]	50% 口縁部50%前	精緻 砂粒 赤色粒多 輝石 白色粒少	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	内・外面 摩耗 外面 ヘラケズリ後ミガキ 木葉痕 内面 ミガキ
第44図-8	SI030	土師器	坏	口径 13.6 底径 — 器高 4.0	20%	金雲母 赤色スコリア	外面 黒褐色 内面 にぶい黄褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ミガキ 内面 一	外面 底部に「×」の線刻 内面 摩耗
第44図-9	SI030	土師器	坏	口径 (18.4) 底径 — 器高 [4.5]	口縁部30%	赤色粒微量	外面 黒褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 やや不良	外面 ナデ 内面 ナデ ヘラナデ	内・外面 摩耗
第44図-10	SI030	土師器	高坏	口径 (11.4) 底径 — 器高 [4.5]	坏部40%	赤色スコリア	外面 橙色 内面 橙色 焼成 やや不良	外面 一 内面 一	内・外面 摩耗
第44図-11	SI030	土師器	高坏	口径 — 脚部径 (9.0) 器高 [4.5]	脚部100%	赤色粒微量	外面 浅黄橙色 (赤彩)赤褐色 内面 浅黄橙色 焼成 やや不良	外面 タテ方向のケズリ 内面 一	外面 赤彩
第44図-12	SI030	土師器	高坏	口径 — 脚部径 (10.4) 器高 [5.0]	脚部90%	精緻	外面 橙色 内面 橙色 焼成 やや不良	外面 一 内面 一	内・外面 摩耗
第44図-13	SI030	土師器	鉢	口径 (14.2) 底径 7.6 器高 9.2	40% 底部100%	精緻 赤色スコリア多	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ミガキ	
第44図-14	SI030	土師器	鉢	口径 13.8 底径 — 器高 7.6	25%	赤色スコリア	外面 橙色～黒褐色 内面 橙色 焼成 やや不良	外面 一 内面 一	内・外面 赤彩・摩耗
第44図-15	SI030	土師器	鉢	口径 (12.0) 底径 — 器高 5.6	口縁部25%	精緻 赤色スコリア 雲母少量	外面 にぶい黄橙色 褐灰色 内面 にぶい黄橙色 褐灰色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ナデ 内面 ヘラナデ	内・外面 黒色処理
第45図-16	SI030	土師器	甕	口径 18.0 底径 6.0 器高 24.2	95%	砂粒 スコリア 金雲母	外面 にぶい褐色～黒褐色 内面 九黒色～黒褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ヨコハケナデ	
第45図-17	SI030	土師器	甑	口径 21.8 底径 — 器高 25.0	80%	スコリア 雲母 砂粒	外面 にぶい黄橙色～九黒褐色 内面 にぶい黄褐色 焼成 良好	外面 ケズリ ナデ 内面 ナデ ミガキ ヘラケズリ	
第46図-1	SI031	土師器	坏	口径 (12.0) 底径 — 器高 3.5	70% 口縁部25%	金雲母 赤色粒	外面 橙色 内面 褐灰色 焼成 良好	外面 一 内面 一	内・外面 摩耗
第46図-2	SI031	土師器	坏	口径 (15.4) 底径 — 器高 3.7	20%	—	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 一 内面 一	内・外面 摩耗

第18表　古墳時代土器属性表（5）　　（ ）推定値　[ ] 現存値

種別番号	遺構番号/出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
第46図-3	SI031	土師器	坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 [3.2]	25%	赤色スコリア 金雲母	外面 にぶい黄橙色 ～黒褐色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 外面 —	
第46図-4	SI031	土師器	坏	口径 (13.0) 底径 — 器高 [3.4]	口縁部25%	赤色スコリア	外面 浅黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 やや不良	外面 — 内面 ナデ	内・外面 摩耗
第46図-5	SI031	土師器	高坏	口径 13.4 底径 9.6 器高 8.6	70%	精緻	外面 橙色 内面 橙色 焼成 やや不良	外面 二 内面 二	内・外面 摩耗
第46図-6	SI031	土師器	高坏	口径 (13.0) 底径 — 器高 [5.3]	30%	精緻	外面 黒褐色 内面 黒褐色 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	内・外面 赤彩
第46図-7	SI031	土師器	高坏	口径 — 底径 10.6 器高 [5.5]	脚部80%	雲母 砂粒	外面 にぶい褐色 (赤彩) 赤 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 タテ方向ヘラケズリ後ナデ 内面 ヘラナデ	内・外面 赤彩
第46図-8	SI031	土師器	高坏	口径 — 底径 8.8 器高 [5.4]	脚部50%	精緻 赤色粒 砂粒	外面 浅黄橙色 (赤彩) 赤 内面 浅黄橙色 焼成 良好	外面 タテ方向ヘラケズリ後ナデ 内面 ヘラナデ	内・外面 赤彩
第46図-9	SI031	土師器	鉢	口径 (9.0) 底径 5.0 器高 7.8	70%	赤色スコリア	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	
第46図-10	SI031	土師器	甕	口径 (13.0) 底径 — 器高 [7.7]	口縁部45%	赤色スコリア	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 口縁部ヨコナデ 内面 ヘラナデ	
第46図-11	SI031	土師器	甕	口径 (17.0) 底径 — 器高 [10.2]	口縁部30%	赤色スコリア 雲母微量	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 ヨコ方向のナデ　ヘラナデ	
第47図-1	SI032A	須恵器(TK)	蓋	口径 (12.0) 底径 — 器高 [4.5]	口縁部破片	精緻 微黒粒少量 白色粒	外面 灰黄色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロナデ 回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	
第47図-2	SI032A	須恵器(TK)	蓋	口径 (12.8) 底径 — 器高 [4.6]	破片	白色粒 小石礫	外面 灰黄色 内面 灰白色 焼成 良好	外面 ロクロナデ 回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	
第47図-3	SI032A	須恵器(TK)	蓋	口径 (12.0) 底径 — 器高 [4.9]	口縁部破片	白色粒	外面 灰白色 内面 灰白色 焼成 良好	外面 ロクロナデ 内面 ロクロナデ	
第47図-4	SI032A	須恵器(TK)	坏	口径 (11.0) 底径 — 器高 4.4	40%	微黒粒 白色粒 白色小礫(3mm大)	外面 青灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロナデ 回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ	
第47図-5	SI032A	須恵器(TK)	壺	口径 (14.0) 底径 — 器高 [5.8]	口縁部20%	白色粒	外面 青灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 櫛描き文 内面 ロクロナデ	頸部に櫛描き波状文が2段
第47図-6	SI032A	土師器	高坏	口径 10.4 底径 — 器高 [2.6]	90%	赤色スコリア 雲母少量	外面 橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	外面 赤彩
第47図-7	SI032A	土師器	坏	口径 (16.0) 底径 — 器高 [5.2]	30%	—	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ後ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第47図-8	SI032A	土師器	坏	口径 14.0 底径 — 器高 5.9	丸底 70%	—	外面 にぶい橙色 内面 橙色～にぶい橙色 焼成 やや不良	外面 ミガキ（底部に残る） 内面 ナデ	内・外面 赤彩 内面 モミガラ圧痕1
第47図-9	SI032A	土師器	坏	口径 (15.0) 底径 — 器高 [4.5]	口縁部25%	赤色スコリア	外面 にぶい橙色 (赤彩) にぶい赤褐色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第47図-10	SI032A	土師器	坏	口径 14.0 底径 — 器高 5.1	丸底 70%	精緻 赤色スコリア 白色粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ミガキ（単位不明） 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第47図-11	SI032A	土師器	坏	口径 (9.8) 底径 6.4 器高 3.5	70%	2～5mm程の赤色スコリアを多く含む	外面 橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヘラナデ 内面 ヘラナデ	内面 白色の付着物
第47図-12	SI032A	土師器	高坏	口径 (15.0) 底径 — 器高 [5.7]	坏部40%	赤色スコリア	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	
第47図-13	SI032A	土師器	高坏	口径 15.0 底径 — 器高 [6.0]	坏部60%	—	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 —	
第47図-14	SI032A	土師器	高坏	口径 (15.0) 底径 — 器高 [7.2]	坏部60%	赤色スコリア 雲母 砂粒	外面 浅黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 やや不良	外面 — 内面 ヘラナデ	外面に輪積痕見られる
第48図-15	SI032A	土師器	高坏	口径 (21.0) 底径 — 器高 [4.5]	坏部30%	赤色スコリア 砂粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ヘラナデ	内・外面 赤彩
第48図-16	SI032A	土師器	高坏	口径 (28.0) 底径 — 器高 [8.8]	脚部破片	—	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 二 内面 二	内面 赤彩・タール状付着物
第48図-17	SI032A	土師器	高坏	口径 — 底径 9.0 脚部 器高 [3.5]	40% 脚部80%	砂粒少	外面 にぶい黄橙色 (赤彩) 赤褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 ヘラナデ	外面 赤彩
第48図-18	SI032A	土師器	高坏	口径 — 底径 10.4 脚部 器高 [6.0]	50% 脚部100%	赤色スコリア 白色粒	外面 橙色 (赤彩) 赤橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ナデ 内面 ナデ	外面 赤彩
第48図-19	SI032A	土師器	高坏	口径 — 底径 9.0 脚部 器高 [5.5]	40% 脚部90%	赤色スコリア	外面 浅黄橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	外面 赤彩
第48図-20	SI032A	土師器	高坏	口径 — 底径 10.0 脚部 器高 [4.5]	45% 脚部95%	雲母少量含む	外面 橙色 (赤彩) にぶい赤褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 ヘラナデ	外面 赤彩
第48図-21	SI032A	土師器	鉢	口径 (12.0) 底径 — 器高 [5.5]	口縁部40%	—	外面 浅黄橙色 (赤彩) にぶい赤褐色 にぶい黄橙色 (赤彩) にぶい赤褐色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	口縁ヨコナデ 内・外面 赤彩
第48図-22	SI032A	土師器	壺	口径 (8.4) 底径 — 器高 [4.5]	口縁部10%	—	外面 にぶい赤褐色 内面 にぶい赤褐色 焼成 良好	外面 脚部タテ方向ヘラケズリ 内面 口縁部ハケ	外面 赤彩

第19表　古墳時代土器属性表（6）　　（ ）推定値　［ ］現存値

種図番号 出土位置	遺構番号 出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
第48図-23	SI032A	土師器	甕	口径 — 底径 — 器高 [3.2]	脚部～脚部破片	—	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	孔が残る 外面 赤彩
第48図-24	SI032A	土師器	甕	口径 (15.0) 底径 — 器高 [5.3]	口縁部 30%	白色粒 雲母 赤色スコリア	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	内・外面 輪積痕
第48図-25	SI032A	土師器	甕	口径 — 底径 7.6 器高 [6.8]	底部 100%	白色粒	外面 黒褐色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 —	
第48図-27	SI032A	縄文・弥生	ミニチュア	口径 — 底径 — 器高 2.0 [1.4]	底部 100%	—	外面 橙色 内面 褐灰色 焼成 良好	外面 縄文 内面 ユビナデ	外面 底部中央凹み 内面 輪積痕
第48図-1	SI033B	土師器	坏	口径 — 底径 (6.0) 器高 [5.0]	40% 底部 50%	赤色スコリア	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ナデ 内面 刷毛上のヘラナデ	
第49図-1	SI037	土師器	甕	口径 (17.0) 底径 — 器高 [24.2]	20% 口縁部 25%	白色粒 金雲母 赤色スコリア	外面 にぶい褐色 内面 灰褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	内面 輪積痕
第50図-1	SI037	土師器	坏	口径 (14.0) 底径 —　丸底 器高 5.2	60%	黒色粒 金雲母 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	内・外面 赤彩 外面 口縁部付近に輪積痕 内面 摩耗
第50図-2	SI037	土師器	坏	口径 (14.0) 底径 —　丸底 器高 [4.2]	30% 口縁部 25%	精緻 白色粒	外面 にぶい橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ	内・外面 赤彩 外面 輪積痕
第50図-3	SI037	土師器	高坏	口径 (14.4) 底径 (8.6) 器高 9.5	50% 脚部 100%	精緻 赤色微量 金雲母少量	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ヨコ方向のナデ 内面 ヘラケズリ	内・外面 赤彩 脚端部　モミガラ圧痕 1
第50図-4	SI037	土師器	高坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 [10.9]	40%	金雲母 白色粒 赤色粒	外面 明赤褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 タテ方向にミガキ 内面 タテ方向にミガキ	脚部　穿孔 6 カ所（上段 3、下段 3）
第50図-5	SI037	土師器	高坏	口径 — 底径 9.8 器高 [4.6]	50% 脚部 100%	金雲母 褐色粒	外面 にぶい橙色 （赤彩）明赤褐色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	外面 赤彩
第50図-6	SI037	土師器	高坏	口径 — 底径 (11.0) 器高 [3.3]	脚部 40%	金雲母 黒色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラナデ 内面 ヘラケズリ　ヘラナデ	外面 赤彩
第50図-7	SI037	土師器	甕	口径 (10.6) 底径 — 器高 [9.3]	口縁部 25%	精緻 白色粒 金雲母	外面 にぶい赤褐色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ヨコナデ 内面 ヨコナデ	外面 赤彩 内面 赤彩（口縁部）
第50図-8	SI037	土師器	甕	口径 14.0 底径 (6.0) 器高 13.5	70%	白色粒 金雲母	外面 明赤褐色～黒褐色 内面 灰褐色 ～にぶい赤褐色 焼成 良好	外面 口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ～ヘラケズリ ヨコ方向のナデ 胴部　ヘラナデ 内面 イ＞ケ圧痕 1	
第50図-9	SI037	土師器	鉢	口径 (17.0) 底径 — 器高 [8.5]	口縁部 20%	砂粒少量	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい橙色 （赤彩）明赤褐色 焼成 良好	外面 タテ方向のヘラケズリ 内面 ヨコ方向のヘラケズリ	内・外面 赤彩
第51図-1	SI038	土師器	坏	口径 (15.0) 底径 — 器高 [5.7]	口縁～胴破片	砂粒	外面 にぶい褐色 赤褐色 内面 黒褐色 赤褐色 焼成 良好	外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	内・外面 赤彩
第51図-2	SI038	土師器	高坏	口径 — 底径 — 器高 [5.7]	脚部 65%	金雲母 赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 タテ方向にミガキ 内面 下部 ヨコ方向のナデ 刷毛	
第51図-3	SI038	土師器	甕	口径 — 底径 — 器高 [5.3]	破片	雲母	外面 灰褐色 （赤彩）明赤褐色 内面 黒褐色 （赤彩）明赤褐色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第53図-1	SI041	土師器	高坏	口径 (13.0) 底径 9.0 器高 [9.3]	70%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗　赤彩
第53図-2	SI041	土師器	坏	口径 (13.6) 底径 8.6 器高 [9.5]	80%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 黄橙色 内面 黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコ方向のナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 摩耗　赤彩
第53図-3	SI041	土師器	高坏	口径 (12.7) 底径 — 器高 [6.8]	20% 口縁部 25%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 黄橙色 明赤褐色 内面 にぶい黄橙色 明赤褐色 焼成 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ヨコ方向のナデ	内・外面 赤彩
第53図-4	SI041	土師器	高坏	口径 — 底径 9.4 器高 [4.2]	脚部 90%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい橙色 赤色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ナデ 内面 ヨコナデ　ヘラナデ	外面 赤彩
第53図-5	SI041	土師器	高坏	口径 — 底径 8.6 器高 [5.3]	脚部 90%	砂粒	外面 にぶい黄橙色 明赤褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ 後ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ　ヨコナデ	内・外面 赤彩
第53図-6	SI041	土師器	高坏	口径 — 底径 (9.1) 器高 [4.6]	脚部 70%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 後ヘラケズリ ヨコナデ 内面 ヘラケズリ　ヘラナデ	外面 赤彩
第53図-7	SI041	土師器	甕	口径 [6.1] 底径 7.9 器高 28.8	口縁部 100%	精緻 砂粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 後ヘラケズリ ヨコナデ 内面 ナデ	
第53図-8	SI041	土師器	甕	口径 (15.7) 底径 6.8 器高 28.1	70% 底部 100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 明黄褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ナデ 内面 ヨコナデ　ヘラナデ	胴部中～下　タテ方向のハラミガキ
第53図-9	SI041	土師器	甕	口径 (18.6) 底径 — 器高 [12.9]	口縁部 40%	精緻 砂粒多	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ケズリ後ナデ 内面 ナデ	
第53図-10	SI041	土師器	甕	口径 16.0 底径 — 器高 [15.8]	60% 口縁部 80%	精緻 砂粒	外面 黒褐色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヘラナデ　ヨコナデ 内面 ヨコナデ　ヘラナデ	外面　丈又付着
第53図-1	SI042	土師器	坏	口径 (12.0) 底径 — 器高 [4.1]	口縁部 37%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 明赤褐色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ヨコナデ	内・外面 赤彩 外面 イ＞ケ圧痕 1
第53図-2	SI042	土師器	坏	口径 (9.9) 底径 —　丸底 器高 [3.4]	40% 口縁部 25%	精緻 砂粒 白色非状物少＞	外面 にぶい黄橙色 明赤褐色 内面 橙色 明赤褐色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 —	内・外面 赤彩

第20表　古墳時代土器属性表（7）　　（ ）推定値　[ ] 現存値

神図番号 出土位置	遺構番号 出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法		備考
8533図-1	SI043	須恵器	蓋	口径 (14.2) 底径 — 器高 [2.8]	25% 口縁部 30%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ調整		
8533図-2	SI043	土師器	高坏	口径 (18.4) 底径 — 器高 [5.2]	坏部 25%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 — 内面 ナデ		内・外面 摩耗・赤彩
8533図-3	SI043	土師器	坏	口径 14.3 底径 — 器高 5.9	85%	精緻 砂粒少量	外面 明褐色 内面 橙色～明赤褐色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラミガキ 内面 ヨコナデ　ヘラミガキ		内・外面 摩耗
8533図-4	SI043	土師器	坏	口径 (20.3) 底径 — 器高 [6.5]	口縁部 25%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 黄橙色 内面 明赤褐色 焼成 良好	外面 ヨコナデ (後)ヘラケズリ 内面 ナデ		外面 摩耗・赤彩 内面 赤彩
8533図-5	SI043	土師器	甕	口径 (16.8) 底径 — 器高 [28.0]	底部以外 100%	精緻 砂粒	外面 橙色～にぶい褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ (後)ヘラケズリ 内面 ヨコ方向のナデ ヘラナデ		内面 底部イネ圧痕1
8538図-1	SI051	土師器	坏	口径 (13.2) 底径 — 器高 [3.5]	50%	精緻 白色粒微量	外面 にぶい橙色～黒褐色(赤彩) 赤褐色 内面 浅黄粒～にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ ヘラケズリ後ナデ 内面 ヘラナデ		内・外面 赤彩
8538図-2	SI051	土師器	高坏	口径 — 底径 [9.8] 器高 [6.3]	脚部 80%	赤色粒やや多	外面 にぶい橙色 内面 浅黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 脚の根部分はヘラナデ 内面 ヘラナデ		
8538図-3	SI051	土師器	甕	口径 (18.0) 底径 — 器高 [9.0]	口縁部 25%	白色粒 白色鉄状物質 赤色粒 金雲母	外面 明赤褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 タテヘラケズリ 内面 ヘラナデ		
8538図-4	SI052	土師器	鉢	口径 (12.0) 底径 — 器高 [6.6]	底部 25%	赤色粒やや多	外面 にぶい橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 脚部ナデ以 内面 ナデ		内面 輪積痕
8538図-2	SI052	土師器	高坏	口径 — 底径 (8.6) 器高 [6.4]	脚部 40%	精緻 白色粒少	外面 浅黄橙色～黄灰色 内面 黄灰色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ		外面 赤彩
8660図-1	SI056	須恵器 (SK)	蓋	口径 (13.2) 底径 — 器高 [3.0]	口縁部 20%	精緻 砂粒 白色粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ 内面 ロクロ		
8660図-2	SI056	須恵器 (SK)	甕	口径 19.6 底径 — 器高 [8.4]	口縁部 50%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰黄褐色 焼成 良好	外面 ロクロ 内面 ロクロ		櫛描き波状文
8660図-3	SI056	須恵器 (SK)	壺	—	破片	—	—	—		
8661図-4	SI056	土師器	坏	口径 14.0 底径 — 器高 5.4	100%	精緻 砂粒	外面 にぶい赤褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 (後)ヘラケズリ　ナデ 内面 ナデ		内・外面 赤彩
8661図-5	SI056	土師器	坏	口径 13.6cm 底径 — 器高 5.5	100%	精緻 雲母	外面 黄橙色 内面 明黄褐色 赤褐色 焼成 良好	外面 ハケ後ナデ 内面 ナデ		外面 赤彩 黒色化 摩耗 内面 赤彩
8661図-6	SI056	土師器	坏	口径 14.2 底径 — 器高 5.9	80%	精緻 砂粒少々	外面 明赤褐色 内面 明赤褐色 焼成 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ		外面 赤彩・底部ハケ目調整ヘラケズリ 内面 赤彩
8661図-7	SI056	土師器	坏	口径 14.8 底径 — 器高 5.6	80%	精緻 赤色粒少量	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —		内・外面 赤彩・摩耗 外面 一部黒色化
8661図-8	SI056	土師器	坏	口径 11.8 底径 — 器高 5.0	ほぼ 100%	精緻 砂粒 雲母 赤色粒	外面 赤色 内面 にぶい黄橙色 赤色 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ		内・外面 赤彩
8661図-9	SI056	土師器	坏	口径 11.6 底径 — 器高 5.7	90%	精緻 砂粒 雲母 赤色粒	外面 橙色 内面 (赤彩) 赤褐色 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ		内・外面 赤彩
8661図-10	SI056	土師器	坏	口径 (14.8) 底径 — 器高 [5.4]	60%	精緻 砂粒少量 雲母 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 明褐色 明赤褐色 赤褐色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ		内・外面 摩耗　赤彩
8661図-11	SI056	土師器	高坏	口径 13.3 底径 8.4 器高 9.0	ほぼ 100%	精緻 砂粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ		内・外面 赤彩
8661図-12	SI056	土師器	高坏	口径 (25.1) 底径 (17.2) 器高 [5.8]	30% 坏部 40%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 明赤褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ		内・外面 赤彩
8661図-13	SI056	土師器	高坏	口径 (14.5) 底径 (9.1) 器高 [10.2]	30% 脚部 40%	精緻	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ		内・外面 赤彩
8661図-14	SI056	土師器	高坏	口径 13.3 底径 8.6 器高 9.5	80% 口縁部 75%	精緻 砂粒少 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —		内・外面 摩耗　赤彩
8661図-15	SI056	土師器	高坏	口径 — 底径 — 器高 [4.2]	坏部 95%	精緻 砂粒少々 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 明橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ		内・外面 赤彩
8661図-16	SI056	土師器	高坏	口径 (12.9) 底径 — 器高 [7.9]	70% 坏部 75%	精緻 砂粒少 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ		内・外面 摩耗　赤彩
8661図-17	SI056	土師器	高坏	口径 — 底径 — 器高 [6.1]	脚部 (底) ほぼ 100%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 明橙色 焼成 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ　ヘラケズリ		内・外面 摩耗 外面 赤彩
8661図-18	SI056	土師器	高坏	口径 — 底径 10.4 器高 [3.9]	脚部 (底) 90%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 ナデ　ヘラケズリ		外面 摩耗　赤彩
8661図-19	SI056	土師器	高坏	口径 — 底径 — 器高 [4.9]	脚部 (底) ほぼ 100%	精緻 赤色粒	外面 明赤褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ		外面 赤彩
8661図-20	SI056	土師器	甕	口径 (20.2) 底径 (5.7) 器高 [29.3]	80% 口縁部 70%	やや粗 砂粒多 雲母	外面 にぶい赤褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ　ケズリ 内面 ナデ		
8661図-21	SI056	土師器	甕	口径 (18.4) 底径 — 器高 [14.9]	口縁部 40%	精緻 砂粒	外面 にぶい黄橙色～灰黄褐色 内面 灰黄褐色 焼成 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ		外面 イネ圧痕1

第21表　古墳時代土器属性表（8）　　（ ）推定値　［ ］現存値

神図番号 出土位置	遺構番号 出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
神61図-22	SI056	土師器	甕	口径 13.3 底径 5.8 器高 13.4	80% 底部 100%	精緻 砂粒	外面 灰黄褐色 内面 灰黄褐色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	
神61図-23	SI056	土師器	甕	口径 (16.8) 底径 — 器高 [8.4]	口縁部 75%	精緻	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	
神61図-24	SI056	土師器	鉢	口径 (11.6) 底径 — 器高 [7.3]	口縁部 40%	精緻 砂粒 雲母	外面 にぶい黄褐色 赤色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 赤彩 外面 摩耗
神61図-25	SI056	土師器	小形壺	口径 7.4 底径 5.6 器高 9.9	ほぼ 100%	精緻 砂粒 雲母	外面 にぶい黄褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 摩耗 赤彩
神61図-26	SI056	土師器	小形壺	口径 — 底径 5.2 器高 [10.0]	25% 体部ほぼ 100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 黄灰色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	外面 赤彩
神62図-1	SI057A	土師器	坏	口径 12.0 底径 — 器高 5.3	ほぼ 100%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 明赤褐色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 赤彩 外面 一部に黒斑あり
神62図-2	SI057A	土師器	坏	口径 (13.6) 底径 — 器高 5.7	40%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい赤褐色 内面 明赤褐色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
神62図-3	SI057A	土師器	坏	口径 (14.5) 底径 — 器高 5.5	70%	精緻 砂粒少 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	外面 摩耗 赤彩 内面 赤彩
神62図-4	SI057A	土師器	坏	口径 13.8 底径 — 器高 5.4	80%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい橙色～灰褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ハケ後ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
神62図-5	SI057A	土師器	坏	口径 (12.4) 底径 — 器高 [5.6]	25% 口縁部 25%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい赤褐色 内面 にぶい赤褐色 灰黄褐色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
神62図-6	SI057A	土師器	坏	口径 (13.6) 底径 — 器高 [3.7]	口縁部 30%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	
神62図-7	SI057A	土師器	坏	口径 — 底径 — 器高 [4.5]	20%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 明赤褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 浅いヘラケズリ 内面 ヘラナデ	外面 赤彩
神62図-8	SI057A	土師器	高坏	口径 13.9 底径 9.7 器高 10.4	95%	精緻	外面 にぶい黄橙色 明赤褐色 内面 橙色 明赤褐色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
神62図-9	SI057A	土師器	高坏	口径 (14.5) 底径 9.6 器高 9.8	80%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 明赤褐色 橙色 明赤褐色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
神62図-10	SI057A	土師器	高坏	口径 12.7 底径 8.6 器高 9.7	90%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	外面 赤彩
神62図-11	SI057A	土師器	高坏	口径 (13.5) 底径 8.3 器高 [10.4]	80%	精緻 砂粒 赤色粒多 雲母	外面 にぶい黄橙色 赤褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 赤彩 外面 一部にタール状に大スイ着
神62図-12	SI057A	土師器	高坏	口径 (14.4) 底径 9.8 器高 [10.3]	20%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 (脚部) ナデ ハケ目	内・外面 摩耗 赤彩
神62図-13	SI057A	土師器	高坏	口径 (13.8) 底径 9.4 器高 [10.1]	底部 100% 口縁部 30%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい赤褐色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
神62図-14	SI057A	土師器	高坏	口径 (11.2) 底径 7.4 器高 [9.4]	70%	精緻 砂粒	外面 にぶい赤褐色 内面 にぶい赤褐色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ ハケ目	内・外面 赤彩
神62図-15	SI057A	土師器	高坏	口径 (13.0) 底径 8.4 器高 [5.9]	70%	精緻 砂粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい赤褐色 にぶい黄橙色 にぶい赤褐色 焼成 良好	外面 ヨコナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 摩耗 赤彩
神62図-16	SI057A	土師器	高坏	口径 13.4 底径 — 器高 [8.1]	坏部 100%	精緻 砂粒少 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 赤色 内面 赤色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 摩耗 赤彩
神63図-17	SI057A	土師器	高坏	口径 (14.7) 底径 — 器高 [8.8]	口縁部 25% 強	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 明赤褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 摩耗 赤彩
神63図-18	SI057A	土師器	高坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 [8.4]	口縁部 25%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 赤褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ 浅いヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
神63図-19	SI057A	土師器	高坏	口径 — 底径 8.8 器高 [6.9]	脚部ほぼ 100%	精緻	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗 赤彩
神63図-20	SI057A	土師器	高坏	口径 — 底径 8.0 器高 [6.7]	底部 100%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい黄橙色 にぶい赤褐色 内面 にぶい黄橙色 にぶい赤褐色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ (脚部) ヘラケズリ	内・外面 赤彩
神63図-21	SI057A	土師器	高坏	口径 — 底径 8.2 器高 [6.3]	脚部 100%	精緻	外面 橙色 (坏部) 橙色 (脚部) にぶい赤褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 —	内・外面 摩耗 赤彩
神63図-22	SI057A	土師器	高坏	口径 — 底径 11.1 器高 [6.0]	脚部 90%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	
神63図-23	SI057A	土師器	高坏	口径 — 底径 8.7 器高 [5.9]	脚部ほぼ 100%	精緻	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ後ナデ 内面 (坏部) ナデ (脚部) ヘラケズリ	内・外面 赤彩 内面 摩耗

第22表　古墳時代土器属性表（9）　　（ ）推定値　[ ] 現存値

神図番号	遺構番号/出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
神6631E-24	SI057A	土師器	高坏	口径 — 底径 (9.3) 器高 [7.5]	脚部70%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 にぶい褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 —	内・外面 摩耗 赤彩
神6631E-25	SI057A	土師器	高坏	口径 — 底径 (8.0) 器高 [7.8]	脚部90%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 外面にぶい黄橙色 （脚部）橙色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	
神6631E-26	SI057A	土師器	高坏	口径 — 底径 9.2 器高 [6.7]	脚部100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
神6631E-27	SI057A	鉢	小型壺	口径 [10.6] 底径 — 丸底 器高 7.5	70%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 黄橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラナデ ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	内・外面 赤彩 外面 摩耗
神6631E-28	SI057A	土師器	壺	口径 18.8 底径 6.9 器高 29.1	85%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい橙色～灰褐色 内面 オリーブ黒 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ヘラナデ 内面 ヨコナデ ヘラナデ	
神6631E-29	SI057A	土師器	甕	口径 (10.8) 底径 5.3 器高 14.9	70% 底部100%	精緻	外面 明赤褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 ナデ	外面 赤彩 内面 一部に赤彩
神6631E-30	SI057A	土師器	甕	口径 (14.7) 底径 — 器高 [12.6]	口縁部30%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 明赤褐色 内面 明赤褐色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内面 モミガラ圧痕1
神6631E-31	SI057A	土師器	甕	口径 12.3 底径 — 器高 [6.2]	口縁部70%	精緻 砂粒多 赤色粒やや多い	外面 にぶい赤褐色 内面 灰褐色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	
神6631E-32	SI057A	土師器	甕	口径 19.8 底径 — 器高 [6.7]	口縁部70%	精緻 砂粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	
神6631E-33	SI057A	土師器	甕	口径 19.8 底径 — 器高 [6.6]	口縁ほぼ100%	精緻 砂粒	外面 橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	口縁部貼土綾輪 内面 籾子圧痕1
神6631E-34	SI057A	土師器	甕	口径 — 底径 6.0 器高 [5.8]	底部100%	精緻 砂粒多 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内面 イネ圧痕1
神6631E-35	SI057A	土師器	甑	口径 (25.5) 底径 8.8 器高 [25.1]	80% 底部100%	精緻 砂粒多 赤色粒多	外面 にぶい黄橙色～ 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ヘラナデ 内面 ヘラケズリ ヘラナデ	内面 イネ圧痕1
神6631E-36	SI057A	土師器	手捏ね	口径 — 底径 (4.0) 器高 [5.8]	50%	精緻 赤色粒	外面 にぶい黄橙色～ 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラミガキ 内面 —	
神6631E-37	SI057A	土師器	手捏ね	口径 4.6 底径 4.4 器高 2.6	100%	やや粗 砂粒 雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色	外面 ユビナデ 内面 ユビナデ	
神6641E-1	SI058	須恵器（SK）	杯	口径 10.8 底径 — 器高 [3.1]	70%	精緻 砂粒	外面 灰褐色 内面 灰褐色 焼成 良好	外面 ロクロ 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ	
神6641E-2	SI058	須恵器（SK）	高杯	口径 (10.5) 底径 8.5 器高 9.3	70% 底部80%	精緻 砂礫少々	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ	
神6641E-3	SI058	土師器	杯	口径 (14.8) 底径 —丸底 器高 5.4	80%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 一部黒色化 内面 摩耗
神6641E-4	SI058	土師器	坏	口径 (14.3) 底径 — 器高 [3.9]	口縁部25%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色～黄灰色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗
神6641E-5	SI058	土師器	高坏	口径 — 底径 10.0 器高 [5.7]	底部100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 脚部 ヘラケズリ	外面 摩耗 赤彩
神6641E-6	SI058	土師器	壺	口径 — 底径 —丸底 器高 [9.6]	60%	精緻 赤色粒	外面 橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 ナデ	外面 摩耗 赤彩
神6641E-7	SI058	土師器	甕	口径 (16.5) 底径 — 器高 [7.9]	脚部50%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗
神6641E-8	SI058	土師器	甑	口径 23.7 底径 7.4 器高 27.3	口縁ほぼ100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	外面 摩耗
神6641E-9	SI058	土師器	甑	口径 24.1 底径 7.2 器高 20.1	80% 口縁部75%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ ヘラナデ 内面 ヨコナデ ヘラナデ	外面 黒斑有々
神6661E-1	SI059	須恵器（SK）	坏	口径 (11.7) 底径 — 器高 [3.6]	口縁部25%	精緻 砂粒 赤礫	外面 灰オリーブ色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ	
神6661E-2	SI059	土師器	坏	口径 12.4 底径 —丸底 器高 3.2	ほぼ100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 黒色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ	内・外面 黒色処理
神6661E-3	SI059	土師器	坏	口径 12.4 底径 —丸底 器高 3.2	70%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ ヘラミガキ 内面 ヨコナデ ヘラミガキ	内・外面 黒色処理
神6661E-4	SI059	土師器	坏	口径 14.4 底径 —丸底 器高 3.8	ほぼ100%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 灰黄褐色 内面 明赤褐色 焼成 良好	外面 ヘラミガキ ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	内面 黒色処理
神6661E-5	SI059	土師器	坏	口径 (13.6) 底径 —丸底 器高 4.4	40%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 灰黄褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ヨコナデ	内・外面 摩耗・黒色処理
神6661E-6	SI059	土師器	坏	口径 10.1 底径 — 器高 3.5	90% 口縁部80%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ ヘラナデ 内面 ヨコナデ	内・外面 摩耗
神6661E-7	SI059	土師器	坏	口径 (13.7) 底径 —丸底 器高 3.7	30%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい黒色 内面 にぶい黄褐色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 摩耗・黒色処理
神6661E-8	SI059	土師器	坏	口径 13.9 底径 —丸底 器高 4.1	30% 口縁部25%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 褐灰色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 ヨコナデ （後）ヘラケズリ 内面 ヨコナデ	内・外面 黒色処理
神6661E-9	SI059	土師器	坏	口径 (12.7) 底径 —丸底 器高 3.5	40%	精緻 赤色粒 砂粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗著しい

第23表　古墳時代土器属性表（10）　（ ）推定値　[ ] 現存値

検図番号	遺構番号/出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法		備考
R66E01-10	SI059	土師器	坏 |口径 (12.5) 底径 — 器高 3.6	口縁～丸底	80%	精微 砂粒 赤色粒 砂粒	やや粗 大粒赤色粒 砂粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ　ミガキ	内・外面 摩耗・黒色処理
R66E01-11	SI059	土師器	坏	口径 (14.8) 底径 — 器高 3.9	丸底	40%	精微 砂粒 赤色粒 雲母	精微 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色～にぶい黄橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラナデ 内面 ヨコナデ	
R66E01-12	SI059	土師器	坏	口径 (13.4) 底径 — 器高 4.0	丸底	40%	精微 砂粒 赤色粒 雲母	精微 砂粒 赤色粒	外面 灰黄褐色 内面 灰黄褐色 焼成 良好	外面 ヘラミガキ　ナデ 内面 ヘラミガキ	内・外面 黒色処理
R66E01-13	SI059	土師器	坏	口径 (12.6) 底径 — 器高 3.7	丸底	40%	精微 砂粒 赤色粒	精微 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙 内面 にぶい黄橙 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラナデ 内面 ヨコナデ	
R66E01-14	SI059	土師器	坏	口径 (14.3) 底径 — 器高 3.8	丸底	50%	精微 砂粒 赤色粒	精微 砂粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗著しい
R66E01-15	SI059	土師器	坏	口径 (14.6) 底径 — 器高 [2.9]	丸底	60%	精微 砂粒 赤色粒 雲母	精微 砂粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 灰黄褐色 焼成 良好	外面 摩耗 内面 ミガキ	外面 摩耗 内・外面 黒色処理
R66E01-16	SI059	土師器	坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 [3.8]	口縁～丸底	口縁部30%	精微 砂粒 赤色粒 雲母	精微 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙 内面 にぶい黄橙 焼成 良好	外面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ	内・外面 一部摩耗 外面 黒色処理
R66E01-17	SI059	土師器	坏	口径 (14.8) 底径 — 器高 [3.3]	丸底	口縁部25%	精微 砂粒 大粒赤色粒	精微 砂粒	外面 にぶい橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラナデ 内面 ヨコナデ	
R66E01-18	SI059	土師器	坏	口径 13.8 底径 — 器高 [3.7]	丸底	70% 口縁部85%	精微 砂粒 赤色粒	精微 砂粒 赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラナデ 内面 ナデ	
R66E01-19	SI059	土師器	坏	口径 (13.2) 底径 — 器高 [3.6]	丸底	30% 口縁部30%	—	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	
R66E01-20	SI059	土師器	坏	口径 (14.3) 底径 — 器高 3.4	丸底	50%	雲母 砂粒多 赤色粒	精微 砂粒 赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	底部に「×」線刻 内・外面 摩耗・黒色処理
R66E01-21	SI059	土師器	坏	口径 (13.5) 底径 — 器高 [3.9]	丸底	40% 口縁部50%	精微 砂粒 赤色粒 雲母	精微～粗 砂粒 赤色粒	外面 橙色～灰黄褐色 内面 灰黄褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗著しい
R66E01-22	SI059	土師器	坏	口径 (13.5) 底径 — 器高 [3.2]	丸底	30% 口縁部40%	精微 砂粒 赤色粒	精微 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラナデ 内面 ヨコナデ　ミガキ	外面 スス付着
R66E01-23	SI059	土師器	高坏	口径 (13.7) 底径 (8.7) 器高 10.1	丸底	60% 底部75%	精微 砂粒 赤色粒	精微 砂粒 赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ヨコナデ	
R66E01-24	SI059	土師器	高坏	口径 — 底径 10.9 器高 [9.2]	丸底	脚部80%	精微 砂粒 赤色粒	精微 砂粒	外面 にぶい黄橙色～黒褐色 内面 灰黄褐色～黒褐色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ヨコナデ	内・外面 摩耗著しい
R66E01-25	SI059	土師器	高坏	口径 (13.2) 底径 — 器高 [8.9]	丸底	脚部80%	精微 砂粒 赤色粒 雲母	精微 砂粒 赤色粒	外面 灰黄褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ミガキ　ヘラケズリ 内面 ナデ	外面 赤彩
R66E01-26	SI059	土師器	壺	口径 — 底径 — 器高 [8.8]	丸底～丸底	70%	やや粗 砂粒多	精微 砂粒	外面 にぶい黄橙色～橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗
R66E01-27	SI059	土師器	壺	口径 — 底径 8.0 器高 [25.3]	丸底～丸底	50% 底部80%	精微 砂粒 砂礫	精微 砂粒 砂礫	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラナデ 内面 ヘラナデ	外面 黒斑有り・赤彩
R66E01-28	SI059	土師器	鉢	口径 — 底径 — 器高 7.7	丸底～丸底	30% 口縁部50%	精微 砂粒	精微 砂粒	外面 にぶい橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ ヘラナデ 内面 ヨコナデ　ヘラナデ	内・外面 赤彩
R66E01-29	SI059	土師器	鉢	口径 11.8 底径 3.7 器高 7.1	丸底～丸底	70% 底部100%	やや粗 砂粒多 赤色粒多	精微 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色～橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ 内面 —	内・外面 摩耗著しい 底部 木葉痕
R66E01-30	SI059	土師器	甕	口径 16.0 底径 6.8 器高 10.8	丸底～丸底	90% 底部ほぼ100%	精微	精微 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラナデ 内面 ナデ	内・外面 全体摩耗 外面 黒斑あり
R66E01-31	SI059	土師器	甕	口径 (21.9) 底径 — 器高 [12.9]	丸底～丸底	25% 胴部100%	精微 砂粒 赤色粒	精微 砂粒	外面 明黄褐色 内面 明黄褐色 焼成 良好	外面 ハケ目　ナデ 内面 ハケ目　ナデ	外面 摩耗
R67E02-32	SI059	土師器	甑	口径 (29.5) 底径 — 器高 [20.2]	丸底～丸底	口縁部25%	精微	精微	外面 にぶい黄橙色～にぶい黄橙色～にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色～にぶい黄橙色～にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 (後)ヘラケズリ　ナデ 内面 ヨコナデ　ミガキ	
R67E03-33	SI059	土師器	甕	口径 (24.0) 底径 — 器高 [8.9]	丸底～丸底	口縁部30%	精微 砂粒 赤色粒	精微 砂粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色～黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ヨコナデ　ヘラナデ	内面 種子圧痕1
R67E03-34	SI059	土師器	甑	口径 (25.5) 底径 (6.6) 器高 24.2	丸底～丸底	70%	精微 砂粒 赤色粒	精微 砂粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色	外面 ナデ 内面 ハケ目　ナデ	
R66E01-1	SI060	土師器	鉢	口径 (15.1) 底径 — 器高 [6.3]	丸底～丸底	25%	精微 赤色粒	精微 砂粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラミガキ 内面 ナデ	外面 口唇部縄文
R66E01-2	SI060	土師器	器台	口径 — 底径 6.0 器高 [3.9]	丸底～丸底	85%	精微 白色粒	精微 砂粒	外面 明黄褐色 内面 明黄褐色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	
R66E01-3	SI060	土師器	甕	口径 17.8 底径 5.0 器高 25.8	丸底～丸底	95%	精微 砂粒	精微 砂粒	外面 明黄褐色 内面 明黄褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ後ヘラナデ 内面 —	
R66E01-4	SI060	土師器	甕	口径 (21.2) 底径 6.0 器高 24.3	丸底～丸底	85%	精微 白色粒 砂粒	精微 砂粒	外面 明黄褐色 内面 明黄褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	
R66E01-5	SI060	土師器	甕	口径 — 底径 5.5 器高 28.0	丸底～丸底	80%	精微 赤色粒 砂粒	精微 砂粒	外面 明褐色 内面 明黄褐色 焼成 良好	外面 ハケ後ケズリ 内面 —	口唇部破断面摩耗
R66E01-6	SI060	土師器	甕	口径 15.7 底径 6.6 器高 26.7	丸底～丸底	75%	精微 白色粒 砂粒	精微 砂粒	外面 明黄褐色 内面 黄褐色 焼成 良好	外面 ミガキ 内面 ヘラナデ	
R72E01-1	SI064	土師器	坏	口径 14.1 底径 — 器高 6.7	丸底～丸底	50%	精微 砂粒 赤色粒 雲母	精微 砂粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラナデ 内面 スピナデ	内・外面 赤彩

第24表　古墳時代土器属性表（11）　　（ ）推定値　[ ] 現存値

神図番号	遺構番号 出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
第72図-2	SI064	土師器	坏	口径 14.0 底径 — 器高 5.8	95% 丸底	精緻	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ナデ　ケズリ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第72図-3	SI064	土師器	高坏	口径 13.6cm 底径 — 器高 [4.6]	坏部80%	精緻 砂粒 雲母 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 一 内面 一	内・外面 摩耗
第72図-4	SI064	土師器	高坏	口径 — 底径 14.9 器高 [10.7]	脚部70%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 明褐色 赤褐色 内面 明赤褐色 燒成 良好	外面 一 内面 一	内・外面 赤彩
第72図-5	SI064	土師器	高坏	口径 — 底径 — 器高 [13.4]	60%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ヘラケズリ　ナデ 内面 磨滅	内・外面 赤彩
第72図-6	SI064	土師器	高坏	口径 — 底径 — 器高 [7.9]	脚部50%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい橙色 内面 にぶい黒色 燒成 良好	外面 一 内面 一	内・外面 摩耗著しい
第72図-7	SI064	土師器	埦	口径 — 底径 2.3 器高 [5.8]	80% 底部100%	精緻	外面 橙色 内面 明灰黄色 燒成 良好	外面 ヘラケズリ　ヘラナデ 内面 ナデ	外面 赤彩
第72図-8	SI064	土師器	壺	口径 (19.0) 底径 — 器高 [3.0]	口縁部20%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	外面 棟子圧痕1
第72図-9	SI064	土師器	埦	口径 9.6 底径 — 器高 [11.0]	50%	精緻	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 エビナデ	内・外面 摩耗 外面 赤彩
第72図-10	SI064	土師器	埦	口径 — 底径 5.9 器高 [11.6]	40% 底部100%	精緻 砂粒	外面 橙色 内面 にぶい橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ヘラナデ	内・外面 赤彩
第72図-11	SI064	土師器	埦	口径 — 底径 — 器高 [5.6]	脚部30%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい赤褐色 内面 にぶい黄橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ヘラケズリ　ナデ	内・外面 赤彩
第72図-12	SI064	土師器	甕	口径 (16.0) 底径 — 器高 [12.7]	口縁部25%	精緻 砂粒 赤色粒多	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ヘラケズリ　ヘラナデ 内面 ヘラケズリ　ヘラナデ	
第72図-13	SI064	土師器	甕	口径 17.1 底径 — 器高 [17.4]	50% 口縁部100%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ナナメ方向ヘラケズリ 内面 ナデ　ヘラケズリ	
第72図-14	SI064	土師器	手捏ね	口径 (4.0) 底径 3.2 器高 2.4	70%	普通 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ユビナデ 内面 ユビナデ	
第72図-15	SI064	土師器	手捏ね	口径 (6.1) 底径 (2.9) 器高 2.6	70%	砂粒 赤色粒多	外面 にぶい褐色 内面 にぶい褐色 燒成 良好	外面 一 内面 一	
第72図-16	SI064	土師器	手捏ね	口径 — 底径 — 器高 [2.3]	80%	精緻 砂粒	外面 橙色 内面 明灰黄色 燒成 良好	外面 一 内面 一	
第72図-17	SI064	土師器	坏	口径 — 底径 — 器高 —	破片	—	外面 — 内面 — 燒成 良好	外面 一 内面 一	焼成前ヘラ書き線刻「得」
第73図-1	SI067	土師器	高坏	口径 (21.5) 底径 — 器高 [4.7]	口縁部25%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩・摩耗
第73図-2	SI067	土師器	高坏	口径 (22.6) 底径 — 器高 [4.6]	坏部25%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 一 内面 一	内・外面 赤彩・摩耗
第73図-3	SI067	土師器	高坏	口径 (22.9) 底径 — 器高 [4.7]	坏部20%	砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 一 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第73図-4	SI067	土師器	高坏	口径 — 底径 — 器高 [9.4]	50%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 (脚部) ヘラケズリ (坏部) ナデ	内・外面 赤彩
第73図-5	SI067	土師器	高坏	口径 — 底径 (17.5) 器高 [10.2]	脚部70%	精緻 砂粒 雲母	外面 明赤褐色 内面 にぶい黄橙色 燒成 良好	外面 ヘラケズリ　ナデ 内面 ハケ目　ナデ	外面 赤彩
第73図-6	SI067	土師器	高坏	口径 — 底径 (17.0) 器高 [10.1]	脚部60%	精緻 砂粒 赤色粒 白色鉄状物質	外面 橙色 内面 にぶい黄橙色 燒成 良好	外面 ケズリ　ナデ 内面 ヨコナデ	外面 赤彩 輪積痕
第73図-7	SI067	土師器	高坏	口径 — 底径 (15.8) 器高 [10.2]	脚部70%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	外面 赤彩
第73図-8	SI067	土師器	高坏	口径 — 底径 (16.3) 器高 [2.7]	底部60%	砂粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 一 内面 一	内・外面 摩滅
第73図-9	SI067	土師器	甕	口径 (11.4) 底径 — 器高 [5.0]	口縁部25%	精緻 砂粒 雲母	外面 黄橙色 内面 灰黄褐色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ヘラナデ	口唇部　刻み
第74図-1	SI068	土師器	鉢	口径 7.8 底径 3.1 器高 5.0	100%	精緻 砂粒 雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 燒成 良好	外面 ナデ　ミガキ 内面 ナデ　ミガキ	内・外面 赤彩
第74図-2	SI068	土師器	埦	口径 (8.5) 底径 4.0 器高 [10.6]	80%	精緻 砂粒 雲母	外面 灰黄褐色 内面 灰黄褐色 燒成 良好	外面 ナデ　浅いヘラケズリ 内面 ナデ	
第74図-3	SI068	土師器	埦	口径 8.6 底径 — 器高 9.0	丸底	精緻 砂粒 赤色粒 白色鉄状物質	外面 にぶい赤褐色 内面 明赤褐色 燒成 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ	
第74図-4	SI068	土師器	埦	口径 — 底径 1.8 器高 [8.6]	90%	やや粗 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ナデ　浅いヘラケズリ 内面 ナデ	
第74図-5	SI068	土師器	壺	口径 (17.0) 底径 — 器高 [3.5]	口縁部30%	精緻	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩 摩耗により調整痕不明
第74図-6	SI068	土師器	甕	口径 — 底径 — 器高 [2.5]	底部100%	精緻 砂粒 打沢白色粒少量	外面 (脚部) 黒褐色 内面 (底) にぶい赤褐色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	
第74図-7	SI068	土師器	壺	口径 — 底径 — 器高 [9.7]	脚部50%	精緻	外面 にぶい黄橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	外面　スス付着

第25表　古墳時代土器属性表（12）　　（ ）推定値　［ ］現存値

神図番号	遺構番号/出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
第74図-8	SI068	土師器	甕	口径 — 底径 5.8 器高 [9.2]	底部ほぼ100%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 黒褐色 内面 にぶい黄褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ナデ 内面 ナデ	
第74図-9	SI068	土師器	甕	口径 (17.1) 底径 6.6 器高 21.5	40%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 褐灰色 内面 暗褐色 焼成 良好	外面 ハケ目 内面 ナデ ハケ目	外面 スス付着 底部 イネ圧痕1
第74図-10	SI068	土師器	甑	口径 (23.8) 底径 6.3 器高 13.1	100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内面 赤彩 モミガラ圧痕1 外面 指頭痕
第74図-11	SI068	土師器	手捏ね	口径 9.7 底径 3.8 器高 5.3	90%	やや粗 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 やや不良	外面 ナデ 内面 ナデ	外面 編痕痕
第75図-1	SI069	土師器	坏	口径 [14.0] 底径 — 器高 [3.2]	口縁部10%	精緻 赤色粒 白色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	
第75図-2	SI069	土師器	甕	口径 [19.0] 底径 — 器高 [7.5]	口縁部25%	赤色粒 砂粒	外面 橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	
第75図-3	SI069	土師器	甕	口径 [14.4] 底径 [7.0] 器高 [12.4]	45% 口縁～底部45%	精緻 白色粒 赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	
第75図-4	SI069	土師器	甑	口径 24.5 底径 7.8 器高 24.1	口縁部70%	精緻 白色粒 赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヘラナデ 内面 ヘラナデ	
第76図-1	SI070	須恵器（SK）	蓋	口径 [13.4] 底径 — 器高 [4.3]	30%	精緻 砂粒 砂礫少量	外面 黄灰色 内面 黄灰色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ロクロ成形 内面 ロクロ成形	
第76図-2	SI070	須恵器（SK）	蓋	口径 [13.8] 底径 — 器高 [4.4]	口縁部25%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	
第76図-3	SI070	須恵器（SK）	坏	口径 12.0 底径 — 丸底 器高 5.2	85% つば下 100%	精緻 砂礫少々	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 内面 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	
第76図-4	SI070	須恵器（SK）	坏	口径 [10.6] 底径 — 器高 [4.3]	口縁部20%	精緻 砂粒	外面 にぶい黄橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ロクロ 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ	
第76図-5	SI070	土師器	坏	口径 14.0 底径 — 丸底 器高 5.7	ほぼ100%	精緻 砂粒	外面 にぶい橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第76図-6	SI070	土師器	坏	口径 [11.7] 底径 — 丸底 器高 [5.4]	50%	精緻 砂粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内・外面 摩耗・赤彩
第76図-7	SI070	土師器	高坏	口径 11.8 底径 9.0 器高 8.4	90%	精緻 砂粒 雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内・外面 摩耗・赤彩 内面脚 モミガラ圧痕1
第76図-8	SI070	土師器	高坏	口径 13.4 底径 9.6 器高 8.0	100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第76図-9	SI070	土師器	高坏	口径 13.5 底径 9.0 器高 9.1	100%	精緻 砂粒 赤色粒多 雲母	外面 橙色 （赤彩）明赤褐色 内面 橙色 （赤彩）明赤褐色 焼成 良好	外面 浅いケズリ ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第76図-10	SI070	土師器	高坏	口径 12.9 底径 6.0 器高 9.1	100%	精緻 砂粒少 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内・外面 摩耗・赤彩
第76図-11	SI070	土師器	高坏	口径 13.2 底径 9.7 器高 8.6	90%	精緻 砂粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラナデ 内面 ユビナデ	内・外面 赤彩
第76図-12	SI070	土師器	高坏	口径 13.9 底径 9.4 器高 8.5	ほぼ100%	精緻	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ナデ 内面 ユビナデ	内面 赤彩
第77図-13	SI070	土師器	高坏	口径 13.6 底径 — 器高 [6.8]	坏部ほぼ100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩 外面 スス付着
第77図-14	SI070	土師器	高坏	口径 10.7 底径 — 器高 [4.7]	坏部ほぼ100%	普通 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 （赤彩）明赤褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第77図-15	SI070	土師器	高坏	口径 14.0 底径 — 器高 [5.6]	坏部100%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色 焼成 やや不良	外面 ヨコナデ 内面 ナデ	内・外面 摩耗・赤彩
第77図-16	SI070	土師器	高坏	口径 14.5 底径 — 器高 [5.5]	坏部90%	精緻 砂粒 雲母 片状白色物質	外面 にぶい黄橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 ナデ	内・外面 摩耗・赤彩
第77図-17	SI070	土師器	高坏	口径 [14.6] 底径 — 器高 [5.5]	坏部50%	精緻 砂粒 雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第77図-18	SI070	土師器	高坏	口径 13.6 底径 — 器高 [5.3]	坏部80%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗
第77図-19	SI070	土師器	高坏	口径 13.5 底径 — 器高 5.3	坏部100%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第77図-20	SI070	土師器	高坏	口径 13.4 底径 — 器高 [5.4]	坏部70%	普通 砂粒	外面 明赤褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 ナデ	内・外面 摩耗・赤彩
第77図-21	SI070	土師器	高坏	口径 13.8 底径 — 器高 [5.1]	坏部95%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい赤褐色 内面 明赤褐色 焼成 良好	外面 ケズリ ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩 外面 イネ圧痕1
第77図-22	SI070	土師器	高坏	口径 11.8 底径 — 器高 [4.5]	坏部100%	やや粗 砂粒 雲母多	外面 にぶい赤褐色 内面 明赤褐色 焼成 良好	外面 ヨコナデ ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第77図-23	SI070	土師器	高坏	口径 [14.3] 底径 — 器高 [5.0]	坏口縁25%	精緻 砂粒	外面 明黄褐色 内面 明黄色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗・赤彩
第77図-24	SI070	土師器	高坏	口径 — 底径 9.0 器高 [8.0]	70%	精緻 砂粒 雲母	外面 明赤褐色 橙色 内面 明赤褐色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗・赤彩 内面 イネ圧痕1

第26表　古墳時代土器属性表（13）　　（ ）推定値　[ ] 現存値

検図番号	遺構番号/出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
第77図-25	SI070	土師器	高坏	口径 — 底径 8.9 器高 [5.2]	脚部95%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	内・外面 赤彩
第77図-26	SI070	土師器	高坏	口径 — 底径 8.8 器高 [5.3]	脚部60%	精緻 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第77図-27	SI070	土師器	高坏	口径 — 底径 9.8 器高 [4.6]	底部100%	精緻 砂粒 雲母	外面 明赤褐色 内面 黒褐色 明黄褐色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	外面 赤彩 内面 3/4黒色化
第77図-28	SI070	土師器	高坏	口径 — 底径 [9.2] 器高 [4.4]	脚部60%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ　ナデ 内面 ヘラケズリ　ナデ	外面 赤彩
第77図-29	SI070	土師器	高坏	口径 — 底径 9.8 器高 [5.2]	脚部ほぼ100%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ヘラケズリ　ナデ	外面 赤彩
第77図-30	SI070	土師器	高坏	口径 — 底径 [9.7] 器高 [4.0]	脚部40%	精緻 赤色粒 砂粒少	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 ヘラケズリ	内・外面 摩耗 外面 赤彩
第77図-31	SI070	土師器	高坏	口径 — 底径 — 器高 [8.8]	脚部50%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 赤彩
第77図-32	SI070	土師器	埦	口径 — 底径 —　丸底 器高 [15.2]	90%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩 摩耗著しい
第77図-33	SI070	土師器	壺	口径 — 底径 — 器高 [8.6]	30%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 ヨコナデ	内・外面 摩耗著しい 外面 赤彩
第77図-34	SI070	土師器	無掛器	口径 8.2 底径 —　丸底 器高 9.3	100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 (上縁付近) ケズリ ナデ	底部黒焦あり 胴部に2か所焼成前穿孔
第77図-35	SI070	土師器	鉢	口径 (11.5) 底径 (6.8) 器高 [5.9]	40%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母 赤沢白色物質	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ	
第77図-36	SI070	土師器	鉢	口径 11.4 底径 —　丸底 器高 7.8	100%	精緻	外面 橙色 (赤彩) 明赤褐色 内面 橙色 (赤彩) 明赤褐色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラナデ 内面 ヨコナデ　ヘラナデ	内・外面 赤彩 外面 底に黒斑有り
第77図-37	SI070	土師器	鉢	口径 9.8 底径 —　丸底 器高 7.6	100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第77図-38	SI070	土師器	壺	口径 — 底径 5.1 器高 [7.4]	底部100%	精緻 砂粒 雲母 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラナデ 内面 ユビナデ	外面 赤彩
第77図-39	SI070	土師器	甕	口径 (15.4) 底径 6.2 器高 30.9	85%	精緻 砂粒 砂礫 雲母	外面 黒褐色～にぶい赤褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ヘラナデ 内面 ヘラナデ	
第77図-40	SI070	土師器	甕	口径 17.4 底径 7.4 器高 30.1	ほぼ100%	精緻 砂粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	外面　モミガラ圧痕1
第78図-41	SI070	土師器	甕	口径 20.0 底径 6.5 器高 32.0	ほぼ100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ　ヘラナデ	
第78図-42	SI070	土師器	甕	口径 8.1 底径 9.6 器高 19.9	ほぼ100%	精緻 砂粒 赤色粒多	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第78図-43	SI070	土師器	甕	口径 16.3 底径 6.0 器高 22.9	95%	精緻 砂粒多 雲母	外面 明黄褐色 内面 にぶい黄褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ヘラミガキ 内面 丁寧なナデ	
第78図-44	SI070	土師器	甕	口径 17.6 底径 6.4 器高 26.5	50%	やや粗 砂粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 にぶい黄橙色 焼成 やや不良	外面 ハケ目 内面 ナデ	
第78図-45	SI070	土師器	甕	口径 22.5 底径 — 器高 [12.6]	口縁部ほぼ100%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗
第78図-46	SI070	土師器	甕	口径 (26.8) 底径 — 器高 [14.6]	口縁部25%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ナデ　浅いヘラケズリ 内面 ナデ　浅いヘラケズリ	
第78図-47	SI070	土師器	甕	口径 (16.8) 底径 — 器高 [9.0]	口縁部50%	普通 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ 内面 —	内・外面 摩耗著しい
第78図-48	SI070	土師器	甕	口径 (19.4) 底径 — 器高 [8.2]	口縁部25%	精緻 砂粒 雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	
第78図-49	SI070	土師器	甕	口径 18.4 底径 — 器高 [18.7]	口縁部ほぼ100%	やや粗 砂粒多	外面 にぶい黄橙色 光沢黄褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内面　口縁赤彩
第78図-50	SI070	土師器	甕	口径 (16.4) 底径 — 器高 [13.2]	50%	精緻 砂粒	外面 橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 やや不良	外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	内・外面　調整痕不鮮明
第79図-51	SI070	土師器	甕	口径 (16.7) 底径 6.3 器高 27.2	80%	精緻 砂粒	外面 にぶい黄色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ナデ 内面 ナデ	内面　底部スス付着・イネ圧痕1 外面　イネ圧痕1
第79図-52	SI070	土師器	甑	口径 17.5 底径 5.4 器高 15.6	90%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面　摩耗 外面　イネ圧痕1
第79図-53	SI070	土師器	甑	口径 16.9 底径 — 器高 12.8	100%	精緻 砂粒	外面 にぶい橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	外面　モミガラ圧痕1
第79図-54	SI070	土師器	甑	口径 22.5 底径 — 器高 [18.9]	80%	精緻 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面　摩耗

第27表　古墳時代土器属性表（14）　　（ ）推定値　[ ] 現存値

神図番号	遺構番号 出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法		備考
8079GI-55	SI070	土師器	甕	口径 — 底径 — 器高 [13.2]	底部30%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 明黄褐色 燒成 良好	外面 浅いケズリ 内面 ナデ		
8079GI-56	SI070	土師器	ミニチュア	口径 2.2 底径 1.9 器高 2.9	90%	やや粗 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 —		外面 煤付・イチ圧痕1 内面 輪積痕
8079GI-57	SI070	土師器	ミニチュア	口径 3.1 底径 2.6 器高 2.9	100%	精緻 砂粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ		脚部に3方所の穿孔 中心に1方所の穿孔
8079GI-58	SI070	土師器	ミニチュア	口径 — 底径 3.2 器高 [1.7]	底部100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 明褐色 内面 にぶい黄橙色 燒成 良好	外面 — 内面 —		内・外面 煤付
8080GI-1	SI071	土師器	坏	口径 (14.5) 底径 — 器高 [3.8]	口縁部30%	赤色粒	外面 褐灰色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ		
8080GI-2	SI071	土師器	坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 [4.3]	口縁部25%	赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ		内・外面 赤彩
8080GI-3	SI071	土師器	甕	口径 — 底径 — 器高 [13.2]	口縁部25%	白色粒 砂粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 燒成 良好	外面 — 内面 —		
8080GI-4	SI071	土師器	甕	口径 13.8 底径 5.0 器高 21.4	95%	白色粒 砂粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 燒成 良好	外面 ヘラナデ 内面 ヘラナデ		
8082GI-1	SI073	須恵器（坩）	坏	口径 8.2 底径 (4.8) 丸底 器高 3.8	80%	精緻 白色粒	外面 にぶい橙色 内面 黄橙色 燒成 良好	外面 ロクロ成形　底面ミガキ 内面 ロクロ成形		
8082GI-2	SI073	土師器	坏	口径 9.0 底径 4.5 器高 3.4	90%	白色粒 赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ		内・外面 黑色処理 底部 圓刻
8082GI-3	SI073	土師器	坏	口径 10.0 底径 —　丸底 器高 4.0	80%	精緻 白色粒 赤色粒	外面 明褐色 内面 明褐色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ		内・外面 黑色処理
8082GI-4	SI073	土師器	坏	口径 (9.8) 底径 (4.3) 器高 3.8	60%	白色粒 赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 黑褐色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ		内・外面 黑色処理
8082GI-5	SI073	土師器	坏	口径 9.2 底径 3.6 器高 3.2	100%	白色粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ		内・外面 黑色処理 底部 本葉痕
8082GI-6	SI073	土師器	鉢	口径 8.2 底径 5.0 器高 4.9	100%	精緻 白色粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ミガキ		内・外面 黑色処理
8082GI-7	SI073	土師器	甕	口径 8.9 底径 8.0 器高 12.6	80%	白色粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 燒成 やや不良	外面 ヘラケズリ 内面 ナデ		外面 煤跡強い
8082GI-8	SI073	土師器	甕	口径 11.7 底径 6.0 器高 15.9	70%	白色粒 石英 砂粒	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ヘラナデ 内面 ヘラナデ		内面 輪積痕 指頭痕
8082GI-9	SI073	土師器	甕	口径 (13.5) 底径 6.5 器高 26.0	底部60%	白色粒 石英 砂粒	外面 明褐色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 工具ナデ		外面 底部本葉痕 内面 指ナデ
8083GI-10	SI073	土師器	甕	口径 16.5 底径 7.0 器高 18.5	99% 口縁欠	白色粒 赤色粒 砂粒	外面 にぶい赤褐色 内面 明赤褐色 燒成 良好	外面 ヘラナデ 内面 ヘラナデ		外面 種子圧痕1
8083GI-11	SI073	土師器	甕	口径 29.4 底径 — 器高 29.3	80%	精緻 白色粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ケズリ 内面 ヨコナデ後ミガキ		突起5
8084GI-1	SI074	土師器	壺	口径 — 底径 3.6 器高 [2.8]	30%	精緻 砂粒 赤色粒 白色長石物少量	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ミガキ 内面 ナデ		
8084GI-2	SI074	土師器	壺	口径 (4.8) 底径 3.0 器高 [7.9]	70%	精緻 白色粒	外面 にぶい橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ		外面 イチ圧痕1
8084GI-3	SI074	土師器	壺	口径 (15.2) 底径 4.2 器高 14.7	70% 底部100%	やや粗 砂粒多 赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 燒成 良好	外面 ミガキ　山形 内面 ナデ		内・外面 赤彩 外面 ミミガラ圧痕1・種子圧痕2
8085GI-1	SI015	土師器	高坏	口径 — 底径 11.4 器高 [4.9]	脚部50% 強	精緻 赤色粒 雲母	外面 橙色 黑褐色 内面 橙色 黑褐色 燒成 良好	外面 — 内面 ヘラナデ　ヨコナデ		内・外面 煤跡 外面 赤彩
8086GI-1	SK007	土師器	壺	口径 13.2 底径 —　丸底 器高 6.9	ほぼ100%	やや粗 砂粒 赤色粒多	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 燒成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 —		内・外面 赤彩・煤跡
8086GI-2	SK007	土師器	壺	口径 (16.8) 底径 — 器高 [3.3]	口縁部30%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 燒成 良好	外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ　ヘラナデ		
8087GI-1	SK018	須恵器（坩）	坏	口径 (11.6) 底径 — 器高 [3.5]	口縁部20%	精緻	外面 灰色 内面 灰色 燒成 良好	外面 ロクロ 内面 ロクロ		
8089GI-1	SK056	土師器	埦	口径 10.2 底径 —　丸底 器高 9.8	ほぼ100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 燒成 良好	外面 ヘラナデ　ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ ヨコ方向ヘラナデ		外面 平面に黑斑・イチ圧痕1
8090GI-1	SH046	土師器	坏	口径 (13.3) 底径 — 器高 [4.9]	口縁部25%	赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい赤褐色 にぶい黄橙色 燒成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 —		内・外面 煤跡・赤彩
8090GI-2	SH046	土師器	手捏ね	口径 — 底径 (3.4) 器高 [2.4]	60%	やや粗 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 燒成 良好	外面 — 内面 —		
8090GI-1	SH051	土師器	坏	口径 (14.1) 底径 — 器高 [4.4]	口縁部20%	精緻 砂粒微量	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 — 内面 —		内・外面 煤跡著しい
8091GI-1	SH083	土師器	壺	口径 (19.1) 底径 7.0 器高 27.5	体部～底部は100%	精緻 砂粒 赤色粒多 小石含む	外面 橙色 内面 橙色 燒成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ ナデ 内面 ヨコナデ　ヘラナデ		外面 一部黑斑・イチ圧痕2
8091GI-1	SH150	土師器	甕	口径 (12.6) 底径 — 器高 (12.4)	口縁部20%	やや粗 砂粒	外面 明褐色 内面 橙色～にぶい褐色 燒成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ヨコナデ　ヘラナデ		
8091GI-2	SH150	土師器	壺	口径 (20.0) 底径 — 器高 [7.6]	口縁部50% 前	砂粒 赤色粒	外面 明褐色 内面 橙色 燒成 良好	外面 口縁部ヨコナデ 内面 口縁部ヨコナデ		

第28表　遺構外出土古墳時代以降土器属性表（1）　　（ ）推定値　［ ］現存値

種図番号	遺構番号 第1区画	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法		備考
第95図-1	遺構外 10O	須恵器 (SK)	蓋	口径 (12.3) 底径 — 器高 3.7	10%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		外面 天井部焼成前線別
第95図-2	遺構外 10O	須恵器 (SK)	蓋	口径 (13.9) 底径 — 器高 3.8	口縁部 10%	精緻 砂粒 赤褐少量	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		
第95図-3	遺構外 11O	須恵器 (SK)	蓋	口径 (12.3) 底径 — 器高 [4.3]	20% 口縁部 20%	精緻 砂粒	外面 黄灰色 内面 灰黄色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		
第95図-4	遺構外 9Q-23	須恵器 (SK)	坏	口径 12.0 底径 7.4 器高 4.0	60% 底部 75%	精緻 白色粒	外面 灰白色 内面 暗灰黄色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		底部回転糸切
第95図-5	遺構外 9Q-21	須恵器 (SK)	坏	口径 (13.6) 底径 (9.6) 器高 3.3	10%	精緻 白色粒	外面 灰白色 内面 灰白色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		底部回転糸切 外周をヘラケズリ
第95図-6	遺構外 8Q-37	須恵器 (SK)	坏	口径 (12.5) 底径 (8.8) 器高 [3.9]	40% 底部 50%	やや粗 砂粒 黒色粒	外面 灰黄黒色 内面 灰黄黒色 焼成 やや不良	外面 — 内面 ロクロ成形		内・外面 摩耗著しい
第95図-7	遺構外 10P-38	須恵器 (赤)	坏	口径 8.8 底径 — 器高 3.1	30%	精緻 砂粒 白色粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ調整 内面 ロクロ調整		外面 底部手持ちヘラケズリ
第95図-8	遺構外 7R-27	須恵器 (SK)	坏	口径 12.3 底径 — 器高 [4.6]	50%	精緻	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		
第95図-9	遺構外 10O	須恵器 (SK)	坏	口径 (12.7) 底径 — 器高 [4.6]	30% 口縁部 25%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		内面 鮫士片付着
第95図-10	遺構外 9Q-23	須恵器 (SK)	坏	口径 — 器台径 (9.4) 器高 [4.0cm]	25% 底部 50%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		底部で切り離し後回転ヘラケズリ調整 貼付高台
第95図-11	遺構外 8Q-89	須恵器 (SK)	壺	口径 3.0 底径 — 器高 [1.9]	口縁部 100%	精緻 砂粒	外面 灰黄色 内面 灰黄色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ロクロ成形 内面 ナデ		外面 体部に帯孔後口縁を付けている
第95図-12	遺構外 10P-48	土師器	坏	口径 10.2 底径 — 器高 5.0	95%	精緻 砂粒 赤色粒多	外面 にぶい黄橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ヨコナデ　ヘラミガキ		
第95図-13	遺構外 10P-38	土師器	坏	口径 10.8 底径 4.4 器高 4.7	40% 底部 100%	精緻 砂粒 大粒赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ヨコナデ　ヘラミガキ		
第95図-14	遺構外 9P-95	土師器	坏	口径 14.7 底径 — 器高 5.1	95%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい赤褐色 内面 橙色 焼成 明赤褐色 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ		内・外面 赤彩・摩耗 外面 底部中心にスス付着
第95図-15	遺構外 8Q-47	土師器	坏	口径 (15.2) 底径 — 器高 4.3	60% 口縁部 50%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ		
第95図-16	遺構外 8R-63	土師器	坏	口径 (12.2) 底径 — 器高 5.1	30%強 口縁部 25%強	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ 浅いヘラケズリ 内面 ナデ		
第95図-17	遺構外 8Q-93	土師器	坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 [4.8]	口縁部 25%	精緻 砂粒	外面 にぶい褐色 内面 にぶい赤褐色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 —		内・外面 赤彩・摩耗 表面に輪積痕あり
第95図-18	遺構外 11N	土師器	坏	口径 10.9 底径 — 器高 4.1	90% 口縁部 85%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —		内・外面 赤彩・摩耗
第95図-19	遺構外 8Q-47	土師器	坏	口径 13.3 底径 — 器高 5.2	口縁部 100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —		内・外面 摩耗著しい 外面 一部黒変あり
第95図-20	遺構外 8Q-93	土師器	坏	口径 (14.2) 底径 — 器高 [4.0]	口縁部 20%	精緻 砂粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —		内・外面 摩耗著しい
第95図-21	遺構外 10O	土師器	坏	口径 (10.6) 底径 — 器高 5.3	50% 口縁部 25%	精緻 赤色粒	外面 にぶい黄橙色～橙色 内面 橙色～褐灰色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ ナデ 内面 ヨコナデ　ヘラナデ		内・外面 赤彩
第95図-22	遺構外 10O	土師器	坏	口径 (13.8) 底径 — 器高 [4.8]	25% 口縁部 25%	精緻 砂粒 雲母 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ヘラナデ ヨコナデ 内面 ヨコナデ　ナデ		
第95図-23	遺構外 10P-05	土師器	坏	口径 13.0 底径 — 器高 4.1	80%	精緻 砂粒 雲母	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ		外面 一部黒変
第95図-24	遺構外 8Q-47	土師器	坏	口径 12.0 底径 — 器高 4.1	90% 底部 100%	砂粒 赤色粒多	外面 にぶい褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 ヨコナデ		内・外面 摩耗・黒色処理
第95図-25	遺構外 7R-27	土師器	坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 3.5	15% 口縁部 25%	精緻	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 口縁ごろ上がりナデ 内面 口縁ごろ上がりナデ		内面 器面摩耗
第95図-26	遺構外 11N	土師器	坏	口径 11.0 底径 — 器高 3.9	85%	精緻 砂粒 赤色粒多	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ミガキ 内面 ミガキ		
第95図-27	遺構外 7R-27	土師器	坏	口径 (15.0) 底径 — 器高 3.2	90% 口縁部 50%	精緻 白色砂粒 雲母片含む	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —		内・外面 摩耗 外面 黒色処理
第95図-28	遺構外 9Q-23	土師器	坏	口径 (11.0) 底径 — 器高 [2.8]	口縁部 25%	やや粗 金雲母 赤色粒微量	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ 内面 磨丸		外面 輪積痕 内面 種子圧痕1
第95図-29	遺構外 7R-27	土師器	坏	口径 (11.0) 底径 — 器高 2.3cm	25%	精緻 砂粒 雲母片	外面 明黄褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —		内・外面 摩耗
第95図-30	遺構外 10P	土師器	坏	口径 12.5 底径 6.4 器高 2.9	40% 底部 65%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ロクロ 手持ちヘラケズリ 内面 ロクロ		
第95図-31	遺構外 9Q-16	土師器	坏	口径 (15.6) 底径 8.2 器高 4.6	底部 80%	金雲母 赤色粒少量	外面 浅黄橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		底部 回転糸切
第95図-32	遺構外 8R-42	灰釉陶器	皿	口径 — 底径 (7.5) 器高 [2.3]	底部 30%	精緻 砂粒	外面 灰白色 内面 オリーブ黄色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		内面 施釉
第95図-33	遺構外 8Q-59	灰釉陶器	皿	口径 — 底径 (7.9) 器高 [1.8]	高台付根部 25%	精緻 砂粒	外面 灰白色 内面 オリーブ黄色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		内・外面 施釉
第95図-34	遺構外 9Q-23	土師器	高台付坏	口径 — 器台径 6.8 器高 [1.8]	高台部 90%	白色粒 赤色粒	外面 橙～灰黄褐色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		底部面研磨

第29表　遺構外出土古墳時代以降土器属性表（2）　　（ ）推定値　［ ］現存値

神図番号	遺構番号 出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法		備考
第95図-35	遺構外 10P-06	土師器	高坏	口径 (21.2) 底径 14.5 器高 [7.0]	60% 底部75%	精緻 砂粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ　ヘラミガキ	内・外面 赤彩
第95図-36	遺構外 9Q-15	土師器	高坏	口径 (30.0) 底径 — 器高 [10.0]	坏部40%	精緻 赤色粒 白色鉱物	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面 赤彩
第95図-37	遺構外 9Q-15	土師器	高坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 [5.5]	坏部25%	やや粗 赤色粒多 砂粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙～灰褐色 焼成 やや不良	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗
第95図-38	遺構外 10O	土師器	高坏	口径 — 底径 7.9 器高 [5.6]	底部90%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ヘラナデ 内面 ヘラケズリ　ヘラナデ	内・外面 赤彩 内面 箆刺
第95図-39	遺構外 10O	土師器	高坏	口径 — 底径 7.4 器高 [5.0]	50% 底部60%	精緻 白色粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ヘラナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第95図-40	遺構外 10O	土師器	高坏	口径 — 底径 7.1 器高 [6.0]	40% 底部75%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 ヘラケズリ　ナデ ヨコナデ	内・外面 赤彩
第95図-41	遺構外 9P-94	土師器	高坏	口径 — 底径 — 器高 [9.0]	脚 60%	精緻 白色粒少量 赤色粒微量	外面 橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ　刷毛目 内面 ナデ	内・外面 輪積痕
第95図-42	遺構外 9Q-26	土師器	高坏	口径 — 底径 — 器高 [8.0]	脚部破片	やや粗 金雲母 赤色粒微量	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 タテミガキ タテ方向ヘラケズリ	外面 赤彩　刺ガ痕
第95図-43	遺構外 9Q-26	土師器	高坏	口径 — 底径 — 器高 [6.5]	脚部破片	やや粗 砂粒 赤色粒	外面 にぶい橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	
第95図-44	遺構外 10O	土師器	高坏	口径 — 底径 (8.4) 器高 [5.3]	脚・底部 50%	精緻 砂粒 雲母 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ヨコナデ 内面 ヘラケズリ　ヨコナデ	内・外面 赤彩 外面 摩耗
第95図-45	遺構外 10P-05	土師器	高坏	口径 — 底径 9.3 器高 [4.4]	脚 60%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ	外面 赤彩・輪積痕
第95図-46	遺構外 9P-74	土師器	高坏	口径 — 底径 (8.6) 器高 [3.8]	脚部70%	精緻 砂粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ナデ 内面 ヘラナデ	外面 赤彩 内面 輪積痕
第95図-47	遺構外 10O	土師器	高坏	口径 — 底径 10.4 器高 [4.4]	60% 脚・底部75%	精緻 白色粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 ヘラケズリ	外面 赤彩
第95図-48	遺構外 9P-47	土師器	高坏	口径 — 底径 (10.2) 器高 [2.3]	脚 20%	精緻 砂粒 赤色粒多	外面 黒褐色 内面 黒色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ヘラナデ 内面 ヘラケズリ	透かし穴
第95図-49	遺構外 10O	土師器	鉢	口径 (13.6) 底径 — 器高 [7.4]	30% 口縁部30%	精緻 砂粒少 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ ヘラナデ 内面 ヨコナデ　ナデ	内・外面 赤彩
第95図-50	遺構外 10P-39	土師器	鉢	口径 (14.6) 底径 — 器高 8.4	60% 底部付近100%	精緻 砂粒 赤色粒多	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ヨコナデ　ヘラミガキ	内・外面 黒色処理 外面 輪積痕のこる
第95図-51	遺構外 10P-48	土師器	鉢	口径 10.6 底径 6.2 器高 8.0	ほぼ100%	精緻 砂粒 雲母	外面 明赤褐色 内面 黒褐色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 内面 ヨコナデ	内・外面 黒色処理 外面 モミガラ圧痕1
第95図-52	遺構外 9P-46	土師器	埦	口径 9.5 底径 —　丸底 器高 8.4	95%	精緻 砂粒 雲母 赤色粒	外面 にぶい褐色 内面 にぶい褐色 焼成 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ	
第96図-53	遺構外 9Q-04	土師器	埦	口径 (12.8) 底径 — 器高 [5.8]	口縁部25%	精緻 砂粒	外面 橙色 内面 橙色 （赤彩）明赤褐色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	内・外面 赤彩
第96図-54	遺構外 9P-89	土師器	壺	口径 (21.0) 底径 — 器高 [7.0]	口縁部20%強	精緻 砂粒 赤色粒多	外面 橙色 内面 橙色～にぶい褐色	外面 — 内面 —	内・外面 摩耗 外面 赤彩
第96図-55	遺構外 9P-95	土師器	壺	口径 (18.2) 底径 — 器高 [8.2]	口縁部20%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ　ヘラナデ	
第96図-56	遺構外 10Q-10	土師器	壺	口径 — 底径 9.0 器高 [15.8]	25%	精緻 白色粒 金雲母 砂粒	外面 黒褐色 （赤彩）赤褐色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ミガキ 内面 ナデ	外面 赤彩
第96図-57	遺構外 10O	土師器	甑	口径 (20.2) 底径 — 器高 [12.3]	40% 口縁部40%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶ黄橙色～褐灰色 焼成 良好	外面 浅いヘラケズリ 内面 ナデ	
第96図-58	遺構外 8Q-93	土師器	甑把手	最大幅 (7.7) 最大幅 (7.0) 最大厚 (2.1)	把手部分のみ	砂粒	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ後ナデ 内面 —	
第96図-59	遺構外 10O	土師器	甕	口径 16.8 底径 7.9 器高 24.4	50% 口縁部60%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色～褐灰色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ ヘラナデ 内面 ヨコナデ　ヘラナデ	
第96図-60	遺構外 10O	土師器	甕	口径 15.4 底径 6.1 器高 21.8	85% 口縁・底部100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色～にぶい褐色 内面 橙色～にぶい褐色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ヘラナデ 内面 ナデ　ヘラナデ	外面 胴上部スス 内面 底部若干剥落
第96図-61	遺構外 9P-95	土師器	甕	口径 (17.0) 底径 — 器高 [23.3]	60%	やや粗 砂粒多 雲母粒	外面 明黄褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ヘラナデ　ヨコナデ	内面 胴下部剥落
第96図-62	遺構外 7R-27	土師器	甕	口径 (12.1) 底径 — 器高 [9.5]	20%	精緻 白色粒粒 雲母片	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 胴部ナデ 内面 口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ	
第96図-63	遺構外 9P-65	土師器	台付甕	口径 (12.0) 底径 — 器高 [10.5]	25%	精緻 砂粒	外面 明黄褐色 内面 明黄褐色 焼成 良好	外面 ハケ目 内面 ナデ	
第96図-64	遺構外 8Q-93	土師器	甕	口径 (12.6) 底径 — 器高 [8.8]	口縁部25%強	やや粗 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　不明 内面 ヨコナデ　ヘラナデ	外面 調整・摩耗著しい
第97図-65	遺構外 10O	土師器	甕	口径 (26.8) 底径 — 器高 [29.4]	30% 口縁部40%	精緻 砂粒 白色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ ヘラミガキ　ヘラナデ 内面 ヨコナデ　ヘラナデ	外面 黒斑
第97図-66	遺構外 10O	土師器	甕	口径 15.2 底径 — 器高 [19.5]	口縁部50%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラナデ 内面 ナデ	
第97図-67	遺構外 7R-27	土師器	甕	口径 14.9 底径 — 器高 5.2	口縁部～胴40%	精緻 砂粒 雲母片	外面 淡黄褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	外面 摩耗・口縁の調整雑 ヨコヘラナデ
第97図-68	遺構外 10O	土師器	甕	口径 15.6 底径 — 器高 [22.8]	50% 口縁部75%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヘラケズリ　ナデ 内面 —	

第30表　遺構外出土古墳時代以降土器属性表（3）　　（ ）推定値　［ ］現存値

神図番号	遺構番号/出土区画	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
第97図-69	遺構外 9P-57	土師器	手捏ね	口径 (3.1) 底径 2.4 器高 [2.2]	底部100%	普通 赤粒	外面 明褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 ナデ 内面 ナデ	外面 赤彩
第97図-70	遺構外 10P	土師器	手捏ね	口径 3.6 底径 3.8 器高 3.0	口縁100%	精緻 赤粒 白色砂状物質	外面 黄灰色 内面 黄灰色 焼成 良好	外面 ユビナデ 内面 ユビナデ	
第97図-71	遺構外 11O	土師器	カワラケ	口径 9.1 底径 4.6 器高 2.6	口縁100% 底部100%	精緻 赤粒 雲母	外面 明褐色 内面 明褐色 焼成 良好	外面 ロクロ調整　回転糸切り 内面 ロクロ調整	外面 回転糸切無調整
第97図-72	遺構外 11O	須恵器	短頸壺	口径 5.7 底径 —　丸底 器高 5.5	95% 口縁部85%	精緻 赤粒 白色粒	外面 オリーブ黒色 内面 オリーブ黒色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 手持ちヘラケズリ 内面 ロクロ成形	乗窯か 内・外面 自然釉付着

第31表　古墳時代土製品属性表　　（ ）推定値　［ ］現存値

神図番号	遺構番号/出土区画	種別	法量					胎土	色調	備考
			最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第29図-13	SI009	土製紡錘車	3.2	(1.9)	2.0	0.7	14.1	—	明黄褐色	
第29図-14	SI009	土製紡錘車	(4.0)	(3.1)	2.2	0.9	26.1	—	暗黄褐色	
第29図-15	SI009	支脚	(8.4)	(11.9)	(10.2)	—	—	—	明褐色	ごくわずかに被熱箇所あり
第31図-5	SI012	支脚	16.0	5.8	7.2	—	—	—	明褐色	一部に被熱箇所あり
第32図-9	SI013	支脚	19.6	(8.6)	(6.6)	—	—	—	明褐色	先端部に一部被熱箇所あり
第36図-5	SI017	支脚	(27.0)	(10.7)	(10.0)	—	—	小石含む	黄褐色～明褐色	一部スス付着 一部被熱箇所あり
第39図-2	SI024	ミニチュア	(2.4)	(1.9)	(1.7)	—	—	—	黄褐色	
第45図-18	SI030	支脚	14.9	6.3	5.9	—	—	—	橙色	スス部分的に付着 被熱箇所あり
第45図-19	SI030	支脚	16.1	6.0	6.0	—	—	—	橙色	スス部一部付着 被熱箇所一部あり
第46図-12	SI031	支脚	(8.3)	(5.5)	(6.0)	—	—	雲母多	明褐色	被熱箇所一部あり
第48図-26	SI032A	支脚	(7.6)	5.4	3.6	—	—	金雲母 赤色スコリア 白粒	橙色	上端部分のみ 先端部外反する
第53図-11	SI041	支脚	(22.5)	10.0	(9.9)	—	—	—	橙色	全体的にススが付着 灰色を呈す 被熱箇所が一部で見られる
第58図-4	SI051	不明	2.8	1.8	1.7	—	—	雲母粒 白粒	表面 灰褐色 裏面 灰褐色	タケ状圧痕
第58図-3	SI052	不明	7.7	4.7	2.7	—	—	砂粒少	表面 灰褐色 裏面 にぶい褐色	焼成やや不良・タケ状圧痕
第63図-38	SI057A	支脚	(6.7)	12.4	7.4	—	—	—	明橙色	底面　タケ状圧痕
第63図-39	SI057A	支脚	(18.2)	8.9	8.4	—	—	—	にぶい橙色	
第63図-40	SI057A	土製紡錘車	4.1	4.2	2.0	0.7	27.5	—	にぶい黄橙色	
第64図-10	SI058	支脚	13.7	10.5	10.0	—	—	—	明褐色	丸いケズリとナデで整形
第67図-35	SI059	支脚	(13.0)	(5.4)	(5.0)	—	—	—	黄橙色	
第67図-36	SI059	支脚	(14.1)	(7.2)	(7.0)	—	—	—	明黄褐色	
第67図-37	SI059	支脚	(12.1)	(6.4)	(6.4)	—	—	—	にぶい黄橙色～黄橙色	
第67図-38	SI059	スサ押捺土製品	3.6	2.7	1.9	—	—	—	—	植物繊維押捺
第67図-39	SI059	不明	4.1	4.2	0.6	—	10.8	—	—	土師器片から転用
第72図-18	SI064	支脚	14.7	13.1	11.5	—	—	—	明黄褐色	一部被熱箇所あり
第72図-19	SI064	土製勾玉	2.4	1.2	1.1	—	3.1	—	—	表裏両方向から穿孔
第79図-59	SI070	支脚	(9.3)	(4.7)	(6.6)	—	—	—	明黄褐色	一部被熱箇所あり 表面摩耗著しい
第79図-60	SI070	支脚	(15.0)	(9.4)	(8.6)	—	—	—	にぶい黄橙色	一部スス付着 被熱箇所あり 丸いケズリとナデで整形
第80図-5	SI071	支脚	(15.1)	(7.1)	(7.5)	—	—	—	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色	
第83図-12	SI073	支脚	(15.2)	(6.7)	(5.7)	—	—	—	外面 にぶい橙色	モミガラ圧痕5、イネ圧痕1、種子圧痕3
第86図-1	SK014	支脚	(13.4)	4.7	4.2	—	—	—	明褐色	一部被熱箇所あり、モミガラ圧痕1、イネ圧痕1
第97図-73	遺構外 7R-27	支脚	(16.9)	(6.2)	(4.2)	—	—	—	明黄褐色	
第97図-74	遺構外 10P-46	支脚	(9.3)	(10.1)	(4.1)	—	—	やや粗・砂粒多 赤色粒・雲母	外面 橙色 内面 橙色	外面　ナデ
第97図-75	遺構外 10P-38	羽口	—	—	—	—	13.25	—	—	—

第32表　古墳時代石製品・石器属性表

挿図番号	遺構番号 出土位置	種別	石材	法量					備考
				最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	
第37図-4	SI019	臼玉	滑石	3.1	5.5	3.1	1.9	0.14	
第37図-9	SI022	紡石	蛇紋岩	61.0	68.0	54.0	—	66.97	
第39図-5	SI023	火打石	—	29.0	21.0	19.0	—	12.23	
第46図-13	SI031	管玉	—	20.9	4.6	4.6	1.9	0.80	
第48図-28	SI032A	有孔円板	—	26.1	16.6	4.7	1.4	3.70	
第56図-1	SI049	鎌形模造品	滑石	34.5	12.8	4.8	2.2	2.76	
第67図-40	SI059	紡石	蛇紋岩	79.0	59.0	20.0	—	116.11	
第67図-41	SI059	紡石	—	82.0	59.0	34.0	—	155.96	
第72図-20	SI064	紡石	—	90.0	32.0	11.0	—	53.63	
第86図-3	SK007	子持勾玉	滑石	82.3	53.2	28.4	—	105.41	表・裏両面から穿孔している
第86図-1	SK008	臼玉	滑石	8.2	7.8	2.2	2.3	16.0	
第88図-1	SK037	有孔円板	滑石	31.7	31.6	4.0	1.8	16.0	2か所穿孔
第88図-1	SK051	勾玉	ヒスイ	22.8	13.4	8.2	3.1	4.20	一度穿孔したものを途中で中止してとなりに穿孔し直している
第90図-1	SH032	臼玉	滑石	5.1	6.0	5.1	1.8	0.31	
第90図-2	SH051	紡石	蛇紋岩	72.2	46.8	17.0	—	59.88	
第97図-76	遺構外 8R-31	臼玉	滑石	7.3	7.3	2.4	1.8	0.20	
第97図-77	遺構外 9P-54	紡石	蛇紋岩	87.9	26.8	17.8	—	69.17	
第97図-78	遺構外 11O-41	紡石	蛇紋岩	39.0	46.0	15.8	—	39.54	

第33表　古墳時代金属器属性表　　( ) 推定値

挿図番号	遺構番号 出土位置	種別	部位	法量				備考
				最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
第32図-10	SI013	鉄鏃	—	8.3	2.4	(0.8)	33.08	本質部分が残る　先端欠損
第38図-7	SI020	鉄鏃	—	5.9	3.3	(0.9)	21.46	先端欠損
第43図-15	SI029A	棒状品	—	9.7	0.8	0.6	28.30	他の鉄製品の破片が付着
第48図-29	SI032A	刀子	切っ先部分	(4.4)	1.5	0.3	9.41	欠損あり
第50図-10	SI037	銅製品	—	2.1	0.5	0.6	2.40	孔未貫通　銅滓
第61図-27	SI056	鉄鏃	茎部～茎部	(13.2)	0.6	0.4	18.97	茎一部欠損
第63図-41	SI057A	鉄鏃	鏃身部	(5.2)	(2.9)	0.5	10.57	茎欠損
第75図-5	SI069	棒状品	—	(10.6)	0.5	0.4	10.86	両端欠損
第97図-79	遺構外 10O-53	鉄鏃	鏃身部	(3.8)	(2.9)	0.6	6.92	茎欠損
第97図-80	遺構外 9P-45	刀子	茎部	(5.2)	1.0	0.4	8.24	両端欠損
第97図-81	遺構外 10P-65	刀子	茎部	(7.0)	1.5	(0.7)	21.82	茎部欠損
第97図-82	遺構外 7R-27	直刀	刀身部	(28.9)	19.9	2.9	77.04	茎欠損
第97図-83	遺構外 8Q-39	鉄鏃	—	(10.1)	—	—	38.13	茎部先端欠損

第６章　奈良・平安時代以降の遺構と遺物

第１節　概要

調査区内から検出された奈良･平安時代以降の遺構は、奈良･平安時代が竪穴住居跡10軒、土坑９基、中･近世が溝跡１条である。分布は主に調査区中央に位置している。遺物は８世紀～９世紀後半の須恵器・土師器･石製品･鉄製品等が出土している。特に、竪穴住居跡から鉄鉗や椀形滓、土坑から鍛冶滓がまとまって出土しており、集落内に鍛冶工房があったと想定される。

第２節　遺構と遺物

１　竪穴住居跡

SI008（第98図、図版２）

7Q-98・99・8Q-07・08・09・17・18・19 グリッドに所在する。

重複関係　SI009 を掘り込んでいる。

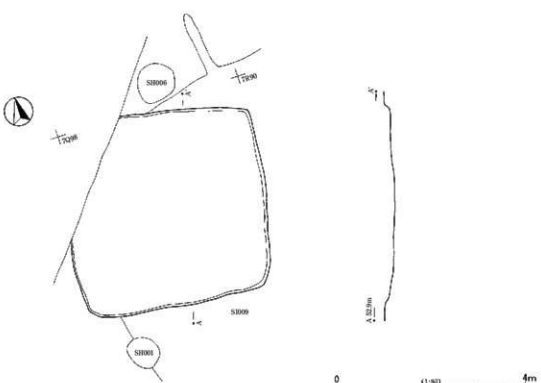
規模と形状　長軸長4.16m・短軸長4.12mの方形である。主軸方向はN－6°－E、壁高は40cmである。

出土遺物　須恵器・土師器・土製品・鉄製品等が出土している。すべて細片のため、実測等は省略した。

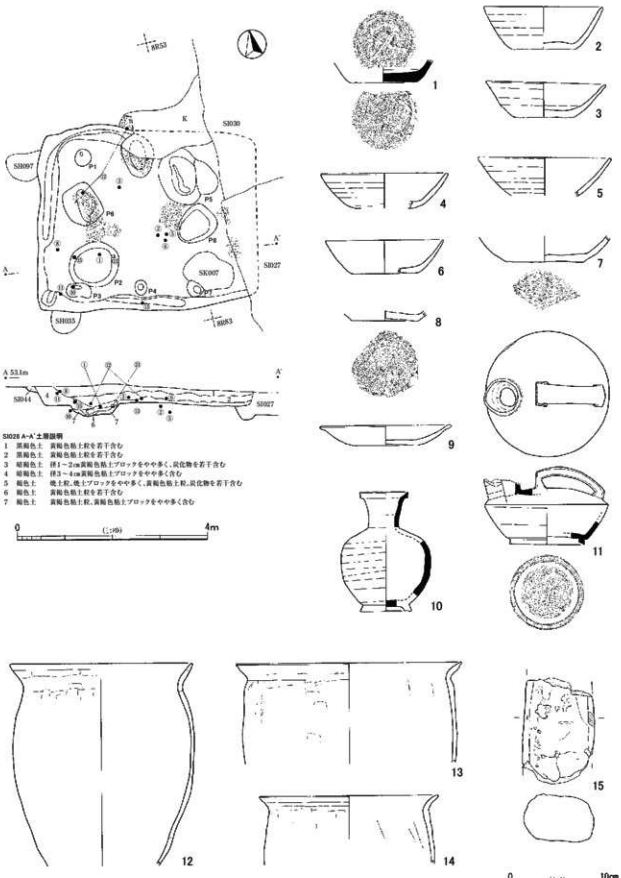
時期　出土遺物の状況から、奈良時代の８世紀代と考えられる。

SI028（第99・100図、図版６・７・50・51・60・61・62）

8R-51・52・53・61・62・63・71・72・73 グリッドに所在する。



第98図　SI008 平面図



第99図　SI028 平面図・出土遺物実測図

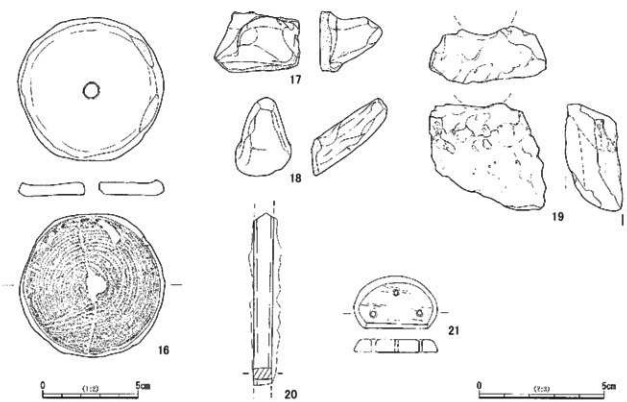
重複関係　SI027・030・044、SK007を掘り込んでいる。

規模と形状　残存長軸長4.60m・短軸長3.96mの方形である。主軸方向はN－14°－Eで、壁高は30cmである。北西コーナーと南側の一部に壁溝が巡っている。

カマド　北壁中央に燃焼部のみ残存している。

ピット　8基検出された。P1・3・7は配列・規模から主柱穴と考えられる。P1は径40cm、床面からの深さは54cmである。P3は長軸長60cm・短軸長44cm、床面からの深さは21cmである。P7は径36cm、床面からの深さは37cmである。P2は配列・規模から貯蔵穴と考えられる。長軸長112cm・短軸長96cm、床面からの深さは28cmである。P4は配列から出入口ピットと考えられる。径24cm、床面からの深さは11cmである。P5・6・8の床面からの深さは36～48cmである。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器1点、土師器11点、灰釉陶器2点、土製品5点、石製品1点、鉄製品1点である。1は須恵器坏である。底部は回転糸切りにより切り離しされ,内面には焼成前にヘラで「×」が書かれている。2～8はロクロ成形土師器坏である。2・3は底部切り離し後、ケズリ調整が施されている。4はヘラケズリ、5は回転ヘラケズリ、7・8は回転糸切り無調整である。9は土師器皿である。底部を糸切り後、調整されているが摩耗しており、詳細は不明である。10は灰釉陶器の小型壺である。回転ヘラケズリ調整が施されている。外面及び内面口縁部に施釉がみられる。11は灰釉陶器の手付平瓶である。底部に回転糸切り痕跡がみられる。12～14は土師器甕である。12はヘラナデ、13・14はヘラナデやヘラケズリ調整が施されている。15は方柱状の支脚で、一部に被熱箇所がみられる。16は土師器坏転用の土製円盤で、紡錘車として使用したものと考えられる。17・18は土師器甑の把手と考えられる。19は羽口で



第100図　SI028 出土遺物実測図

ある。20は鉄製の棒状品である。断面は方形で、両端が欠損している。21は滑石製の石帯（丸鞆）である。結束用の穴が３か所空いている。１～21は覆土中から出土している。

時期　出土遺物の状況から、平安時代の９世紀中葉と考えられる。

SI034（第101図、図版８・62）

8Q-29・39・8R-20・21・30・31・40・41グリッドに所在する。

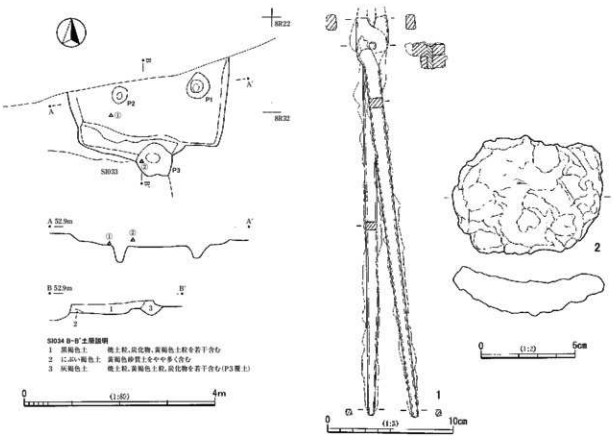
重複関係　SI009・033を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長2.96m・残存短軸長1.92mの方形である。主軸方向はN－1°－Eで、壁高は15cmである。南側に張り出し部がある。

ピット　３基検出された。P1・2は配列から主柱穴と考えられる。P1は長軸長60cm・短軸長36cm、床面からの深さは30cmである。P2は径24cm、床面からの深さは35cmである。P3は張り出し部にあり、出入口ピットの可能性がある。径72cm、床面からの深さは16cmである。

出土遺物　図示した遺物は、鉄製品１点、椀形の鍛冶滓１点である。１は鉄鉗である。上部は欠損しており、上下の刃を合わせる鋏は残存している。２は椀形の鍛冶滓で、重量は147.98gである。１・２は覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、奈良時代の８世紀中葉と考えられる。



第101図　SI034 平面図・出土遺物実測図

SI035（第102図、図版８・９・51・61）

9Q-34・35・36・37・45・46・47・48・55・56・57・58・65・66・67 グリッドに所在する。

重複関係　SI036・039 に掘り込まれており、SI037・038 を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長6.84ｍ・短軸長6.56ｍの方形である。主軸方向はＮ－11°－Ｗ、壁高は15cmである。

カマド　北壁中央に燃焼部のみ残存している。

ピット　８基検出された。P1～4は配列から主柱穴と考えられる。P1は径88cm、床面からの深さは82cmである。P2は径80cm、床面からの深さは59cmである。P3は長軸長96cm・短軸長68cm、床面からの深さは35cmである。P4は長軸長96cm・短軸長76cm、床面からの深さは79cmである。P5は配列から出入口ピットと考えられる。P6～8の床面からの深さは８～26cmである。

出土遺物　図示した遺物は、土師器１点、石器１点である。１は土師器坏である。内外面ともに赤彩されている。外面にヘラケズリ、内面にミガキ調整が施されている。２は砂岩の敲石である。敲打痕が多数みられる。

時期　出土遺物の状況から、奈良時代の８世紀前葉と考えられる。

SI036（第103・104図、図版９・51・52・60・62）

9Q-22・23・24・32・33・34・42・43・44 グリッドに所在する。

重複関係　SI032A・035・037・039・043 を掘り込んでいる。

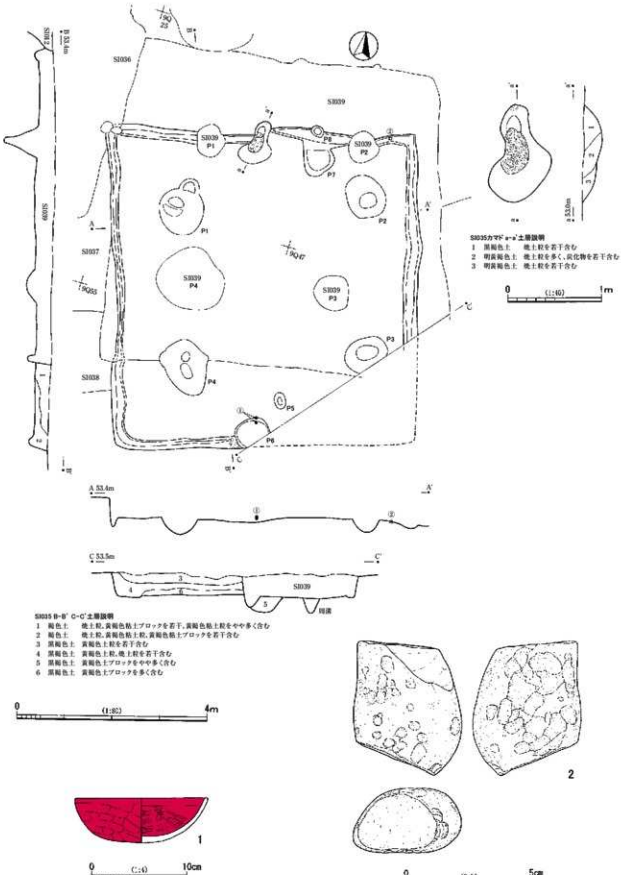
規模と形状　長軸長4.84ｍ・短軸長4.60ｍの方形である。主軸方向はＮ－5°－Ｅ、壁高は25cmである。

カマド　北壁中央に付設される。煙道部は長さ1.52ｍ、幅は0.28ｍと細長く、火床部から緩やかに立ち上がっている。袖部は床面より10cmほど高く構築されている。

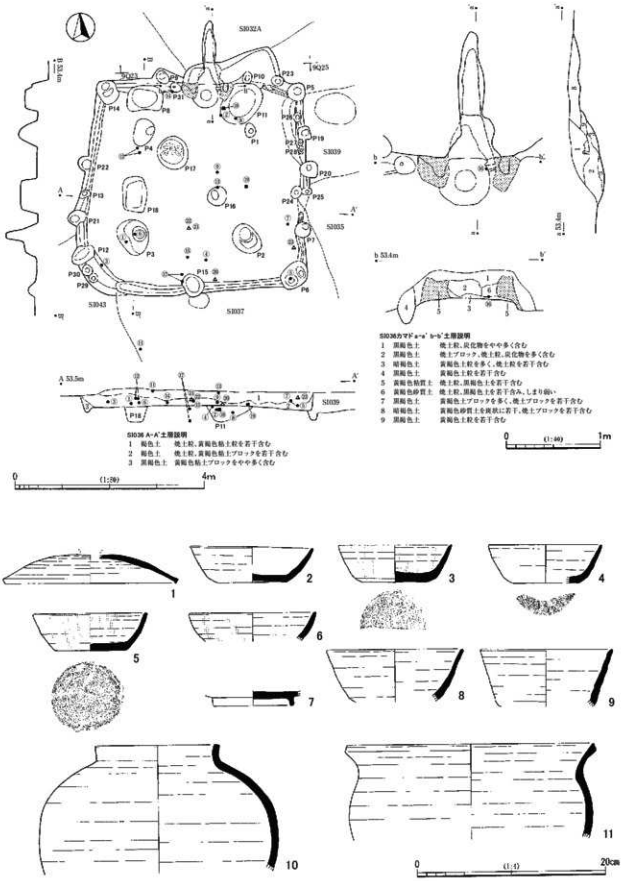
ピット　31基検出された。P1～4は配列・規模から主柱穴と考えられる。P1は径28cm、床面からの深さは36cmである。P2は径60cm、床面からの深さは64cmである。P3は径80cm、床面からの深さは68cmである。P4は長軸長56cm・短軸長40cm、床面からの深さは65cmである。P8・11は配列・規模から貯蔵穴と考えられる。P8は長軸長72cm・短軸長48cmの長方形で、床面からの深さは32cmである。P11は長軸長92cm・短軸長56cmの円形で、床面からの深さは35cmである。P5～7・9・10・12～15・19～31は配列から、壁柱穴と考えられる。各々の規模は最大径20～60cm、床面からの深さは２～79cmである。P16～18の床面からの深さは17～43cmである。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器11点、土師器６点、土製品２点、鉄製品４点である。１は須恵器蓋である。頂部を切り離し後、回転ヘラケズリにより調整されている。２～６・８・９は須恵器坏である。２は底部を回転糸切り後、手持ちヘラケズリにより調整されている。３・４は底部を回転糸切り、胴部下端を３はヘラケズリ、４はナデ調整されている。５は底部を糸切りされている。７は須恵器高台付坏である。底部を切り離し後、回転ヘラケズリ調整が施されている。高台部分は貼り付け後にナデ調整がみられる。10は須恵器短頸壺である。11は須恵器甕である。12は土師器蓋である。ツマミ部分は欠損しており、切り離し後、回転ヘラケズリ調整が施されている。13～15は土師器坏である。13は手持ちヘラケズリ調整が施されている。14・15は底部を回転糸切り後、手持ちヘラケズリ調整が施されている。16・17は土師器甕である。ヨコナデやヘラケズリにより調整されている。18は円柱状の支脚で、一部ススや被熱箇所がみられる。19は土製円板で、須恵器坏底部を転用したものと考えられる。破断面を丁寧に研磨加工している。20は鉄鏃で、柄部のみ残存している。21～23は刀子である。１・３・５～７・９・11～15・19・21・22・23は覆土中、８・18はP11内から出土している。

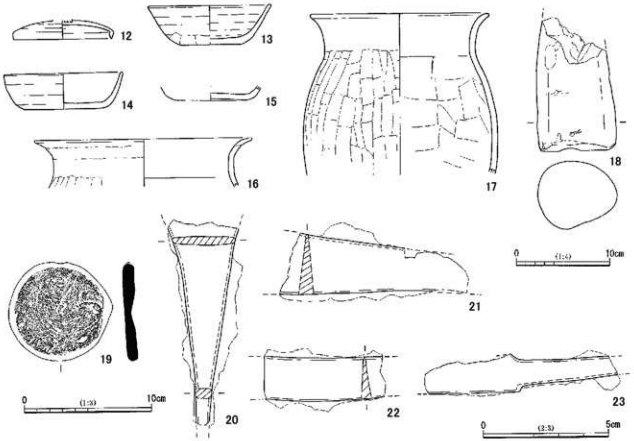
時期　出土遺物の状況から、奈良時代の８世紀後半と考えられる。



第102図　SI035 平面図・出土遺物実測図



第103図　SI036 平面図・出土遺物実測図



第104図　SI036 出土遺物実測図

SI039（第105・106図、図版８・９・52・60・61・62）

9Q-24・25・26・27・28・34・35・36・37・38・45・46・47・48 グリッドに所在する。

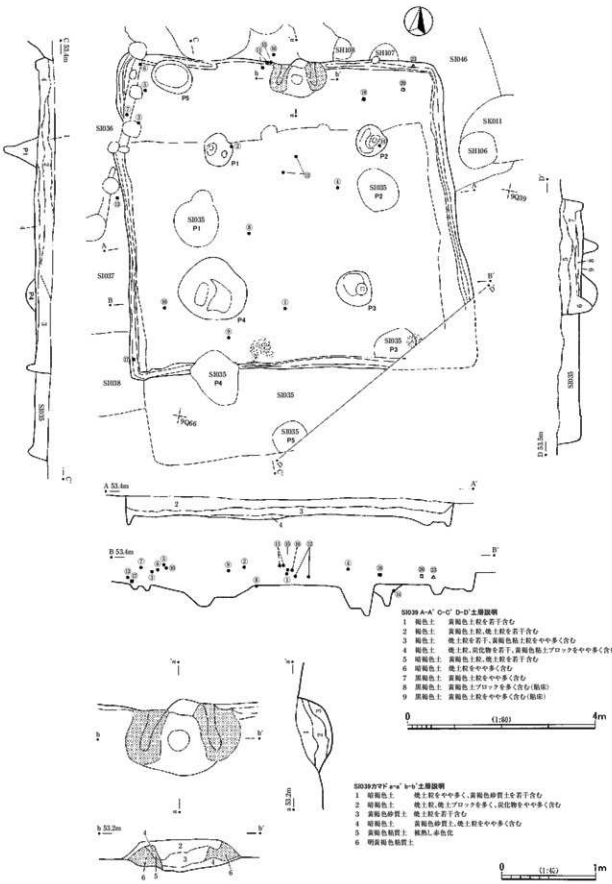
重複関係　SI036 に掘り込まれており、SI035・037・038・046、SK013 を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長7.28m・短軸長6.96mの方形である。主軸方向はN－12°－W、壁高は30cmである。

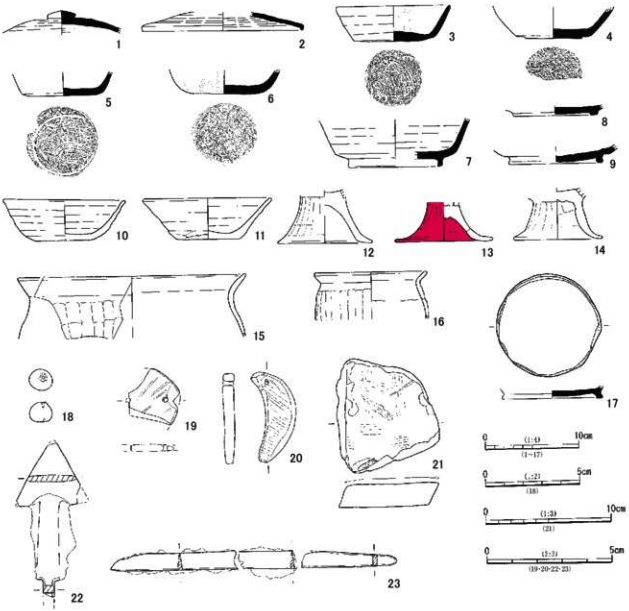
カマド　北壁中央に付設される。

ピット　５基検出された。P1～4は配列から主柱穴と考えられる。P1は径60cm、床面からの深さは72cmである。P2は径64cm、床面からの深さは57cmである。P3は径64cm、床面からの深さは67cmである。P4は径1.3m、床面からの深さは43cmである。P5は位置・規模から楕円形の貯蔵穴と考えられる。径72cm、床面からの深さは22cmである。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器９点、土師器７点、土製品２点、石製品３点、鉄製品２点である。１・２は須恵器蓋である。１は切り離し後、回転ヘラケズリ調整が施されている。３～６は須恵器坏である。３～５は底部を糸切り、胴部下端をナデ調整している。７～９は須恵器高台付坏である。７・９は底部を切り離し後、回転ヘラケズリ調整が施されている。10・11は土師器坏である。10は回転ヘラケズリ、11は手持ちヘラケズリにより調整されている。12～14は土師器高坏脚部である。13は内外面が赤彩されている。ヘラケズリやヘラナデ調整が施されている。15・16は土師器甕である。ヘラケズリやヨコナデ調整が施されている。17は須恵器底部を転用した円盤で、硯として使用したものであろう。墨痕は確認できない。



第105図　SI039 平面図



第106図　SI039 出土遺物実測図

18は土製丸玉である。部分的に赤彩がみられる。焼成前に穿孔されており、貫通はしていない。19は有孔円板である。長さ23.69㎜、幅20.55㎜、孔径1.2㎜である。20は滑石製の勾玉模造品である。長さ34.5㎜、厚さ4.15㎜である。21は砂岩製の砥石である。22は鉄鏃である。鏃身部は平根形で、断面形は平造である。23は刀子である。1～7・9～11・15・17・18・20・23は覆土内、8は床面直上から出土している。なお、12～14は古墳時代の土師器高坏であるが、他遺構との重複が激しく、流れ込みの可能性がある。

時期　出土遺物の状況から、奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

SI040（第107図、図版11・53）

9Q-73・74・75・83・84・93・94グリッドに所在する。

重複関係　SI041・042を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長3.28m・残存短軸長3.20mの方形である。主軸方向はN－21°－W、壁高は20cmである。

ピット　2基検出された。P1・2は性格不明である。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器蓋1点である。外面は回転ヘラケズリにより調整されている。

時期　出土遺物の状況から、奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

SI045（第108図、図版10・53）

8Q-98・99・8R-80・90・91・9Q-00・01・10・11グリッドに所在する。

重複関係　SK003に掘り込まれており、SI048、SK001を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長5.04m・短軸長4.96mの方形である。主軸方向はN－26°－W、壁高は10cmである。

ピット　8基検出された。P1・2・5・8は配列・規模から主柱穴の可能性がある。P1は径56cm、床面からの深さは30cmである。P2は径48cm、床面からの深さは40cmである。P5は長軸長80cm・短軸長64cm、床面からの深さは44cmである。P8は長軸長112cm・短軸長104cm、床面からの深さは97cmである。P4はP5と重複しており、古い柱穴の可能性がある。長軸長56cm・短軸長44cm、床面からの深さは54cmである。ほかのピットの床面からの深さは20～54cmである。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器1点である。1は須恵器甕である。外面に回転ヘラケズリ調整が施されている。一部断面が研磨されている。

時期　出土遺物の状況から、奈良時代の8世紀中葉と考えられる。

SI046（第109図、図版9・53）

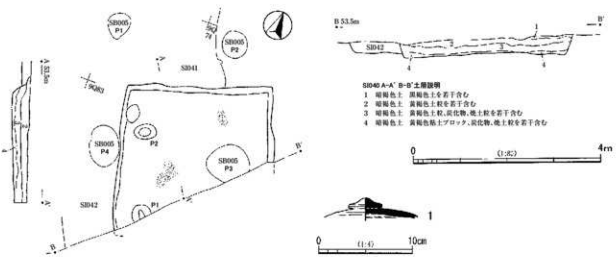
8Q-97・9Q-06・07・16・17・18・26・27・28・36・37・38グリッドに所在する。

重複関係　SI039、SK011・012・013に掘り込まれており、SI032Aを掘り込んでいる。

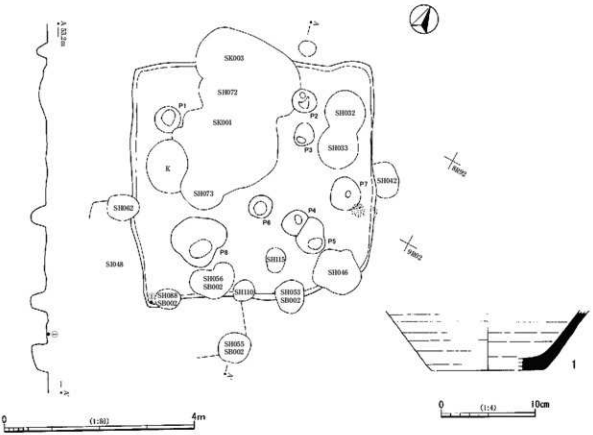
規模と形状　長軸長6.80m・残存短軸長1.28mの方形である。主軸方向はN－64°－E、壁高は10cmである。

カマド　東壁中央に位置する。長軸長76cm・短軸長60cm、床面からの深さは12cmである。

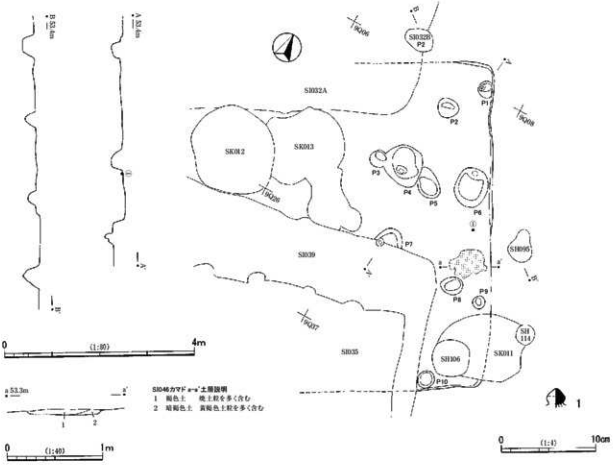
ピット　10基検出された。不規則かつ他の遺構との重複関係から、詳細は不明である。床面からの深さは



第107図　SI040平面図・出土遺物実測図



第108図　SI045 平面図・出土遺物実測図



第109図　SI046 平面図・出土遺物実測図

13～66cmである。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器１点である。１は須恵器蓋で、宝珠状のつまみ部分のみ残存している。

時期　出土遺物の状況から、奈良時代の８世紀前葉と考えられる。

SI047（第110・111図、図版10・11・53・54・60・62・63）

9P-19・29・39・49・9Q-10・11・12・20・21・22・30・31・32・40・41・42 グリッドに所在する。

重複関係　SI043・050・051・054を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長6.24m・短軸長5.44mの方形である。主軸方向はN－1°－W、壁高は40cmである。北東部コーナーと東側に焼土が確認されている。壁溝は全周している。

カマド　北壁中央に付設される。煙道部は長さ1.44m、幅0.38mと細長く、火床部から壁際は急激に立ち上がり、煙道部分は緩やかに立ち上がる。

ピット　15基検出された。P1～4は配列・規模から主柱穴と考えられる。P1は長軸長76cm・短軸長56cm、床面からの深さは77cmである。P2は長軸長68cm・短軸長56cm、床面からの深さは61cmである。P3は径92cm、床面からの深さは81cmである。P4は長軸長80cm・短軸長64cm、床面からの深さは70cmである。P6・7はP1に掘り込まれており、古い柱穴の可能性がある。P6は径80cm、床面からの深さは50cmである。P7は径156cm、床面からの深さは47cmである。P8はP4に掘り込まれており、古い柱穴の可能性がある。径84cm、床面からの深さは54cmである。P9～15は配列から壁柱穴と考えられる。床面からの深さは９～48cmである。

出土遺物　図示した遺物は、須恵器16点、土師器３点、土製品２点、鉄製品５点、椀形の鍛冶滓１点である。１・２は須恵器蓋で、２は宝珠状のツマミ部分のみ残存している。１は外面に自然釉がみられる。３～13は須恵器坏である。３・４・６・７・９・11は完形である。３・４・10～13は回転ヘラケズリ、５・６・８は回転糸切り後、回転ヘラケズリ、９は底部に回転ヘラケズリ調整が施されている。14～16は須恵器高台付坏である。15は完形である。14は底部を回転ヘラケズリしている。17は土師器坏である。外面にヨコナデやヘラケズリ、内面にヘラナデやユビナデ調整が施されている。18・19は土師器甕である。ヨコナデやヘラケズリにより調整されている。20は方柱状、21は円柱状の支脚である。21はケズリ後にナデ調整が施されている。22・24は鉄鏃で、22は鏃身部、24は柄部のみ残存している。22の鏃身部形は三角形、断面形は両丸造である。24の鏃身部形は柳葉か三角形と考えられ、断面形は平造である。23は穂摘具の刃部である。25は環状品である。２つの輪が鎖状に繋がっている。26は不明鉄製品で、裏に折れ曲がっている。長方形の透かし孔と、目釘孔らしき穴が１か所穿孔されている。長さ74.3mm、幅45.7mm、厚さ1.2mmである。27は椀形の鍛冶滓で、重量は194.95gである。１～３・６・７・９・11・13・15・18・19・23・24は覆土内、16は床面直上、19～21はカマド覆土内から出土している。

時期　出土遺物の状況から、奈良時代の８世紀中葉と考えられる。

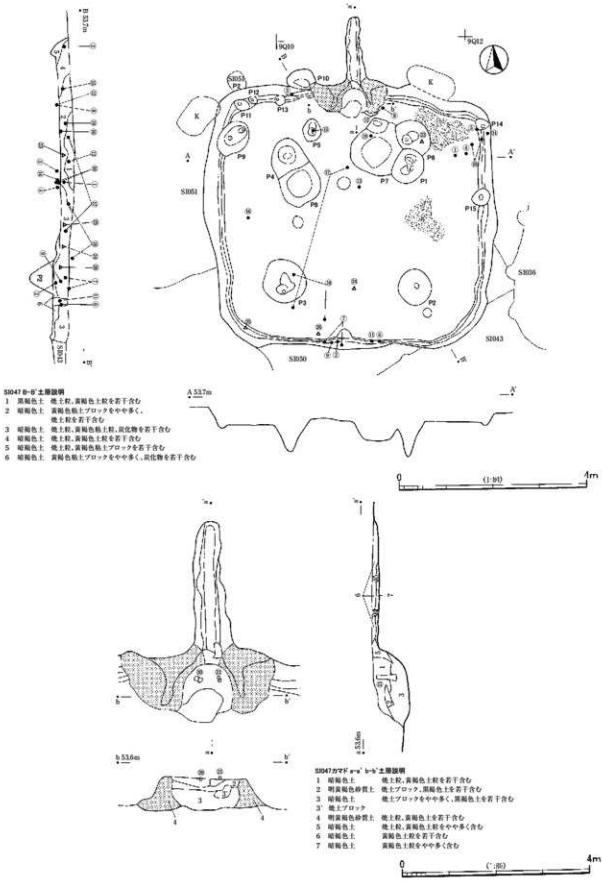
２　土坑

SK001（第112図、図版54・60）

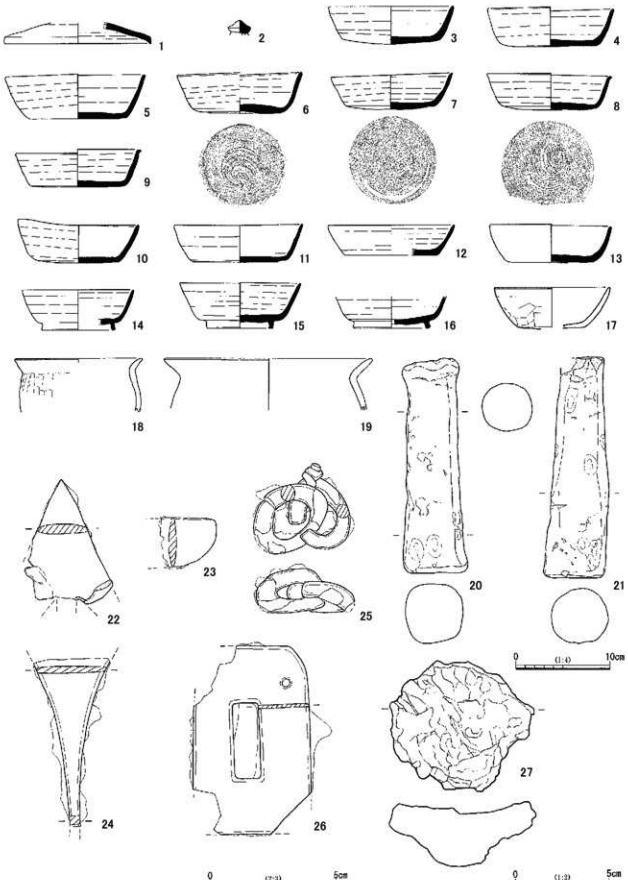
8Q-99・8R-90・9Q-09・9R-00 グリッドに所在する。

重複関係　SI045、SK003、SH072 に掘り込まれている。

規模と形状　長軸長2.40m・短軸長2.16mの不整形である。確認面からの深さは46cmである。



第110図　SI047 平面図



第111図　SI047 出土遺物実測図

出土遺物　図示した遺物は、須恵器１点、灰釉陶器１点、土師器２点、土製品１点である。１は土師器坏である。内外面ともに摩耗しており、調整痕は不明である。２は灰釉陶器長頸壺である。３は須恵器甕である。全体に自然釉がかかり、頸部に押捺痕がみられる。４は手捏ね土器である。外面に指頭圧痕、内面にナデ調整が施されており、丁寧なつくりである。５は羽口先端部である。１・４は覆土内から出土している。

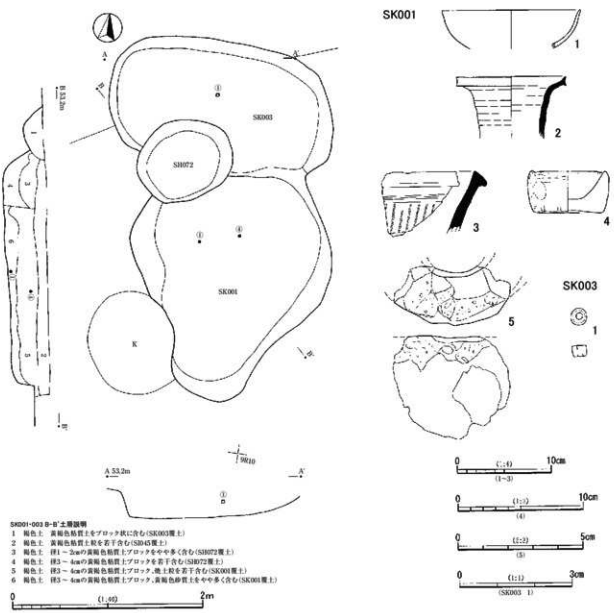
時期　出土遺物の状況から、奈良・平安時代と考えられる。

SK003（第112図、図版61）

8Q-89・99・8R-80・90グリッドに所在する。

重複関係　SH072に掘り込まれており、SI045、SK001を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸長2.36m・短軸長2.20mの楕円形である。確認面からの深さは28cmである。



第112図　SK001・003 平面図・出土遺物実測図

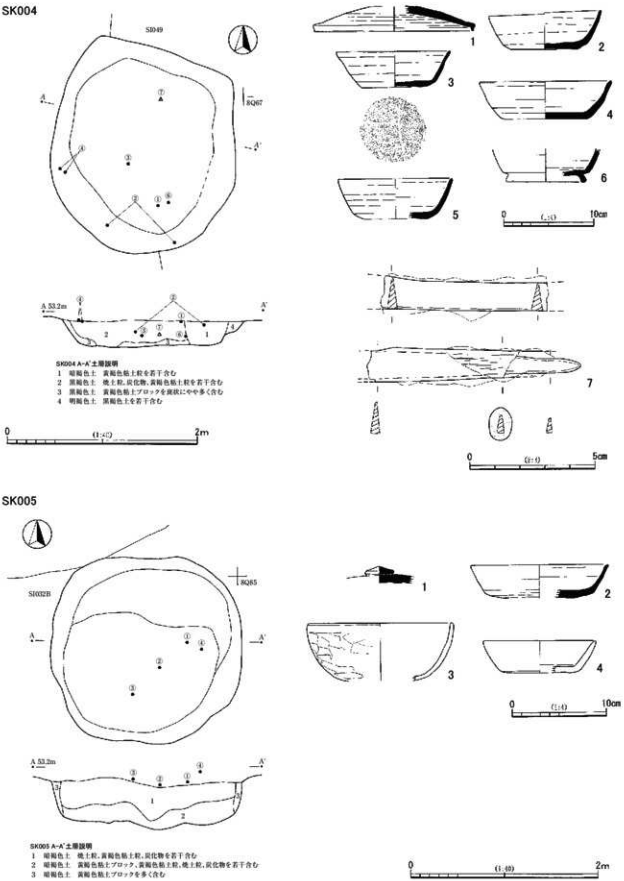
出土遺物　図示した遺物は、石製品１点である。１は滑石製の臼玉である。幅4.60㎜、厚さ2.79㎜、孔径1.75㎜である。覆土内から出土している。
時期　出土遺物の状況から、奈良・平安時代と考えられる。

SK004（第113図、図版16・54・63）
8Q-46・56 グリッドに所在する。
重複関係　SI049 を掘り込んでいる。
規模と形状　長軸長2.22m・短軸長1.94mの楕円形である。確認面からの深さは55cmである。
出土遺物　図示した遺物は、須恵器６点、鉄製品１点である。１は須恵器蓋である。ロクロ成形後、回転ヘラケズリされている。２～５は須恵器坏で、２は完形である。２の底部は回転糸切り後無調整である。３は回転糸切り後、ナデ調整が施されている。４・５は回転ヘラケズリ調整が施されている。６は須恵器高台付坏である。回転ヘラケズリやナデ調整が施されている。７は刀子で、刃と柄の部分が残存している。１～４・６・７は覆土中から出土している。
時期　出土遺物の状況から、奈良時代の８世紀後半の所産と考えられる。

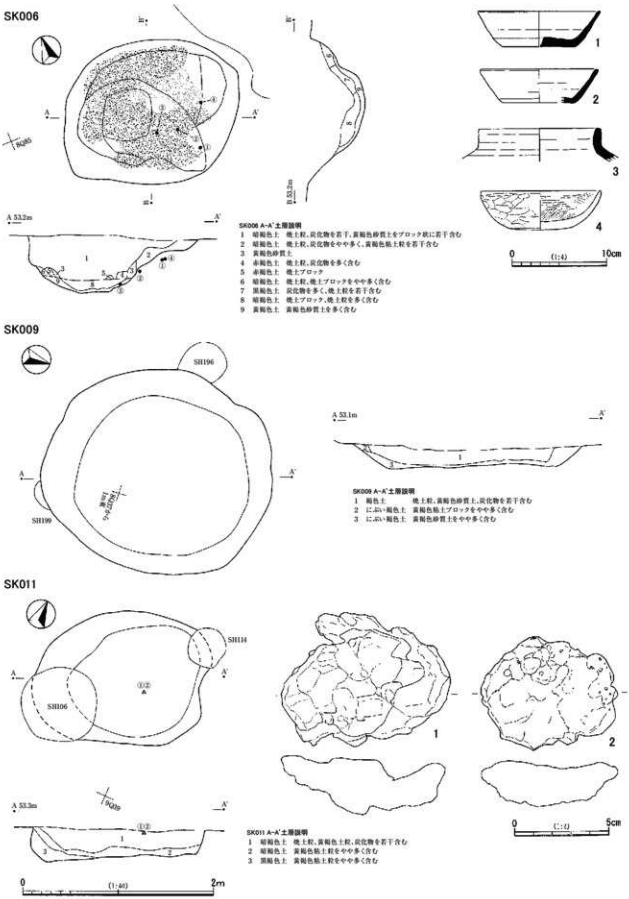
SK005（第113図、図版16・54）
8Q-74・84 グリッドに所在する。
重複関係　SI032A を掘り込んでいる。
規模と形状　長軸長2.00m・短軸長1.96mの円形である。確認面からの深さ57cmである。
出土遺物　図示した遺物は、須恵器２点、土師器２点である。１は須恵器蓋である。ツマミ部分に自然釉が付着している。２は須恵器坏である。回転ヘラケズリ調整が施されている。３・４は土師器坏である。３は口縁部をヨコナデ、胴部を浅いヘラケズリ調整が施されている。
時期　出土遺物の状況から、奈良時代の８世紀前半の所産と考えられる。

SK006（第114図、図版17・54・63）
8Q-75・85 グリッドに所在する。
重複関係　SI032A を掘り込んでいる。
規模と形状　長軸長1.80m・短軸長1.52mの円形である。確認面からの深さは66cmである。覆土上層から下層まで焼土が広範囲に堆積している。
出土遺物　図示した遺物は須恵器３点、土師器１点である。１・２は須恵器坏である。回転ヘラケズリ調整が施されている。３は須恵器短頸壺である。４は土師器坏である。外面にヨコナデやヘラケズリ、内面にミガキ調整が施されている。外面半分が黒色化している。３は床面直上から出土している。
時期　出土遺物の状況から、奈良時代の８世紀中葉の所産と考えられる。

SK009（第114図）
8Q-26・27・36・37 グリッドに所在する。
重複関係　SH196・199 を掘り込んでいる。



第113図　SK004・005 平面図・出土遺物実測図

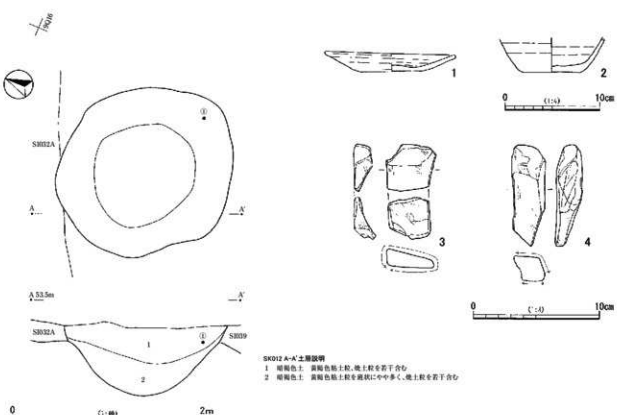


第114図 SK006・009・011 平面図・出土遺物実測図

規模と形状　長軸長2.38m・短軸長2.16mの円形である。確認面からの深さは30cmである。
出土遺物　須恵器片・土師器片のみ出土している。
時期　出土遺物の状況から、奈良・平安時代と考えられる。

SK011（第114図、図版63・64）
9Q-28・29グリッドに所在する。
重複関係　SH106・114に掘り込まれている。
規模と形状　長軸長1.90m・短軸長1.52mの不整形である。確認面からの深さは31cmである。
出土遺物　図示した遺物は椀形の鍛冶滓２点である。重量は１が212.37g、２が119.89gである。１は椀形の鍛冶滓が二つ重なった状態であり、数次に亘って使用したものと考えられる。覆土上層から出土している。また、その他に鍛冶滓が13点出土している。これらは小さい形状のものから椀形に近い形状のものまであり、様々な操業過程の資料が得られた。
時期　出土遺物の状況から、奈良・平安時代と考えられる。様々な段階の鍛冶滓がまとまって出土していることから、ある程度長期的な操業で生じた鍛冶滓がまとめて投棄されたものと考えられる。

SK012（第115図、図版17・54・55・61）
9Q-15・25グリッドに所在する。
重複関係　SI032Aを掘り込んでいる。



第115図　SK012 平面図・出土遺物実測図

規模と形状　長軸長1.88m・短軸長1.78mの円形である。確認面からの深さは70cmである。
出土遺物　図示した遺物は土師器２点、石製品２点である。１は土師器皿である。底部は回転糸切り後に回転ヘラケズリ調整が施されている。２は土師器坏である。回転糸切り後に回転ヘラケズリ調整が施されている。３・４は砥石である。１は覆土上層から出土している。
時期　出土遺物の状況から、平安時代の９世紀後半と考えられる。

SK013A・B・C・D（第116図、図版17・55）
9Q-15・16・25・26グリッドに所在する。
重複関係　SI039、SH108に掘り込まれており、SI032Aを掘り込んでいる。４基重複しており、SK013B・C・A・Dの順に新しい。
規模と形状　SK013Aは長軸長1.28m・短軸長0.88m、SK013Bは長軸長0.94m・短軸長0.86m、SK013Cは径0.28m、SK013Dは長軸長1.16m・短軸長0.88mの不整形である。確認面からの深さは27～49cmである。
出土遺物　図示した遺物は、須恵器２点、土師器７点、灰釉陶器１点、土製品１点である。１・２は須恵器坏である。１は底部を回転糸切り後、無調整である。３～８は土師器坏である。３・７は回転糸切り、４は手持ちヘラケズリ、５・６は回転ヘラケズリ調整が施されている。９は土師器甕である。ナデやヘラケズリにより調整されている。外面にススが付着している。10は灰釉陶器壺と考えられる。ロクロ成形され、内面が施釉されている。11は角錐状の支脚で、一部に被熱箇所がみられる。２・４は覆土内、３・５～９・11は覆土上層から出土している。
時期　出土遺物の状況から、平安時代の９世紀前半と考えられる。

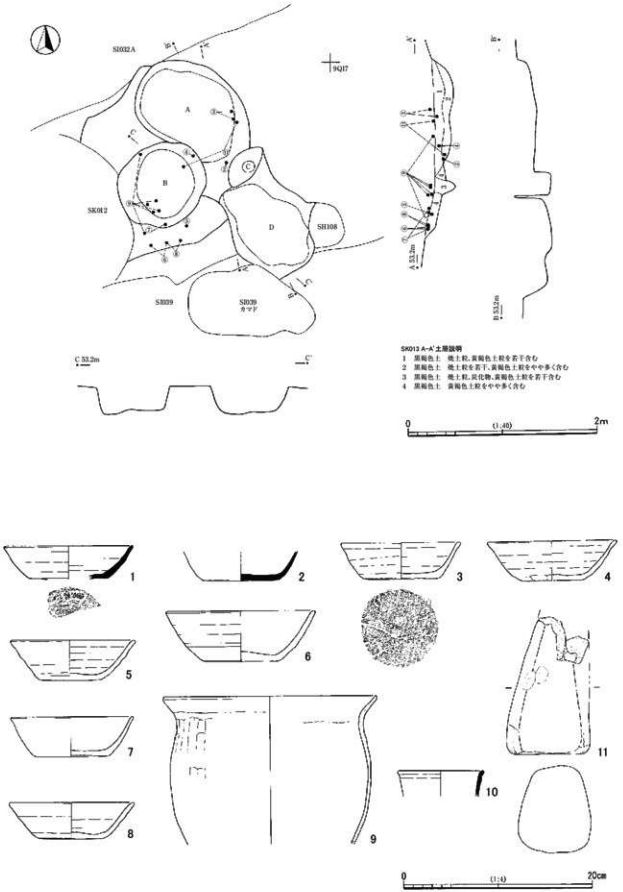
3　溝跡

SD003（第117図、図版16）
10P-89・10O-70・80・81・82・90・91・92・11O-02・03・12・13・22・23・32・33・34グリッドに所在する。
規模と形状　北西から南東に伸びる蛇行する溝で、全長14.80m、上幅1.68～2.40m、下幅0.36～0.84mである。深さは70～100cmで、断面形状はU字形である。
時期　遺構の形状から、中・近世と考えられる。

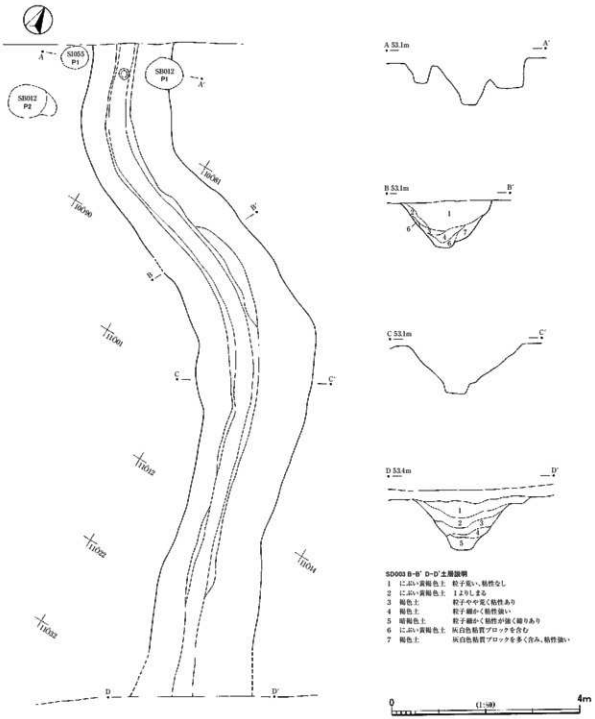
第３節　その他の遺構

その他の遺構は、詳細な時期を確定できなかった遺構で、竪穴状遺構１軒、掘立柱建物跡５棟、土坑９基、ピット５基、柵列１条となる。なお、掘立柱建物跡や柵列については、調査段階では16棟の掘立柱建物跡に復元したが、整理段階で６棟の掘立柱建物跡、１条の柵列に見直した。

SI055（第118図、図版12）
10N-87・88・89・97・98・99グリッドに所在する。
重複関係　SD003、SB012に掘り込まれている。
規模と形状　壁面は確認できず、床面とピットのみ残存している。
ピット　５基検出された。P1～4は配列・規模から主柱穴と考えられる。P1は径52cm、床面からの深さは



第116図　SK013A・B・C・D 平面図・出土遺物実測図



第117図　SD003 平面図

45cmである。P2は長軸長80cm・短軸長72cm、床面からの深さは41cmである。P3は径38cm、床面からの深さは29cmである。P4は径30cm、床面からの深さは30cmである。P5は出入口ピットの可能性がある。長軸長62cm・短軸長52cm、床面からの深さは28cmである。

SB002（第119図、図版10）

9Q-299R-00・01・10・11・20・21 グリッドに所在する。

規模と形状　桁行３間（2.80m）×梁間１間（3.64m）の総柱建物である。各柱穴の直径は48～96cm、深さ24～61cmである。主軸方向はN－41°－Eである。

SB003（第119図）

8Q-63・64・65・66・73・74・75・76・83・84・85・86 グリッドに所在する。

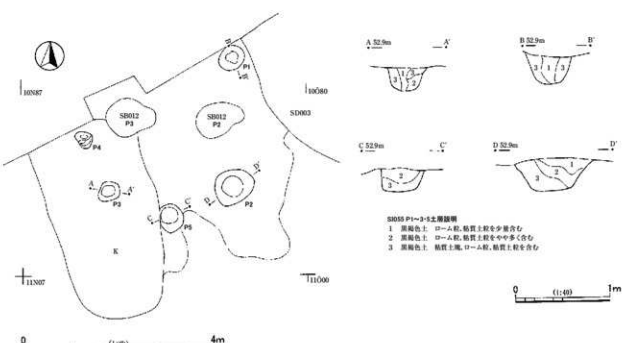
重複関係　SI032A・032B・049 と重複しているが、重複関係は不明である。

規模と形状　桁行３間（6.16m）×梁間２間（1.60m）の建物跡である。各柱穴の直径は32～84cm、深さ15～68cmである。主軸方向はN－269°－Wである。

SB004（第120図）

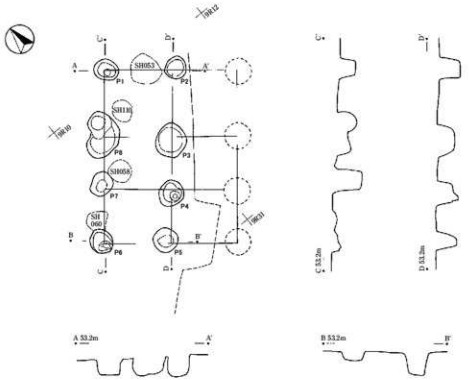
8Q-53・63・72・73・81・82・83 グリッドに所在する。

規模と形状　桁行２間（4.80m）×梁間１間（3.44m）の建物跡である。各柱穴の直径は44～100cm、深さ28～48cmである。主軸方向はN－13°－Wである。

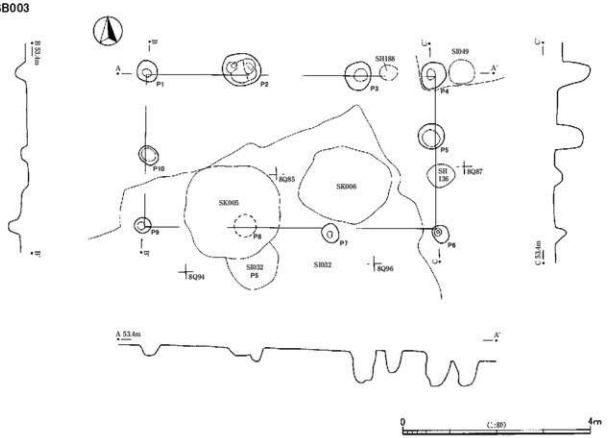


第118図　SI055 平面図

SB002



SB003



第119図　SB002・003 平面図

SB005（第120図）

9Q-73・74・83・84 グリッドに所在する。

重複関係　SI040・041 と重複するが、重複関係は不明である。

規模と形状　桁行１間（2.57m）×梁間１間（2.72m）の建物跡である。各柱穴の直径は 56～84cm、深さ48～84cmである。主軸方向はＮ－15°－Ｗである。

SB012（第120図、図版16）

10N-79・87・88・89・10O-70・80 グリッドに所在する。

重複関係　SD003 を掘り込んでいる。SI055 と重複するが、重複関係は不明である。

規模と形状　桁行２間（4.16m）×梁間１間（2.88m）の建物跡である。各柱穴の直径は80～104cm、深さ56～62cmである。主軸方向はＮ－１°－Ｅである。

SK010（第121図）

8Q-36・46 グリッドに所在する。

規模と形状　長軸長1.18m・短軸長0.96mの円形である。確認面からの深さは38cmである。

SK038A・B（第121図）

10P-01・02・11・12 グリッドに所在する。

重複関係　２基重複しており、SK038B・038A の順に新しい。

規模と形状　SK038Aは長軸長1.34m・短軸長0.92mの楕円形で深さ63cm、SK038Bは長軸長0.78m・短軸長0.68mの楕円形で深さ66cmである。

SK039・040（第121図）

10P-02・12 グリッドに所在する。

重複関係　２基重複しており、SK040・039 の順に新しい。

規模と形状　SK039は長軸長1.16m・短軸長0.94mの楕円形で深さ23cmである。SK040は長軸長1.18m・短軸長0.56mの長楕円形で深さ27cmである。

SK042・043（第121図）

10O-09・10P-00 グリッドに所在する。

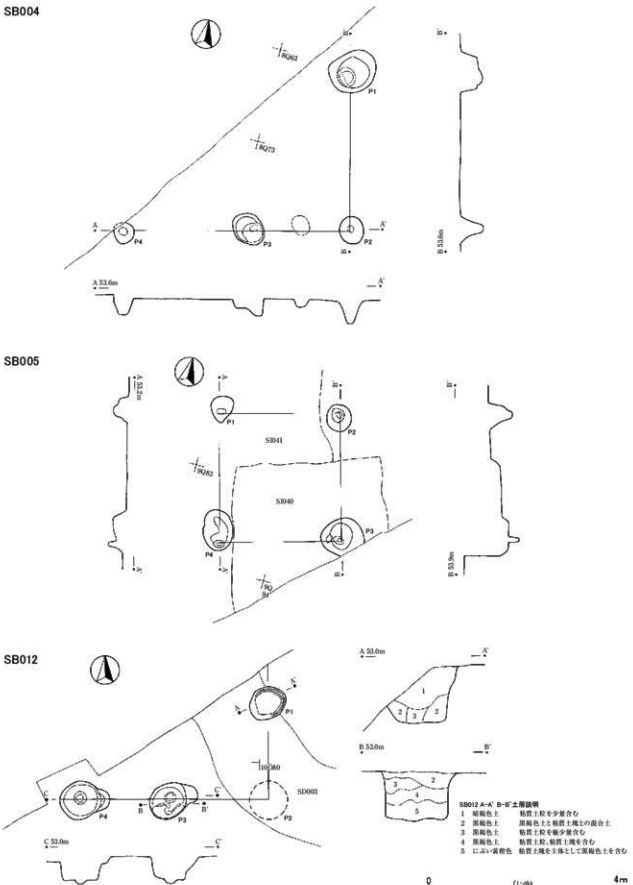
重複関係　２基重複しており、SK042・043 の順に新しい。

規模と形状　SK042は長軸長1.68m・短軸長1.56mの不整形で深さ20cm、SK043は長軸長0.82m・短軸長0.62mの長楕円形で深さ41cmである。

SK046（第121図、図版18）

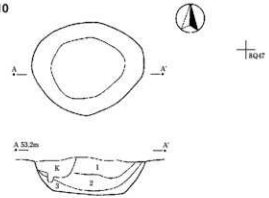
10P-13・23 グリッドに所在する。

重複関係　SK041 を掘り込んでいる。



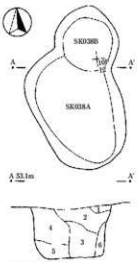
第120図　SB004・005・012 平面図

SK010



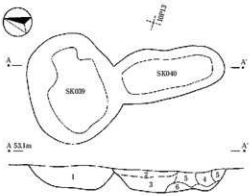
SK010 A-A'土層説明
1　暗褐色土　黄褐色粘土粒、焼土粒を若干含む
2　暗褐色土　黄褐色粘土粒をやや多く、焼土粒を若干含む
3　暗褐色土　黄褐色砂質土をやや多く含む

SK038



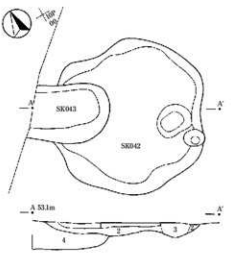
SK038 A-A'土層説明
1　黒褐色土　ローム粒、焼土粒を少量含む
2　褐灰色土　黄橙色粘土ブロックを多く含む
3　暗褐色土　黄橙色粘質土粒、小ブロックを含む
4　褐灰色土　暗褐色土と黄橙色粘質土の混合土
5　黒褐色土　黄橙色粘質土を含む
6　黒褐色土　黄橙色粘質土ブロックを多く含み、縞まりがある

SK039・040



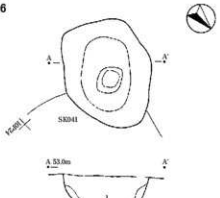
SK039・040 A-A'土層説明
1　明黄褐色土　黄褐色粘質土主体で暗褐色土が混じる(SK039覆土)
2　灰黄褐色土　暗褐色土と黄橙色粘質土との混合土(SK040覆土)
3　にぶい黄褐色土　ローム粒を含み、粒子は細かい(SK040覆土)
4　黒褐色土　ローム粒等の粒子を殆ど含まない(SK040覆土)
5　暗褐色土　ローム粒を含む(SK040覆土)
6　褐色土　褐色土と黄橙色粘質土ブロックの混合土(SK040覆土)

SK042・043



SK042・043 A-A'土層説明
1　にぶい黄橙色土　黒褐色土と黄褐色粘質土の混合土(SK042覆土)
2　黒褐色土　黄褐色粘土を多く含む(SK042覆土)
3　黒褐色土　黒褐色土と黄褐色粘質土の混合土(SK042覆土)
4　黒褐色土　ローム粒を少量含む(SK043覆土)

SK046



SK046 A-A'土層説明
1　黒褐色土　暗褐色土を含む
2　黒褐色土　褐色土を斑点状に含む

SK059

第121図　SK010・038～040・042・043・046・059 平面図

規模と形状　長軸長0.92m・短軸長0.72mの楕円形である。確認面からの深さは1.00mである。

SK059（第121図、図版19）

11O-22 グリッドに所在する。

規模と形状　長軸長1.04m・短軸長0.58mの楕円形である。確認面からの深さは43cmである。

SH154・186（第122図）

SH154 は 9Q-30 グリッド、SH186 は 8Q-75 グリッドに所在する。

規模と形状　SH154 は長軸長62cm・短軸長18cm、深さ44cmである。SH186 は直径74cm、深さ71cmである。両遺構とも、断面から柱痕跡が確認された。

SH198（第123図、図版63）

8Q-67・77 グリッドに所在する。

規模と形状　長軸長98cm・短軸長54cm、深さ38cmである。

出土遺物　図示した遺物は、鉄製品１点である。１は刀子である。刃部の一部のみ残存している。

SH243・244（第123図、図版61）

9P-87・97 グリッドに所在する。

重複関係　２基重複しており、SH243 が新しい。

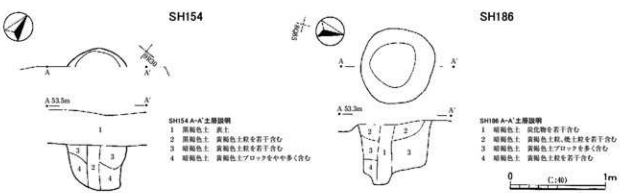
規模と形状　SH243 は長軸長44cm・短軸長39cm、深さ27cm、SH244 は直径41cm、深さ46cmである。

出土遺物　図示した遺物は、石製品１点である。１は SH244 から出土した、砂岩製の砥石である。

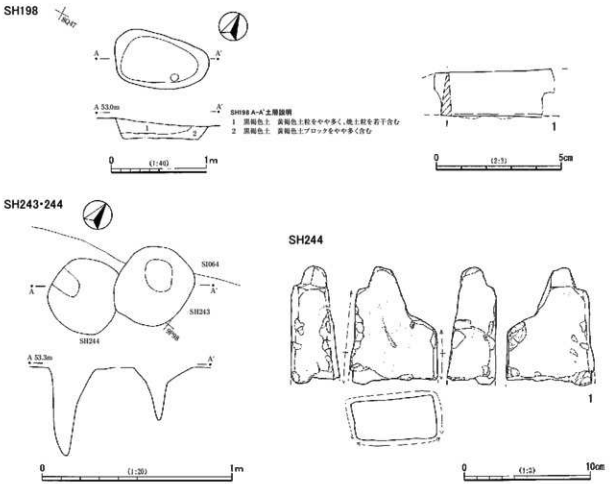
SA001（第124図、図版16）

10P-40・41・42・43・44・45 グリッドに所在する。

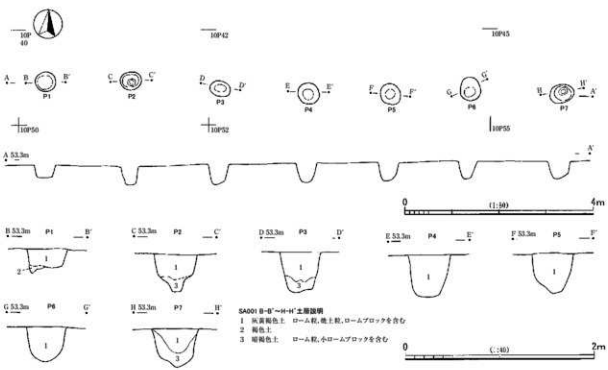
規模と形状　桁行６間（5.70m）の柵列である。各柱穴の直径は22～26cm、深さ27～44cmである。



第122図　SH154・186 平面図



第123図　SH198・243・244 平面図・出土遺物実測図



第124図　SA001 平面図

第34表　奈良・平安時代土器属性表（1）　　（）推定値　［］現存値

検図番号	遺構番号/出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成		技法		備考
第99図-1	SB028	須恵器（赤）	坏	口径 — 底径 (7.0) 器高 [2.4]	40% 底部75%	精緻 石英粒 雲母微量	外面 橙色～灰黄色 内面 橙色～灰黄色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		糸切不入常有開か 外面 底部に火襷痕 回転糸切痕 内面 底面にヘラ書き［×］
第99図-2	SB028	土師器	坏	口径 [12.5] 底径 [6.8] 器高 [4.5]	30% 底部50%	普通 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面 底部切り離し後、ケズリ調整 潰滅
第99図-3	SB028	土師器	坏	口径 [13.6] 底径 [6.5] 器高 4.1	80% 底部100%	普通 砂粒多 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 ヘラケズリ 底部ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		外面 底部切り離し後、ケズリ調整だが摩耗している
第99図-4	SB028	土師器	坏	口径 [13.4] 底径 — 器高 [3.7]	30% 口縁部40%	精緻 砂粒多 雲母粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 ヘラケズリ 底部ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		
第99図-5	SB028	土師器	坏	口径 [14.0] 底径 — 器高 [4.1]	25% 口縁部30%	普通 砂粒多 赤色粒 長石少量 雲母	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 底部ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		
第99図-6	SB028	土師器	坏	口径 [12.4] 底径 [7.2] 器高 [3.6]	25% 底部30%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好		外面 — 内面 —		内・外面 摩耗
第99図-7	SB028	土師器	坏	口径 — 底径 [8.0] 器高 [2.8]	底部30%	やや粗 砂粒多 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 手持ちヘラケズリ 内面 ロクロ成形		外面 底部回転糸切り無調整
第99図-8	SB028	土師器	坏	口径 — 底径 [7.0] 器高 [1.1]	20% 底部80%	精緻 砂粒 赤色粒少量	外面 明黄褐色 内面 明黄褐色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面 底部回転糸切り無調整
第99図-9	SB028	土師器	皿	口径 [13.4] 底径 [7.0] 器高 [2.1]	40% 底部60%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好		外面 — 内面 —		内・外面 摩耗著しい 底部 糸切痕→摩耗して判別が難しい
第99図-10	SB028	灰釉陶器	小型壺	口径 [5.0] 底径 [5.3] 器高 [2.6]	90%	精緻 砂粒	外面 褐色 内面 暗灰黄色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		漬投壺か 外面 一部施釉されていない箇所あり 内面 底部に施釉が見える
第99図-11	SB028	灰釉陶器	手付平瓶	口径 — 底径 8.0 器高 [8.2]	90% （注口部のみ欠損）	精緻 砂粒	外面 にぶい黄橙色 （釉薬）灰オリーブ色 内面 灰白色 （釉薬）灰オリーブ色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		漬投壺灰釉平瓶 外面 底部回転糸切痕 高台部あり
第99図-12	SB028	土師器	甕	口径 19.0 底径 — 器高 [21.4]	70% 口縁部はほぼ100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好		外面 ナデ ヘラナデ 内面 ヘラナデ		
第99図-13	SB028	土師器	甕	口径 [23.6] 底径 — 器高 [30.7]	口縁部20%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 明赤褐色 焼成 良好		外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ ヘラケズリ		
第99図-14	SB028	土師器	甕	口径 [18.8] 底径 — 器高 [7.3]	口縁部25%	やや粗 砂粒多 赤色粒多	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好		外面 ヘラナデ ヘラケズリ 内面 ヘラナデ		内・外面 摩耗
第102図-1	SB035	土師器	坏	口径 14.0 底径 — 器高 4.7 丸底	60%	金雲母 赤色スコリア	外面 にぶい橙色 黒褐色 内面 にぶい褐色 焼成 良好		外面 ヘラケズリ 内面 ミガキ		内・外面 赤彩
第103図-1	SB036	須恵器（灰）	蓋	口径 — 蓋径 [18.0] 器高 [1.1]	20%	白色粒	外面 灰白色 内面 灰白色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		切り離し後回転ヘラケズリ ツマミ欠損
第103図-2	SB036	須恵器（灰）	坏	口径 13.0 底径 7.0 器高 3.9	40% 底部100%	黒色粒 白色粒	外面 灰白色 内面 灰白色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面 底部回転糸切り後、手持ちヘラケズリ 側面下端まで 内面 ロクロ成形 側面下端までヘラケズリの後にナデ
第103図-3	SB036	須恵器（灰）	坏	口径 [12.0] 底径 7.0 器高 [3.9]	底部50%	白色粒	外面 暗灰黄色 内面 灰白色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面 底部回転糸切 側面下端ヘラケズリ 側面～底部にかけて火襷痕
第103図-4	SB036	須恵器（灰）	坏	口径 12.0 底径 7.0 器高 4.0	20% 口縁部25%	黒色粒 白色粒	外面 灰白色 内面 灰白色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面 底部回転糸切の後、側部下端ナデ
第103図-5	SB036	須恵器（灰）	坏	口径 12.0 底径 7.4 器高 3.8	70%	白色粒	外面 黄灰色 内面 黄灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		内・外面 火襷痕 外面 底部糸切り
第103図-6	SB036	須恵器（灰）	坏	口径 [13.4] 底径 — 器高 [3.0]	口縁部50%	白色粒	外面 灰色 内面 黄灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面 火襷入る
第103図-7	SB036	須恵器（灰）	高台付坏	口径 — 底径 8.5 器高 [1.5]	高台部100%	精緻 白色粒 黒色粒	外面 灰白色 内面 灰白色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面 底部切り離し後、回転ヘラケズリ 高台を貼り付けた後に工具を使ってナデ調整
第103図-8	SB036	須恵器（灰）	坏	口径 [14.4] 底径 — 器高 [5.5]	口縁部20%	白色粒 黒色粒	外面 灰白色 内面 灰白色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		
第103図-9	SB036	須恵器（灰）	坏	口径 [14.0] 底径 — 器高 [3.9]	口縁部20%	精緻 白色粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		
第103図-10	SB036	須恵器（灰）	短頸壺	口径 [15.0] 底径 — 器高 [13.5]	口縁部～体部破片	精緻 白色粒	外面 黄灰色 内面 灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		
第103図-11	SB036	須恵器（灰）	甕	口径 [26.0] 底径 — 器高 [10.0]	口縁部25%	精緻 白色粒	外面 灰色 内面 黄灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		糸切有開
第104図-12	SB036	土師器	蓋	口径 — 蓋径 10.2 器高 [2.1]	90%	白色粒 黒色粒 金雲母	外面 橙色～にぶい黄橙色 内面 橙色～にぶい黄橙色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		切り離し後回転ヘラケズリ ツマミ欠損
第104図-13	SB036	土師器	坏	口径 [13.0] 底径 6.4 器高 [1.1]	50% 底部100%	金雲母 赤色スコリア 白色粒	外面 橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面 底部～側部下端手持ちヘラケズリ
第104図-14	SB036	土師器	坏	口径 [12.4] 底径 7.8 器高 3.8	60%	白色粒鉄物質 金雲母 白色粒	外面 明黄褐色～暗灰色 内面 明黄褐色 焼成 やや良		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面 底部回転糸切の後、手持ちヘラケズリ・側部下端ナデ
第104図-15	SB036	土師器	坏	口径 — 底径 7.0 器高 [1.5]	底部100%	金雲母 赤色スコリア 白色粒	外面 明赤褐色 内面 明赤褐色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		内・外面 摩耗 外面 底部回転糸切り後ヘラケズリ

第35表　奈良・平安時代土器属性表（２）　　（）推定値　［］現存値

検図番号	遺構番号 出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成		技法		備考
第104図-16	SB036	土師器	椀	口径 (23.0) 底径 — 器高 [5.0]	口縁部20%	白色粒 金雲母	外面 橙色 内面 赤褐色 焼成 良好		外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ヨコナデ		
第104図-17	SB036	土師器	椀	口径 (19.0) 底径 — 器高 [7.0]	口縁部25%	白色粒 金雲母	外面 にぶい黄橙色 内面 淡黄橙色 焼成 良好		外面 ヨコナデ，ヘラケズリ 内面 ヨコハケナデ　ヘラケズリ		
第106図-1	SB039	須恵器 (IK)	蓋	摘径 3.0cm 底径 — 器高 [2.5]	15%	白色粒 黒色粒	外面 灰色 内面 灰白色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		湖西産 切り離し後回転ヘラケズリ 調整後ツマミ貼り付け
第106図-2	SB039	須恵器 (IK)	蓋	摘径 (17.0) 底径 — 器高 [2.0]	15%	精緻 砂粒	外面 灰白色 内面 灰白色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		内・外面　墨跡
第106図-3	SB039	須恵器 (IK)	坏	口径 12.0 底径 5.6 器高 4.0	95%	白色粒状物質 白色粒 金雲母	外面 明赤褐色 内面 にぶい赤褐色～灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面　底部赤切 内面　ナデ 内面　火襷痕
第106図-4	SB039	須恵器 (IK)	坏	口径 — 底径 (6.0) 器高 [3.3]	底部40%	白色粒 白色粒状物質	外面 にぶい黄色 内面 灰黄色 焼成 やや不良		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面　底部回転赤切 胴部下端ナデ
第106図-5	SB039	須恵器 (IK)	坏	口径 — 底径 7.0 器高 [2.3]	底部90%	白色粒 黒色粒	外面 黄灰色 内面 黄灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面　底部回転赤切後 胴部下端ナデ
第106図-6	SB039	須恵器 (IK)	坏	口径 — 底径 6.4 器高 [2.5]	底部100%	白色粒	外面 明灰黄色 内面 黄灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面　底部回転赤切 内・外面　火襷痕
第106図-7	SB039	須恵器 (IK)	高台付坏	口径 — 底径 (10.0) 器高 [3.1]	底部25%	精緻 白色粒	外面 灰色 内面 黄灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面　切り離し後底部回転ヘラケズリ後に高台を貼り付
第106図-8	SB039	須恵器 (IK)	高台付坏	口径 — 底径 9.0 器高 [1.0]	底部90%	白色粒	外面 灰白色～灰色 内面 灰色 焼成 やや不良		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面　切り離し後底部全面を回転ヘラケズリ後に高台を貼り付け 湖西産
第106図-9	SB039	須恵器 (IK)	高台付坏	口径 — 底径 (10.0) 器高 [1.8]	底部20%	精緻 白色粒	外面 黄灰色 内面 灰白色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面　底部切り離し後，全面一胴部下端を回転ヘラケズリ
第106図-10	SB039	土師器	坏	口径 12.8 底径 6.0 器高 4.5	80%	金雲母 黒色粒 赤色粒 白色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面　底部切り離し後，全面一胴部下端を回転ヘラケズリ
第106図-11	SB039	土師器	坏	口径 (13.0) 底径 6.4 器高 5.3	40%	精緻 金雲母 赤色スコリア	外面 にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		外面　底部切り離し後，全面一胴部下端を手持ちヘラケズリ
第106図-12	SB039	土師器	高坏	口径 — 底径 (10.0) 器高 [5.6]	脚部70%	白色粒 赤色スコリア 金雲母	外面 橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好		外面 タテ・ヘラケズリ ヨコ方向のナデ 内面 ヨコ・ハケナデ		
第106図-13	SB039	土師器	高坏	口径 — 底径 (10.4) 器高 [4.1]	底部50%	赤色スコリア 金雲母	外面 にぶい橙色 （赤彩）にぶい赤褐色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好		外面 タテ・ヘラケズリ ヨコ・ハケナデ 内面 ヘラナデ		外面　赤彩
第106図-14	SB039	土師器	高坏	口径 — 底径 (10.4) 器高 [4.1]	脚部50%	赤色スコリア 金雲母	外面 橙色～にぶい橙色 内面 にぶい橙色 焼成 良好		外面 タテ・ヘラケズリ ヨコ・ハケナデ 内面 ヨコ・ハケナデ		外面　赤彩
第106図-15	SB039	土師器	蓋	口径 (24.0) 底径 — 器高 [6.0]	口縁部～胴部破片	金雲母 黒色粒 赤色粒	外面 にぶい橙色～褐色 内面 褐灰色 焼成 良好		外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ タテ方向のヘラケズリ		
第106図-16	SB039	土師器	蓋	口径 (12.0) 底径 — 器高 [5.0]	口縁部25%	金雲母 白色粒	外面 灰褐色 内面 にぶい褐色 焼成 良好		外面 ヘラケズリ 内面 ヨコナデ		
第107図-1	SB040	須恵器 (IK)	蓋	口径 — 底径 — 器高 [2.2]	60%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好		外面 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ調整		
第108図-1	SB045	須恵器 (IK)	蓋	口径 — 底径 (12.0) 器高 [6.3]	底部25%	白色粒	外面 灰色 内面 黄灰色 焼成 良好		外面 回転ヘラケズリ 内面 ロクロナデ		水回窯 一部断面面れ口部歪曲
第109図-1	SB046	須恵器 (IK)	蓋・宝珠ツマミ部	口径 2.0 器高 [2.0]	つまみ部分のみ	精緻 白色粒	外面 灰色 焼成 やや不良		外面 ロクロナデ調整		
第111図-1	SB047	須恵器 (IK)	蓋	口径 (15.3) 底径 — 器高 [2.3]	口縁部20%	精緻 砂粒少量	外面 灰白色・灰オリーブ色 内面 灰白色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形		湖西窯か 外面　自然釉
第111図-2	SB047	須恵器 (IK)	蓋	最大径 [2.1] 最大幅 2.4	つまみ部100%	精緻 砂粒	外面 灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 内面 —		湖西窯
第111図-3	SB047	須恵器 (IK)	坏	口径 13.1 底径 10.4 器高 4.0	85% 底部は1/2 100%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		水回窯 火襷が見られる
第111図-4	SB047	須恵器 (IK)	坏	口径 13.1 底径 9.1 器高 4.2	90% 底部100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		水回窯 内・外面　火襷あり
第111図-5	SB047	須恵器 (赤)	坏	口径 14.5 底径 10.4 器高 4.8	70%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 黄橙色・灰色 内面 黄橙色・灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形　回転糸切り 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		
第111図-6	SB047	須恵器 (IK)	坏	口径 13.0 底径 8.8 器高 4.4	90% 底部100%	精緻 砂粒 赤色粒若干	外面 灰色・一部褐色 内面 灰色・一部褐色 焼成 良好		外面 ロクロ成形　回転糸切り 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		内・外面　火襷あり 水回窯
第111図-7	SB047	須恵器 (IK)	坏	口径 12.8 底径 9.4 器高 3.8	90% 底部100%	精緻 砂粒 黒色粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形　回転ヘラ切り 底部回転ヘラケズリ 中央手持ちヘラケズリ 内面 ロクロ成形		内・外面　火襷あり
第111図-8	SB047	須恵器 (IK)	坏	口径 13.1 底径 10.0 器高 3.8	25% 口縁部60%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 灰白色 内面 灰白色 焼成 良好		外面 ロクロ成形　回転糸切り 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		内・外面　火襷あり 水回窯
第111図-9	SB047	須恵器 (IK)	坏	口径 12.9 底径 9.9 器高 4.0	90% 底部100%	精緻 砂粒 黒色粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 底部回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		内・外面　火襷 外面　付着物（底部に粘土）
第111図-10	SB047	須恵器 (赤)	坏	口径 12.4 底径 8.4 器高 4.6	80%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 淡黄色 内面 灰黄色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		火襷あり 内面　墨跡
第111図-11	SB047	須恵器 (IK)	坏	口径 13.4 底径 9.0 器高 4.0	95% 底部100%	精緻 砂粒 雲母	外面 明黄褐色～黄灰色 内面 明黄褐色～黄灰色 焼成 良好		外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形		内・外面　火襷あり

第36表　奈良・平安時代土器属性表（3）　　（）推定値　［］現存値

検出番号 出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
第111図-12	SB047	須恵器 (灰)	坏	口径 (12.3) 底径 (10.0) 器高 (3.2)	25% 底部33%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形
第111図-13	SB047	須恵器 (赤)	坏	口径 12.6 底径 9.0 器高 4.0	80% 底部100%	精緻 砂粒多 雲母少量	外面 明青灰色～暗灰黄色 内面 明青灰色～暗灰黄色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	内・外面　摩耗著しい
第111図-14	SB047	須恵器 (灰)	高台付坏	口径 (11.5) 底径 (7.7) 器高 (4.3)	底部30%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	底部のみ回転ヘラケズリ
第111図-15	SB047	須恵器 (灰)	高台付坏	口径 12.7 底径 7.0 器高 4.8	80% 底部100%	精緻 砂粒	外面 灰白色 内面 灰白色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形
第111図-16	SB047	須恵器 (灰)	高台付坏	口径 — 底径 (8.2) 器高 [3.4]	底部40%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形
第111図-17	SB047	土師器	坏	口径 12.0 底径 7.0 器高 4.3	60% 口縁部50%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ヘラナデ　ユビナデ	輪積痕残る
第111図-18	SB047	土師器	甕	口径 (13.2) 底径 — 器高 [5.7]	口縁部70%	精緻 砂粒 雲母微量	外面 にぶい赤褐色 内面 にぶい赤褐色～褐灰色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ヨコナデ　ヘラナデ
第111図-19	SB047	土師器	甕	口径 (21.8) 底径 — 器高 [5.5]	口縁部50%	やや粗 砂粒多 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ヨコナデ	
第112図-1	SK001	土師器	坏	口径 (14.6) 底径 — 器高 4.1	口縁部25%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面　摩耗著しい
第112図-2	SK001	灰釉陶器	壺	口径 (11.5) 底径 — 器高 [6.5]	口縁部20%	精緻 砂粒	外面 灰白色 （釉）オリーブ黄色 内面 灰白色 （釉）オリーブ黄色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形	
第112図-3	SK001	須恵器	甕	口径 — 底径 — 器高 [5.1]	口縁破片	精緻 砂礫 砂粒	外面 灰白色 灰オリーブ色 内面 灰オリーブ色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形	全体に自然釉がかかる
第112図-4	SK001	土師器	手捏ね	口径 (5.7) 底径 (2.5) 器高 (3.3)	50%	精緻 砂粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 指頭圧痕 内面 ナデ	
第113図-1	SK004	須恵器 (灰)	蓋	口径 (16.8) 底径 — 器高 [2.6]	20%	精緻 砂粒	外面 灰黄褐色～褐色 内面 灰黄褐色～にぶい褐色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形
第113図-2	SK004	須恵器 (灰)	坏	口径 11.8 底径 7.2 器高 4.1	90% 底部100%	精緻 砂粒多	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転糸切り　無調整 内面 ロクロ成形
第113図-3	SK004	須恵器 (灰)	坏	口径 (12.0) 底径 7.0 器高 [3.8]	70% 底部100%	やや粗 砂粒多	外面 灰黄色～黄灰色 内面 灰色・にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ロクロ成形　ナデ 回転糸切り 内面 ロクロ成形	永田窯切用
第113図-4	SK004	須恵器 (灰)	坏	口径 (13.8) 底径 (9.0) 器高 (4.0)	50%強 底部60%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	
第113図-5	SK004	須恵器 (赤)	坏	口径 (12.0) 底径 (7.2) 器高 [4.2]	30% 底部40%	精緻 砂粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	永田窯
第113図-6	SK004	須恵器 (灰)	坏	口径 — 底径 (8.4) 器高 [5.5]	底部25%弱	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ　ナデ 内面 ロクロ成形	永田窯
第113図-1	SK005	須恵器 (灰)	蓋	口径 — 底径 — 器高 [1.8]	つまみ部100%	精緻 砂粒 砂礫含む	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形	つまみ部に自然釉付着
第113図-2	SK005	須恵器 (灰)	坏	口径 (14.6) 底径 — 器高 [3.5]	30%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	永田窯
第113図-3	SK005	土師器	坏	口径 (15.0) 底径 — 器高 [6.1]	口縁部20%	精緻 砂粒 雲母粒	外面 褐色～暗褐色 内面 褐色 焼成 良好	外面 ヨコナデ 浅いヘラケズリ 内面 ナデ	
第113図-4	SK005	土師器	坏	口径 (11.8) 底径 (8.3) 器高 [3.4]	30%	精緻 砂粒 赤色粒少量	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面　摩耗著しい
第114図-1	SK006	須恵器 (灰)	坏	口径 — 底径 (7.8) 器高 [3.8]	30% 底部50%弱	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	内・外面　火襷痕 永田窯
第114図-2	SK006	須恵器 (灰)	坏	口径 (12.4) 底径 (7.8) 器高 [3.6]	25% 口縁部30%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	内・外面　火襷痕 永田窯
第114図-3	SK006	須恵器 (灰)	短頸壺	口径 (13.0) 底径 — 器高 [3.5]	口縁部25%弱	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形	
第114図-4	SK006	土師器	坏	口径 12.6 底径 6.5 器高 4.1	80% 底部100%弱	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ヨコナデ　ヘラケズリ 内面 ミガキ	外面　半面黒色化
第115図-1	SK012	土師器	甕	口径 (13.7) 底径 6.6 器高 [2.3]	75% 底部100%	精緻 砂粒多 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ロクロ成形　回転糸切り後 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	
第115図-2	SK012	土師器	坏	口径 — 底径 (6.2) 器高 [3.7]	30% 底部60%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ロクロ成形　回転糸切り 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	
第116図-1	SK013	須恵器 (灰)	坏	口径 (13.4) 底径 (8.2) 器高 [3.5]	20% 底部25%	精緻 砂粒	外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転糸切り後無調整 内面 ロクロ成形	外面　火襷痕 底部ゆがみあり
第116図-2	SK013	須恵器 (灰)	坏	口径 — 底径 (8.0) 器高 [3.1]	30% 底部40%	精緻 砂粒 雲母	外面 浅黄色 灰色 内面 灰色 焼成 良好	外面 — 内面 —	内・外面　摩耗
第116図-3	SK013	土師器	坏	口径 12.6 底径 8.0 器高 3.9	75% 底部14は100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転糸切り 内面 ロクロ成形	内・外面　摩耗
第116図-4	SK013	土師器	坏	口径 (13.4) 底径 (6.4) 器高 [4.2]	50%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 黄橙色 内面 黄橙色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 手持ちヘラケズリ 内面 ロクロ成形	

第37表　奈良・平安時代土器属性表（4）　　（）推定値　［］現存値

神図番号	遺構番号 出土位置	種別	器種	法量(cm)	遺存率	胎土	色調・焼成	技法	備考
第116図-5	SK013	土師器	坏	口径 (12.8) 底径 6.6 器高 [4.3]	60% 底部 100%	精緻 砂粒 赤色粒	外面 にぶい黄橙色 内面 にぶい黄橙色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	
第116図-6	SK013	土師器	坏	口径 (15.5) 底径 [8.0] 器高 [5.3]	50% 底部 75%	砂粒 雲母粒微量	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	内面　墨跡
第116図-7	SK013	土師器	坏	口径 (12.7) 底径 7.8 器高 [4.2]	70% 底部 100%	精緻 砂粒 赤色粒 雲母	外面 橙色 内面 橙色 焼成 良好	外面 回転糸切り 内面 ―	内・外面　墨跡・調整不明
第116図-8	SK013	土師器	坏	口径 (13.0) 底径 6.8 器高 [3.9]	50% 底部 100%	やや粗 砂粒 赤色粒	外面 灰黄褐色 内面 灰黄褐色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形	内・外面　磨滅
第116図-9	SK013	土師器	甕	口径 (22.4) 底径 ― 器高 [15.6]	口縁部 25%	精緻 砂粒多 雲母粒微量	外面 黄橙色 内面 黄橙色 焼成 良好	外面 ナデ　ヘラケズリ 内面 ナデ	外面　スス付着 内面　口縁部に輪積痕
第116図-10	SK013	灰釉陶器	壺	口径 (9.0) 底径 ― 器高 [2.7]	口縁部 50% 弱	精緻 砂粒	外面 灰黄色 内面 灰黄色 焼成 良好	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形	内面　灰釉

第38表　奈良・平安時代土製品属性表

神図番号	遺構番号 出土位置	種別	法量					胎土	色調	備考
			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第99図-15	SR028	支脚	11.2	7.7	5.0	―	―	―	にぶい黄橙色	一部に被熱箇所
第100図-16	SR028	土製円盤	7.5	7.6	0.8	0.8	43.2	―	外面　橙色 内面　橙色	
第100図-17	SR028	把手	2.4	3.4	2.5	―	―	―	橙色	瓶把手
第100図-18	SR028	把手	3.1	2.2	1.2	―	―	―	にぶい黄橙色	瓶把手
第100図-19	SR028	羽口	4.3	4.7	2.3	―	35.6	―	―	先端部のみ残存
第104図-18	SR036	支脚	14.1	8.4	7.4	―	―	―	にぶい黄橙色	スス一部付着 一部被熱箇所
第104図-19	SR036	土製円板	7.7	8.1	1.1	―	55.4	―	灰色	破断面は丁寧に研磨 須恵器坏底部転用
第106図-17	SR039	須恵器（灰）	11.1	10.6	1.2	―	―	精緻 砂粒	外面　黄灰色～灰白色 内面　灰色	外面　底部回転ヘラケズリ 転用硯として使用する目的で切断（墨痕なし）
第106図-18	SR039	土製丸玉	1.0	1.2	1.0	0.2	1.3	―	―	一部赤彩 穴未貫通 焼成前に穿穴 中心より外側に片寄る
第111図-20	SR047	支脚	22.6	6.8	6.7	―	―	―	明褐色	
第111図-21	SR047	支脚	23.3	6.9	6.8	―	―	―	明褐色	ケズリの後ナデ
第112図-5	SK001	羽口 破片	―	―	―	―	33.08	―	―	発泡あり
第116図-11	SK013	支脚	14.5	8.9	10.2	―	―	―	にぶい褐色	一部に被熱箇所

第39表　奈良・平安時代石製品・石器属性表　　［］現存値

神図番号	遺構番号 出土位置	種別	石材	法量					備考
				最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	
第100図-21	SR028	石帯（丸鞆）	滑石	[2.1]	3.2	0.5	0.2	6.94	
第102図-2	SR035	硯石	砂岩	10.6	8.6	5.1	―	698.7	
第106図-19	SR039	有孔円板	―	[2.4]	[2.1]	0.3	0.1	2.12	
第106図-20	SR039	勾玉模造品	滑石	3.5	1.1	0.4	0.1	3.49	側面に自然面残る
第106図-21	SR039	硯石	砂岩	9.0	8.1	1.9	―	205.80	
第112図-1	SK003	白玉	滑石	0.46	0.46	0.28	0.18	0.09	
第115図-3a	SK012	硯石	―	3.7	4.0	1.5	―	20.23	b と同一個体
第115図-3b	SK012	硯石	―	3.3	3.4	1.7	―	12.73	a と同一個体
第115図-4	SK012	硯石	―	8.0	2.7	2.0	―	47.75	
第123図-1	SH244	硯石	砂岩	[9.3]	[7.0]	[3.6]	―	267.80	

第40表　奈良・平安時代金属器属性表　　（）推定値　［］現存値

挿図番号	遺構番号 出土位置	種別	部位	法量				備考
				最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
第100図-20	SK028	棒状品	—	[6.8]	0.8	0.4	18.03	両端欠損
第101図-1	SK034	鉄鏃	—	[31.8]	2.5	2.0	98.38	刃部先端欠損 上下の刃を分せる鎬残存
第101図-2	SK034	鍛冶滓（椀形）	—	—	—	—	147.98	
第104図-20	SK036	鉄鏃	茎部か	[8.1]	2.8	0.4	24.69	先端・茎部欠損
第104図-21	SK036	刀子	茎部か	[7.4]	[2.4]	[0.5]	31.20	刃部両端欠損
第104図-22	SK036	刀子	—	[4.8]	[1.7]	[0.4]	17.14	刃部両端欠損
第104図-23	SK036	刀子	—	[7.8]	[3.9]	—	10.7	刃部・茎部欠損 表面調整のため断面，背部不可能
第106図-22	SK039	鉄鏃	鏃身部～茎部	[6.1]	[2.5]	0.3	9.39	茎部欠損 サビのため不明部分あり
第106図-23	SK039	刀子	刀身部	(22.5)	1.4	0.4	茎16.52 中12.50 先部10.07	3分割
第111図-22	SK047	鉄鏃	鏃身部	[4.9]	[3.4]	0.5	10.21	茎部欠損，サビあり 手前に折れ曲がる
第111図-23	SK047	懸鉤具	刃部	[2.2]	2.0	0.3	3.24	刃部半分欠損
第111図-24	SK047	鉄鏃	茎部か	[6.6]	[2.8]	[0.4]	13.86	先端・茎部欠損
第111図-25	SK047	棒状品	—	—	—	—	20.27	サビ，磨耗
第111図-26	SK047	不明鉄製品	—	7.4	4.6	0.1	35.52	面に折れ曲がっている
第111図-27	SK047	鍛冶滓（椀形）	—	—	—	—	194.95	
第113図-7a	SK004	刀子	刃部	[6.7]	—	—	13.45	bと同一個体
第113図-7b	SK004	刀子	柄部	[8.6]	—	—	16.23	aと一個体 茎部に木質残存
第114図-1	SK011	鍛冶滓（椀形）	—	6.7	8.6	3.3	212.32	
第114図-2	SK011	鍛冶滓（椀形）	—	5.6	7.1	2.0	119.89	粘土付着
図版64－1	SK011	鍛冶滓	—	2.7	2.4	1.1	5.26	写真のみ掲載
図版64－4	SK011	鍛冶滓	—	2.2	2.3	1.2	5.45	写真のみ掲載
図版64－5	SK011	鍛冶滓	—	1.9	2.3	2.3	11.97	写真のみ掲載
図版64－6	SK011	鍛冶滓	—	2.0	3.9	2.0	18.52	写真のみ掲載
図版64－7	SK011	鍛冶滓	—	2.5	5.2	2.2	20.95	写真のみ掲載
図版64－8	SK011	鍛冶滓	—	3.1	6.3	1.4	31.36	写真のみ掲載
図版64－9	SK011	鍛冶滓	—	3.4	4.6	2.0	36.46	写真のみ掲載
図版64－10	SK011	鍛冶滓	—	3.5	5.3	1.6	41.31	写真のみ掲載
図版64－11	SK011	鍛冶滓	—	4.4	4.6	1.8	31.21	写真のみ掲載
図版64－12	SK011	鍛冶滓	—	4.9	5.6	2.0	55.75	写真のみ掲載
図版64－13	SK011	鍛冶滓	—	3.3	7.6	2.1	46.40	写真のみ掲載
図版64－14	SK011	鍛冶滓	—	3.4	4.9	2.4	38.68	写真のみ掲載
図版64－15	SK011	鍛冶滓	—	4.0	4.7	3.0	75.92	写真のみ掲載
第123図-1	SH198	刀子	刀身部	[4.7]	[1.7]	[0.4]	9.90	両端欠損

第７章　まとめ

１　はじめに

今回の調査では、道路部分の限られた範囲であったものの、旧石器時代から中・近世に亘る多彩な遺構や遺物を確認することができた。ここでは、まず全体の概要として、本遺跡の北側隣接地に位置する南総中学遺跡で検出された、弥生時代から奈良・平安時代の遺構との比較を通じて、集落などの動態について述べることとしたい。

南総中学遺跡では、弥生時代の竪穴住居跡39軒、竪穴状遺構３基、方形周溝墓23基、土器棺墓３基、Ｖ字溝１条が検出されている。特に注目されるのは、養老川流域では最も上流域に位置する場所から、環濠集落と墓域がセットで発見されたことで、同地域の中核をなす遺跡であるといえる。この集落と墓域は中期宮ノ台期前半に形成され始め、同後半には集落を囲繞する環濠を伴う集落として発展したようである。今回の江子田遺跡の調査でも、宮ノ台期の方形周溝墓と考えられる溝が検出されており、同期の墓域が谷を隔てた南側にも広がっていた可能性を示している。また、竪穴住居跡は検出されなかったものの、宮ノ台期のほぼ完形となる壺が複数個体出土していることから、さらなる集落の展開も想定されよう。

また、今回の調査では、後期の竪穴住居跡が４軒検出されており、南総中学遺跡の状況を含めると、後期集落の台地南側への拡大傾向を指摘することができる。

古墳時代以降の南総中学遺跡では、古墳時代後期の竪穴住居跡１軒、古墳７基、奈良・平安時代の竪穴住居跡４軒が検出されたのみで、今回江子田遺跡で検出された遺構数を大きく下回り、集落の中心域が南側台地上に移動していった様子を示しているといえる。

次項では、今回の調査で主体をなす、古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居跡を中心に、遺構の形態と出土土器の器種構成、変化などについて検討することとしたい。

なお、各時代の遺構の検出状況などについては、各章冒頭の概要にまとめているので、そちらを参照していただきたい。

２　古墳時代の集落

古墳時代前期から後期にかけての竪穴住居跡は、53軒検出された。内訳は、前期４軒、中期15軒、後期34軒となる。次に、時期ごとに竪穴住居跡の分布傾向、平面形態の変化や内部施設の違い、出土土器の変遷やその他の遺物などについてみることとしたい。

古墳時代前期

この時期に比定した竪穴住居跡は、SI060・063・068・074の４軒である。このうちSI063については、僅かに残る竪穴住居跡の平面形態と、少ない出土遺物から同期の所産と判断している。竪穴住居跡の軒数は少ないものの、調査区の南側を中心として分布している。前期の竪穴住居跡の平面形態は、SI060が楕円形を呈するほかは、方形の平面プランを示している。内部構造としては、４本の主柱穴をもち、中央北寄りに炉を配置する構造である。

出土土器の器種構成は、鉢・器台・壺・坩・甕・甑・手捏ね土器などからなる。SI068からは、折り返し口縁が出土している。頸部の屈曲が緩く、有段口縁に近い形状を呈している。また、SI074からは、パレススタイルの装飾壺が完形で出土している。弥生時代からの系譜を引く文様に加え、胴部には焼成前の穿孔がみられるなど、実用品としてではなく祭祀関連の用途が想定される。坩は頸部が「く」の字状に強く屈曲し、胴部が最大径になるものが多い。甕はハケ調整にヘラナデが加わる。頸部は、「く」の字状に屈曲し、胴部は球形から漸移的に長胴化する傾向がみられる。器高が低く口縁部が大きく開き、底部に小孔を穿った甑が伴う。甑としているが、底部の孔が小さいことから蒸す機能は低く、液体を濾過するための道具と考えた方が適当と思われる。

古墳時代中期

この時期に比定した竪穴住居跡は、SI026A・026B・032A・032B・037・038・041・042・043・049・057A・064・066・067・070の15軒である。このうちSI026A・026B・049・066の4軒については、僅かに残る竪穴住居跡の平面形態と少ない出土遺物から同期の所産と判断している。竪穴住居跡は、調査区中央部を中心に分布している。竪穴住居跡の平面形態は、方形を呈するものが主体である。内部構造については、4本の主柱穴のほか、壁柱穴などが設けられている。また、5世紀後半以降の竪穴住居跡からカマドが確認されるようになり、設置位置は北・東・南側と一定しないが、やや東側が多い。

出土土器の器種構成は、土師器が坏・高坏・埦・鉢・甑・壺・坩・甕・甑・手捏ね土器・ミニチュア土器など、須恵器が坏・坏蓋・壺からなる。土師器坏の形状は丸底が主体で、一定の規格化が認められる。口縁部は外方あるいは上方に立ち上がるものが主体だが、一部内湾するものがみられる。高坏は大型品と小型品に分かれる。大型品は坏部が逆「八」の字状に広がり、脚部は長柱状のものが多いが、一部に裾部がラッパ状に広がるものもみられる。小型品は坏部が椀形に近い形状で、脚部は短脚化する傾向にある。埦・鉢は丸底で、口縁部が短く、やや内湾する。壺は小型のものが多く、赤彩されている。坩は口縁部が長く、胴部は球形のものが主体である。甕は胴部中位に最大径をもつものが多く、細長い長胴のものが主体となる。甑は単孔式で、口縁部から底部にかけて先細りする形状である。坏・高坏・埦・鉢・壺・坩は、ほぼ赤彩が施されている。須恵器は、TK216・ON46段階に相当する。坏は口縁部が内傾し、受部は外方へ伸びる形状が主体である。坏蓋は稜を持ち、口縁部は直立して天井部は比較的丸い形状である。壺は櫛描き波状文が施文されている。土器以外では土製勾玉・土製紡錘車・有孔円板・砥石・鉄鏃・刀子などの遺物が出土しているが、量的には僅かである。土坑からの出土であるが、SK007から滑石製の子持勾玉が、ほぼ完形の状態で出土している。

古墳時代後期

この時期に比定した竪穴住居跡は、SI009・010・011・012・013・014・015・016・017・019・020・022・023・024・025・027・029A・029B・030・031・033・044・048・050・051・052・053・056・058・059・069・071・072・073の34軒である。このうちSI010・014・033・044・048・050・053・072の8軒については、僅かに残る竪穴住居跡の平面形態と少ない出土遺物から同期の所産と判断している。竪穴住居跡は調査区北側を中心として、南側にもまばらに分布している。竪穴住居跡の平面形態は、方形を主体としており、一部長方形を呈している。内部構造は、中期からほぼ変わらず4本の主柱穴のほか、一部壁柱穴などが伴っている。また、前期・中期には確認されなかった出入口ピットもみられるようになる。貯蔵穴はカマドの両脇または片側に配置されている。カマドは主に北側に設置されており、一部長煙道カマドも確認できる。

出土土器の器種構成は、土師器が坏・高坏・埦・鉢・壺・甕・甑・手捏ね土器など、須恵器が坏・坏蓋・高坏・鼎・壺からなる。土師器坏は、素縁口縁・須恵器模倣坏蓋・須恵器模倣坏身に分類される。素縁口縁は丸底で、器高がやや高くつくられている。口縁部は僅かに内湾する。中期に系譜が辿れると考えられる。須恵器模倣坏蓋は口縁部が胴部高より低く、上方に立ち上がる形状が多い。須恵器模倣坏身は口縁部が短く、内傾しているものが多く、後期の土師器坏の中では出土割合が最も高い。一部、平底で器高が低いものがあり、胴部が僅かに内湾する形状のものもみられる。高坏は坏部が丸みを持ち、外傾する口縁部との境に稜を有している。脚部は低く作られ、裾部は広がっている。また、坏部が開くように立ち上がり、口縁部との境に稜をつくらないものがある。脚部は坏部との接合部分の径が大きく、脚高が低い。鉢は多様な種類を持つ。比較的底部が大きく、口縁部が直立するもの、稜を有し、口縁部が内湾するもの、埦を大型化した形状で口縁部が外反するものに分類される。なお、土師器坏・高坏・埦・鉢などは、6世紀前半まで赤彩されたものが主体となるが、6世紀後半から7世紀にかけて黒色処理を施したものが主体へと変化する。甕は胴部が卵球状を呈し、口縁部が「く」の字状に屈曲する形状が主流である。また、いわゆる長胴甕で、胴部の張りが弱く全体的に細長い形状のものもみられる。甑は胴部の張りが弱く、口縁部は徐々に開きながら立ち上がる。一部、頸部に突起がみられる。須恵器坏のうち SI073 から出土したものは、形状や胎土の特徴などから湖西産の可能性が考えられる。土器以外では、土製紡錘車・支脚・管玉・砥石・鎌形模造品・鉄鏃・鎌などの遺物が出土している。

3　奈良・平安時代の集落

奈良・平安時代の竪穴住居跡は10軒確認されており、分布は調査区中央にまとまっている。この時期に比定した竪穴住居跡は、SI008・028・034・035・036・039・040・045・046・047 である。このうち SI008 については、僅かに残る竪穴住居跡の平面形態と少ない出土遺物から同期の所産と判断している。SI028 が9世紀中葉に下る以外は、8世紀代の範囲で捉えられる。竪穴住居跡の平面形態は、正方形が主体となる。内部構造では、4本の主柱穴を伴い、残存するカマドはすべて北側に設置されている。他遺構との重複が激しく、煙道部が削平されているものもあるが、遺存状態の良いカマドはいずれも長煙道カマドである。長煙道カマドは奈良・平安時代の市原市・袖ケ浦市・木更津市に集中しており、当遺跡も同様の様相を示しているといえる。

出土土器の器種構成は、土師器が坏・皿・甕、須恵器が坏・高台付坏・蓋・短頸壺・甕からなる。土師器坏は底部回転糸切後、ヘラケズリをするものが多い。須恵器は形状や胎土から、永田窯産のものが多く搬入している。坏は体部下位に回転ヘラケズリを施し、口径が13cm前後で、底部から口縁部に向かって直線的に開きながら立ち上がる形状が主体である。甕は長胴で口縁部が短いものがみられる。土器以外では、土製円板・土製丸玉・羽口・有孔円板・石帯・勾玉模造品・砥石・磨石・鉄鏃・刀子・鉄鉗・鍛冶滓などが出土している。なお、明確な鍛冶炉は確認されていないが、SI028 から羽口、SI034 から鉄鉗と鍛冶滓が出土し、SK001 から羽口、SK011 から鍛冶滓が多く出土している。このことから集落内に鍛冶工房が存在していた可能性が高く、特に SK011 から投棄された状態で出土した鍛冶滓には、様々な操業段階で生じたものが含まれ、鉄器の生産が永続的におこなわれていたことを物語っている。

引用・参考文献

大村直ほか 2006『市原市南岩崎遺跡』市原市埋蔵文化財センター調査報告書第１集　市原市教育委員会

大村直ほか 2009『市原市南中台遺跡・荒久遺跡Ａ地点』市原市埋蔵文化財センター調査報告書第10集　市原市教育委員会

小沢洋 1995「房総の古墳後期土器－坏の変遷を中心として－」『東国土器研究』第４号　東国土器研究会

小沢洋 1999「房総の古墳中期土器とその周辺」『東国土器研究』第５号　東国土器研究会

加藤修司ほか 2000『千葉県文化財センター研究紀要21』－房総地方における前期古墳の展開－（財）千葉県文化財センター

木對和紀ほか 2008『市原市御林跡遺跡Ⅱ』市原市埋蔵文化財センター調査報告書第5集　市原市教育委員会

木原高弘ほか 2012『千葉県文化財センター研究紀要27』－古墳時代中期の房総－（財）千葉県教育振興財団

倉田芳郎ほか 1978『千葉・南総中学遺跡』市原市教育委員会

栗田則久 2022「集落からみた俘囚移配の様相（予察）－上総の長煙道カマドの検討から－」『研究連絡誌』第 84 号（公財）千葉県教育振興財団

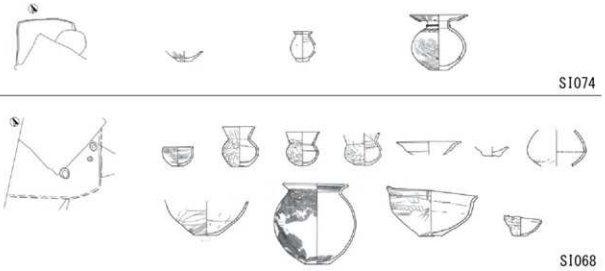
郷堀英司ほか 1993『千葉県文化財センター研究紀要 14』－生産遺跡の研究３　須恵器－（財）千葉県文化財センター

小林清隆 1993「［研究ノート］村田川流域の6～7世紀の土師器の再検討－千葉市榎作遺跡の分析を中心に－」『千葉県文化財センター研究紀要 14』（財）千葉県文化財センター

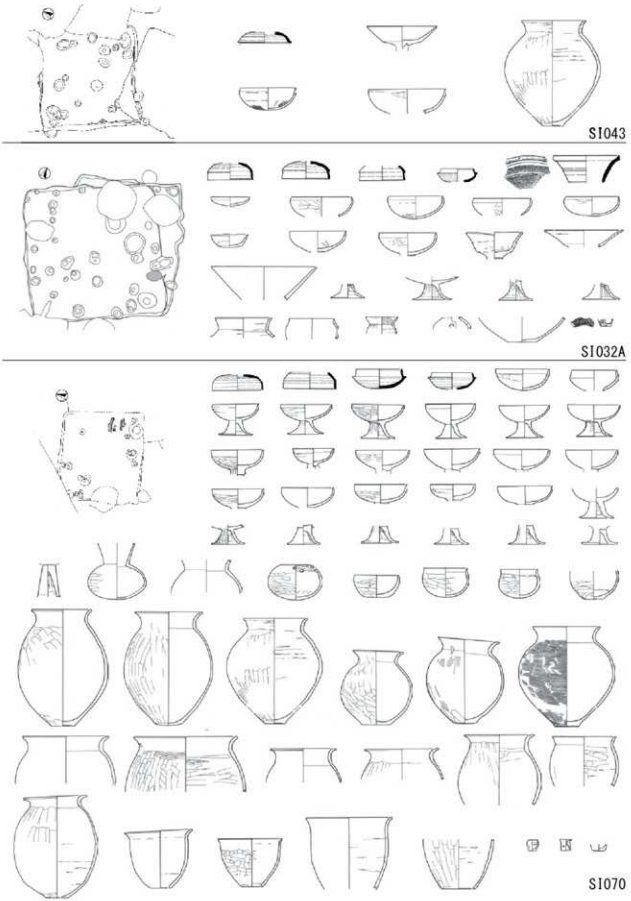
史館同人・市立市川考古博物館編 1983『シンポジウム資料　房総における奈良・平安時代の土器』

蜂屋孝之ほか 2009『千原台ニュータウンＸＸＩ－市原市川焼台遺跡（上層）－』千葉県教育振興財団調査報告第 610 集　（財）千葉県教育振興財団

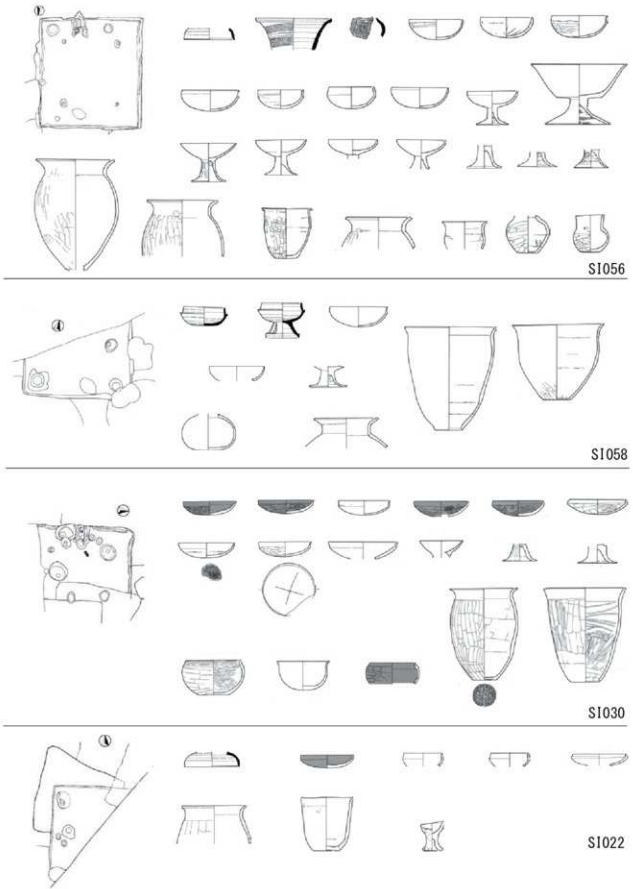
村山好文 1988「平賀遺跡群における古墳時代後期土器の再検討『日本考古学研究所集報X』日本考古学研究所



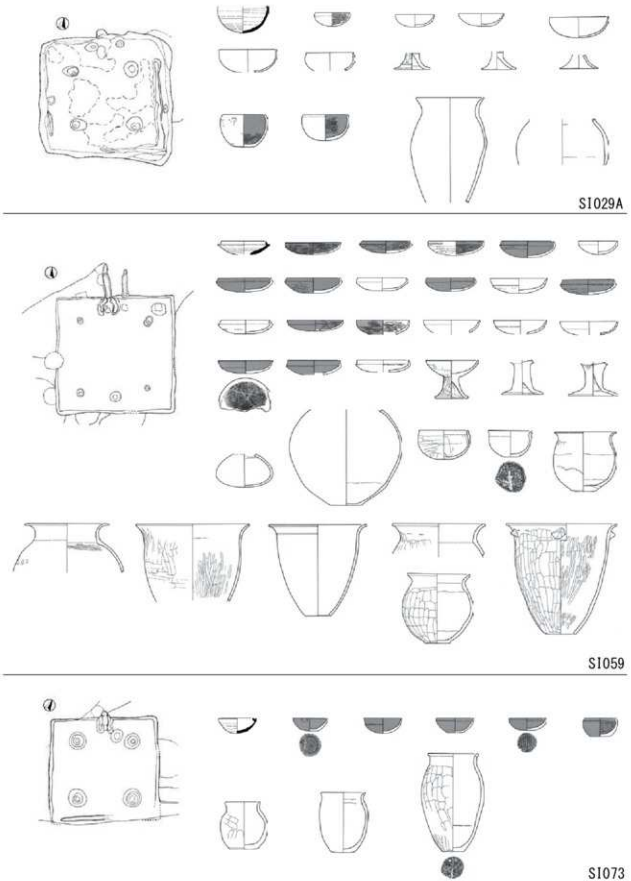
第125図　古墳時代前期の土器変遷



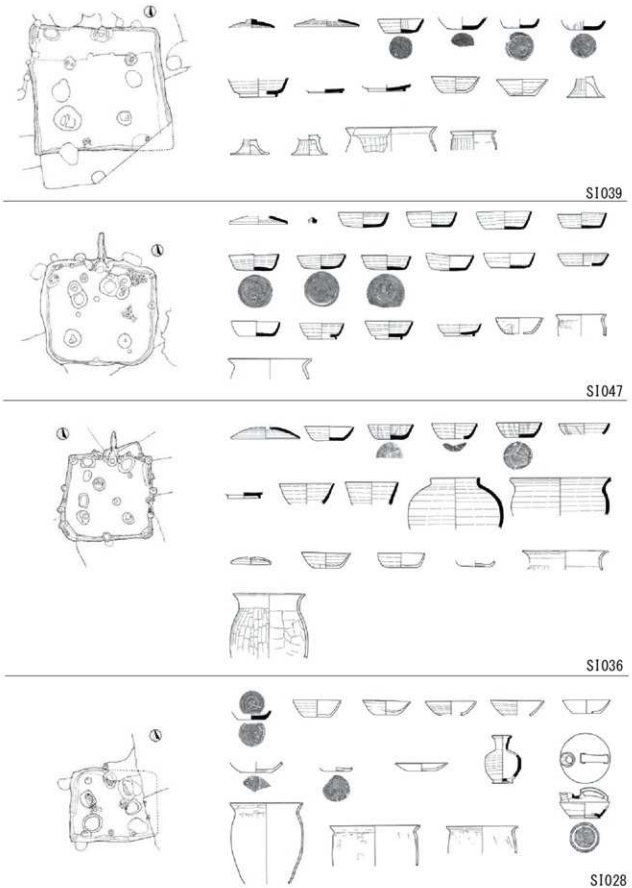
第126図　古墳時代中期の土器変遷



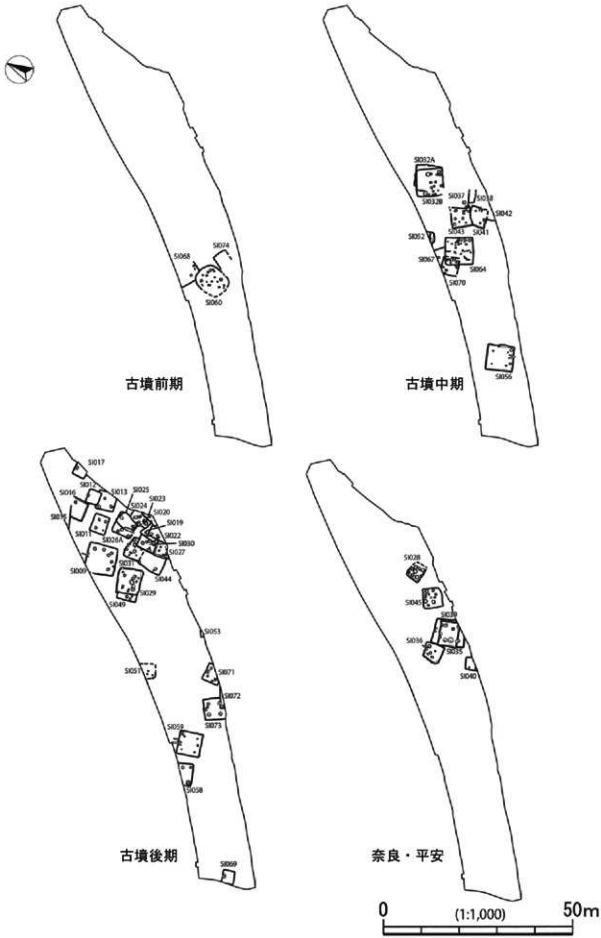
第127図　古墳時代後期の土器変遷（1）



第128図　古墳時代後期の土器変遷（2）



第129図　奈良・平安時代の土器変遷



第130図　江子田遺跡の集落変遷

写　真　図　版

図版 1

平成20年度調査区全景（北から）

平成7年度調査区全景（南東から）

図版 2

平成 23 年度調査区全景（北東から）

S1008

S1009 カマド

S1009 遺物出土状況

S1009
S1010
S1009・010（南から）

S1012・013 遺物出土状況（南から）

図版 4

SI011
SI014
SI015
SI013
SI016
SI012
SI017
SI011～017

SI016

SI017

SI017 カマド

SI027
SI022
SI030
SI019
SI019・022・027・030

S1019
S1023
S1020
S1025
S1024
S1019・020・023～025

S1025
S1026
S1025・026

図版 6

S1029 遺物出土状況

S1027

S1027 カマド

S1029 遺物出土状況

S1031
S1030
S1028
S1027
S1044
S1027・028・030・031・044

S1028・030・031

S1029A・B

S1029A カマド

S1030

S1030 カマド遺物出土状況

図版 8

S1030 カマド

S1031

S1032A・B

S1032A・B 遺物出土状況

S1033 遺物出土状況

S1034 遺物出土状況

S1035・039

S1035 カマド

S1036
S1037
S1038
S1039
S1035
S1035～039

S1036
S1037
S1038
S1036・037・038

S1036カマド

S1046
S1039
S1039・046

S1039カマド

図版 10

SI050
SI047
SI043
SI043・047・050

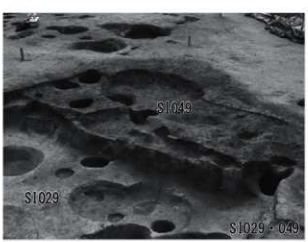
SI045
SB002 P1
SB002 P8
SB002 P7
SB002 P6
SB002 P2
SB002 P3
SI048
SB002 P4
SB002 P5
SI045・048・SB002

SI040・041・042

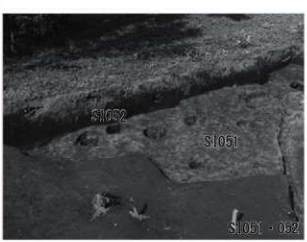
SI041 カマド遺物出土状況

SI047・050

SI047 カマド



SI029・049



SI051・052

SI053

SI054

図版 12

S1054 状況

S1055

S1056 旋盤加工状況

S1056 旋盤加工状況

S1056

S1056 カマド

S1057A+B

S1057A カマド

S1058

S1059

S1059 カマド

S1060 建物基土検出

S1060

S1061 建物基土検出

S1061

S1064 カマド

図版 14

SI064 カマド遺物出土状況

SI069

SI069遺物出土状況

SI069 カマド遺物出土状況

SI066
SI065
SI064
SI068
SI070
SI064 → 066・068・070

S1070 北側遺物出土状況

S1070 南東隅遺物出土状況

S1071 カマド

S1071

S1072・073・074

S1073 カマド

S1073 P2遺物出土状況

S1074 遺物出土状況

図版 16

SB012

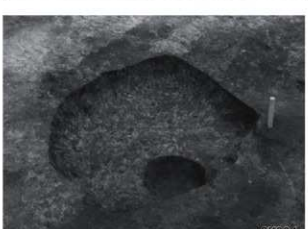
SB014・015

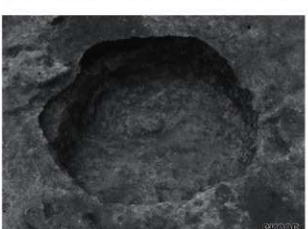
SA001

SD008 北から

SD003 西から

SD003 北から


SK004


SK008

SK006 焼土・炭化物・遺物検土状況

SK006

SK007 遺物出土状況

SK008

SK012・013

SK015

SK016・017

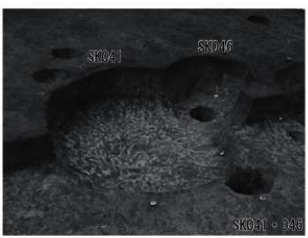
SK018

図版 18

SK019

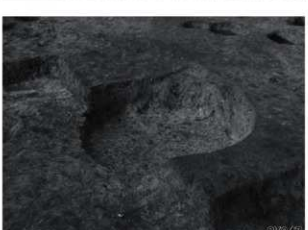
SK034

SK035


SK041
SK046
SK041・046

SK041 遺物出土状況

SK046 遺物出土状況


SK047

SK048 遺物出土状況

SK048

SK051 - 052

SK054
SK053
SK053 - 054

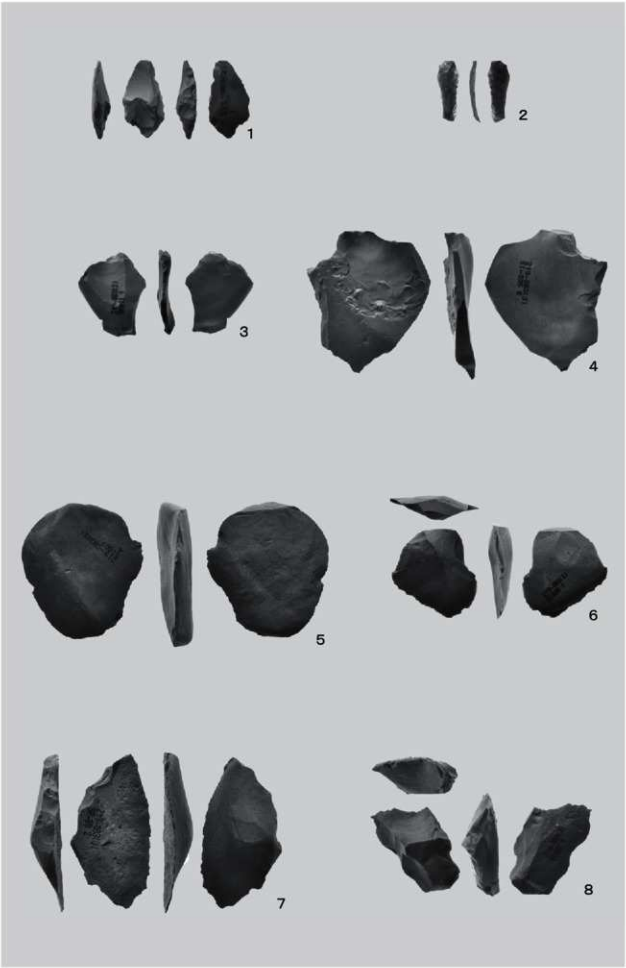
SK055

SK056 遺物出土状況

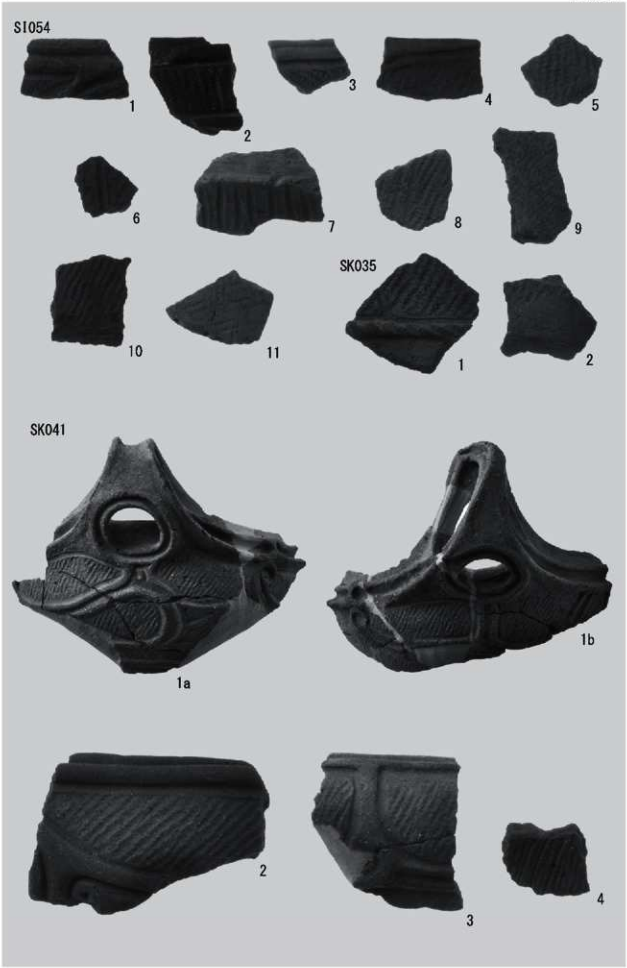
SK057

SK058

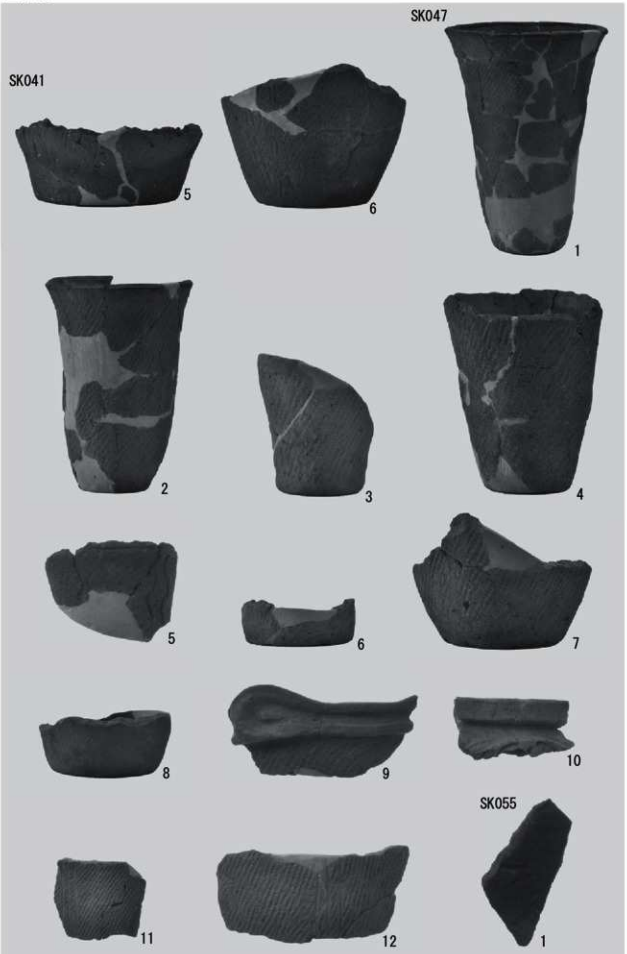
SK059



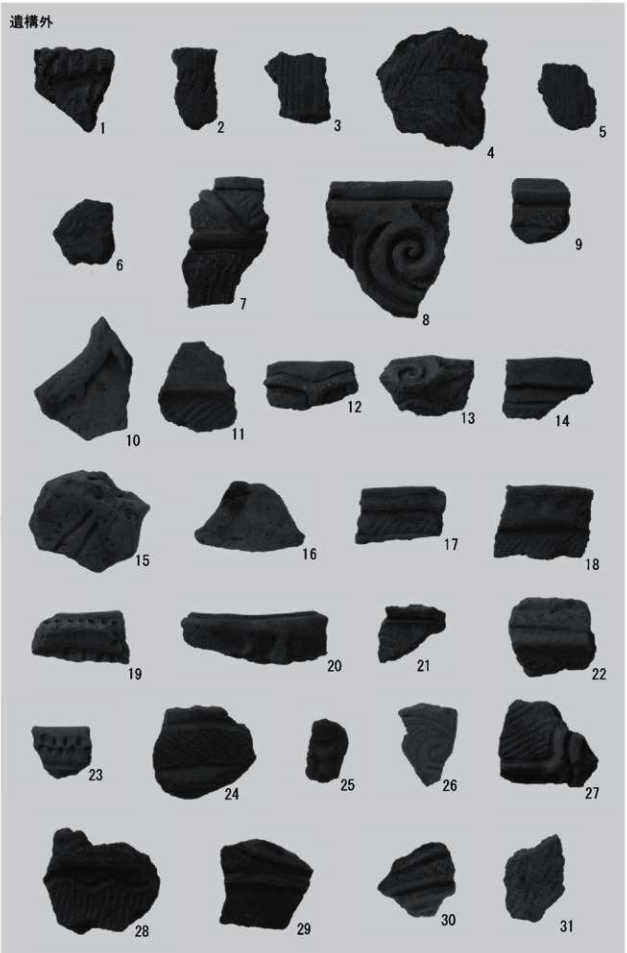
旧石器時代単独出土石器



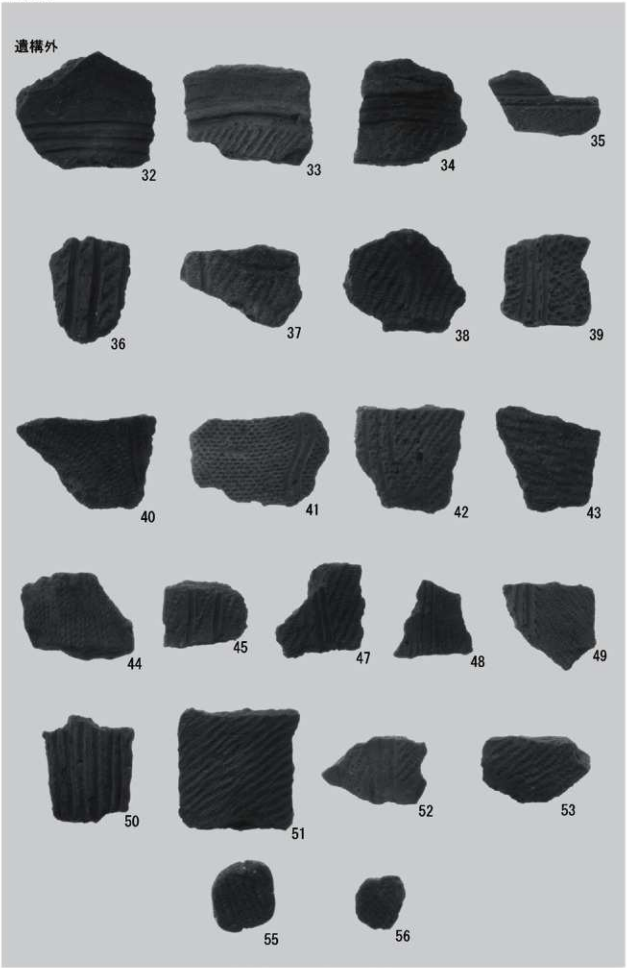
SI054、SK035・041 出土土器



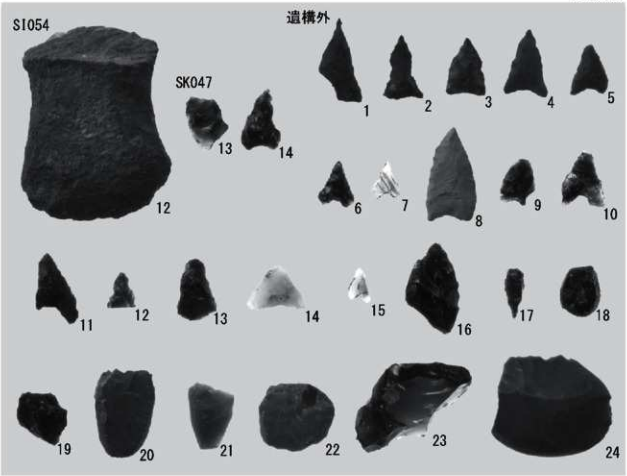
SK041・047・055 出土土器

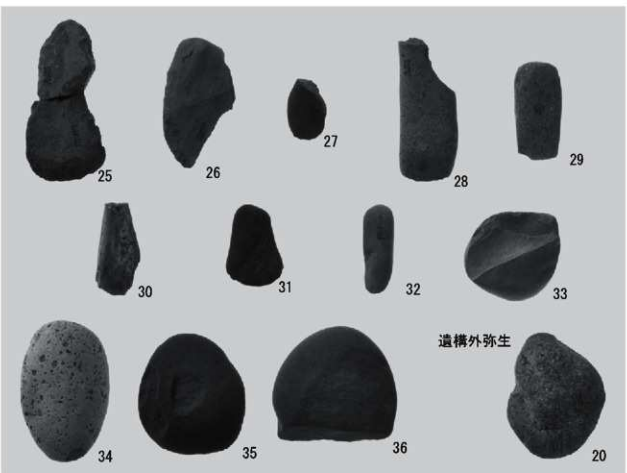

遺構外
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31

遺構外出土縄文土器（1）

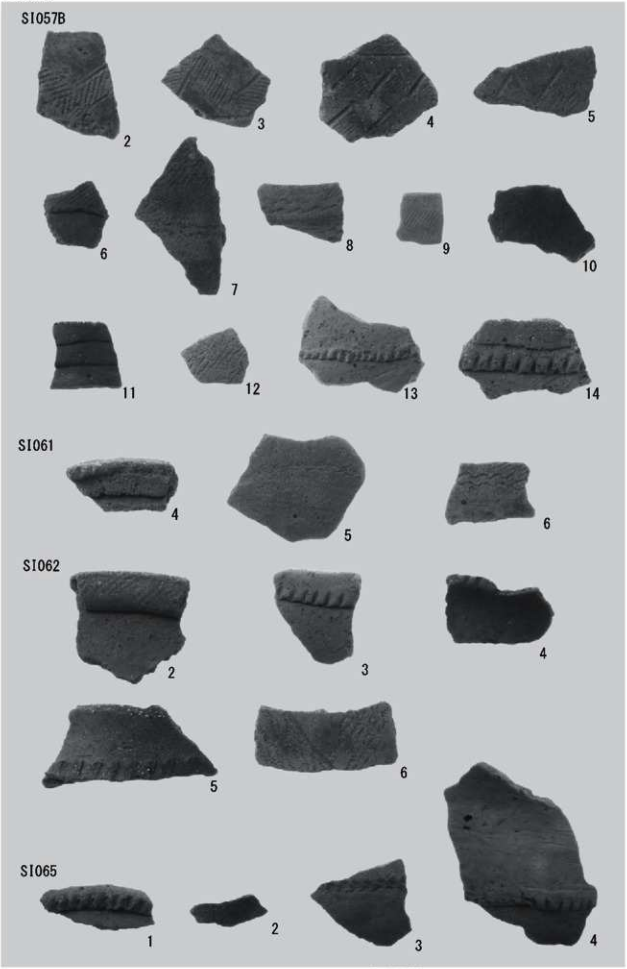


遺構外出土縄文土器（2）





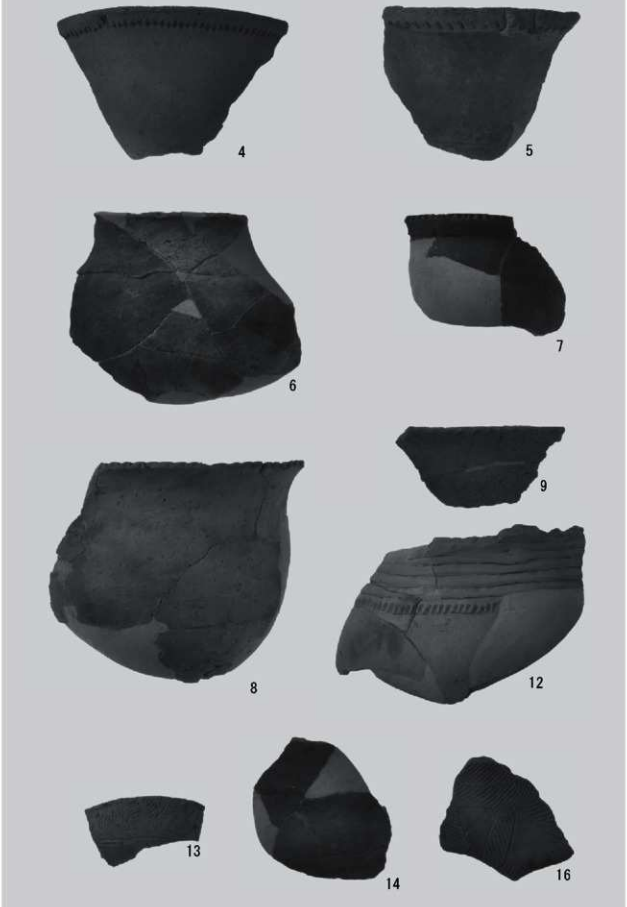
SI054、SK047、遺構外出土石器



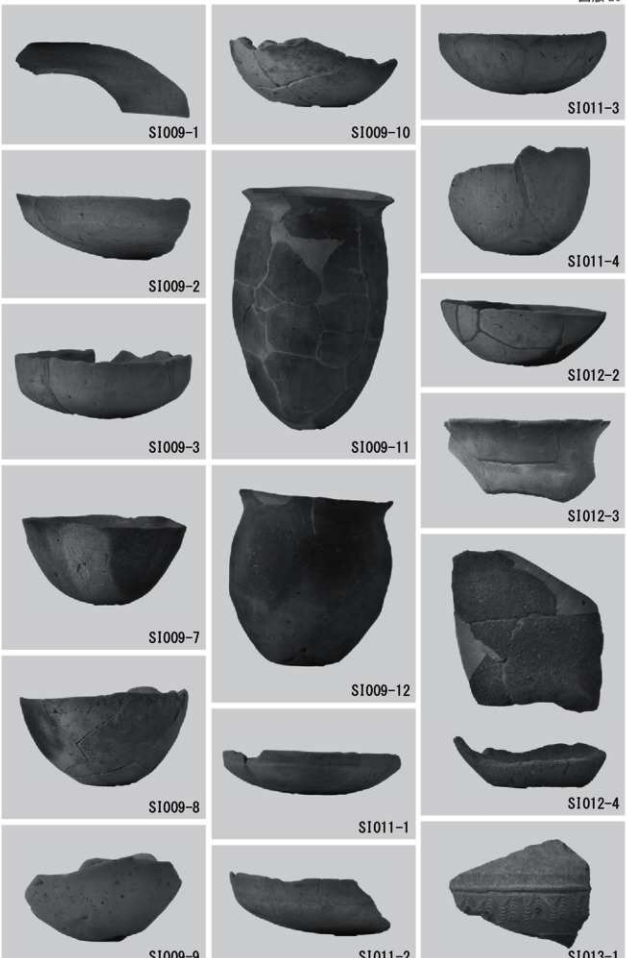
SI057B・061・062・065 出土土器

SI057B・061・062、SK048、遺構外出土弥生土器

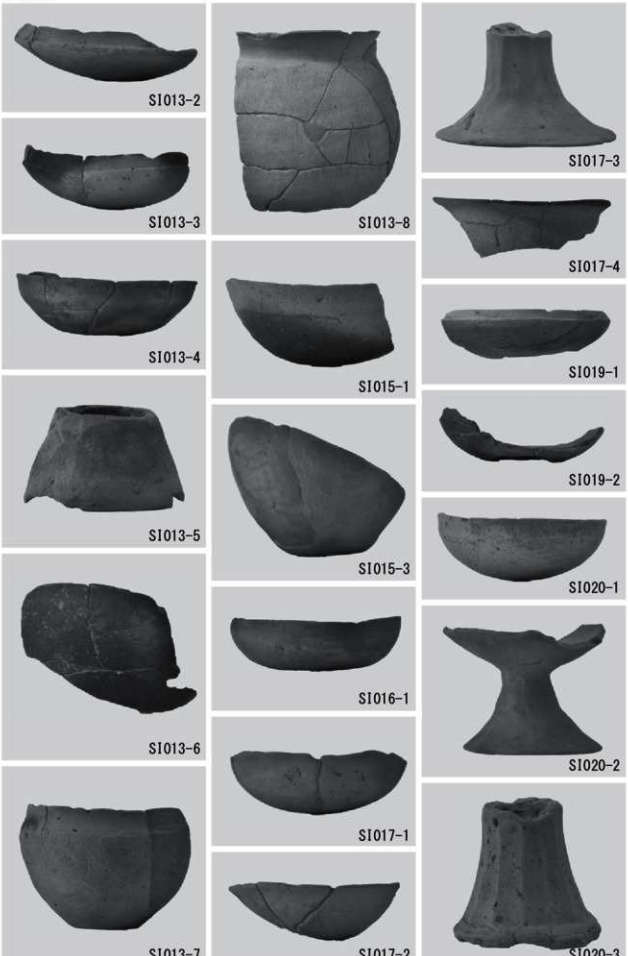
遺構外



遺構外出土弥生土器



SI009・011・012・013 出土土器



SI013・015・016・017・019・020 出土土器

SI020-4

SI020-5

SI020-6

SI022-1

SI022-2

SI022-5

SI022-6

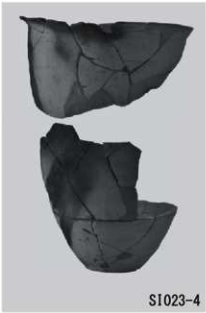
SI022-7

SI022-8

SI023-1

SI023-2

SI023-3

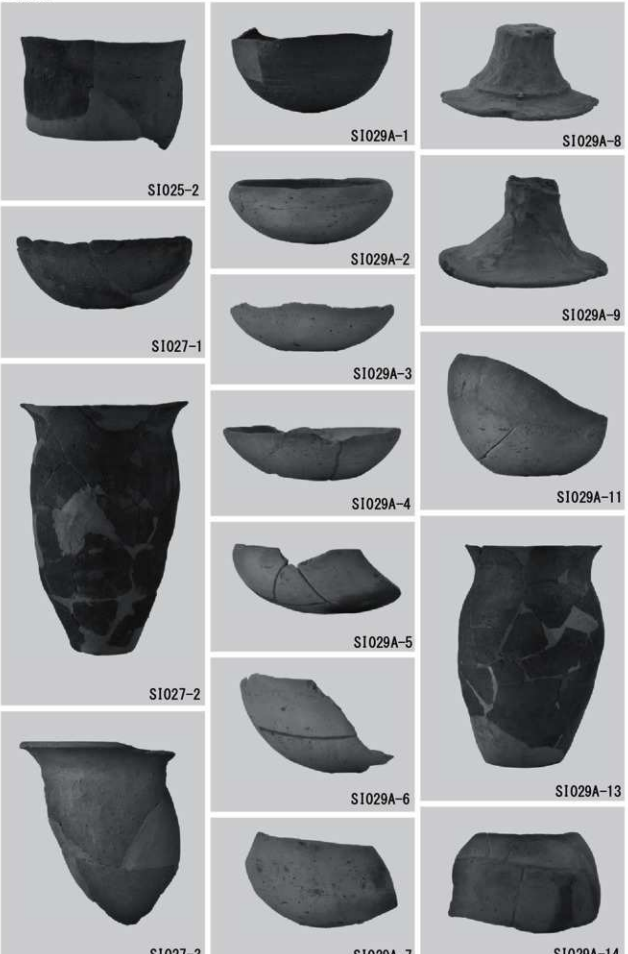

SI023-4

SI024-1

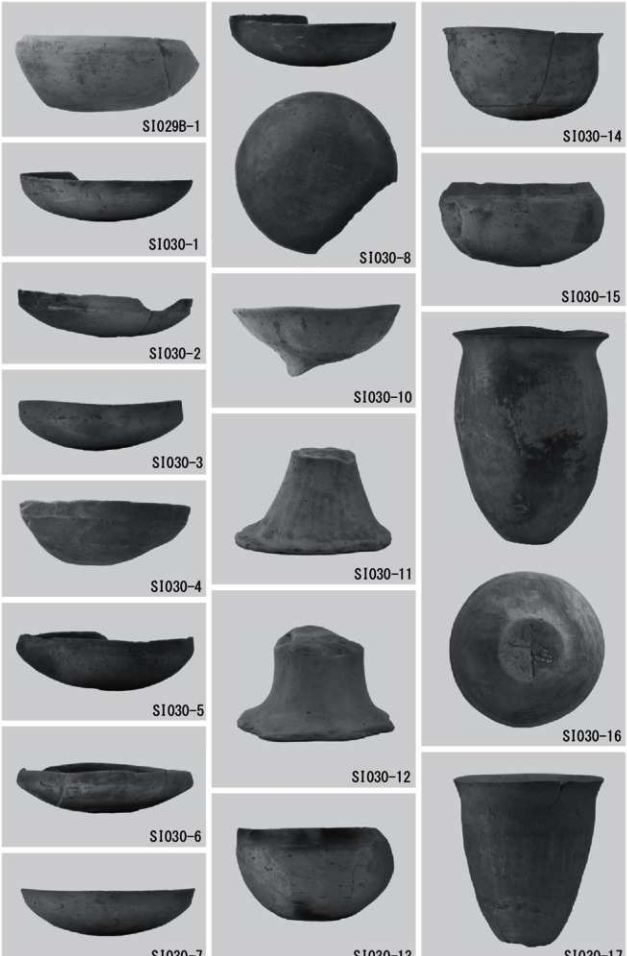
SI025-1

SI020・022・023・024・025 出土土器

図版 32



SI025・027・029A 出土土器



SI029B・030 出土土器

図版 34

SI031-1

SI031-2

SI031-3

SI031-5

SI031-6

SI031-7

SI031-8

SI032A-9

SI032A-10

SI032A-11

SI032A-12

SI032A-13

SI032A-14

SI032A-15

SI032A-17

SI032A-18

SI032A-19

SI032A-20

SI032A-21

SI032A-23

SI031・032A 出土土器

SI032A-24

SI032A-25

SI032A-27

SI032B-1

SI033-1

SI037-1

SI037-2

SI037-3

SI037-4

SI037-5

SI037-6

SI037-7

SI037-8

SI038-2

SI041-1

SI041-2

SI032A・032B・033・037・038・041 出土土器

図版 36

SI041-3

SI041-4

SI041-5

SI041-6

SI041-7

SI041-8

SI041-9

SI041-10

SI042-2

SI043-1

SI043-2

SI043-3

SI043-4

SI043-5

SI051-1

SI051-2

SI051-3

SI041・042・043・051 出土土器

SI052-1

SI052-2

SI056-2

SI056-3

SI056-4

SI056-5

SI056-6

SI056-7

SI056-8

SI056-9

SI056-10

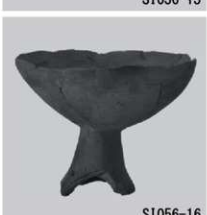
SI056-11

SI056-12

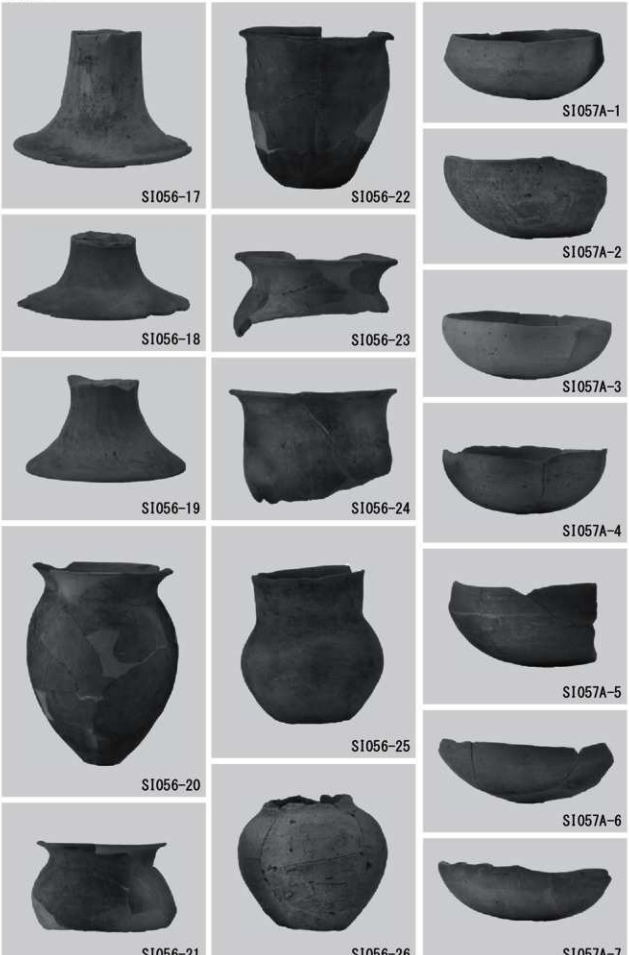
SI056-13

SI056-14

SI056-15


SI056-16

SI052・056 出土土器



SI056・057A 出土土器

SI057A-8

SI057A-9

SI057A-10

SI057A-11

SI057A-12

SI057A-13

SI057A-14

SI057A-15

SI057A-16

SI057A-17

SI057A-18

SI057A-19

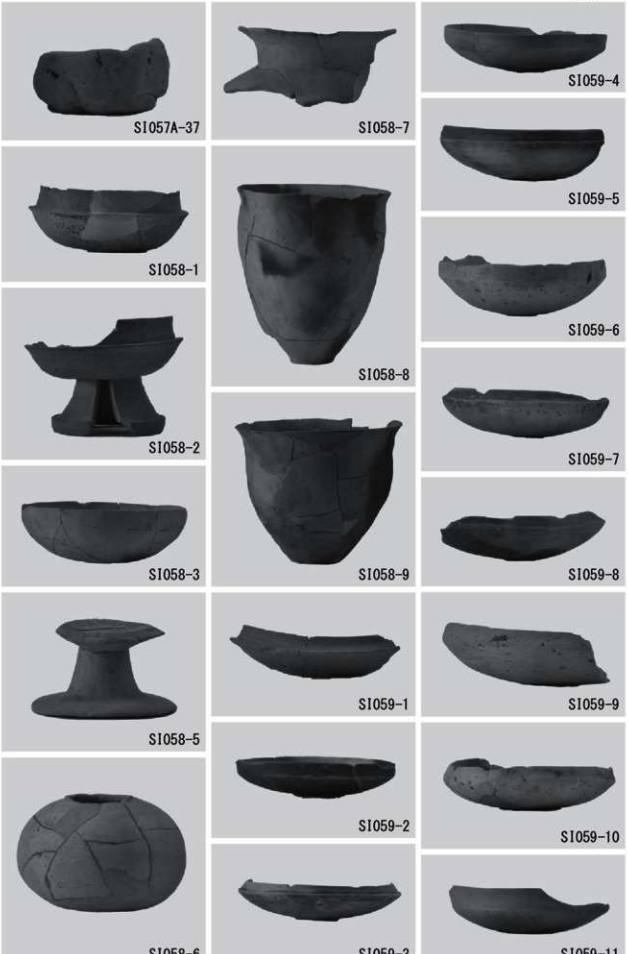
SI057A-20

SI057A-21

SI057A-22

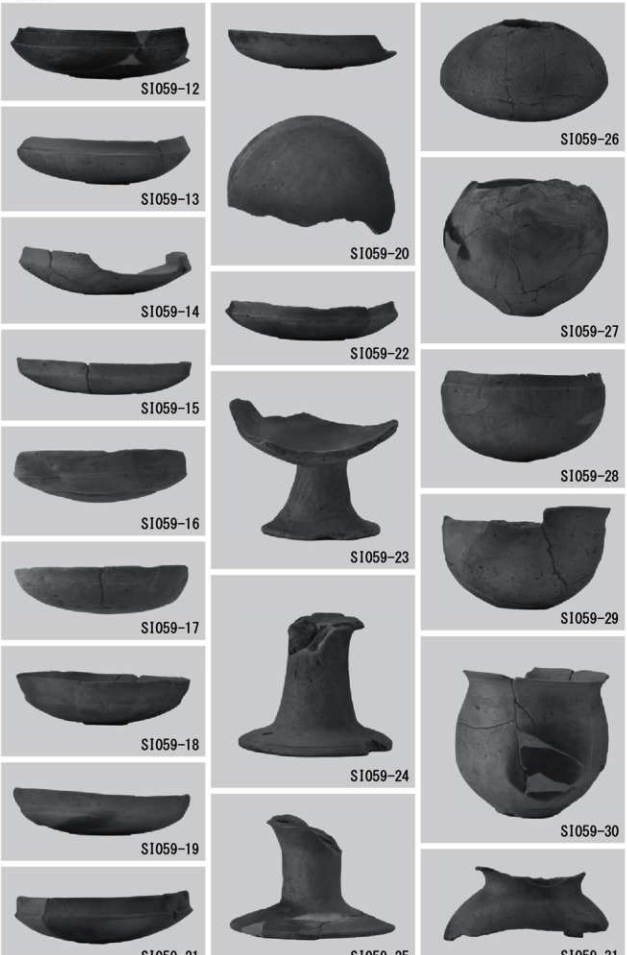
SI057A 出土土器（1）

SI057A 出土土器（2）



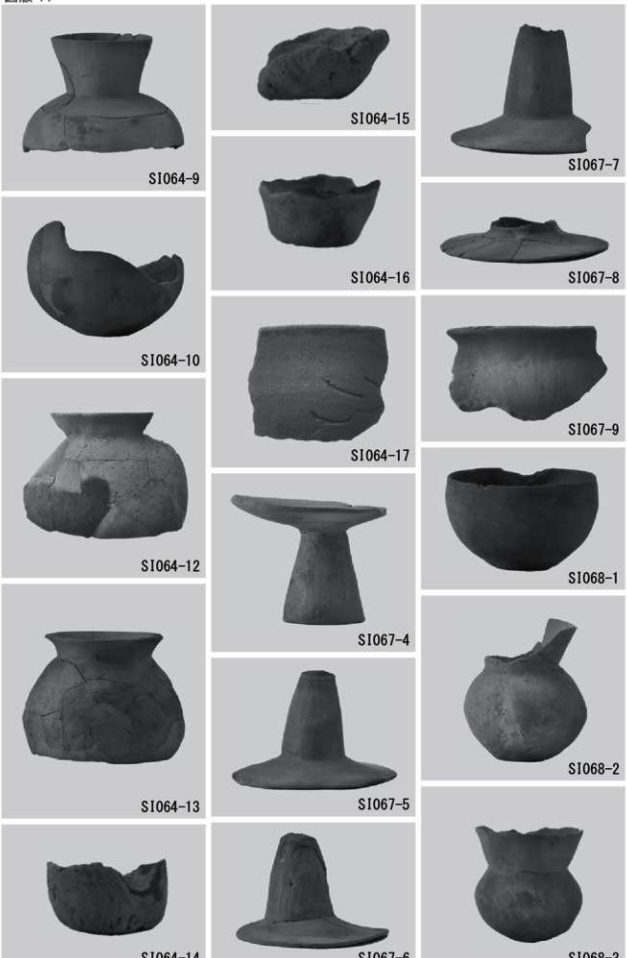
SI057A・058・059 出土土器

図版 42



SI059 出土土器

SI059・060・064 出土土器



SI064・067・068 出土土器

SI068-4

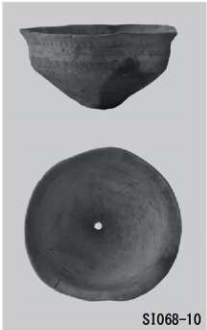
SI068-6

SI068-7

SI068-8

SI068-9

SI068-11


SI068-10

SI069-2

SI069-3

SI069-4

SI070-1

SI070-3

SI070-4

SI070-5

SI070-6

SI070-7

SI070-8

SI068・069・070 出土土器

SI070-9
SI070-10
SI070-11
SI070-12
SI070-13
SI070-14
SI070-15
SI070-16
SI070-17
SI070-18
SI070-19
SI070-20
SI070-21
SI070-22
SI070-23
SI070-24
SI070-25
SI070-26
SI070-27
SI070-28

SI070 出土土器（1）

SI070-29
SI070-30
SI070-31
SI070-32
SI070-33
SI070-34
SI070-35
SI070-36
SI070-37
SI070-38
SI070-39
SI070-40
SI070-41
SI070-42
SI070-43

SI070 出土土器（2）

図版 48

SI070-44

SI070-45

SI070-46

SI070-47

SI070-48

SI070-49

SI070-50

SI070-51

SI070-52

SI070-53

SI070-54

SI070-55

SI070-56

SI070-57

SI070 出土土器（3）

SI070-58

SI071-2

SI071-3

SI071-4

SI073-1

SI073-2

SI073-3

SI073-4

SI073-5

SI073-6

SI073-7

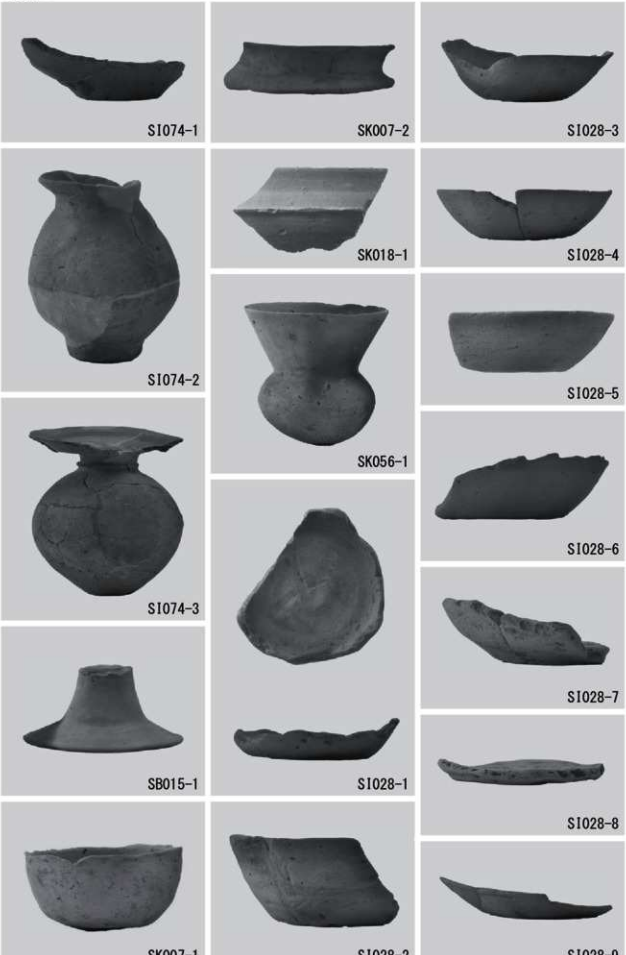
SI073-8

SI073-9

SI073-10

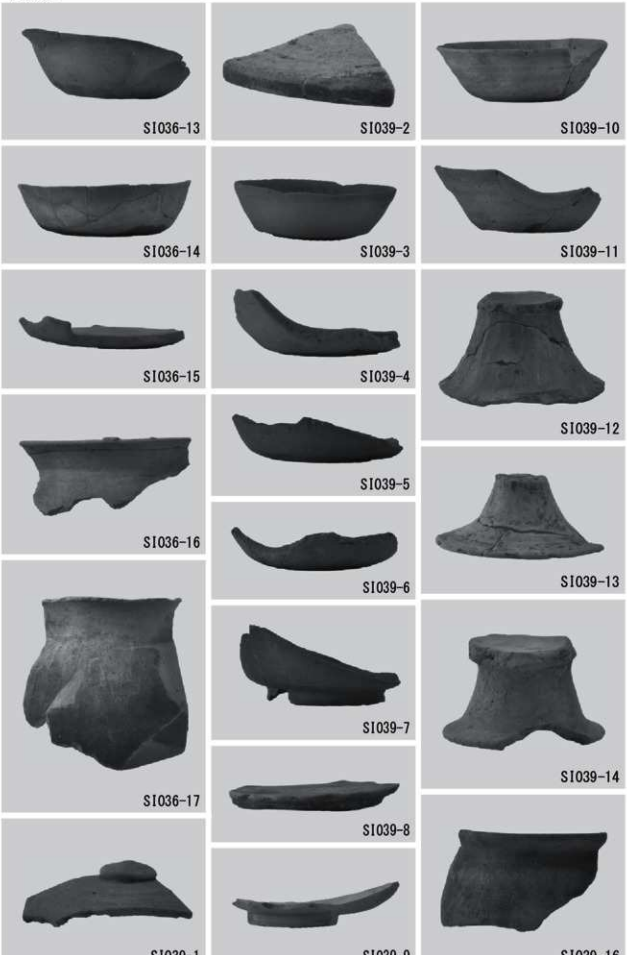
SI073-11

SI070・071・073 出土土器

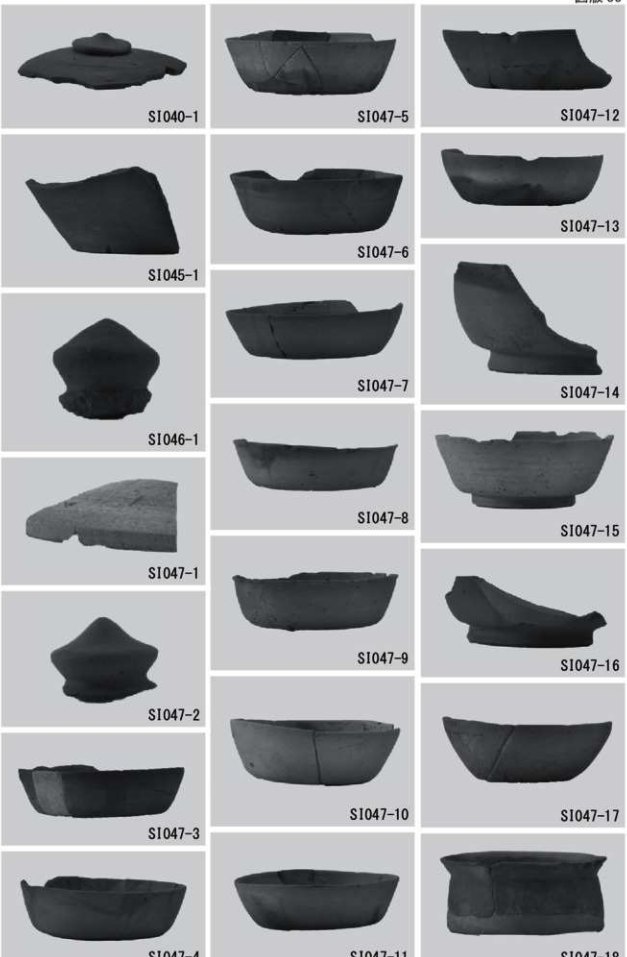


SI074、SB015、SK007・018・056、SI028 出土土器

SI028・035・036 出土土器

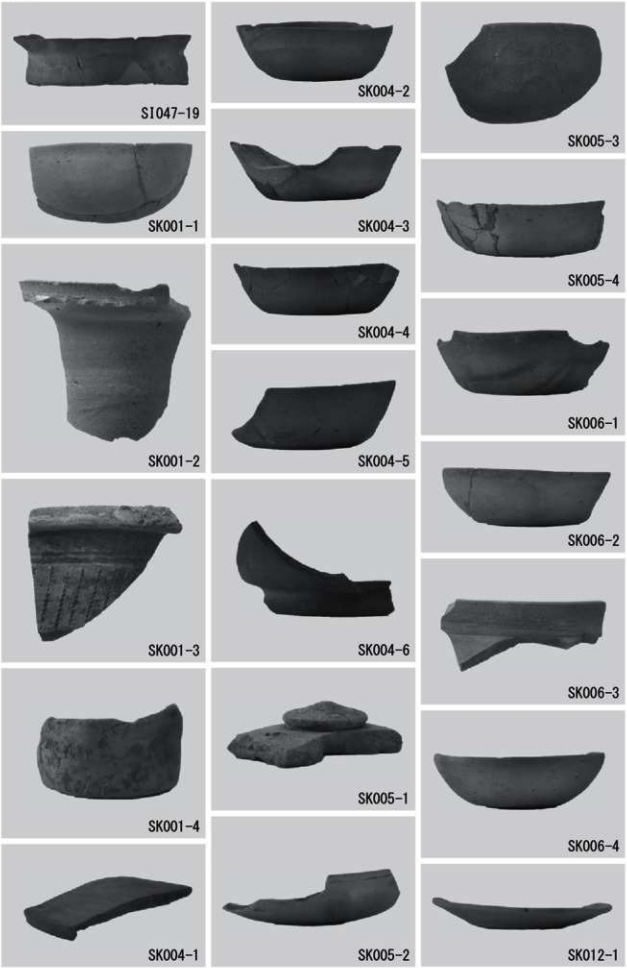


SI036・039 出土土器



SI040・045・046・047 出土土器

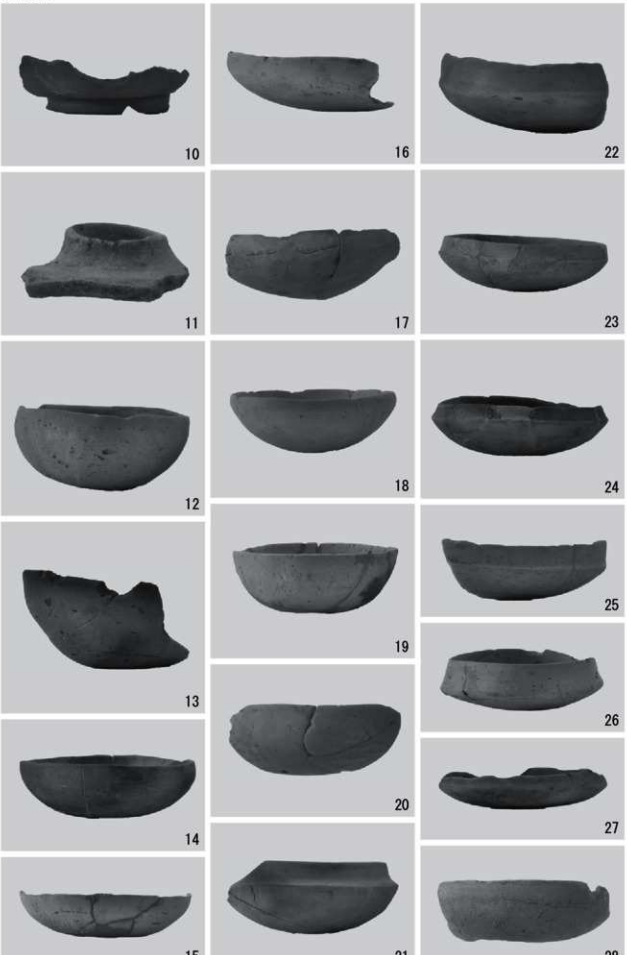
図版 54



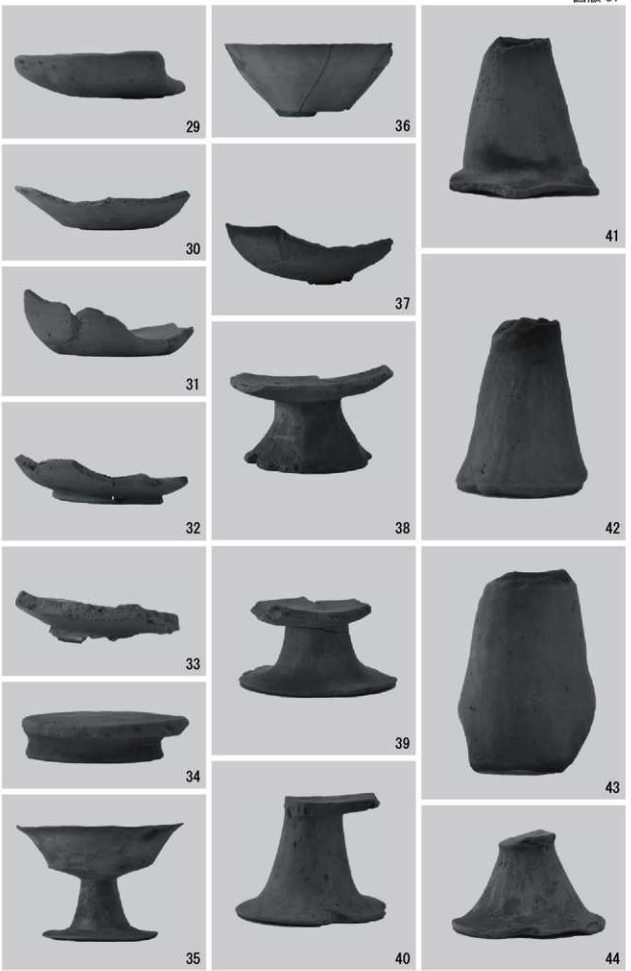
SI047、SK001・004・005・006・012 出土土器

SK012・013、遺構外出土古墳時代以降土器（1）

図版 56

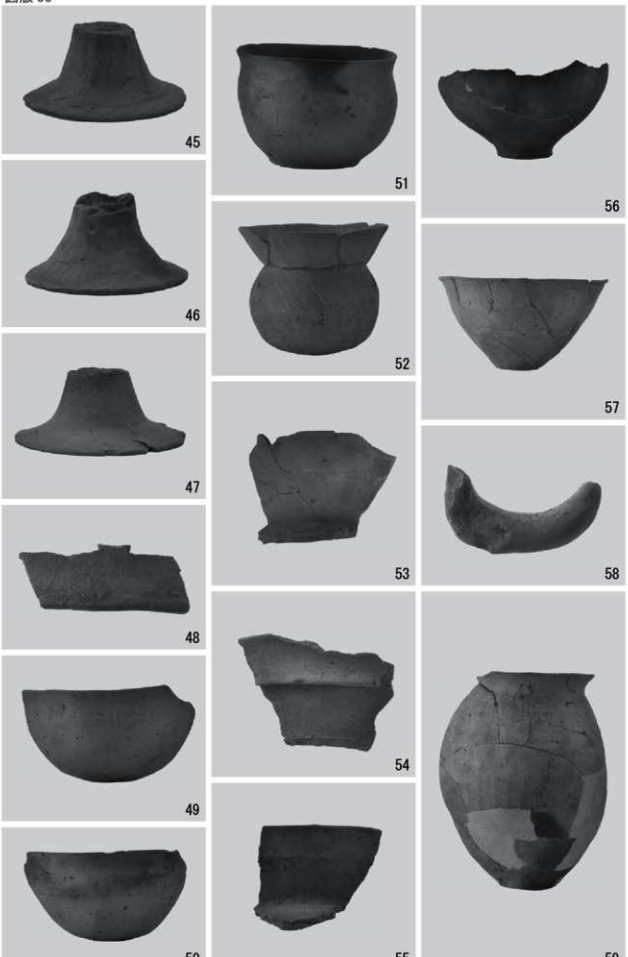


遺構外出土古墳時代以降土器（2）

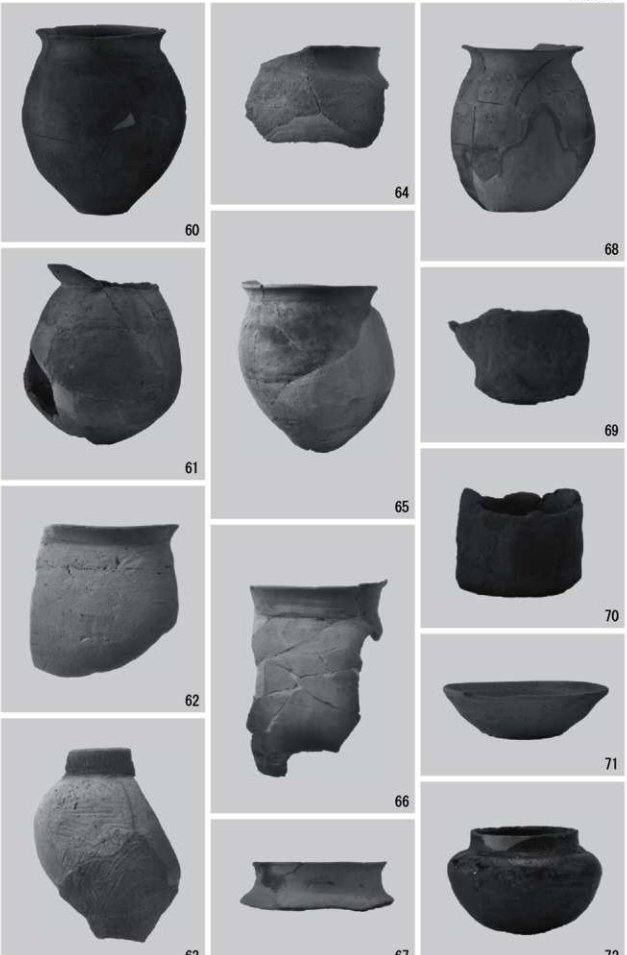


遺構外出土古墳時代以降土器（3）

図版 58

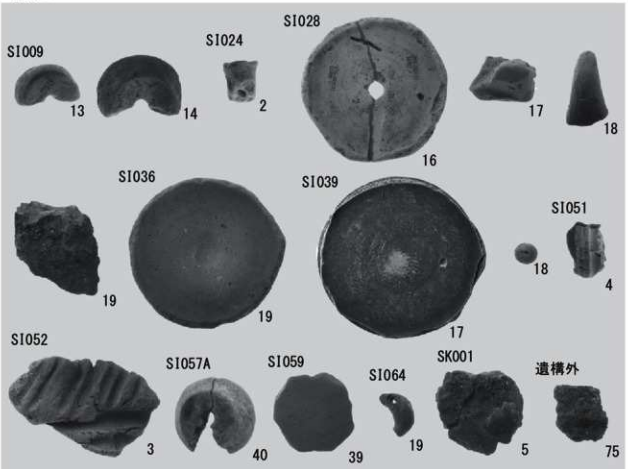


遺構外出土古墳時代以降土器（4）

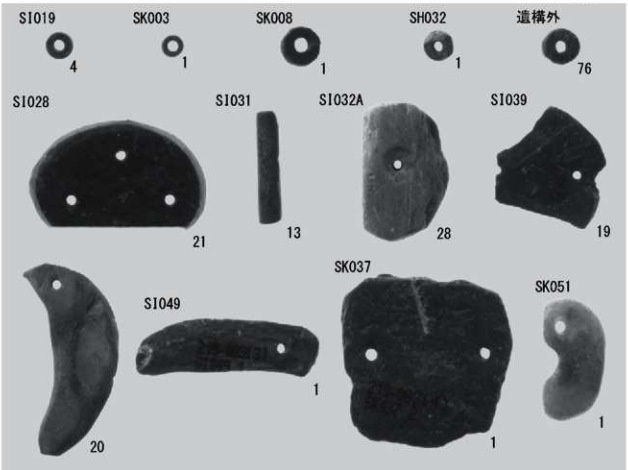


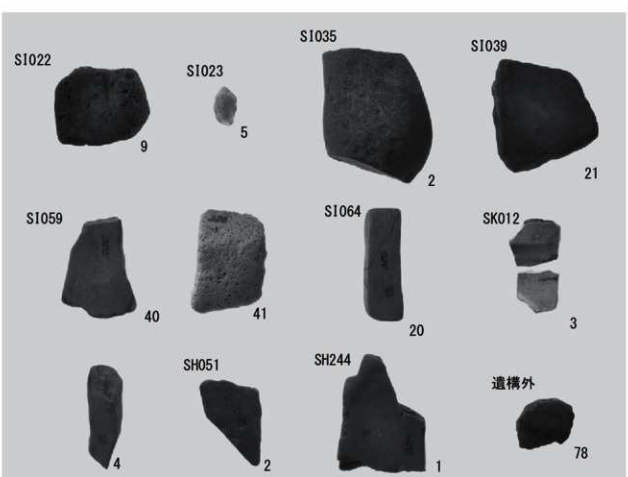
遺構外出土古墳時代以降土器（5）

図版 60



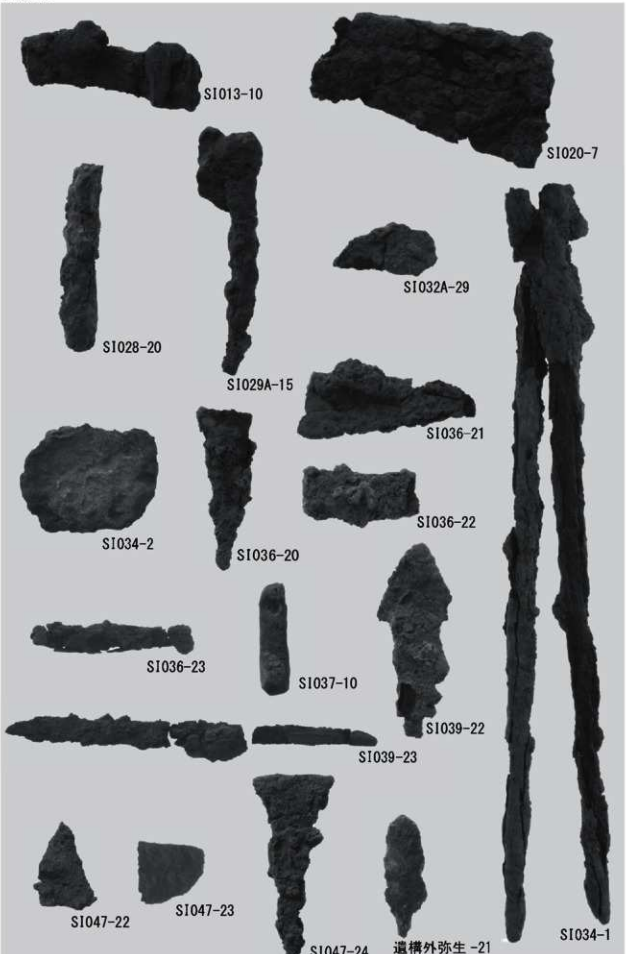
古墳時代以降出土土製品



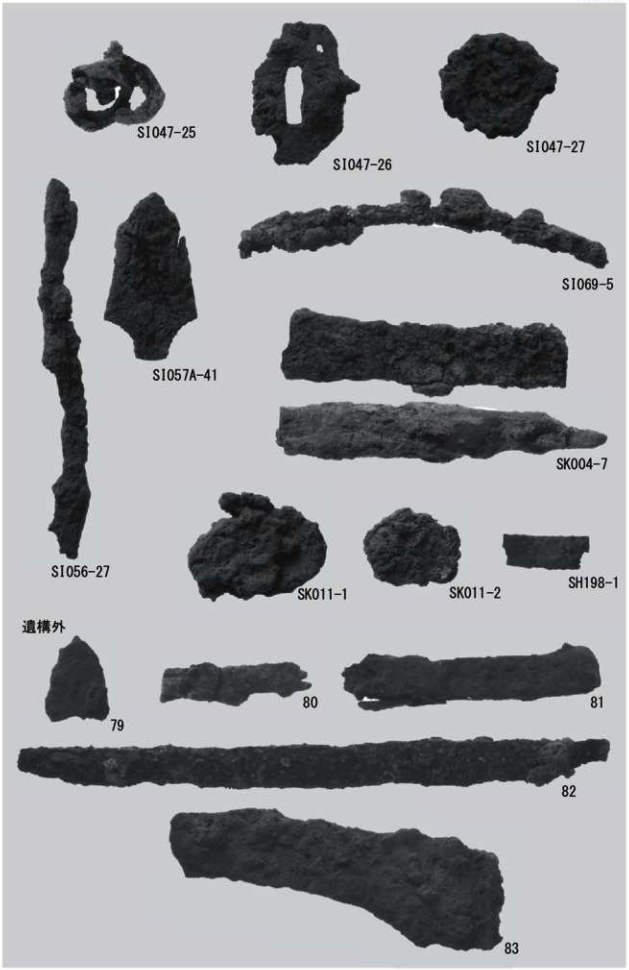


古墳時代以降出土石製品・石器

図版 62

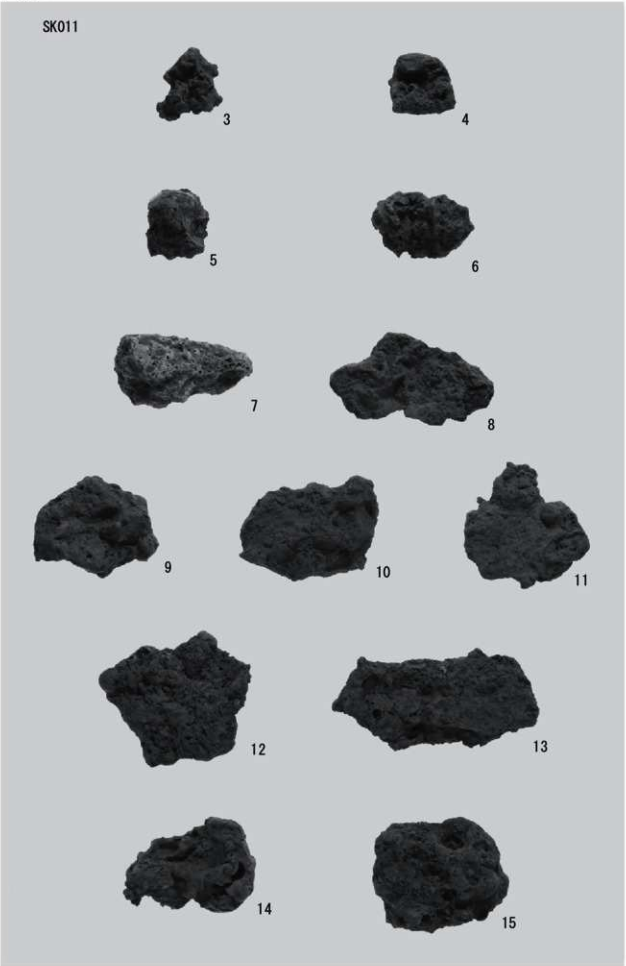


弥生時代以降出土金属器



古墳時代以降出土金属器

図版 64



SK011 出土鍛冶滓

報 告 書 抄 録

ふりがな	いちはらしえこだいせき
書名	市原市江子田遺跡
副書名	主要地方道市原天津小湊線道路整備事業埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第49集
編著者名	倉橋 裕真、大谷 弘幸、蜂屋 孝之、矢本 節朗
編集機関	千葉県教育委員会
所在地	〒260-8662　千葉県千葉市中央区市場町1-1　　TEL043-223-4129
発行年月日	西暦2024年2月14日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積等	調査原因
えこだいせき 江子田遺跡	いちはらしえこだあざ 市原市江子田字 おおみやご 大宮後ほか	219	083	35度 23分 41秒	140度 9分 18秒	20140911～ 20141114 20150619～ 20151023 20160719～ 20170131	3397㎡	道路建設
				世界測地系				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
江子田遺跡	包蔵地 集落跡	旧石器	なし	石器	
		縄文	竪穴住居跡　1軒 土坑　4基	縄文土器（早期・中期）、石器	
		弥生	竪穴住居跡　4軒 土坑　1基 方形周溝墓　1基	弥生土器（中期・後期）、石器、銅鏃	
		古墳	竪穴住居跡　53軒 掘立柱建物跡　3棟 土坑　37基 ピット　6基 溝跡　1条	須恵器、土師器、土製品（紡錘車・勾玉・支脚・羽口）、石製品（臼玉・管玉・有孔円板・鎌形模造品・子持勾玉）、金属製品（直刀・刀子・鉄鏃・鉄鎌）、石器	
		奈良・平安	竪穴住居跡　10軒 土坑　9基	須恵器、土師器、灰釉陶器、土製品（円盤・転用硯・支脚・羽口）、石器（砥石・磨石）、石製品（臼玉・勾玉模造品）金属製品（鉄鏃・刀子・鍔・鍛冶滓）	
		中・近世 詳細時期不明	溝跡　1条 竪穴状遺構　1軒 掘立柱建物跡　5棟 土坑　9基 ピット　5基 柵列　1条	なし	
要約	縄文時代は中期の竪穴住居跡1軒が検出されたほか、早期及び中期の土器や石器が出土している。弥生時代は後期の竪穴住居跡4軒が検出され、中期～後期の土器が出土している。古墳時代は前期～後期の竪穴住居跡が53軒、掘立柱建物跡3棟検出され、大規模な集落跡であることが判明した。また、土坑から子持勾玉が出土している。奈良・平安時代は8世紀前葉～9世紀中葉までの竪穴住居跡が10軒検出され、須恵器や土師器・灰釉陶器などが出土している。また、鍛冶関連遺物も出土し、周辺での鉄器生産が想定される。				

千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第49集

市原市江子田遺跡

－主要地方道市原天津小湊線道路整備事業埋蔵文化財調査報告書－

令和6年2月14日発行

編集・発行　千葉県教育委員会
千葉市中央区市場町1－1

印　　刷　有限会社　八千代折込広告
八千代市ゆりのき台7－5－3